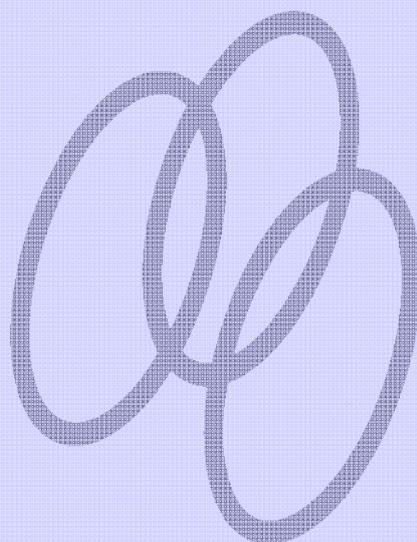


Musashigaoka College  
Department of Health Science  
Nutrition /Sports Science /Management

# SYLLABUS

2021



**授業計画**

**武蔵丘短期大学**

**健康生活学科**

**健康栄養専攻／健康スポーツ専攻／健康マネジメント専攻**



# 建学の精神

## 建学の精神

優れたプロは、優れた人格を有する。

身体で覚えた技術は、一生を貫く。

本学園は、戦後まもない昭和 22 年に市民の「衣」を充足すべく「武蔵野ドレスメーカー女子学院」を立ち上げ、その後「食」を教育する「武蔵野クッキングスクール」を設立した。時代の変化に合わせ、美から生活を豊かにするファッション教育、調理により食の文化を極める教育機関として社会へ貢献した。さらに、食から健康生活を指導できる栄養士養成機関を設立した。これに、運動・休養を加え人類普遍のテーマである「健康」を実践的に指導できる人材育成をめざして本学を開学した。

「衣食足りて礼節を知る」の言葉もある、学園の教育理念は優れた人格が育つことに重きをおいている。本学園創立者故後藤守正は、『本学の役割は社会に貢献できる人材の育成である』『学ぶ者一人ひとりに、感謝と和の気持ちを大切にすることを育てる』『人々の健康と幸せづくりに役立つための実践的に体得できる分かりやすい授業を行う』と述べている。

学園の教育理念には二つの柱がある。一つは前述したように「優れた人格を育てること」、もう一つは「実践的なわかりやすい教育を行うこと」、『体感、体験、体得』をモットーとした教育を行っている。

## 武蔵丘短期大学教育目標

### 武蔵丘短期大学 教育目標

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

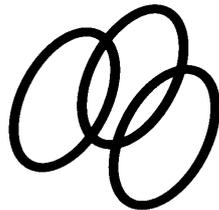
一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成

二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成

三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成

四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

### 【校章】



緑豊かな環境に恵まれた武蔵丘短期大学。このマークは自然（グリーン）と本学（M）の調和を表し、そこで学ぶ若者たちへのメッセージとして、創造、勇気、慈愛という言葉をもつ3つのリングに託しているのです。本学はどんな時にでも健康生活のリーダーとして次世代を担う若者たちへ熱きエールを贈り続けているのです。

## 専攻別の教育目的・教育目標

本学 健康生活学科は、健康栄養専攻、健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻の3専攻から構成される。次に専攻別の教育目的・教育目標をあげる。

### (1) 健康栄養専攻の教育目的・教育目標

#### ① 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実を図り、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

#### ② 教育目標

- 健康な体と心を食から支える力を養う
- 実験・実習で実践力・行動力を養う
- 栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康について学ぶ

### (2) 健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

#### ① 教育目的

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者を育成する。

#### ② 教育目標

- スポーツで心身を鍛え、社会に貢献する
- 健康づくりの実践的指導者を目指す
- 運動を安全に、楽しく継続するための手法を身につける

### (3) 健康マネジメント専攻の教育目的・教育目標

#### ① 教育目的

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力や起業力など実社会で役立つ能力を持った人材を育てる。

#### ② 教育目標

- 健康生活を幅広く学んで実践し、社会に貢献する力を養う
- 健康な生活をプロデュースできる能力をはぐくむ
- 社会のニーズに対応した健康ビジネスを起業できる人材を育成する

# 武蔵丘短期大学 3つの方針（ポリシー）

## ◆ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

### 健康生活学科

本学は建学の精神、教育理念に基づき、学位授与の方針を定めている。学則に明記された卒業要件を満たした以下の者に学位を授与する。

礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を有した慈愛あふれる社会人となる資質を備えている者。

自ら学ぶ積極性と探究心を育みつつ、広い視野と深い思考力を身につけ、栄養科学と運動スポーツ科学の理論を基礎とした健康生活のあり方を学修し、社会に貢献できる実践力を身につけた者。

### 健康栄養専攻

様々な現場に対応できる栄養の専門知識・技術を身につけ、さらにスポーツに関する基礎知識を加えた総合的な健康管理の指導技術を修得している。

### 健康スポーツ専攻

運動スポーツ科学・栄養科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための幅広い知識と技能を修得し、健康づくりの実践的指導者となる能力を有している。

### 健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースできる知識と技術を修得し、実社会で役立つ能力を有している。

## ◆ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 健康生活学科

本学は、自ら学ぶ積極性と探究心を持ち、豊かな人間性と社会性、充実したコミュニケーションスキルを有した、社会に貢献できる健康生活の実践的指導者を育成する。この目的のために、基礎教育科目等、共通専門教育科目及び専門教育科目を設置し、講義、演習、実験、実習、実技の授業形態を体系的に配置している。

基礎教育科目等を中心として、礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を育み、現代に必要なコミュニケーションスキルを持ち、社会に貢献できる資質を培う。

共通専門科目で、栄養と運動・スポーツに関する理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、健康生活を科学する実践力を養う。

### 健康栄養専攻

専門科目を通して、高度で多彩な要求に対応できる栄養に関する専門知識・技術を育む。

### 健康スポーツ専攻

専門科目を通して、運動スポーツ科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための知識と技能を育む。

### 健康マネジメント専攻

専門科目を通して、食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースするための知識と技術を会得し、実社会での実践力を育む。

## ◆ アドミッションポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

### 健康生活学科

本学の求める学生像とは、これらの教育目標に向けて、何事にも全力投球できる人、目的意識の明確な人、そして何よりも本学において学びたいと強く希望している人です。

### 健康栄養専攻

栄養士資格を主として栄養の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

### 健康スポーツ専攻

運動・スポーツの実践的指導の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

### 健康マネジメント専攻

健康生活を総合的にプロデュースする側面から、社会で即戦力として活躍したい人

## 武蔵丘短期大学 学習成果

## ◆ 学習成果（Student Learning Outcomes）

本学の学習成果は、建学の精神である人格の育成を通して、自ら学ぶ積極性と探究心の涵養、学習意欲の向上、豊かな人間性の涵養を図り、各専攻での専門性を身につけ、実践的な指導者としての能力を身につけることである。

各専攻の学習成果は建学の精神にある人格教育に基づき定めた教育目的を達成できたかどうかである。以下に各専攻の学習成果を示す。

### 健康栄養専攻

食生活を中心として、健康生活を運動・スポーツを含めて総合的に支援する実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

### 健康スポーツ専攻

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

### 健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力起業力など実社会で役立つ能力を持った人材であることを学習成果とする。



# 授業科目及び開講年次配当表





# シラバスについて

本学は、教育理念である「人格教育」→「専門知識の習得」→「社会への貢献」に基づき人材養成の目標を学則上に定めております。また、学生へのメッセージとして「創造」「勇気」「慈愛」の想いを込めた校章を公表しております。

こうした本学の基本方針及びカリキュラムポリシーを具現化していくために、各授業科目の内容を記したものがシラバス（授業計画）になります。学生は、各授業を履修するにあたり、ご活用ください。

## ◆アクティブ・ラーニングの要素を含む授業について

下記のアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行っている場合は、「授業形態」欄に「アクティブ・ラーニング」と記載されています。

- ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- イ ディスカッション、ディベート
- ウ グループワーク
- エ プレゼンテーション
- オ 実習、フィールドワーク

## ◆実務家教員による授業科目

「担当教員名」の右端の欄に「**実**」と記載のある科目は、実務家教員による授業科目を表します。

## ◆科目ナンバーについて

科目ナンバーは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものと なります。ただし、授業科目の大きな再編等があった場合は、再付番することがあります。

科目ナンバー（例） **NSM** - **B 1 023**

①                      ② ③ ④

①…「開講されている専攻」を表します。

N：健康栄養専攻    S：健康スポーツ専攻    M：健康マネジメント専攻

②…「科目の種別」を表します。

B：基礎教育科目    S：専門教育科目    T：教職に関する専門教育科目

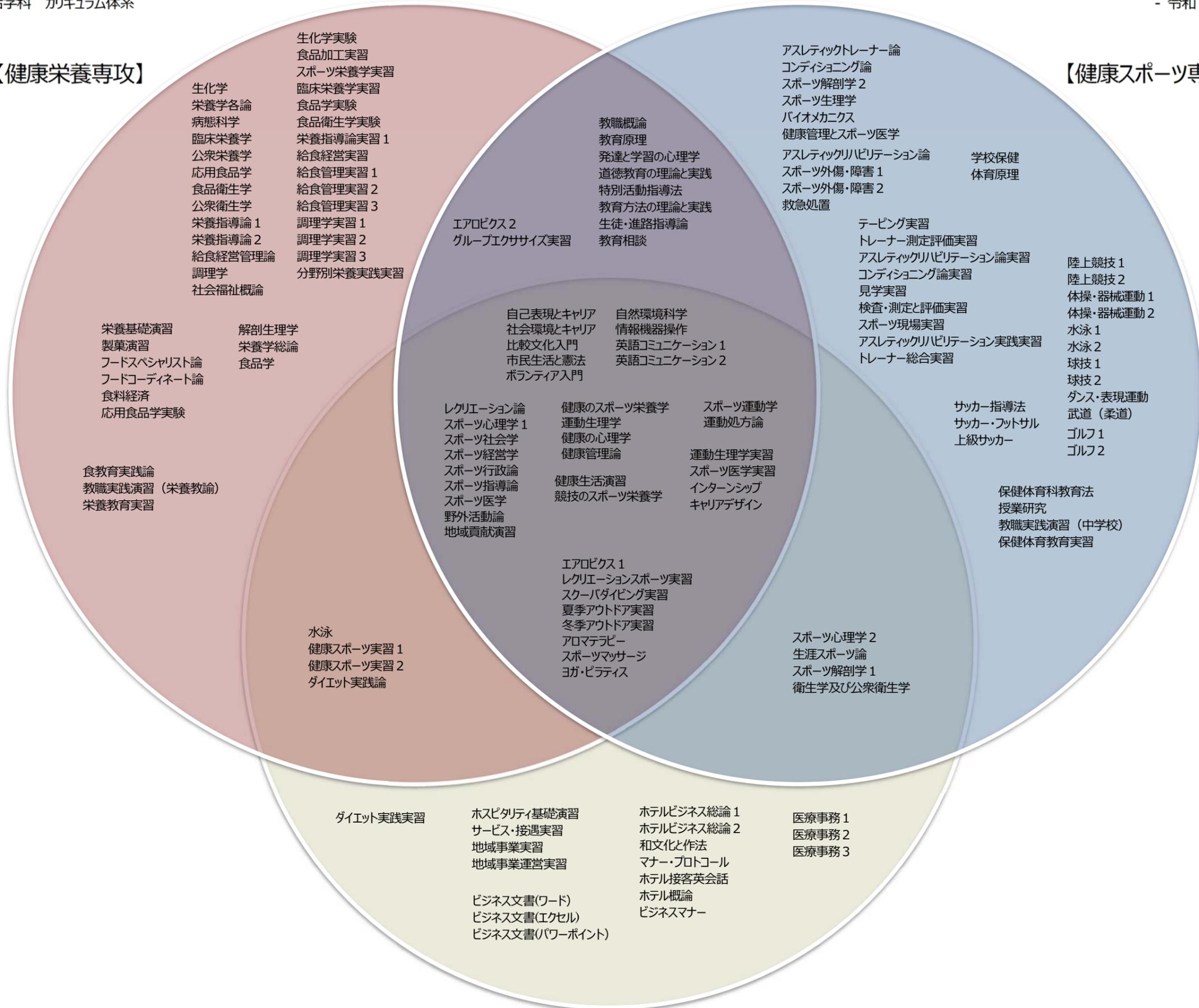
③…「科目のレベル・性格」を表します。

No.	レベル・性格	No.	レベル・性格
1	全学教育科目（英語2を除く）	5	発展的な演習・実習・実験・実技
2	基礎的な内容の科目、英語2	6	健康生活演習
3	発展的な内容の科目	9	レベル分けが困難な科目 (インターンシップ、教育実習 等)
4	基礎的な演習・実習・実験・実技		

④…「分類番号（数字3桁）」通し番号を表します。

【健康栄養専攻】

【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】

# 授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和3年度・2021年生

区分	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ	
					前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎 教育 科目	人 文	自己表現とキャリア	2	必修を含め 10単位以上	半期	2				29	
		比較文化入門			2	半期	2	2			30
	社 会	社会環境とキャリア	2		半期		2				31
		市民生活と憲法			2	半期	2			○	32
		ボランティア入門			2	半期	2				33
	自 然	自然環境科学			2	半期	2	2			34
		情報機器操作			2	半期		2		○	35
	外国語	英語コミュニケーション 1			2	半期	2			○	36
		英語コミュニケーション 2			2	半期			2		37
	合 計		4		14						

### 卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブライセンスアドバイザー	スポーツ栄養士共通I II III	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期												
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期			2		○	○		○						41		
	運動生理学		2		半期		2			○	○		○				○	○		42	
	健康の心理学		2		半期	2						○				○				43	
	健康管論		2		半期			2			○		○			○			○	44	
	健康生活演習	2			通年				2												45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2												63
	スポーツ運動学		2		半期				2			○		○							64
	運動処方論		2		半期		2				○		○			○					65
	レクリエーション論		2		半期				2			○		○					○	○	66
	スポーツ心理学1		2		半期			2			○	○	○						○	○	67
	スポーツ社会学		2		半期			2											○	○	68
	スポーツ経営学		2		半期				2										○	○	69
	スポーツ行政論		2	半期				2										○	○	70	
	スポーツ指導論		2	半期				2										○	○	71	
	スポーツ医学		2	半期			2				○		○					○	○	72	
	地域貢献演習		1	集中			1													73	
	解剖生理学	*2		半期	2					○	○		○							74	
	栄養学総論	*2		半期	2					○				○	○	○				75	
	食品学	*2		半期	2					○				○		○				76	
	生化学	*2		半期	2					○										77	
	栄養学各論	*2		半期		2				○				○	○					78	
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2		半期		2				○				○						79	
	臨床栄養学	*2		半期			2			○				○	○					80	
	公衆栄養学	*2		半期				2		○										81	
	応用食品学(加工学含)	*2		半期			2			○				○	○					82	
	食品衛生学	*2		半期			2			○				○	○					83	
	公衆衛生学	*2		半期	2					○				○	○					84	
	栄養指導論	1	*2	半期		2				○										85	
	給食経営管理論	*2		半期	2					○										86	
	調理学	*2		半期				2		○				○						87	
	生化学実験		1	半期				1		○										88	
	食品加工実習		1	半期				1		○				○						89	
	運動生理学実習		2	半期			2				○							○	○	110	
	スポーツ栄養学実習		1	半期			1			○										90	
	臨床栄養学実習		1	半期				1		○										91	
	食品学実験		1	半期	1					○				○						92	
	食品衛生学実験		1	半期			1			○				○						93	
	社会福祉概論		2	半期				2		○										94	
	栄養指導論	2	2	半期				2		○										95	
	栄養指導論実習		1	半期				1		○										96	
	給食経営実習		1	半期		1				○										97	
	給食管理実習1		1	半期		1				○										98	
	給食管理実習2		1	半期			1			○										99	
	給食管理実習3(校外実習)		1	集中				1		○										100	
	調理学実習1		1	半期	1					○				○						101	
調理学実習2		1	半期		1				○				○						102		
調理学実習3		1	半期		1				○				○						103		
分野別栄養実践実習		1	半期				1												104		
フードスペシャリスト論		2	半期	2									○						105		
食料経済		2	半期				2						○						106		
フードコーディネイト論		2	半期				2						○						107		
栄養基礎演習		1	半期	1															108		
製菓演習		1	集中				1												109		
インターンシップ		2	集中			2													182		
スポーツ医学実習		2	半期		2					○			○				○	○	111		
水泳		1	半期	1						○									112		
エアロビクス1		1	半期	1						○			◇						157		
エアロビクス2		1	半期				1						◇						158		
グループエクササイズ実習		1	半期		1								○						156		
健康スポーツ実習1	1		半期	1						○								○	113		
健康スポーツ実習2		1	半期		1					○									114		
スクーバダイビング実習		1	集中	1															183		
夏季アウトドア実習		1	集中			1													185		
冬季アウトドア実習		1	集中		1														186		
アロマセラピー		2	集中				2												187		
スポーツマッサージ		2	半期				2												188		
ヨガ・ピラティス		2	半期				2												189		
キャリアデザイン		2	半期				2												190		
計		3	106	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																

# 授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和2年度・2020年生

区分	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ	
					前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2	必修を含め 10単位以上	半期	2				29	
		比較文化入門				2				30	
	社会	社会環境とキャリア	2		半期		2				31
		市民生活と憲法			2	半期	2			○	32
		ボランティア入門			2	半期	2				33
	自然	自然環境科学			2	半期	2				34
		情報機器操作			2	半期		2		○	35
	外国語	英語コミュニケーション 1			2	半期		2		○	36
		英語コミュニケーション 2			2	半期			2		37
	合計		4		14						

### 卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブライセンスアドバイザー	スポーツ栄養士共通I II III	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期												
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期			2		○	○		○						41		
	運動生理学		2		半期		2			○	○		○				○	○		42	
	健康の心理学		2		半期	2						○				○				43	
	健康管 理 論		2		半期			2			○		○						○	44	
	健康生活演習	2			通年				2												45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2												63
	スポーツ運動学		2		半期				2			○		○							64
	運動処 方 論		2		半期		2				○		○			○					65
	レクリエーション論		2		半期				2				○						○		66
	スポーツ心理学1		2		半期			2			○	○	○						○		67
	スポーツ社会学		2		半期			2											○		68
	スポーツ経営学		2		半期				2										○		69
	スポーツ行政論		2	半期				2										○		70	
	スポーツ指導論		2	半期				2										○		71	
	スポーツ医学		2	半期				2			○		○					○	○	72	
	地域貢献演習		1	集中				1												73	
	解剖生理学	*2		*印の科目から11科目22単位以上必修	半期	2				○	○		○							74	
	栄養学総論	*2		半期	2					○				○	○	○				75	
	食品学	*2		半期	2					○				○		○				76	
	生 化 学	*2		半期	2					○										77	
	栄養学各論	*2		半期		2				○				○	○					78	
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2		半期		2				○				○						79	
	臨床栄養学	*2		半期			2			○				○	○					80	
	公衆栄養学	*2		半期				2		○										81	
	応用食品学(加工学含)	*2		半期			2			○				○	○					82	
	食品衛生学	*2		半期			2			○				○	○					83	
	公衆衛生学	*2		半期	2					○				○	○					84	
	栄養指導論	1	*2	半期		2				○										85	
	給食経営管理論	*2		半期	2					○										86	
	調理学	*2		半期				2		○				○						87	
	生 化 学 実 験		1	半期				1		○										88	
	食品加工実習		1	半期				1		○				○						89	
	運動生理学実習		2	半期			2				○							○	○	110	
	スポーツ栄養学実習		1	半期			1			○										90	
	臨床栄養学実習		1	半期				1		○										91	
	食品学実 験		1	半期	1					○				○						92	
	食品衛生学実 験		1	半期			1			○				○						93	
	社会福祉概論		2	半期				2		○										94	
	栄養指導論	2	2	半期				2		○										95	
	栄養指導論実 習	1	1	半期				1		○										96	
	給食経営実 習	1	1	半期		1				○										97	
	給食管理実 習	1	1	半期			1			○										98	
	給食管理実 習	2	1	半期			1			○										99	
	給食管理実習3(校外実習)		1	集中				1		○										100	
	調理学実 習	1	1	半期	1					○				○						101	
調理学実 習	2	1	半期		1				○				○						102		
調理学実 習	3	1	半期			1			○				○						103		
分野別栄養実践実 習	1	1	半期				1												104		
フードスペシャリスト論		2	半期	2									○						105		
食 料 経 済	2	2	半期				2						○						106		
フードコーディネート論		2	半期				2						○						107		
栄養基礎演 習	1	1	半期	1															108		
製 菓 演 習	1	1	集中				1												109		
インターンシップ		2	集中			2													182		
スポーツ医学実 習	2	2	半期			2				○			○				○	○	111		
水 泳	1	1	半期	1						○									112		
エアロビクス1		1	半期	1						○			◇						157		
エアロビクス2		1	半期				1						◇						158		
グループエクササイズ実 習		1	半期			1							○						156		
健康スポーツ実 習	1	1	半期			1				○								○	113		
健康スポーツ実 習	2	1	半期			1				○									114		
スクーバダイビング実 習		1	集中				1												183		
夏季アウトドア実 習		1	集中	1															185		
冬季アウトドア実 習		1	集中				1												186		
アロマセラピー		2	集中				2												187		
スポーツマッサージ		2	半期				2												188		
ヨガ・ピラティス		2	半期				2												189		
キャリアデザイン		2	半期				2												190		
計		3	106	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																

# 授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和3年度・2021年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○			32
		ボランティア入門		2		半期	2					○		33
	自然	自然環境科学		2		半期	2	2						34
		情報機器操作		2		半期		2			○			35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2				○			36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				37
	合計			4		14								

### 卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	健康運動 実践指導 者	ピア ヘルパー	GPI	障がい者 初級スポーツ 指導者	スポーツ指導 者等共通 科目	アシスタント マネジャー	アスレティック トレーナー	レクリエーション インストラクター	キャンプイン ストラクター	サッカー 公認C級 コーチ	スポーツイン ストラクター	子ども身体 運動発達 指導士	中高老年 期運動指 導士	介護予防 運動スペ シャリスト	掲載 ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																		
						前学期	後学期	前学期	後学期																		
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2			○	○		○		○	○						○			41		
	運動生理学		2		半期	2					○	○		○		○	○						○			42	
	健康の心理学		2		半期	2							○														43
	健康管理論		2		半期			2			○	○		○										○		44	
	健康生活演習	2			通年			2																		45-62	
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2									○									63
	スポーツ運動学		2		半期			2			○	○		○										○			64
	運動処方論		2		半期		2			△	○		○		◎		○										65
	レクリエーション論		2		半期		2					○		○	○	○	○	○						○			66
	スポーツ心理学1		2		半期		2			△	○	○	○	○	○	○	○	○							○		67
	スポーツ社会学		2		半期		2			△					○	○	○	○									68
	スポーツ経営学		2		半期			2		△					○	○	○	○							○		69
	スポーツ行政論		2		半期			2							○	○	○	○									70
	スポーツ指導論		2		半期			2							○	○	○	○							○		71
	スポーツ医学		2		半期			2			○	○		○	○	○	○	○						○	○	○	72
	地域貢献演習	1			集中			1																			73
	スポーツ心理学2		2		半期				2									○									115
	野外活動論		2		半期			2											○								116
	生涯スポーツ論		2		半期				2						○									○	○	○	117
	運動生理学実習		2		半期	2					○	○			◎		○								○		110
	スポーツ解剖学1		2		半期	2					○		○			○	○	○									118
	スポーツ解剖学2		2		半期		2						○			○	○	○									119
	トレーナー測定評価実習		2		半期		2											○									120
	アスレティックリハビリテーション論		2		半期			2										○									121
	アスレティックリハビリテーション論実習		2		半期			2										○									122
	スポーツ医学実習		2		半期		2					○			○	○	○	○						○	○	○	111
	衛生学及び公衆衛生学		2		半期			2			○																123
	学校保健		2		半期		2				○																124
	インターンシップ		2		集中		2												△								180
	体育原理		2		半期			2			○																125
	バイオメカニクス		2		半期			2										○									126
	テーピング実習		2		半期			2																			127
	アスレティックトレーナー論		2		半期		2											○									128
スポーツ生理学		2		半期				2									○									129	
スポーツ外傷・障害1		2		半期		2											○									130	
スポーツ外傷・障害2		2		半期			2										○									131	
健康管理とスポーツ医学		2		集中		2											○									132	
コンディショニング論		2		半期	2												○									133	
コンディショニング論実習		2		半期		2					○						○						○	○		134	
救急処置		2		半期			2										○									135	
見学実習	1			集中		1											○									136	
検査・測定と評価実習	1			半期		1											○									137	
スポーツ現場実習	1			半期		1											○									138	
アスレティックリハビリテーション実践実習	1			半期			1										○									139	
トレーナー総合実習	2			通年			2										○									140	
陸上競技1	*1			半期	1					○	○															141	
陸上競技2	*1			半期		1																				142	
体操・器械運動1	*1			半期	1					○														○		143	
体操・器械運動2	*1			半期			1																			144	
水泳	*1			半期	1					○	○															145	
水泳	*1			半期		1																				146	
球技	*1			半期	1	1				○										サッカー						147-	
球技	*1			半期			1	1																		153	
武道（柔道）	*1			集中		1				○																154	
ダンス・表現運動	*1			半期	1					○																155	
エアロビクス1	*1			半期	1					○														○		157	
エアロビクス2	*1			半期			1						◇													158	
ゴルフ	*1			半期	1	1																				159	
ゴルフ	*1			半期			1	1																		160	
レクリエーションスポーツ実習	*1			半期				1					○					○							○	183	
スクーバダイビング実習	*1			集中	1																					184	
夏季アウトドア実習	*1			集中			1											1単位以上								185	
冬季アウトドア実習	*1			集中		1																				186	
グループエクササイズ実習	1			半期			1						○													156	
サッカー・フットサル	1			半期		1																		○		161	
上級サッカー	1			半期				1																○		162	
サッカー指導法	2			半期				2																○		163	
アロマセラピー	2			集中				2																		187	
スポーツマッサージ	2			半期				2																		188	
ヨガ・ピラティス	2			半期				2																		189	
キャリアデザイン	2			半期			2																			190	
計	2	114	52																								

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。  
各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和2年度・2020年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎教育科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期		2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○			32
		ボランティア入門		2		半期	2					○		33
	自然	自然環境科学		2		半期	2							34
		情報機器操作		2		半期	2					○		35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2				○		36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				37
	合計			4		14								

### 卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	健康運動 実践指導 者	ピア ヘルパー	GPI	障がい者 初級スポーツ 指導者	スポーツ指導 者等共通 科目	アシスタント マネジャー	アスレティック トレーナー	レクリエーション インストラ クター	キャンプ/シ ェルリーダー	サッカー 公認C級 コーチ	スポーツイン ストラクター	子ども身体 運動発達 指導士	中高老年 期運動指 導士	介護予防 運動スペ シャリスト	掲載 ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																		
								前学期	後学期																	前学期	後学期
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上 必修	半期	2				○	○		○		○	○	○					○			41		
	運動生理学		2		半期	2					○	○		○		○	○	○					○			42	
	健康の心理学		2		半期	2						○														43	
	健康管理論		2		半期			2			○	○		○											○	44	
	健康生活演習	2			通年			2																			45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2										○								63
	スポーツ運動学		2		半期			2			○	○		○										○			64
	運動処方論		2		半期		2				△	○		○		◎		○									65
	レクリエーション論		2		半期		2					○		○		○	○	○	○					○			66
	スポーツ心理学1		2		半期		2				△	○		○		○	○	○	○						○		67
	スポーツ社会学		2		半期		2				△					○	○	○	○								68
	スポーツ経営学		2		半期			2			△					○	○	○	○					○			69
	スポーツ行政論		2		半期			2								○	○	○	○								70
	スポーツ指導論		2		半期			2								○	○	○	○					○			71
	スポーツ医学		2		半期			2			○	○		○		○	○	○	○					○	○	○	72
	地域貢献演習	1			集中			1																			73
	スポーツ心理学2		2		半期				2										○								115
	野外活動論		2		半期			2												○							116
	生涯スポーツ論		2		半期				2						○									○	○	○	117
	運動生理学実習		2		半期		2				○	○				◎		○								○	110
	スポーツ解剖学1		2		半期		2					○		○				○									118
	スポーツ解剖学2		2		半期			2										○									119
	トレーナー測定評価実習		2		半期			2											○								120
	アスレティックリハビリテーション論		2		半期			2											○								121
	アスレティックリハビリテーション論実習		2		半期			2											○								122
	スポーツ医学実習		2		半期			2				○				○	○	○	○					○	○	○	111
	衛生学及び公衆衛生学		2		半期				2		○																123
	学校保健		2		半期			2			○																124
	インターンシップ		2		集中			2												△							180
	体育原理		2		半期				2		○																125
	バイオメカニクス		2		半期				2										○								126
	テーピング実習		2		半期				2																		127
	アスレティックトレーナー論		2		半期			2											○								128
	スポーツ生理学		2		半期				2										○								129
	スポーツ外傷・障害1		2		半期				2										○								130
	スポーツ外傷・障害2		2		半期				2										○								131
	健康管理とスポーツ医学		2		集中			2											○								132
	コンディショニング論		2		半期			2											○								133
	コンディショニング論実習		2		半期			2				○							○						○	○	134
	救急処置		2		半期				2										○								135
	見学実習	1			集中			1											○								136
	検査・測定と評価実習	1			半期				1										○								137
	スポーツ現場実習	1			半期				1										○								138
	アスレティックリハビリテーション実践実習	1			半期				1										○								139
	トレーナー総合実習	2			通年				2										○								140
陸上競技1	*1		半期			1				○	○														141		
陸上競技2	*1		半期				1																		142		
体操・器械運動1	*1		半期			1				○													○		143		
体操・器械運動2	*1		半期				1																		144		
水泳	*1		半期				1			○	○														145		
水泳	*1		半期				1																		146		
球技	*1		半期			1	1			○										サッカー					147-		
球技	*1		半期				1	1																	153		
武道(柔道)	*1		集中				1			○															154		
ダンス・表現運動	*1		半期				1			○													○		155		
エアロビクス1	*1		半期				1				○												○		157		
エアロビクス2	*1		半期					1				◇													158		
ゴルフ	*1		半期				1																		159		
ゴルフ	*1		半期					1	1																160		
レクリエーションスポーツ実習	*1		半期					1	1					○				○							183		
スクーバダイビング実習	*1		集中				1																		184		
夏季アウトドア実習	*1		集中			1												1単位以上							185		
冬季アウトドア実習	*1		集中				1																		186		
グループエクササイズ実習	1		半期					1					○												156		
サッカー・フットサル	1		半期				1																○		161		
上級サッカー	1		半期				1																○		162		
サッカー指導法	2		半期				2																○		163		
アロマセラピー	2		集中					2																	187		
スポーツマッサージ	2		半期					2																	188		
ヨガ・ピラティス	2		半期					2																	189		
キャリアデザイン	2		半期					2																	190		
計	2	114	52																								

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。  
各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表(令和3年度・2021年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和3年度・2021年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	社会福祉主 事(任用資 格)	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期	2	2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						31
		市民生活と憲法		2		半期	2					○		32
		ボランティア入門		2		半期	2				○			33
	自然	自然環境科学		2		半期	2	2						34
		情報機器操作		2		半期		2						35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2							36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				37
	合計			4		14								

### 卒業要件単位数

<b>基礎教育科目合計</b>	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
<b>保健体育科目</b>	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
<b>専門教育科目合計</b>	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
<b>卒業要件単位数</b>	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	種がいの者初級者指導者	アシスタントマネジャー	スポーツ指導者等共通科目	レガエーションインストラクター	ケンアインストラクター	中高老年期運動指導士	介護予防運動インストラクター	社会福祉士(任用資格)	MOS	マナープロトコール検定	ホテルビジネス実務検定	アロマセラピー検定	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																			
						前学期	後学期	前学期	後学期																			
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2					○			○	○										41		
	運動生理学		2		半期	2							○			○	○											42
	健康の心理学		2		半期	2								○								○						43
	健康管理論		2		半期			2					○									○						44
	健康生活演習	2			通年				2																			45-62
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2																			63
	スポーツ運動学		2		半期			2					○															64
	運動処方論		2		半期	2							○					◎										65
	レクリエーション論		2		半期			2						○	○	○	○	○										66
	スポーツ心理学1		2		半期			2					○	○		○	○				○							67
	スポーツ社会学		2		半期			2								○	○											68
	スポーツ経営学		2		半期				2							○	○											69
	スポーツ行政論		2		半期				2							○	○											70
	スポーツ指導論		2		半期				2						○	○	○											71
	スポーツ医学		2		半期			2						○		○	○				○	○						72
	地域貢献演習	1			集中				1																			73
	医療事務1	2			半期	2						○																164
	医療事務2	2			半期	2						○																165
	医療事務3	2			半期		2					○																166
	ビジネス文書(ワード)	2			半期	2																	☆					167
	ビジネス文書(エクセル)	2			半期		2																☆					168
	ビジネス文書(パワーポイント)	2			半期			2															☆					169
	ホテルビジネス総論1	2			半期		2																			○		170
	ホテルビジネス総論2	2			半期			2																		○		171
	和文化和作法	2			半期			2																☆		☆		172
	マナー・プロトコール	2			半期		2																	○		☆		173
	ホテル接客英会話	2			半期				2																	☆		174
	ホテル概論	2			半期		2																			☆		175
	ビジネスマナー	2			半期			2																	☆	☆		176
	ダイエット実践論	2			半期		2																					177
	ダイエット実践実習	2			半期				2																			178
	ホスピタリティ基礎演習	2			半期	2																			☆	☆		179
	サービス・接遇実習	2			半期		2																		☆	☆		180
	地域事業実習	2			半期			2																				181
	地域事業運営実習	2			集中				2																			182
	スポーツ心理学2	2			半期				2																			183
	野外活動論	2			半期			2												○								184
	生涯スポーツ論	2			半期				2							○					○							185
	運動生理学実習	2			半期	2							○				◎					○						186
	スポーツ医学実習	2			半期		2						○			○	○				○	○						187
	スポーツ解剖学1	2			半期	2							○															188
	衛生学及び公衆衛生学	2			半期				2														○					189
	インターンシップ	2			集中		2																					190
	レクリエーションスポーツ実習	1			半期				1						○													191
	健康スポーツ実習1	1			半期	1							○								○	○						192
健康スポーツ実習2	1		半期		1						○															193		
水	1		半期	1							○															194		
エアロビクス1	1		半期	1							○															195		
スクーパダイビング実習	1		集中	1																						196		
夏季アウトドア実習	1		集中			1																				197		
冬季アウトドア実習	1		集中		1																					198		
アロマセラピー	2		集中				2																		☆	199		
スポーツマッサージ	2		半期				2																			200		
ヨガ・ピラティス	2		半期				2																			201		
キャリアデザイン	2		半期				2																			202		
計	2	99	52																									

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目  
各資格において ○＝必修 ☆＝推奨

# 授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和2年度・2020年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	社会福祉主 事(任用資 格)	掲載 ページ	
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期				
基礎 教育 科目	人文	自己表現とキャリア	2		必修を含 め10単 位以上	半期	2						29	
		比較文化入門		2		半期		2						30
	社会	社会環境とキャリア	2			半期		2						31
		市民生活と憲法		2		半期	2					○		32
		ボランティア入門		2		半期	2					○		33
	自然	自然環境科学		2		半期	2							34
		情報機器操作		2		半期		2						35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2						36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2				37
	合計			4		14								

### 卒業要件単位数

<b>基礎教育科目合計</b>	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
<b>保健体育科目</b>	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
<b>専門教育科目合計</b>	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
<b>卒業要件単位数</b>	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数	卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	緑が丘者初級者指導者	アシスタントマネージャー	スポーツ指導者等共通科目	レガエーションインストラクター	ケンアインストラクター	中高老年期運動指導士	介護予防運動インストラクター	社会福祉士(任用資格)	MOS	マナープロトコール検定	ホテルビジネス実務検定	アロマセラピー検定	掲載ページ		
					前学期	後学期	前学期	後学期																			
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学	2	3科目以上必修	半期	2						○			○	○										41		
	運動生理学	2		半期	2							○			○	○											42
	健康の心理学	2		半期	2								○								○						43
	健康管理論	2		半期			2					○								○							44
	健康生活演習	2		通年				2																			45-62
	競技のスポーツ栄養学	2		半期				2																			63
	スポーツ運動学	2		半期			2					○															64
	運動処方論	2		半期	2							○				◎											65
	レクリエーション論	2		半期			2						○	○	○	○	○										66
	スポーツ心理学1	2		半期			2					○	○		○	○				○							67
	スポーツ社会学	2		半期			2								○	○											68
	スポーツ経営学	2		半期				2							○	○											69
	スポーツ行政論	2		半期				2							○	○											70
	スポーツ指導論	2		半期				2							○	○											71
	スポーツ医学	2		半期			2					○			○	○				○	○						72
	地域貢献演習	1		集中				1																			73
	医療事務1	2		半期	2						○																164
	医療事務2	2		半期	2						○																165
	医療事務3	2		半期		2					○																166
	ビジネス文書(ワード)	2		半期	2																		☆				167
	ビジネス文書(エクセル)	2		半期		2																	☆				168
	ビジネス文書(パワーポイント)	2		半期			2																☆				169
	ホテルビジネス総論1	2		半期		2																			○		170
	ホテルビジネス総論2	2		半期			2																		○		171
	和文化和作法	2		半期			2																	☆	☆		172
	マナー・プロトコール	2		半期		2																		○	☆		173
	ホテル接客英会話	2		半期				2																	☆	☆	174
	ホテル概論	2		半期		2																			☆	☆	175
	ビジネスマナー	2		半期			2																	☆	☆		176
	ダイエット実践論	2		半期	2																						177
	ダイエット実践実習	2		半期				2																			178
	ホスピタリティ基礎演習	2		半期	2																			☆	☆		179
	サービス・接遇実習	2		半期		2																		☆	☆		180
	地域事業実習	2		半期			2																				181
	地域事業運営実習	2		集中				2																			115
	スポーツ心理学2	2		半期				2																			116
	野外活動論	2		半期				2											○								117
	生涯スポーツ論	2		半期				2												○							118
	運動生理学実習	2		半期	2							○				◎					○						119
	スポーツ医学実習	2		半期		2						○				○	○				○	○					120
	スポーツ解剖学1	2		半期	2							○															121
	衛生学及び公衆衛生学	2		半期				2														○					122
	インターンシップ	2		集中		2												○									123
	レクリエーションスポーツ実習	1		半期				1						○													124
	健康スポーツ実習1	1		半期		1						○								○	○						125
健康スポーツ実習2	1	半期		1						○															126		
水	1	半期	1							○															127		
エアロビクス1	1	半期	1							○															128		
スクーパダイビング実習	1	集中				1																			129		
夏季アウトドア実習	1	集中	1												1単位以上										130		
冬季アウトドア実習	1	集中				1									1単位以上										131		
アロマセラピー	2	集中				2																		☆	132		
スポーツマッサージ	2	半期				2																			133		
ヨガ・ピラティス	2	半期				2																			134		
キャリアデザイン	2	半期				2																			135		
計	2	99	52																								

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目  
各資格において ○＝必修 ☆＝推奨

### 3. 教職に関する専門教育科目

#### 健康スポーツ専攻

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		193
	教 育 原 理	2	半期	2				○		194
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		195
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○		196
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		197
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		198
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○		199
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		200
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		201
	教 育 相 談	1	半期		1			○		202
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		203
	授 業 研 究	2	半期		2			○		204
	教 職 実 践 演 習 ( 中 学 校 )	2	半期				2	○		206
保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期				5	○	△	208	
計	24	各資格における ○=必修 △=選択								

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		193
	教 育 原 理	2	半期	2				○		194
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		195
	特 別 支 援 教 育	1	半期	1				○		196
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		197
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		198
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○		199
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	集中		1			○		200
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		201
	教 育 相 談	1	半期		1			○		202
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		203
	授 業 研 究	2	半期		2			○		204
	教 職 実 践 演 習 ( 中 学 校 )	2	半期				2	○		206
保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期				5	○	△	208	
計	24	各資格における ○=必修 △=選択								

注 中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、「介護等体験」が義務付けられている。

### 3. 教職に関する専門教育科目

#### 健康栄養専攻

令和3年度・2021年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	193
	教 育 原 理	2	半期	2				○	194
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○	195
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○	196
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○	197
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○	198
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○	199
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○	200
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○	201
	教 育 相 談	1	半期		1			○	202
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○	205
	教 職 実 践 演 習 ( 栄 養 教 諭 )	2	半期				2	○	207
栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	209	
計		19	各資格における ○=必修						

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	レクリエーション・インストラクター	掲載 ページ
				前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		193
	教 育 原 理	2	半期	2				○		194
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		195
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○		196
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		197
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		198
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 指 導 法	1	半期				1	○		199
	教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	1	集中		1			○		200
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		201
	教 育 相 談	1	半期		1			○		202
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○		205
	教 職 実 践 演 習 ( 栄 養 教 諭 )	2	半期				2	○		207
栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	△	209	
計		19	各資格における ○=必修 △=選択							



# 基礎教育科目



令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M	
基礎教育 人文		自己表現とキャリア [Self-Expression and Career] <b>必修</b>	2				
授業形態		担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		高橋 勇一・植松 大介・村井 輝久・八板 将明			NSN-B1001		
この授業に関する資格							
この授業のキーワード		授業概要					
1	日本語の使い方	一般教養やマナーの基本を身につけると同時に、すべての学問の基礎である「言葉の力」と「自己表現力」を磨き、社会的基礎力の養成を目指す。レポートの書き方をはじめとする初年次教育を実施するとともに、キャリア教育につながる第一歩を踏み出す。					
2	レポートの書き方						
3	一般教養・マナー						
学習の到達目標							
<p>本学における学習や社会活動において、より積極的に取り組むために必要な一般教養やマナーを身につけることを目標とする。また、大学や実社会で役立つ「日本語の使い方」や「基本的な知識」を習得し、論理的な表現力・レポート力を養うことを目指す。</p>							
回	テーマ	授業内容				AL	
1 ～ 15	<b>【全体授業】</b> ・オリエンテーション ・おすすめ作品を伝える力 (レジュメ作成) ・地域学習 ・自己PR  <b>【グループ授業】</b> 目標達成シート 図書館ガイダンス 自己紹介・スピーチ マナー講座 レポートの書き方 情報リテラシー 哲学入門 SDGsと Society5.0	<b>【遠隔授業】</b> ○短大のメールシステム及びメールの書き方・・・短大のメールシステムと個別使用のメールアドレスの確認、メールの書き方を学ぶ ○おすすめ作品を「伝える」力 「本（評論、小説、エッセイ、マンガ含む）、映画、TV ドラマ、芸術作品など」から、「為になる」作品を選び、お勧めの点を自分の言葉で「伝える力」を養う（レジュメづくり/レポート作成） ○「地域学習」に関すること ○「オリンピック」に関すること  <b>【対面授業】</b> ○目標達成シート（マンダラート発想法）の作成/自己紹介を考える ○図書館の利用についてのガイダンス・・・各グループでの図書館見学、利用の仕方などの説明 ○マナーの基本について学習するとともに、グループ授業を通じて自己表現力を高める ○初年次教育として、小論文・レポートの書き方の説明（研究倫理教育を含む） ・「挨拶・姿勢」「礼儀・正しい座り方」「服装」について ・「情報リテラシー」について ・「哲学入門」（考える力と自己表現力を高める） ・「レポート・論文の書き方」指導 ・「教えることと学ぶこと」について ・「SDGsと Society5.0」に関する学習 ☆課題提出・・・レジュメ・レポート・小論文・自己PR 動画の提出				○	○
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
参考図書：『ステップアップ日本語講座』（中級）東京書籍、『就職活動テキスト』（「社会環境とキャリア」で使用する） その他、必要に応じて、適宜教材・資料を配付・指示する							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 1.0 時間）：書籍やインターネット・新聞やニュース・雑誌等を通して、次回の授業内容にかかわる情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容を復習するとともに、一般教養を培い、マナーの向上に努めること。							
課題に対するフィードバックの方法							
レポートやアクションペーパーにコメントを入れて返却する。							
成績評価の目安と方法							
課題のレポート・提出物（60%） 授業中の理解度・態度・表現力などの平常点（40%）を考慮し、総合的に評価する							
評価	成績評価別の到達度						
S	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて十分に理解し、優れた表現力を十分に養っている。						
A	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについてかなり理解し、優れた表現力を養っている。						
B	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて理解し、一般的な表現力を養っている。						
C	日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて学習し、最低限の表現力を養っている。						

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 人文		比較文化入門 [Introduction of Comparative Culture]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		村井 輝久			NSM-B1002	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	文化	本講義では、人文社会科学の知見と方法を学びながら、社会のなかの様々な文化事象の類似点や相違点、また問題点を比較検討し考察することを目指す。				
2	比較					
3	客観性					
学習の到達目標						
本講義の目標は、社会のなかの様々な文化事象を比較検討するための知識や方法を習得することである。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方等の説明、「文化」という概念の説明				
2	考えるということ	「考える」とは、どのような営みか？（遠隔）				
3	考え方の種類	思考の働かせ方、思考法、思考を働かせるための道具（遠隔）				
4	「比較」とは？①	「特徴」とは何か？「特徴」を捉えるとはどのような営みか？（遠隔）				
5	「比較」とは？②	物事を相対的に捉えること、「特徴」を示す方法（遠隔）				
6	主観と客観①	自然科学における認識の客観性、再現可能性、パラダイム（遠隔）				
7	主観と客観②	人文社会科学における認識の客観性、価値自由、パラダイム（遠隔）				
8	比較文化研究	文化としての食、食生活（遠隔）				
9	〃	食の倫理、食と「いのち」（遠隔）				
10	〃	学校文化、教員文化（遠隔）				
11	〃	「子育て」の文化（遠隔）				
12	〃	経営理念、企業文化（遠隔）				
13	〃	生命倫理① 出生前診断、選択的人工妊娠中絶（遠隔）				
14	〃	生命倫理② 「人間の尊厳」をめぐる問題（遠隔）				
15	授業のまとめ	本講義で取り上げた内容のまとめ（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考書：授業中に必要に応じて、適宜指示および教材プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項について新聞やニュース、インターネット・書籍などを通して情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各回講義終了後、受講者には疑問点、気になった点などの感想を書かせ、提出させる。受講者からの感想に対しては、次回の講義において補足説明や解説などのフィードバックを行う。 また、受講者に対しては、オフィスアワー等で適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
授業への参加度 50% 課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	文化事象を比較するための知識や方法を深く理解している。					
A	文化事象を比較するための知識や方法を十分に理解している。					
B	文化事象を比較するための知識や方法をおおむね理解している。					
C	文化事象を比較するための知識や方法の基礎知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 社会		社会環境とキャリア [Social Environment and Career] <b>[必修]</b>	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・アクティブ・ラーニング		岡崎 英規・川井 明・植松 大介			NSM-B1003	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	就職活動	自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方）、就職（編入、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを行い、就職活動等のキャリアデザインに役立てるようにする。				
2	就職試験					
3	就業意識					
学習の到達目標						
社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	受講上の注意、礼儀作法の復習				○
2	就職・社会人のルール	労働法について、ハローワークの支援について				○
3	ナビ登録	スマートフォン等からの就活ナビへの登録				○
4	企業情報の集め方	情報ツールの使い方、企業の検索・情報のポイント				
5	就職活動のマナー	コミュニケーションの重要性を知る				
6	自己分析①	自己PRを作成する作業①（高校までの自分を振り返る）				○
7	自己分析①	自己PRを作成する作業②（短期大学での自分を振り返る）				○
8	履歴書作成①	履歴書記入のポイント、各項目のポイント				○
9	履歴書作成②	実際に履歴書を作成する				○
10	身だしなみセミナー	男女別の身だしなみ、女性のメイクアップ講座				○
11	面接対策①	面接の目的と種類・マナー・評価ポイント				○
12	面接対策②	個人面接及び Web 面接講座				○
13	面接対策③	代表者による集団模擬面接				○
14	内定者フォーラム	就職が内定した先輩のシンポジウム				○
15	分野別企業研究・まとめ	人事担当者の業界説明、ふり返りシートの作成				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト（授業で配布する）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容について積極的に取り組む。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出した課題にコメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点（授業の態度・意欲・服装など）80% 提出物（感想文など）20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。					
A	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。					
B	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができている。					
C	授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 社会	市民生活と憲法 [Civil Life and Constitution]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	山本 和弘			NSM-B1004		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育、栄養教諭）、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	日本国憲法	本授業は、憲法の基本原理・理念を学び、私たちの国家・社会を成り立たせている仕組みを理解するとともに、私たちに保障されている権利・自由の概要・意義を理解することを目標とする。加えて、日々のニュースなどについて、感情論ではなく、冷静に判断・評価する能力を身につけて欲しい。				
2	基本的人權					
3	近代立憲主義					
学習の到達目標						
日本国憲法の基本原理について学習し、日常生活に潜む「憲法問題」を見抜く力を養うことを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、講義内容の概略および評価方法の説明。加えて、憲法・法律に関する基礎知識を説明し、憲法と通常の法律との違いを理解することで、そもそも「憲法」とは何かを学ぶ。（遠隔）				
2	国民主権/象徴天皇制	憲法の基本原理である国民主権について学び、それと象徴としての天皇の地位との関係性を学ぶ。加えて生前退位の問題と憲法との関係について学ぶ。（遠隔）				
3	人權総論/幸福追求權	人權とは何か、なぜ保障されなければならないのか、そしてどのような場合に人權が制約されるのかを学び、自分自身が権利や自由の主体であることを自覚する。加えて、男女の平等について、憲法ではどのように考えるのかを学ぶ。（遠隔）				
4	思想・良心の自由 / 信教の自由	思想や信仰がなぜ憲法によって保障されるのか、どこまで保障されるのかについて具体的事件を素材として学ぶ。「日の丸・君が代問題」を、憲法に即してあなたならどう考えるか？（遠隔）				
5	政教分離	国家と宗教とはどのような関係にあるのか、なぜ国家と宗教との関係を、憲法で規定するのかについて、その歴史的背景を踏まえ、具体的事件を通じて理解する。（遠隔）				
6	表現の自由	表現の自由とは何かを理解し、デモや集会の自由、さらにはヘイトスピーチや差別表現の問題について学ぶ。（遠隔）				
7	人身の自由	なぜ私たちは突然不当に逮捕されることはないのか？ 奴隷のように酷使されないのか？ 憲法に規定された人身の自由の内容とその基本原則について学ぶ。（遠隔）				
8	経済的自由	私たちが豊かに、そして自分らしく生きるための権利・自由について学ぶ。加えて、経済的自由が制約される場合とその根拠を理解する。（遠隔）				
9	社会權	「人らしく生きる」とはどのようなことか？ 貧困、ブラックバイト、教育費の問題などを、憲法に照らして学び、感情論ではなく法的な根拠に基づいて理解する。（遠隔）				
10	9条と平和主義	過去から現代に至る憲法 9 条と平和主義に関する議論を概観し、いわゆる平和安全法制などの現代的問題の本質を、憲法に照らして冷静な思考で理解する。（遠隔）				
11	憲法の変更	「憲法を改正（変更）する」とはどのようなことか、法律の改正とはどう異なるのかを理解する。加えて、憲法の改正（変更）に限界はあるのか、あるとすればそれは何かを学ぶ。（遠隔）				
12	参政権/国会	私たちの「代表」である国会の憲法上の位置づけについて学ぶ。そして選挙を通じて「代表」を国会へ送り込む仕組みを理解する。（遠隔）				
13	内閣	内閣の憲法上の地位や権限について学ぶ。（遠隔）				
14	裁判所	憲法における裁判所の機能、特に違憲審査制について学ぶ。国民の代表者が作った法律が、なぜ裁判所によって無効とされるのだろうか？（遠隔）				
15	まとめ	国家・社会における憲法と私たちの関係について総括する。（遠隔）				
試験等	筆記試験：基本的に記述式の問題を出題する。					
教科書及び参考図書						
教科書：古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法〔第5版〕』（2021年、尚学社）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞やニュースで気になった「事件」をメモにとる等し、どんな憲法上の問題点があるかを考えてきて欲しい。						
事後学習（週 1.5 時間）：教科書や授業プリントをしっかりと読み込み、基本的な憲法の考え方、争点、判例等を改めて整理して欲しい。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、各回のコメントシートにコメントを入れ、返却する。またメールでの問い合わせも随時受け付ける。						
成績評価の目安と方法						
原則筆記試験 100%。理由のない遅刻、欠席は減点とする。また任意の課題等で加点することもある。						
評価	成績評価別の到達度					
S	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について十分な知識を適切に使い、これに依拠して独自の考えを論述することができる。					
A	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について基本的な理解を基にして論述することができる。					
B	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について基本的な知識を習得できる。					
C	日本国憲法についての基本的な知識を習得することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 社会		ボランティア入門 [Introduction to Volunteer Activities]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・グループワーク・アクティブ・ラーニング		江森 孝夫		NSM-B1005		
この授業に関係する資格						
障がい者初級スポーツ指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ボランティア精神	生きることの意味について、そして人間と社会について幅広く考えると同時に、ボランティアの理念およびその精神、社会福祉施策・障がい者スポーツ、そして、教育・環境・企業ボランティアなど、さまざまな地域・社会貢献活動について学習する。なお、NPO やボランティア活動に関わる人から学ぶ機会も設定し、グループで内容をまとめる。				
2	社会福祉					
3	地域・社会貢献					
学習の到達目標						
ボランティアに関する基本的な知識を身につけ、ボランティア精神の養成を目指すと同時に、社会が求める支援や障がい者などに対する理解を深める。また、必要とされるボランティア活動や地域・社会貢献活動について理解し、それらの活動にチャレンジする実践力を養うことを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	初回は、「オリエンテーション」として、授業概要・評価の方法、履修上の注意点などを説明する ※ボランティアは随時紹介する				
2	事始め 1	「事始め 1」として、基本用語、ボランティア精神、ボランティア理念、伝達手段としての日本語の大切さについて学習する				
3	事始め 2	「事始め 2」として、ボランティア活動を支える。福祉教育について、共に生きる地域作りについて学習する				
4	ボランティアの基本	「ボランティア」について、実際の探し方やボランティアの基本的姿勢などを理解する ※ 体験レポートに関する説明を行う ※「ボランティア体験」は、できる範囲で各自が適切なボランティア活動を選んで参加し、体験レポートを提出する				
5	障がい者スポーツ	東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がい者スポーツの課題と展望について学習する				
6	障がい者スポーツ	前時の内容をもとに障がい者スポーツを体験する。(グループごとに4~5種目を体験)				○
7 ~ 11	福祉について	※共に生きる地域作りのために、自分に何が出来るかを外部講師を招いて学習する (1) 児童福祉について (保育所指導員、学童保育指導員) (2) 高齢者福祉について (特別養護老人ホーム職員、介護施設ヘルパー) (3) 障がい者福祉について (視覚障がい者・盲導犬ユーザー) (4) 障がい者福祉について (聴覚障がい者・障がい者本人と手話サークルの方) (5) 障がい者福祉について (身体障がい者・車イスユーザー)				○
12	福祉について	五つの課題別グループに分かれて、自分たちで調べる				○
13	福祉について	五つの課題別グループに分かれて、調べた内容をまとめる				○
14	発表会	課題別グループ学習の発表会をする				○
15	総合・まとめ	「総合・まとめ」として、振り返り学習を実施する				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
授業内で使用する資料を配付する 参考図書：『ボランティア論』(ミネルヴァ書房)、『いちばんはじめのボランティア』(樹村房)、『共に生きること・共に学びあうこと』(大学図書出版) その他、適宜紹介する						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 次回の学習内容として提示された課題について、雑誌やインターネット・書籍等で情報収集しておく。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業中の内容を整理してまとめ、課題別グループ学習発表会に向けての準備を進める。						
課題に対するフィードバックの方法						
・理解度確認のレポートを回収後、解説を行う。 ・課題別発表会の内容にコメントする。						
成績評価の目安と方法						
平常点 (授業の理解度・提出物) 40% 授業内課題 30% ボランティア体験レポート 30%で総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、積極的に実践し、レポート力を十分に身に付けている。					
A	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、実践し、レポート力を身に付けている。					
B	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を身につけ、実践している。					
C	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を学習している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 自然		自然環境科学 [Natural Environmental Science]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		高橋 勇一			NSM-B1006	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	環境問題	環境問題の現状について自然科学・社会科学双方の観点から学習し、美しい地球を守るために、「宇宙船地球号」の一員でもある私たちが心がけるべきことやできることについて考察する。なお、教養教育として、自然科学の基礎力および論理力・思考力を身につけることも重要なテーマとする。				
2	エコシステム					
3	持続可能な発展					
学習の到達目標						
自然科学の基礎及び地球環境問題に関する一般的な知識を習得するとともに、論理的に物事を考え、表現する力を養うことを目指す。また、生命や自然を大切に、環境保全および持続可能な発展（SDGs）に寄与する精神・態度を養うことを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	宇宙船地球号	イントロダクションとして、宇宙の歴史・宇宙の中の地球について学習する（遠隔）				
2	地球と生命の歴史	地球と生命の歴史について学習し、生命の誕生の謎に触れる（遠隔）				
3	環境と文明	地球システムについて学習し、環境と文明の関係について概説する（遠隔）				
4	生態系・物質循環	エコシステム（生態系）の仕組み及び物質の循環について学習する（遠隔）				
5	環境とエネルギー	地震（津波含む）発生メカニズムを学習し、エネルギー問題を考える（遠隔）				
6	食物連鎖・生物多様性	生産者・消費者・分解者の役割及び生物の多様性について学習する（遠隔）				
7	現代の地球環境問題	人間圏の拡大とともに、改めて「地球環境問題とは何か」を検討する（遠隔）				
8	地球の温暖化	地球温暖化のメカニズム及びその対策について学習する（遠隔）				
9	オゾン層破壊・酸性雨	オゾン層破壊と酸性雨について学習する（遠隔）				
10	森林劣化・洪水問題	森林の多面的機能について学習し、森林劣化による洪水問題を考える（遠隔）				
11	砂漠化	カシミア人が砂漠を拡大？ 中国の砂漠化の原因と対策について考える（遠隔）				
12	環境価値・環境ビジネス	環境はいくらか？ 生態系サービスの価値や環境ビジネスについて学ぶ（遠隔）				
13	世界遺産・循環型社会	世界遺産について学習すると同時に、循環型社会について検討する（遠隔）				
14	環境倫理・環境教育	環境問題を題材とした作品を学び、SDGsに資する倫理や教育を考える（遠隔）				
15	総合・まとめ	総括・振り返り学習				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 環境・循環型社会・生物多様性白書、Newton、日経サイエンスの他、授業で紹介する 参考 URL ; <a href="http://www.env.go.jp/">http://www.env.go.jp/</a>						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）： 書籍（参考図書）やインターネット・配信資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題やリアクションペーパーなどにコメント等を入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、積極的に取り組み、論理力・表現力を十分に培っている。					
A	自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、論理力・表現力を培っている。					
B	自然や環境問題に関する基礎的な知識を身につけ、ある程度は説明する力を培っている。					
C	自然や環境問題に関する基礎的な知識を学習し、部分的には説明する力を培っている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
基礎教育 自然	情報機器操作 [Computer Literacy]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			NSM-B1007		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育、栄養教諭）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	情報の管理	パソコン・インターネットに関する基本的な操作方法および用語について学習する。				
2	情報の作成・発信	Microsoft office について演習を通じて操作方法を学ぶ。				
3	パソコン・スマートフォン連携	Microsoft office specialist 検定の出題レベルを学習し、希望に合わせて受験できる環境を整える。				
学習の到達目標						
パソコン・インターネットなどの情報機器操作環境に関する基本用語を理解する。パソコン操作演習を通じて、メールの送受信、インターネットの活用、簡単な文書、表計算、プレゼンテーションソフトを活用した文書作成ができることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのようにすすめるのかなどの説明を行う				○
2	情報機器の基本	パソコンやスマートフォンなどの情報機器操作に関する基本用語について学習する				○
3	メールシステムの理解	メールシステムの理解（ドメイン・送受信・通信環境・マナー）・送受信演習				
4	インターネットの活用	インターネットから情報を収集する。Google・MS エッジ・classroom の活用				○
5	インターネットの活用	インターネットから情報を収集する。ビデオ会議ソフトの活用・IT リテラシー				
6	文書作成（Word）	文書作成ソフトを使って文書を作成する				○
7	文書作成（Word）	文書作成ソフトを使って文書を作成する				
8	文書作成（Word）	文書作成ソフトを使って文書を作成する				○
9	表計算（Excel）	表計算ソフトを使って表計算・関数計算・グラフ作成を行う				○
10	表計算（Excel）	表計算ソフトを使って表計算・関数計算・グラフ作成を行う				○
11	表計算（Excel）	表計算ソフトを使って表計算・関数計算・グラフ作成を行う				○
12	表現（PowerPoint）	プレゼンテーションソフトを使ってプレゼン資料を作成する				○
13	表現（PowerPoint）	プレゼンテーションソフトを使ってプレゼン資料を作成する				
14	表現（PowerPoint）	プレゼンテーションソフトを使ってプレゼン資料を作成する				
15	まとめ	これまでの内容について振り返り、内容の理解を深める				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS word/Excel/Powerpoint 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：タイピング練習&次週のテーマについての自主学習 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容の反復学習						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10%（未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Office の操作を十分理解し、インターネットやメールを活用した情報収集やコミュニケーションを図ることができる。					
A	MS-Office の操作を理解し、インターネットやメールを活用した情報収集やコミュニケーションを図ることができる。					
B	MS-Office の操作を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	MS-Office の基本操作を理解し、基本的な文書を作成することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 外国語	英語コミュニケーション1 [English Communication 1]	2			
授業形態	担当教員名			科目コード	
講義・演習・アクティブ・ラーニング	植松 大介	国	NSM-B1008		
この授業に関する資格					
教員免許 (保健体育、栄養教諭)					
この授業のキーワード		授業概要			
1	コミュニケーション	視聴覚教材などを効率よく使用し、自分の欲求を満たす英語表現・ゼスチャー等を身につける。			
2	基本的な口語表現	基本的なフレーズ (文語・口語) を講義とロールプレイングを通じて養う。			
3	自己欲求を満たす英語	コミュニケーションに必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付ける。			
学習の到達目標					
日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本的な表現やフレーズを反復練習することにより、日本と英語圏の文化や、自分の欲求を満たすための簡単でシンプルな英語コミュニケーションの技術を習得することを目標とする。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	Introduction	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など	○		
2	Communication	日本語はボエム、英語はソング。言語の根底を学ぶ	○		
3	Self-Introduction	自己・他己紹介 私は誰？あなたは誰？	○		
4	Unit 1 Weather	お天気ネタは万国共通！会話の切り口を知る	○		
5	Unit 2 Emotions	感情と気持ちははっきりと！	○		
6	Unit 3 Real ENG 1	Native 講師と交流①	○		
7	Unit 4 Time	やっぱりオシャレはクウォーツ時計 時間のかつこい読み方	○		
8	Unit 5 Numbers	日本は「万」、英語は「千」 数字の読み方を学ぶ	○		
9	Unit 6 Direction	方角・道案内はこれで万全！	○		
10	Unit 7 AA, BA&JA	米語？英語？豪語？和製？同じ言葉でも意味が違う	○		
11	Unit 8 Real ENG 2	Native 講師と交流②	○		
12	Unit 9 How～？	分からないことは何でも聞く！正しい質問のしかた	○		
13	Unit 10 Hot or Hot?	状況や味覚などはキチンと伝える	○		
14	Unit 11 Role Play	なりきりロールプレイング	○		
15	まとめ・総括	まとめと総括	○		
試験等	筆記試験 + 実技試験				
教科書及び参考図書					
参考図書：Kayo Shigemori 全くだまな英語が1年で話せた！ アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」 * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習 (週 1.5 時間) : 自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習 (週 1.5 時間) : 講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。					
課題に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。					
成績評価の目安と方法					
筆記試験・実技・口頭試問 80% 予習状況、及び授業中の積極的な態度などを平常点 20%として、総合的に評価する					
評価	成績評価別の到達度				
S	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。				
A	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。				
B	基本的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。				
C	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を身に付けている。				

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 外国語		英語コミュニケーション2 [English Communication 2]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	NSM-B2009		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	自己欲求を満たす英語	更なる自分の欲求を満たす英語表現を身につける。基本的なフレーズ（文語・口語）の確認と応用的なフレーズも講義とロールプレイングを通じて学ぶ。さらに編入学試験・就職試験などに必要な、長文読解力や文法力のアップを目指す。				
2	応用口語表現					
3	長文読解力の向上					
学習の到達目標						
日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本から応用までの表現やフレーズを学び、更なる自己欲求を満たす英語コミュニケーションの技術と就職や編入等に必要な英語の技術を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	Introduction	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など				○
2	Unit 12 History	英語は難解？簡単？英語のルーツを学ぶ				○
3	Unit 13 Gestures	握手と Hug だけが挨拶じゃない！外国式ゼスチャー＆フレーズを知る				○
4	Unit 14 Preposition	場所や位置の表現方法を完全マスター！前に置くことば（詞）を知っておけば怖いものなんてない				○
5	Unit 15 Real ENG 1	Native 講師との交流①				○
6	Unit 16 CIQ	旅に出よう ①入国からチェックインまで				○
7	Unit 17 F & B	旅に出よう ②食べたい物を飲み食いする				○
8	Unit 18 Sightseeing	旅に出よう ③観光＆お土産を買う				○
9	Unit 19 Check Out	旅に出よう ④チェックアウトから出国まで				○
10	Unit 20 Real ENG 2	Native 講師との交流②				○
11	Unit 21 Sports	これ英語で説明できますか？①（スポーツ編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
12	Unit 22 Culture	これ英語で説明できますか？②（文化編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
13	Unit 23 Receipt	これ英語で説明できますか？③（レシピ編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
14	Unit 24 Role Play	なりきりロールプレイング				○
15	まとめ・総括	まとめと総括				
試験等	実技試験＋口頭試問					
教科書及び参考図書						
参考図書：Kayo Shigemori 全くだめな英語が1年で話せた！アフォーOL Kayoの「秘密ノート」 * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと 事後学習（週1.5時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
小テスト・実技・口頭試問 80% 予習状況及び授業中の積極的な態度などを平常点 20% として総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。					
A	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、自身の英語力でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。					
B	応用的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。					
C	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、自身の英語力でのコミュニケーション能力を身に付けている。					



# 專門教育科目



令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康のスポーツ栄養学 [Nutrition for Health and Fitness]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	長島 洋介		国	NSM-S2010		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、健康運動実践指導者、GFI、 スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	健康	この授業では、生活習慣病を予防するための食事と運動について学ぶ。身体組成、エネルギー消費量、摂取エネルギー、各種の栄養素の働きについて学習していく。				
2	栄養					
3	スポーツ					
学習の到達目標						
身体活動と栄養の関連性について学び、身体活動量に応じた食事内容や摂取方法を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康づくりと食生活	健康づくりのためのスポーツと食事・栄養の意義（遠隔）				
2	生活習慣病 1	生活習慣病とメタボリックシンドローム の基礎（遠隔）				
3	生活習慣病 2	生活習慣病とメタボリックシンドローム 予防のための施策（遠隔）				
4	エネルギー代謝 1	肥満の定義と測定法（遠隔）				
5	エネルギー代謝 2	消費エネルギー測定法（遠隔）				
6	エネルギー代謝 3	食事と運動による体重コントロール（遠隔）				
7	糖質の摂取	糖質の摂取と持久力（遠隔）				
8	筋力アップ	たんぱく質の摂取と筋肉づくり（遠隔）				
9	疲労回復	ビタミンの摂取と体調管理（遠隔）				
10	貧血予防	スポーツにおける貧血（遠隔）				
11	骨づくり	ミネラルの摂取と骨づくり（遠隔）				
12	水分補給	水分摂取の種類とタイミング（遠隔）				
13	サプリメント	サプリメントと食事 サプリメントの種類と使い方（遠隔）				
14	ライフスタイルと栄養	年代 性別 食環境別の食事とスポーツの関わり（遠隔）				
15	まとめ	全体の統括（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書： なし（プリント配布） 参考図書： 解剖生理学 人体の構造と機能、第2版 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 参考図書の「解剖生理学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 平常点 10% 理由のない遅刻、欠席は減点として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康のためのスポーツ栄養学を十分理解し、応用力を身に付けている。					
A	健康のためのスポーツ栄養学をよく理解している。					
B	健康のためのスポーツ栄養学を理解している。					
C	健康のためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		運動生理学 [Exercise Physiology]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		玉木 啓一			NSM-S2011	
この授業に関係する資格						
栄養士免許、教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、NR・サプリメントアドバイザー、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	エネルギー消費量	生理学的な知識を基本として、健康のための運動、スポーツ競技力の向上について、理解し指導できる能力を養うことを目標とする。運動中の生体内現象を、神経系・筋系ならびにエネルギー供給に関連した生理学的観点から解説する。また、体力向上の生理学的基礎について、トレーニングによる身体適応の変化を生理学的に明らかにしていく。				
2	運動強度					
3	トレーニング					
学習の到達目標						
運動生理学の基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康生活と運動生理学	健康と運動生理学の関連を理解する（遠隔）				
2	運動とエネルギー代謝 1	エネルギー代謝とは（遠隔）				
3	運動とエネルギー代謝 2	エネルギー代謝の測定方法と意義（遠隔）				
4	運動とエネルギー代謝 3	運動とエネルギー代謝（遠隔）				
5	身体運動のしくみ 1	呼吸・循環器と運動（遠隔）				
6	身体運動のしくみ 2	筋収縮のしくみ（遠隔）				
7	身体運動のしくみ 3	筋収縮のエネルギー（遠隔）				
8	運動の種類	有酸素運動と無酸素運動（遠隔）				
9	筋線維タイプ	筋線維タイプとその特性（遠隔）				
10	運動と栄養素	様々な栄養素と運動の関係（遠隔）				
11	体力	体力とその意義（遠隔）				
12	トレーニング 1	トレーニングの原理・原則（遠隔）				
13	トレーニング 2	トレーニングの効果（遠隔）				
14	運動と健康	運動が健康におよぼす効果（遠隔）				
15	まとめ	運動と健康、運動とスポーツについて考える（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂 参考書：コーチと選手のためのスポーツ生理学 フォックス 大修館書店、健康運動実践指導者養成用テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 事前に指示した教科書資料を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる						
課題に対するフィードバックの方法						
各授業終了後やオフィスアワーの時間等を利用して、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 95% 平常点 5% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	運動生理学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に持っている。					
A	運動生理学の知識を良く理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。					
B	運動生理学の知識を理解している。					
C	運動生理学の基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康の心理学 [Health Psychology]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	高橋 勇一			NSM-S2012		
この授業に関する資格						
ピアヘルパー、健康管理士一般指導員、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	心の健康	健康心理学は心理学から派生した応用心理学の1つの領域である。健康に影響を与える要因を心理的な側面はもとより、行動的・社会的など様々な観点から学習する。また、脳科学の研究成果も取り入れ、ストレスとの上手なつきあい方や健康維持法についても考察する。				
2	ストレス対応					
3	ポジティブ心理学					
学習の到達目標						
人間が生活していくうえで起こりうる様々な健康問題に対する知識の理解を深める。健康と疾病には心理的な要因はもとより、他の様々な要因が影響していることを理解する。そして、各自が適したストレス解消法や最善の状態（健康）を維持するスキルを習得することを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康心理学とは	授業の概要説明、健康及び心理学、健康心理学の基礎（遠隔）				
2	健康と心理学	新しい健康の概念、脳の構造、ポジティブ感情とネガティブ感情、セロトニン活性化法（遠隔）				
3	ストレスと心の健康1	ストレス、ストレス理論、ストレス対処（コーピング）（遠隔）				
4	ストレスと心の健康2	ストレスの捉え方、ストレスとの上手なつきあい方（遠隔）				
5	健康心理アセスメント	QOL、対人関係、生活習慣のアセスメント、意志を科学する（遠隔）				
6	健康とパーソナリティ	パーソナリティについて、タイプA行動パターン、心の病気とパーソナリティ（遠隔）				
7	心の健康・心の病気	心の健康に関する統計、生まれてきた意味、思春期の精神疾患（遠隔）				
8	健康行動と生活習慣	気をつけるべき生活習慣、生活習慣病予防など（遠隔）				
9	劣等感とコンプレックス	さまざまなコンプレックス、劣等感、コンプレックスを克服する方法（遠隔）				
10	健康法・自己肯定感	心身を健康に保つ健康法、自己肯定感の高め方など（遠隔）				
11	健康心理カウンセリング	カウンセリング、幸せにする思考法、マインドフルネス、アンガーマネジメント（遠隔）				
12	健康教育	健康教育、ストレスマネジメント教育、人間性の心理学（遠隔）				
13	健康とポジティブ心理学	ポジティブ心理学、レジリエンス、人生の選択（遠隔）				
14	人生と健康心理学	ベスト・パフォーマンス、自己実現の過程、寿命（死）について（遠隔）				
15	総合・まとめ	総合・まとめ、振り返り学習				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：森和代 石川利江 茂木俊彦 編 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房 島井哲志・長田久雄・小玉正博 編 健康心理学・入門 有斐閣アルマ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.0時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週2.0時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題やリアクションペーパーに対して授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
業参加の意欲・態度・提出物（リアクションペーパー） 50% 授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康の心理学全般についての深い知識を身につけ、応用的なスキルを養っている。					
A	健康の心理学全般についての一般的な知識を身に付けている。					
B	健康の心理学の基礎について概ね理解している。					
C	健康の心理学の基礎について部分的に理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	健康管理論 [Health Care Theory]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	岩井 秀明			NSM-S2013		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	健康増進	健康増進、健康づくりの施策、健康管理の方法について学び、ライフステージごとの健康管理の実際とその予防から、健康を増進させる健康管理について修得する。				
2	健康施策					
3	健康管理					
学習の到達目標						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の内容と方法について理解・考察し、各ライフステージでの健康づくりを実践できる。 変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題を理解し、併せて健康に関する基礎的教養を広げられる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康増進-1 社会と健康	健康・公衆衛生の概念、社会的公正と健康格差是正、歴史、環境・国際保健（遠隔）				
2	健康増進-2 世界と日本の健康	世界および日本の健康の現状（遠隔）				
3	健康増進-3 人間集団の健康-1	疫学；疫学指標、観察研究、介入研究、誤差（遠隔）				
4	健康増進-4 人間集団の健康-2	疫学；スクリーニング、統計学（遠隔）				
5	健康増進-5 健康指標	人口静態統計、人口動態統計（遠隔）				
6	健康づくりの施策-1	第1次国民健康づくり対策、第2次対策（アクティブ80ヘルスプラン）（遠隔）				
7	健康づくりの施策-2	健康日本21（第二次）、健康増進法、新健康フロンティア戦略（遠隔）				
8	健康づくりの施策-3	生活習慣と健康；食生活と栄養、食事摂取基準（2020）、食生活指針（遠隔）				
9	健康づくりの施策-4	生活習慣と健康；身体活動・運動、身体活動基準・指針、メディカルチェック（遠隔）				
10	健康づくりの施策-5	生活習慣と健康；喫煙、飲酒、睡眠、休養、ストレス、歯科（遠隔）				
11	健康管理の方法-1	健康教育、主要疾患の疫学と予防対策；がん、循環器疾患（遠隔）				
12	健康管理の方法-2	主要疾患の疫学と予防対策；糖尿病、脂質異常症、感染症（遠隔）				
13	ライフステージの健康管理-1	健康管理システム；変遷、地域、高齢者・成人の健康管理・増進、介護（遠隔）				
14	ライフステージの健康管理-2	母子の健康管理、学校の健康管理、健康診断と保健指導（遠隔）				
15	ライフステージの健康管理-3	職場の健康管理、健診、健康保持増進対策（THP）、メンタルヘルス（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：尾島俊之 堤明純 編 基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第5版 2020.3（南江堂） 参考図書等：健康運動実践指導者養成テキスト、健康運動指導のための健康管理概論、学生のための健康管理学						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週1.5時間）：講義資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義の振り返り課題を完成し提出する。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、感想についてフィードバックし、分かち合う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験（55%）、講義振り返り課題の提出（必須）及びその内容（45%）を総合的に判断し評価する。						
評価						
S	健康管理論の基となる知識を十分に会得している。授業態度・取り組みは特に良好である。					
A	健康管理論の基となる知識を会得している。授業態度・取り組みは良好である。					
B	健康管理論の内容は概ね理解している。授業態度・取り組みは普通である。					
C	健康管理論の理解に努力が必要である。授業態度・取り組みに更に努力が必要である。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実験・演習・アクティブ・ラーニング	茗荷 尚史			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食商品開発	<p>例年2～4名程度の研究チームを編成して、チームごとに一つのテーマについて通年で研究活動を行っている。毎週一チーム10分程度のディスカッションの時間と80分程度の研究活動の時間を設けている。ディスカッションの時間では、主に前の週に行なった実験の反省・まとめおよび次週の予定決めを行っている。研究活動の時間では実際に手を動かして研究を行っている。過去の年度では、重点テーマとして遺伝子組換え食品の解析、コーヒー由来の美白成分の研究、イチゴ萎黄病に対する微生物農薬の開発および易剥性果実品種「ボロタン」の機能性、各種健康食材を利用した食品加工学的研究等について調査・研究を実施した。数年間稼働していないテーマも含めると現在18種と多彩なテーマを提示可能である。学術的価値のあるテーマについては学生発案の新規テーマも取り上げる。なお年に少なくとも数回ほどは、研究室全体で動く活動(サンプリング、学生企画の学外実習等)も企画している。</p> <p>なお若者の自由な発想を大切にしている研究室なので、研究の方向性のみならず研究室の企画・運営に関しても積極的な提案を歓迎する。研究というものの性格上、規定時間通りには進行しないことがあるが、例年卒業の頃までには研究室が我が家のような感覚になってくれるようである。研究室の仲間が一生の友になる例もまま見受けられる。本研究室は10年連続で学生による学会発表を成し遂げた実績のある研究室である。</p>				
2	食品機能					
3	遺伝子解析					
学習の到達目標						
<p>研究活動の中で様々な障壁に遭遇するが、その原因と結果の関係を科学的かつ論理的に洞察し、解決の糸口を見出していく力を養うことを最大の到達目標とした。常に最新の情報を得る術についても学び、それに基づいた栄養指導が行える真に実力のある栄養士になるための素養を身につけてもらいたい。</p>						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	導入教育	先行研究の解説、研究テーマの説明				
3・4	研究テーマの決定	希望調査、提案受入れ、研究チーム編成	○			
5・6	研究活動の開始	研究テーマについての理解熟知	○			
7・8	研究活動	当面必要な技術についての説明	○			
9・10	研究活動	技術的習熟	○			
11・12	研究活動	習熟技術による実験	○			
13・14	研究活動	新たに必要となる先行研究の洗い出し、研究環境整備	○			
15・16	情報収集・整理法	文献検索の実習(図書館&ネット)、学術論文の構成および整理法の講義	○			
17・18	研究活動	次に必要となった技術の解説	○			
19・20	研究活動	技術的習熟	○			
21・22	研究活動	習熟技術による実験	○			
23・24	研究活動	改良点の発見、再実験	○			
25・26	まとめ	データ整理	○			
27・28	まとめ	研究発表の準備	○			
29・30	発表	研究発表	○			
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
<p>教科書：文献検索の際に収集した学術論文、図書(研究班ごとに異なる)                  参考図書：グリネルの科学研究の進め方・あり方 Frederik Grinnell 著 Haklak Rockbill 訳 共立出版</p>						
準備学習・事後学習						
<p>準備および事後学習(週1時間)：本科目は常に毎回出たデータについて解析し、次の方針を決定し、さらなる施策を講じる科目で、計画書のようなものには書き表すことのできない流動性のある科目である。だからこそその過程の中に学ぶことが多い科目でもある。よって、テーマ毎に手順や進行度合は異なる場合もある。</p>						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックは、毎回のディスカッションを通じて行う。						
成績評価の目安と方法						
ディスカッションおよび研究活動に対する姿勢・貢献度 80% 研究発表の成果 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動にかなり積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱い成果を上げている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実験・演習・ アクティブ・ラーニング	岡崎 英規			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品衛生	身近な食品を用いて、社会的に注目されている食品衛生上の問題点を扱う。 これまでは、寄生虫汚染調査、着色料の使用実態調査、食肉の大腸菌やサルモネラ汚染調査、冷凍食品の生菌数、賞味期限を過ぎた牛乳の生菌数推移などについて調査・研究を行った。				
2	細菌検査					
3	実態調査					
学習の到達目標						
卒業論文を完成させる。研究を通して人と人の調和や協調性・積極性を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	顔合わせ、過去の研究内容紹介、研究内容決定に向けて情報収集				○
2	研究活動準備	研究内容に関する情報収集				○
3	研究活動準備	個人で調べたいことや興味のある内容を発表し、実現可能か検討				○
4	研究活動準備	研究テーマの決定、テーマごとにグループ分け				○
5~14	研究活動	グループごとに活動（勉強会、研究計画、資料調査、実験準備、実験など）				○
15	中間報告	進捗状況をグループごとに発表（研究室中間発表会）、発表内容を学園祭で発表できるようにする				○
16	研究活動	進捗状況から、今後の活動計画を検討（追加実験・調査の実施、論文作成など）				○
17~19	研究活動	グループごとに活動（勉強会、追加実験・調査の実施、論文作成など）				○
20・21	論文作成	全グループによる論文作成				○
22・23	論文完成	論文の印刷・製本				○
24~30	発表準備・発表	発表準備（パワーポイントによる発表媒体作成）及び発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：食品衛生検査指針、月刊食と健康・食品衛生研究（日本食品衛生協会）、食品衛生学雑誌（日本食品衛生学会）など						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習（週1時間）：予習・復習は、調査・実験するために必要な知識の向上、結果などから疑問に思った事への考察を行う。 授業時間以外に活動することもある。特に細菌検査は内容によって連日となることもある。						
課題に対するフィードバックの方法						
作成した論文を配布する。						
成績評価の目安と方法						
研究テーマに関する論文作成 50% 研究発表会 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動に積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱い成果を上げている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実験・実習・演習・アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養の指導	地域の高齢者の健康増進・健康長寿のための栄養指導を行う。 ライフステージ別対象者の食生活の栄養指導案・媒体作成などを行う。				
2	食生活調査					
3	媒体作成					
学習の到達目標						
健康の維持・増進を目的としたライフスタイルの追求。特に地域社会との交流により、食生活を始めとする栄養の実態を知り、問題把握や対策・指導方法について検討し、実施できる能力を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 30	情報・資料収集 (1～5) 対象者のアセスメント (6～8) 計画 (9～14) 実施 (15～18) 評価 (19～22) フィードバック (22～24) 改善・見直し (25～27) まとめ(28～30)	テーマを考えるための情報・資料の収集 テーマを考える。(対象者の決定) 対象者のアセスメントを行う。または対象者の情報を収集する。 実態調査の計画・調査用紙の作成・指導媒体作成・指導の準備をする。 計画の実施 調査・指導結果の統計処理・分析する。 対象者への結果のフィードバック 調査・指導の改善・見直しする。 1年間のまとめ・総括				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年 食品成分表、各教科の教科書 など						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間)： 必要な情報を収集し、資料に目を通しておくこと						
事後学習 (週 0.5 時間)： 次回まで進めておくことを決め、準備しておくこと						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで各自に対応する。						
成績評価の目安と方法						
授業に対する積極的な態度 (40%) と研究テーマに対するレポートもしくはまとめ・媒体作成 (40%) と研究発表資料作成と発表 (20%) から総合的に判断する						
評価	成績評価別の到達度					
S	調査の企画・運営・調査結果の分析能力と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施できる能力が身についている。					
A	調査の企画・運営・調査結果の分析ができ、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施できる能力が身についている。					
B	調査の企画・運営・調査結果の分析方法を理解し、栄養指導計画立案及び実施できる能力が身についている。					
C	調査の企画・運営・調査結果の分析方法や栄養指導計画立案及び実施についての必要な知識が理解できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスリート	この授業では、健康や競技パフォーマンスと食事との関連を検討していく。年度により、研究テーマは異なるが、スポーツ選手へ身体組成調査、食事調査の他、食品のもつ機能性成分の試験を行う予定。				
2	健康					
3	機能性食品					
学習の到達目標						
健康・競技力パフォーマンスから食品の機能性まで、スポーツ栄養に関する幅広い知識・応用力を身につけること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ガイダンス				
2~3	導入教育	スポーツ栄養学に関する研究の概要				
4~5	情報収集	スポーツ栄養学に関する研究のキーワードと文献検索の方法				
6~7	研究テーマの設定	研究課題の設定と方法の検討				
8	研究活動の開始	スポーツ栄養学研究の被験者の選定				○
9	研究活動	調査研究の方法				
10~15	研究活動	スポーツ栄養学 調査・研究の準備				○
	研究活動	スポーツ栄養学 調査・研究の実践 (時間外)				○
16~20	研究活動	データ処理方法の学習、データ処理				○
21~24	研究活動	統計解析方法の学習、統計処理				○
25~26	研究活動	レポート作成、文献収集				
27	まとめ	発表資料作成				
28	まとめ	発表練習、ディスカッション				○
29・30	発表	研究発表会、まとめ				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：「スポーツ栄養の科学的基礎」杏林書院、「アスリートのための栄養・食事ガイド」第一出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週0.5時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点100%として評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、十分に身に付けている。					
A	研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、よく身に付けている。					
B	研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、身に付けている。					
C	研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識を、身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・演習・アクティブ・ラーニング		小坂 由美子			NSM-S6072	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食教育	食事で補えないエネルギーや栄養を補食として補つための食育の実践、調理方法、食選択等を通じ、食育計画を検討する。また、地域と密接な活動を通して料理を提供することにより調理法及び料理の工夫を学習する。				
2	行事食					
3	地域参加実習					
学習の到達目標						
研究の完成。調査・研究を通して栄養士としての見聞を広め、今後の食育に生かすことを目標とする。また、広く地域や人と関わる中で調和や協調性・積極性などを養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	活動内容・活動実績の説明				○
2・3	食教育	子どもの食と栄養について				○
4・5	食教育	園児を対象にした食教育及び献立作成について				○
6~8	食教育	サポート用指導案作成、サポート用媒体作成 (遠隔)				
9~11	食育指導実践 1.2.3	園児を対象にした献立実習「おやつ実習」				○
12~14	食教育	スポーツをする生徒を対象にした食教育について				○
15・16	食教育	スポーツをする生徒を対象にした献立作成及びサポート用指導案、媒体作成 (遠隔)				
17~19	食育指導実践 4.5.6	スポーツをする生徒を対象にした献立作成及び実習				○
20	地域参加学習献立作成	園児を対象にした行事食の献立作成「クリスマスケーキ」(遠隔)				
21.22	地域参加学習献立実習	園児を対象にした行事食の献立作成「クリスマスケーキ」				○
23~24	行事食献立作成	「クリスマスパーティー」				○
25.26	行事食献立実習	「クリスマスパーティー」				○
27・28	食教育実践実習	保育園にて食育授業の実施				○
29	まとめ	活動内容まとめ				○
30	発表	研究発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
「食に関する指導の手引き」文部科学省 その他適宜資料配布						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 指導を実施するための指導案作成、媒体作成の研究を行い、模擬操作による調整をしておくこと。 事後学習 (週 0.5 時間) : 園児の特徴を踏まえた献立の振り返りを実施し、検討を行う。園児への実践的な食育指導は貴重な経験となる。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としての献立及び媒体を添削後グループごとにディスカッションを実施。						
成績評価の目安と方法						
平常点 60% 研究テーマに対する課題・研究発表・学外活動 40% 授業での活動を中心に総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に参加し、やや弱いが成果を上げている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・演習・アクティブ・ラーニング	木元 泰子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養管理	医療・福祉施設の栄養士に必要な食事療法の基礎的知識および実際を、実践を通して体感し検討する。特に食事療法が重要となる疾患について、おいしく食べやすい食事を探求する。				
2	食事療法					
3	地域貢献					
学習の到達目標						
基本的な調理技術を習得し、各種疾病に適応した食事提供を目指すとともに、栄養士に必要な実践力向上を図ることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	研究テーマの検討				○
2-4	食事療法について	各疾病の病態の食事療法の実際を文献、書籍を用い調べ、まとめる 食事療法に関する文献検索および講読会				○
5-6	調理実習①	一般治療食				○
7-8	コンテスト応募準備	糖尿病レシピコンテスト 献立作成 食材発注				○
9-11	調理実習②	糖尿病レシピコンテスト 試作				○
12-14	コンテスト応募	応募資料 レシピ作成				○
15	前学期のまとめ	前学期に実施した内容についてのまとめ				○
16	オリエンテーション	イベント企画・立案について検討				○
17-18	イベント運営①	イベント運営の企画・準備				○
19-21	イベント運営②	イベント運営の実施				○
22	イベント運営③	イベント運営の振り返り				○
23-24	データ処理①	前学期のデータ処理				○
25-26	データ処理②	後学期のデータ処理				○
27-28	研究発表会準備	研究発表 資料作成				○
29-30	まとめ	研究発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 参考図書：関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ（主婦の友社）						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習（週1時間）：日頃から食品に関心を持つこと。実施献立について、調理工程の手順の確認や試作をするなど予習をして臨むこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 研究発表 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、食事療法の実践力を身につけ、さらに応用力を十分に身につけている。					
A	研究活動にかなり積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際をよく理解し、実践力を身につけている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際を理解している。					
C	研究活動に最低限活動し、食事療法の基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習・アクティブ・ラーニング		菊地 亨			NSM-S6072	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品・調理科学	食品科学・調理科学・食品加工・感性工学分野での研究を行なう。自分自身取り組みたいテーマを考え、教員との打ち合わせにより詳細を詰めていく。研究内容によって、調理のみならず、化学実験、機器を用いた測定、官能評価（人間の感覚を用いて食品の品質を評価する手法）を行う可能性がある。 今までのゼミ生が取り組んできたテーマの例は、「食品やパッケージの色、食品添加物情報は喫食意欲や美味しさに影響するか?」、「味覚・嗅覚は生活習慣やトレーニングによって向上するか?」、「牛の品種により手作りビーフジャーキーの品質は異なるか?」、「にがりの種類により豆腐の品質は異なるか?」、「野菜の部位によりミネラル含量は異なるか?」、「大豆以外の豆から納豆を作ってみる」、「お菓子パッケージ表記の国による特徴の違い」などがある。				
2	官能評価					
3	食品加工					
学習の到達目標						
1. 本学で学んだ調理学・食品学の知識・技術について、問題解決のために利用出来るようになる。 2. 研究活動に必要な情報を自ら適切な手段で入手し、それらを活用出来るようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	研究とはなんだろうか?				○
2~5	研究内容に関する情報収集	情報の集め方を知る、文献検索				○
6	研究テーマの決定	教員との打ち合わせでテーマを確定する				○
7~9	研究計画	研究の計画・スケジュールを考える				○
10	研究の方法	適切な研究方法を調べる・考える				○
11~15	研究の準備	試料の調達、実験機器の準備、アンケート用紙の作成等				○
16~20	研究の実践	実験・調査を行う				○
21~22	データ処理	得られたデータをPCに入力してまとめる				○
23~25	レポート作成	実験方法や結果を文章でまとめる				○
26	発表資料作成（パワーポイント）	研究発表会用の資料を作成する				○
27・28	発表内容の検討	発表練習、資料の改善など				○
29・30	研究発表会	発表を行う				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：「フローチャートによる 身近な調理の科学実験」 地人書館						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：自分の研究テーマに基づく文献・資料を収集し、学習しておく。 事後学習（週0.5時間）：得られたデータ等をまとめておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習・アクティブ・ラーニング		玉木 啓一			NSM-S6072	
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	科学的思考	競技力向上にスポーツ科学をどのように応用できるか？効率的に健康を維持増進するにはどうすればよいか？など、学生自らテーマを設定し、それらの疑問を解決することを目指し演習を進めていく。 学園祭の時期を目処として各自のテーマを中間発表としてまとめ、通年で各自のテーマをまとめる。				
2	ダイエット					
3	競技力向上					
学習の到達目標						
スポーツ科学（主にスポーツ生理学、バイオメカニクス）の手法を用いて、スポーツの現場にこれらの学問をどのように役立てることができるかを実践的に学習する。各自の研究テーマ（スポーツ技能の向上、ダイエットの成功 など）で成果を出すことが本科目の目標である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	演習概略	過去の本演習でのテーマを紹介しながら、本演習の進め方を説明する				
2	科学的思考	事実の把握と、その奥にあるものについて考える力を養う				
3	スポーツと健康	本演習で主に応用する、スポーツ生理学からスポーツと健康について考える				
4	スポーツ科学とダイエット	科学的な観点からダイエットを考える				
5	スポーツ科学と競技力	スポーツ科学と競技力向上について学ぶ				
6	研究テーマの模索	各自の研究テーマについて考える				
7	テーマを決めるということ	研究テーマ決定のために必要なことを学ぶ				
8	研究テーマの決定	研究テーマの決定と研究方針の決定				○
9	研究方法の検討	研究テーマを調べるための方法・手法を調べ、どれが適切かを検討し決定する				○
10	研究手法の修得	研究実践のための手法を修得し実践力を身につける				○
11~14	情報・データの収集	研究を実践し、情報やデータを収集し、実験・測定などを行う				○
15	前学期 まとめ	研究の進捗状況を検証し、夏季休業中の計画を立てる				
16	研究計画検討	夏季休業中の状況を検討し今後の研究計画を確認する				
17~20	中間発表への準備	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する				
21	中間まとめ	中間発表をふりかえり、研究計画を検討する				
22-23	研究の改善	実践してきた研究について課題があれば課題解決の方法を検討し実践していく 研究の幅を広げるために、関連分野の知識・理解力・応用力を養う				○
24~25	研究のまとめ方	科学的思考に基づき、客観的な事実に基づいた正確な考察について学ぶ				
26~28	レポート作成	作成途中のレポートの改善のための指導を毎時間実施する				
29	レポート提出	提出されたレポートへの指導を行う				
30	研究発表	発表を行い、各自が行ってきた研究を他者からの評価を受け、さらに考察を深める				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：特になし 参考図書：アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望編著 慶應義塾大学出版会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：各自の研究課題、研究方法に関する情報を収集しまとめる。 事後学習（週0.5時間）：授業で検討した事項を復習し、理解を深める						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中の討論が主となるが、実験・測定の現場でも様々なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
学園祭ポスター発表、課題 40% 平常点 30% 発表 30% 平常点：授業への参加意欲・活動状況を評価する（授業時間以外での測定、調査研究等も加点）						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、応用力を備えて達成できる。					
A	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、達成できる。					
B	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に取り組むことができる。					
C	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に向けた基礎が備わっている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span>		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	バレーボールの戦術・スカウティング・練習方法等、色々な側面から捉え研究課題を見つける。 課題を実施及びレポート作成を行う。				
2	戦術					
3	スカウティング					
学習の到達目標						
あらゆるスポーツ競技の中で、バレーボールに限定し、探求する。 各自が研究課題となる事柄を考え、まとめる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1～3	用語	前学期 研究課題 ○バレーボールの研究 書籍 (Volleypedia) を利用し、バレーボールの用語を正しく理解する				○
4～7	技術・指導理論	書籍 (バレーボール指導教本・コーチングバレーボール基礎編) を利用し、指導技術や指導理論を学ぶ				○
8～11	戦術理解	実際のゲーム (大学リーグ戦中心) を鑑賞し、様々なチームの戦術を検討する				○
12～15	スカウティング	実際のゲーム (大学リーグ戦中心) を鑑賞し、様々なチームに対しスカウティングを行う				○
16～18	研究 1	後学期 研究の実施 ○研究の実施 前学期に学んだ内容を考慮し、研究テーマを検討する				○
19～21	研究 2	研究テーマを発表し、研究グループをつくる				○
22～25	研究 3	各グループでの研究内容に沿って課題に取り組む				○
26～30	研究 4	研究課題をまとめる				○
試験等	レポート及び発表					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本 (財) バレーボール協会編 大修館 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会 (編集) 日本バレーボール学会 (編集) 大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 課題に取り組むにあたって必要な資料を探し、熟読しておくこと。 事後学習 (週 0.5 時間) : 自らの課題で分からなかった事を調べておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題をまとめ発表し、問題点を探求する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100% (研究テーマへの取組等)						
評価	成績評価別の到達度					
S	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って十分に行い成果を発表できる。					
A	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行き成果を発表できる。					
B	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って成果を発表できる。					
C	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行える。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習 アクティブ・ラーニング		高橋 琴美			NSM-S6072	
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グッドコーチ	これまでの経験を通して「グッドコーチ」とは何かを考える。それを踏まえた上で「スポーツ指導」に関する興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、より効果的な練習法や指導法を考え実践する。また「武蔵丘ハンドボールクリニック」に補助員として参加し、指導実践を行う。指導実践ではハンドボールの指導が中心となるため、「球技 2 (ハンド)」の履修が望ましい。				
2	指導実践					
3	ハンドボール					
学習の到達目標						
各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、実践・実習を通して、練習法・指導法について考える力を身につける。 対象者が異なる講習会のサポートすることで、指導現場での実践力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業展開、評価についての説明、演習における注意点				
2~4	スポーツ紹介	これまで頑張ってきた「スポーツ」を紹介する				○
5~6	「コーチ」とは	「グッドコーチ」について考える				○
7~8	プレーヤーズセンタードとは	プレーヤーズセンタードについて考える				○
9~10	「グッドコーチ」の条件	「グッドコーチ」の条件、求められる資質能力について考える				○
11~12	「グッドコーチ」をめざす	「グッドコーチ」になるために、今できることを考える				○
13~16	指導法の検討	各自が興味・関心のあるテーマについて調べ、その練習方法・指導方法について発表する				○
17~22	指導実践①	各自が調べた内容をもとに練習計画を立て、練習方法・指導方法を実践する				○
23~25	指導実践②	「武蔵丘ハンドボールクリニック」に指導補助員として参加し、指導法を学ぶ				○
26~28	指導実習	指導実践のまとめ				○
29~30	まとめ	これまでの指導実践について発表する				○
試験等	ポスター発表、課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：目からウロコのシュート術、目からウロコの個人技術、目からウロコのDF戦術（グローバル教育出版） また適宜資料を配付するが、必要に応じて各自で参考資料等を収集すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：ハンドボール競技規則については毎時間しっかりと予習しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：ゼミ活動を通して興味を持った内容について積極的に調べること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間提出された小レポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の目安と方法						
演習への積極的な取り組み 50% 調査・発表 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、対象者に合わせたより効果的な練習法や指導法を習得している。					
A	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、より効果的な練習法や指導法を習得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、効果的な練習法や指導法を習得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的な練習法や指導法を習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習・アクティブ・ラーニング	川井 明			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バスケットボール	ファンダメンタルの指導方法を学ぶ。ゲーム分析の方法について学ぶ。				
2	ファンダメンタル	バスケットボールに関する自分の興味のあるテーマについて調べまとめる。				
3	ゲーム分析	事前に指導書などを読み、基本的な知識を学んでいることが望ましい。				
学習の到達目標						
バスケットボールにおけるファンダメンタルの指導をすることができる。バスケットボールにおける基本的なゲーム分析を行うことができる。自分の決めたテーマについて調べ、順序立ててレポートにまとめることができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	バスケットボールに関する自身の興味を探る				
2・3	競技特性の理解①	バスケットボールの競技特性の理解を深める。歴史的な背景等について、レポートやプレゼンを行う				○
4・5	競技特性の理解②	バスケットボールの競技特性の理解を深める。競技規則等について、レポートやプレゼンを行う				○
6・7	競技特性の理解③	バスケットボールの競技特性の理解を深める。国内的な現状等について、レポートやプレゼンを行う				○
8・9	競技特性の理解④	バスケットボールの競技特性の理解を深める。国際的な現状等について、レポートやプレゼンを行う				○
10・11	プレゼンテーション①	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
12・13	プレゼンテーション②	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
14・15	プレゼンテーション③	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
16・17	ポスター発表準備①	研究テーマを決定				○
18～20	ポスター発表準備②	先行研究を行う				○
21・22	ポスター発表準備③	各自の研究活動				○
23・24	ポスター発表	学園祭において、自身の研究についてポスター発表を行う				○
25・26	まとめ①	年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出				○
27・28	まとめ②	年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出				○
29・30	まとめ③	年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週0.5時間）：授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎時間のレポート提出やプレゼンテーション回収後に、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート50% プレゼンテーション50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、分かりやすく説明することができる。					
A	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、説明することができる。					
B	バスケットボールに関する知識を概ね身に付けている。					
C	バスケットボールに関する知識を最低限身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <input checked="" type="checkbox"/> 必修		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	陸上競技 指導法 種目特性	陸上競技のルールおよび種目特性について学習する。幅広い年代への指導方法について検討・実践し、陸上競技に対する知識と理解を深める。				
学習の到達目標						
各種目および対象者における課題を発見し、その課題に適した練習方法・指導方法を身につけることを目標とする。 各自が設定したテーマについて検討し、まとめる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業の概要を説明する				
2・3	陸上競技の基礎理論	陸上競技のルールおよび種目特性について学ぶ				
4・5	指導法	種目に適した指導法について考える 各年代の特徴について学び、適した指導方法について考える				○
6・7	コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングについて学び、実践する				○
8・9	走種目のコーチング 1	小学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
10・11	走種目のコーチング 2	中学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
12・13	走種目のコーチング 3	高校生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
14・15	走種目のコーチング 4	各年代への走種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
16・17	跳躍種目のコーチング 1	小学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
18・19	跳躍種目のコーチング 2	中学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
20・21	跳躍種目のコーチング 3	高校生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
22・23	跳躍種目のコーチング 4	各年代への跳躍種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
24・25	投てき種目のコーチング 1	小・中・高生を対象とした投てき種目のコーチングについて学ぶ				
26・27	投てき種目のコーチング 2	各年代への投てき種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
28～30	まとめ	各自が設定したテーマについて調べ、適切な練習方法および指導方法について発表する				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：陸上競技指導教本アンダー-13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー-16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）： 授業の内容に関する情報（教科書・インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
演習への取り組み 60% 発表 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、特に優れた成果を上げている。					
A	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、優れた成果を上げている。					
B	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、成果を上げている。					
C	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をしている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育方法	受講生は、自身の問いの追究や学習指導案の作成、また互いの教育観や授業観についての議論を通して、教育や授業についての自身の考えを深める。そのために授業では、いくつかの教育方法論や学び論を紹介、解説するとともに、それらの所論の意義や課題を検討する。				
2	深い学び					
3	教育における理論と実践					
学習の到達目標						
本演習の目標は、問いや研究課題の設定およびテーマの追究などを通して、受講者の「学問する」態度を養成することである。また本演習では、レポートや学習指導案の作成、および受講生同士でのそれらをもとにした議論などを通して、受講者の教育観や授業観の形成を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、受講上の諸注意、				○
2~4	深い学び	学びや深い学びの捉え方、研究授業(映像資料)の鑑賞とその内容をもとにしたディスカッション				○
5~7	教育方法論	授業のあり方、授業づくりの視点、子どもの学びを深めるための発問や教材研究のあり方				○
8~10	調査	各自、自身の興味のあるテーマについて調べる。				○
11~15	研究テーマの発表	各自、研究するテーマや追究したい問いを発表する。				○
16~20	先行研究の検討	研究テーマに関連する文献の概要を発表するとともに、疑問点などを指摘する。				○
21~25	研究および執筆	研究テーマに関する調査を行い、それをもとに研究・考察を進める。				○
26~29	発表	各自、研究内容を発表する。それとともに、発表内容について質疑応答する。				○
30	ふりかえり	これまでの学びの過程をふりかえる。				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：田村学『深い学び』東洋館出版社、2018年。林竹二『授業 人間について』国土社、1990年。そのほか、適宜資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：演習で議論するためのテーマやキーワード、またそれらに関連する資料を集め、発表する内容を整理しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：授業内容を復習し、分からない内容については配布資料などを参考にしながら授業内容を整理しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業時間内で質疑応答という形でフィードバックする。また、オフィスアワーで適宜ディスカッションまたはフィードバックする。						
成績評価の目安と方法						
課題やレポートの内容 70% 演習への参加態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	演習の議論に積極的に参加し、自身の研究テーマについての考えを深め、その内容をうまく表現できている。					
A	演習の議論に積極的に参加し、自身の研究テーマについての考えを深めている。					
B	演習の議論に参加し、自身の研究テーマに関する知識をおおむね習得している。					
C	演習の議論に参加したが、自身の研究テーマに関する知識の習得についていくつか課題が見られる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in health of Life] <b>必修</b>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング	田本 育代			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカー	【前学期】 サッカーを科学的な視点でとらえ、自ら研究テーマを設定してレポートにまとめる。				
2	研究発表	【後学期】 前学期の成果をパワーポイントを用いて発表し、学園祭にてポスター発表を実施する。				
3	情報の収集、分析					
学習の到達目標						
サッカーを対象に研究テーマを各自で設定してレポートのまとめ、発表する。本ゼミは「私の専門はサッカーです」と言うためのゼミである。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ゼミの内容等を説明				
2～4	先行研究の紹介	サッカーを対象とした先行研究を紹介し、抄読会を実施する				○
5	研究論文の書き方	論文を書く上での形式・マナーや仮説の立て方等を理解する				
6・7	研究方法の解説	研究するための方法について理解を深める				
8・9	研究テーマの設定	自らの興味をもとに、研究と呼ぶにふさわしいテーマを、教員とのディスカッションを介して設定する				○
10～12	データ収集・処理	実際の試合映像やインターネット上の情報からデータを収集し、解析・処理をしていく				○
13・14	結果・考察のまとめ方	データの扱い方および図表の呈示方法を整理し、仮説との整合性から考察をまとめる				
15・16	研究レポート作成	まとめや参考文献等を整理して研究レポートを完成させる				
17～19	プレゼンテーション	パワーポイントを用いて口頭発表用のプレゼンテーションスライドを作成する				○
20・21	口頭発表の説明	発表のマナーなど、いかにして傍聴者に理解を得るか、その方法を解説する				○
22・23	口頭発表会	各自の研究をパワーポイント上でわかりやすく発表し、質疑応答する				○
24・25	ポスター作製	ゼミの成果として学園祭における発表用のポスターを仕上げる				
26・27	ゲーム分析	サッカーの試合をVTRに収め、ゲーム分析を実施して「サッカーを観る目」を養う				○
28・29	コーチング分析	サッカー公認C級コーチ養成講習会「指導実践」の様子をVTR撮影し、指導について理解する				
30	まとめ	ゼミ活動について、グループディスカッションをもとにまとめていく				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導教本 日本サッカー協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：分析内容を探してくる。						
事後学習（週0.5時間）：授業時間内で終わらなかった点をまとめてくる。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
レポート40%、平常点20%、研究発表20%、ポスター発表20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーを深く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえ論理的にその理解を表現できる。					
A	サッカーを良く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえその理解を表現できる。					
B	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の感想を踏まえてその理解を表現できる。					
C	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表においてその理解を表現できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span>		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツマネジメント	幼児体育やスポーツマネジメントの対象領域について、情報を収集し、現場で実習を行い、成果を、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにまとめる。イベント・事業の企画運営学習の一環として、日本スリーデーマーチ 10 kmコースに参加したり、吉見町の高齢者の体力測定イベントや学園祭キッズコーナーを企画運営する。				
2	プレゼンテーション					
3	イベント・事業運営					
学習の到達目標						
スポーツマネジメントの現場で使う指導法やコミュニケーション方法を学び、実践してまとめ、成果を振り返り、次につなげるPDCAサイクルをみにつける。マネジメントに必要なプレゼンテーション、経費計算などのスキルのアップをはかりながら、イベント企画運営能力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス					
2	プレゼンテーション1	学校紹介プレゼンテーションのテーマを考える				○
3~4	プレゼンテーション2~4	プレゼンテーションの資料収集(1)、パワーポイントによるプレゼンテーションの作成(1)、(2)				○
5	イベント運営企画1	幼児運動指導の指導計画、吉見町健康体力測定イベントの企画案作成、企画実施準備				○
6	イベント運営企画2	指導、企画実施準備				○
7	イベント運営実習1	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(1)				○
8~14	イベント運営企画2~8	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(2)~(8)				○
15	イベント運営振り返り	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営の総括				○
16・17	学園祭ブース運営企画	学園祭キッズコーナー運営企画(1)、(2)				○
18	学園祭運営実習1	学園祭キッズコーナー運営実習(1)				○
19~21	学園祭運営実習2~4	学園祭キッズコーナー運営実習(2)~(4)				○
22	データ処理1	吉見町健康体力測定イベントデータ処理 入力(1)				
23~24	データ処理2,3	健康体力測定イベントデータ処理 入力(2)(3)				
25	データ処理1,2	健康体力測定イベントデータ処理(統計処理)(1)(2)				
26~30	データ処理3~6	健康体力測定イベントデータ処理(図表作成)(3)(4)(5)(6)				
試験等	レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：マーケティングを学ぶ人が最初に読む本 重田修治 総合法令出版(2004)						
準備学習・事後学習						
準備学習(週0.5時間)：担当する実習の内容についてインターネット等で調べておくこと。 事後学習(週0.5時間)：毎時の授業内容を日誌にまとめて、レポート作成の準備をすること。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
平常点 50% 提出物 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	課題やテーマを自ら発見しイベントを企画、全体を統括して実施する能力があり、実践できる。					
A	与えられた課題やテーマに即したイベントを企画、十分なイベント運営するがあり、実践できる。					
B	与えられた課題やテーマのイベントに参加し、運営する能力があり、実践できる。					
C	与えられた課題やテーマのイベントに参加し、運営を補助する能力があり、実践できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康生活演習 [Seminar in Health and Management] <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span>		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	前学期はイニシアティブゲームについて調査し、体験学習について学ぶ。また、プールでカヌーを練習し、社会貢献としてボランティア活動に参加する。後学期は本学の施設や周辺の自然環境を利用して、ノルディックウォーキング、アウトドアクラフトについて実践を通して学ぶ。				
2	野外教育					
3	レクリエーション					
学習の到達目標						
野外活動に興味を持ち、積極的に参加することはもちろんであるが、活動での直接体験を重視し、体験するとともにその指導法についても学び、相互に教え合うことを通して、指導者としての力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	この授業の内容とその進め方について				
2~4	イニシアティブゲーム 1	イニシアティブゲームについて実践を通して学ぶ				○
5~7	イニシアティブゲーム 2	イニシアティブゲームについて調査する				○
8・9	ゲームのまとめ	イニシアティブゲームについて、ポスターにまとめる				○
10~13	カヌー	カヌー（カヤック）について、その基本から、実践を通して学ぶ				○
14	カヌーのまとめ	カヌーについて、学んだことを基にボランティア活動に参加する				○
15	前学期のまとめ	前学期全般についてのまとめ				
16~18	ノルディックウォーキング 1	ノルディックウォーキング（NW）の基本動作について実践を通して学ぶ				
19~20	ノルディックウォーキング 2	本学周辺のコースを歩くことで実践的に学ぶ				○
21~22	NW のまとめ	NW について学んだことをポスターにまとめ、学園祭で発表する				○
23~24	NW の発表	学園祭時に NW 体験コーナーを設けて運営する				○
25	野外活動 1	自然を活用した野外活動やレクリエーション活動について学ぶ				○
26・27	野外クラフトの基本	自然の材料を活用した野外工作と安全管理について学ぶ				○
28・29	野外クラフトの応用	野外工作を発展させ、テーブル作成に挑戦する				○
30	この演習のまとめ	この演習での成果を発表しあう				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：ティーチング イン ザ アウトドアーズ D.R.Hammerman 他著 日本野外教育研究会監訳 杏林書院 そ の 他：必要に応じて資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、各回で生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 0.5 時間）：授業内容をふりかえり、次回に活かせるようにしておく。毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてミニレポートを回収し、解説を加えて返却する。オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 調査・発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、人生を豊にする応用力を身に付けている。					
A	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、実践することができる。					
B	野外教育とレクリエーションの意義を理解できる。					
C	野外教育とレクリエーションの意義に対して基礎的な理解ができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] <input checked="" type="checkbox"/> 必修	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習・アクティブ・ラーニング		植松 大介		NSM-S6072		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホスピタリティ	「ホスピタリティ」を商品と捉え「ビジネス」展開を行う。地域の企業と連携し商品の企画立案・提案を行う。人の心に響き、相手を思いやる気持ちをいかに商品化・販売するためのメカニズムを学び実践する。				
2	ビジネス					
3	商品企画販売					
学習の到達目標						
人の心に響き、相手を思いやる気持ちを商品化、ビジネス展開し「利潤」を求めるスキルを学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	進め方、評価の仕方、その他受講上の注意				○
2～14	就職活動準備	履歴書・面接・ビジネスマナー等の再確認				
15	発表	実践・実施報告				
16	オリエンテーション	商品企画の進め方・マーケティングリサーチの仕方				
17～29	企業連携実習	マーケティングリサーチ（実地調査） 商品の企画立案（プランニング・シミュレーション） 販売予測（レベニューマネジメント） 企画提案・実売（プレゼンテーション） 展開予測（フィードバック）				
30	発表	成果報告				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
ホスピタリティ・マネジメント（第2版）徳江順一郎著 同文館出版 ホスピタリティと観光のマーケティング フィリップ・コトラー著 東海大学出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週0.5時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集しておくこと。 事後学習（週0.5時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 予習状況、調査・発表・実演 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	演習に関して、知識・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	演習に関して、知識・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	演習に関して、知識・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	演習に関して、知識・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康生活演習 [Seminar in Health of Life] 必修	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習・アクティブ・ラーニング		八板 将明			NSM-S6072	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	SDGs	SDGs、Society5.0 の概念に基づき、地域活性化についての研究活動を行う。吉見町・川島町・武蔵丘短期大学などのブランディングの可能性について検討し、現地調査・取材・動画の制作・配信を行い、反響を検証する。(川島町との共同研究含む)				
2	地域連携					
3	映像制作および配信					
学習の到達目標						
SDGs、Society5.0が示す社会について、地域や社会とのかかわりを通じて取材・研究する。研究を通じて、課題を発見し・解決するPDCAサイクルを学ぶ。更に、プレゼンテーションや動画コンテンツの配信を通じて、伝える力、発信力を養うことを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1-2	ガイダンス・研究方法	年間スケジュール・研究内容・研究方法・目標設定方法の説明				○
3-4	研究テーマ設定	SDGs、Society5.0 の概念に基づいた、地域の課題発見と解決の考え方・実践方法の設定				○
5-7	取材・研究①	地域産業の活性化に関する取材・研究①				○
8-9	プレゼンテーション①	動画制作・SNS 配信・反響の検証				○
10-12	取材・研究②	地域産業の活性化に関する取材・研究②				○
13-14	プレゼンテーション②	動画制作・SNS 配信・反響の検証				○
15-17	取材・研究③	人を呼び込む観光資源に関する取材・研究①				○
18-19	プレゼンテーション③	動画制作・SNS 配信・反響の検証				○
20-22	取材・研究④	人を呼び込む観光資源に関する取材・研究②				○
23-24	プレゼンテーション④	動画制作・SNS 配信・反響の検証				○
25-26	取材・研究⑤	地域における人の交流の活性化に関する取材・研究①				○
27-28	プレゼンテーション⑤	動画制作・SNS 配信・反響の検証				○
29-30	まとめ	年度報告・研究レポート作成、提出・川島町への年度報告				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
東洋経済 (SDGsに取り組む大学特集/ポスト 2030 に向けた知と実践/初等中等教育における SDGs・ESD の実践) セルバ出版 (SDGs を基盤にした大学連携型地域貢献)						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 各研究項目についての情報収集・取材・発表準備 事後学習 (週 0.5 時間) : 各研究項目についての修正・ブラッシュアップ・コンテンツ制作						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワー・Googleclassroom・slack による情報共有・ディスカッションの実施						
成績評価の目安と方法						
研究課題の内容 100% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	SDGs、Society5.0 を理解し、地域社会と協力した積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に十分な評価を得ている。					
A	SDGs、Society5.0 を理解し、地域社会と協力した積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に努めている。					
B	SDGs、Society5.0 を理解し、積極的な研究活動を行うことで、問題の発見および解決に努めている。					
C	SDGs、Society5.0 を基本を理解し、研究活動に取り組むことで研究レポートを作成できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		競技のスポーツ栄養学 [Sports Nutrition for Athlete]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・ アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	NSM-S3017		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスリート	この授業では、アスリートに必要な栄養素や食事について学習する。また、種目特性やトレーニング状況に応じた具体的、実践的な栄養・食事のとり方について学ぶ。				
2	障害予防					
3	パフォーマンス向上					
学習の到達目標						
競技特性やトレーニング状況、コンディションを整えるための食事・栄養の基礎と現場での応用力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	競技、スポーツと食生活	競技スポーツと食事・栄養の意義 スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素				
2	トレーニングと食事 ①	スポーツ選手の身体活動とエネルギー トレーニングとエネルギー消費量				○
3	トレーニングと食事 ②	競技特性とエネルギー摂取量 トレーニング期の食事				○
4	競技特性別の食事 ①	糖質の摂取と持久力の関係 グリコーゲンローディング				○
5	競技特性別の食事 ②	たんぱく質の摂取と筋肉づくりについて 効果的な摂取タイミング				○
6	遠征、合宿時の食事	合宿 遠征時の食事のポイント 摂取タイミング				
7	試合期の食事・栄養	試合前、試合中、試合後の食事と水分補給のポイント 摂取タイミング				○
8	アスリートの抱える問題と食事 ①	競技スポーツと貧血 摂食障害 月経障害				○
9	アスリートの抱える問題と食事 ②	競技スポーツと骨粗鬆症 怪我・故障予防				○
10	アスリートの抱える問題と食事 ③	競技スポーツとウエイトコントロール 増量				
11	環境とアスリートの食事・栄養 ①	暑熱環境下での水分補給 寒冷環境下および低気圧環境下での食事・栄養				○
12	サプリメントについて	サプリメントの種類 効果的な利用方法 摂取上の注意点				
13	スポーツ選手への栄養教育①	アスリートに対する具体的な食事支援の方法				
14	スポーツ選手への栄養教育②	アスリートに対する具体的な栄養教育				
15	まとめ	全体の総括				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養」財団法人日本体育協会「アスリートのための栄養・食事ガイド」第一出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
レポート課題 80%、平常点 20%として総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を活かし、現場での応用力を十分に身に付けている。					
A	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識をよく理解している。					
B	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を理解している。					
C	アスリートのためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ運動学 [Sports Kinematics]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	杉山 仁志			NSM-S2018		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ指導	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必須の項目を扱い、テーマに応じた授業を行う。又、競技指導者として必要な知識を学習する。				
2	トレーニング理論					
3	社会体育					
学習の到達目標						
社会体育指導者及び競技指導者として必要な知識を、運動・スポーツ指導に関連付けた内容の習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業概要を説明する（遠隔）				
2	トレーニング理論 1	競技指導者として必要な体力について学習する（遠隔）				
3	トレーニング理論 2	競技指導者として必要なトレーニングの原則について学習する（遠隔）				
4	トレーニング理論 3	競技指導者として必要な筋力について学習する（遠隔）				
5	運動指導法 1	競技指導者として必要なトレーニングと練習の違いについて学習する（遠隔）				
6	運動指導法 2	競技指導者として必要な体の機能の向上について学習する（遠隔）				
7	運動指導法 3	競技指導者として必要な行う内容の量と質について学習する（遠隔）				
8	運動指導法 4	競技指導において選手の限界について学習する（遠隔）				
9	運動指導法 5	競技指導において選手の記録の向上及び弱点について学習する（遠隔）				
10	各運動の基礎知識 1	ジョギング・ウォーキング指導法（遠隔）				
11	各運動の基礎知識 2	水泳・水中運動指導法（遠隔）				
12	各運動の基礎知識 3	エアロビックス指導法（遠隔）				
13	マシントレーニング理論 1	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する（遠隔）				
14	マシントレーニング理論 2	競技指導者として必要なマシントレーニングについて学習する（遠隔）				
15	まとめ	運動指導法のまとめ（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実戦指導者用テキスト（公財）健康・体づくり事業財団						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：運動・スポーツの指導において、基礎となる部分なので、教科書等を利用し、情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：自分なりのノートを作成し、欠席等で資料を受け取っていない場合は、資料を受け取り復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、授業の初めに前回の内容が理解できているか確認する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 平常点 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分身に付けている。					
A	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を身に付けている。					
B	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分理解している。					
C	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		運動処方論 [Exercise Prescription]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・アクティブ・ラーニング		玉木 啓一			NSM-S2019	
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	運動と健康	生活習慣病の予防や改善のために運動をどのように役立て、安全に健康増進をはかるための指導者としての能力を高める。具体的な運動処方の立案を実施し、実践的な手法として日常生活に応用できる能力を習得していく。運動処方は、トレーニングの原理・原則にしたがって身体適応が起こる過程であることを理解していく。 <b>配布資料を毎回すべて持参すること。欠席等の場合、次回までにスポーツ生理学研究室前のレターボックスから入手しておくこと。</b>				
2	運動と安全					
3	運動強度					
学習の到達目標						
安全で効果的な運動処方を出来るための知識を習得し、実際に運動処方を出来るような実践力を身につけることを目標としている。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	授業計画	授業の進め方、運動処方の基礎的な解説				
2	運動処方とは	運動処方の本質である、運動の種類、強度、持続時間、頻度、進め方を学ぶ				
3	運動と健康	健康と運動の関連を学ぶ（運動不足病、エアロビック、アナロビック運動）				
4	運動と疾病	運動に関連する病気について学ぶ（肥満、循環器系疾患、糖尿病など）				
5	中高年者の特性	運動処方の主な対象者である中高年者の体力と運動によるリスクについて学習する				
6	運動によるリスク	運動実施に伴うリスクについて学び、その回避方法を理解する				
7	体力・運動強度	体力・運動強度の把握、利用方法について学ぶ				
8	運動強度の理解	各々が実施した運動強度の把握方法を習得する				○
9	メディカルチェック1	運動リスク把握のためのメディカルチェックについて学ぶ				
10	メディカルチェック2	運動強度決定のためのメディカルチェックについて学習する				
11	運動処方の実際 1	運動処方（トレーニングの原理・原則）を理解する				
12	運動処方の実際 2	運動を安全に実施するための方法（運動の種類によるトレーニング）について理解する				
13	運動処方の実際 3	運動プランの立案				○
14	運動処方の実際 4	運動プランの評価・改善能力を養う				○
15	運動処方の実際 5	運動処方のプランを自ら検討・改善する能力を養う				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂 参考図書：運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン 坂本静男監訳 有限会社 ナップ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に指示した教科書資料を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる						
課題に対するフィードバックの方法						
課題、質問については、原則として次回の授業で解説する。資料を配布することもある。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90%、平常点及び提出物など 10% 理由のない遅刻・欠席は減点 以上を総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、メカニズムからリスクを避ける方法も自ら考え、運動処方を安全に実施することができる。					
A	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、安全な運動処方を実施する能力がたかい。					
B	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、運動処方を実施することができる。					
C	運動と健康および運動のリスクを理解し、基本的な運動処方を実施することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		レクリエーション論 [Recreation]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		福島 邦男			NSM-S2020	
この授業に関する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	レクリエーション	レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人生を築くために必要な知識を身につける。				
2	レジャー					
3	自由時間					
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原則と意義を理解し、レクリエーション支援の理念とその必要性、支援者の役割について学び、応用力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	レクリエーションとは	授業概要 用語の定義とレクリエーション・インストラクターの役割 (遠隔)				
2	レクとレジャー	労働と遊び、レジャーとレクリエーションについて (遠隔)				
3	労働・余暇・レク	レクリエーション・余暇の現状と課題 余暇と自由時間 (遠隔)				
4	レクリエーション運動	レクリエーション運動の歴史と概念 砂場づくり運動から興亜厚生大会 (遠隔)				
5	現在のレク運動	戦後のレクリエーションの変遷と制度 (遠隔)				
6	楽しさと元気づくり	楽しさを通じた心の元気づくり並びにアイスブレイキングについて (遠隔)				
7	心の元気と地域づくり	コミュニケーションと関係づくり 地域のきずなについて (遠隔)				
8	ホスピタリティ	レクリエーション支援とホスピタリティトレーニング コミュニケーションワークについて (遠隔)				
9	仲間づくり集団づくり	集団に対するレクリエーション支援について (遠隔)				
10	障がいとレクリエーション1	みんなのスポーツ 楽しむ力 障がいに対する理解 (遠隔)				
11	障がいとレクリエーション2	障がい者のスポーツ大会についてとノーマライゼーションについて (遠隔)				
12	レクと環境問題	身近な生活環境の問題と世代間問題について (遠隔)				
13	レクでの安全管理	リスクマネジメント (遠隔)				
14	レクの事故と責任	シーズンスポーツの事例を中心として (遠隔)				
15	まとめ	この講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ (遠隔)				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり (財) 日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎 (財) 日本レクリエーション協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：授業のキーワードとテーマに関する情報 (新聞、雑誌、インターネット等) を入手し、毎回のミニレポート (提出課題) に生かせるように目を通しておく。 事後学習 (週 1.5 時間)：毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションを活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。					
A	レクリエーションを良く理解している。					
B	レクリエーションを理解している。					
C	レクリエーションの基礎的な知識を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ心理学1 [Sport Psychology 1]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	吉川 直輝			NSM-S2021		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、ピアヘルパー、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツと心	スポーツ選手のパーソナリティ、動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、スポーツにおける集団、心理サポート、アダプテッドスポーツなどについて学習する。				
2	動機づけ					
3	コーチングの心理					
学習の到達目標						
スポーツ心理学の基礎知識を理解し、スポーツの実践および指導に活かせるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツ心理学とは	授業概要の説明、スポーツ心理学とはなど（遠隔）				
2	スポーツと心	スポーツや運動が心へ及ぼす影響、心理的效果など（遠隔）				
3	心の健康とスポーツの指導	スポーツと心の健康、健康スポーツの指導など（遠隔）				
4	スポーツ選手のパーソナリティ	パーソナリティの理論、測定法など（遠隔）				
5	認知情報処理	知覚、注意、記憶、保持、転移など（遠隔）				
6	スポーツにおける動機づけ	内発的動機づけ、外発的動機づけ、動機づけの高め方など（遠隔）				
7	競技の実践心理	競技の心理的特質、ピークパフォーマンスなど（遠隔）				
8	コーチングの心理1	コーチングにおける心理的要因、個人・チームの指導など（遠隔）				
9	コーチングの心理2	スポーツキャリア、傷害と回復など（遠隔）				
10	スポーツとメンタルマネジメント	メンタルマネジメント、メンタルトレーニングなど（遠隔）				
11	スポーツにおける集団	集団の構造、リーダーシップ、チームづくりなど（遠隔）				
12	スポーツと心理サポート	指導者のメンタルマネジメント、心理サポートなど（遠隔）				
13	スポーツカウンセリング	スポーツカウンセリング、心理臨床の技法など（遠隔）				
14	アダプテッドスポーツ心理学	アダプテッドスポーツとは、リハビリテーションなど（遠隔）				
15	まとめ	授業のまとめ（遠隔）				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：これから学ぶスポーツ心理学改訂版 荒木雅信編著 大修館書店						
参考図書：教養としてのスポーツ心理学 徳永幹雄編 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書やインターネット、配布資料などから予習しておくこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてレポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
レポート課題 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ心理学の基礎について、大変よく理解している。					
A	スポーツ心理学の基礎について、よく理解している。					
B	スポーツ心理学の基礎について、理解している。					
C	スポーツ心理学の基礎について、部分的に理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ社会学 [Sports Sociology]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	山本 恵弥里			NSM-S2023		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会学	スポーツと社会の関わりについて、スポーツの歴史の変遷から生活や文化の中でスポーツがどのように変化して来たかを理解し、様々な社会的要因がスポーツに影響を与えることを学び、スポーツ指導者に必要とされる知識を習得する。				
2	歴史					
3	文化					
学習の到達目標						
スポーツの指導者を目指すものとして必要な知識の中で、特に本授業は社会的文化的概念を中心にスポーツを理解することを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツの概念	スポーツとは何かを理解する（遠隔）				
2	スポーツの歴史（1）	古代ギリシャ・ローマ時代のスポーツ（遠隔）				
3	スポーツの歴史（2）	中世ヨーロッパのスポーツ（遠隔）				
4	スポーツの歴史（3）	近代イギリスにおけるスポーツと教育（遠隔）				
5	現代のスポーツ	歴史の変遷を経て現代スポーツを理解する（遠隔）				
6	スポーツ文化（1）	文化について理解する（遠隔）				
7	スポーツ文化（2）	スポーツの文化的特性（遠隔）				
8	スポーツ文化（3）	スポーツ文化の内容（遠隔）				
9	スポーツ文化（4）	スポーツ文化から発生した価値（フェアプレイ）について（遠隔）				
10	社会とスポーツ（1）	現代社会とスポーツ（遠隔）				
11	社会とスポーツ（2）	政治とスポーツの関わりについて（遠隔）				
12	社会とスポーツ（3）	経済とスポーツの関わりについて（遠隔）				
13	社会とスポーツ（4）	教育とスポーツの関わりについて（遠隔）				
14	社会とスポーツ（5）	スポーツ基本法について（遠隔）				
15	まとめ	まとめ（遠隔）				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業内容の復習を行うこと。加えて、日常的にスポーツに関する報道に興味関心を持ち、情報に目を通すこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業時間の前後を利用して、適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
レポート課題 70% 平常点及び提出物など 30% 理由のない欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ社会学の内容を大変よく理解している。					
A	スポーツ社会学の内容をよく理解している。					
B	スポーツ社会学の内容を理解している。					
C	スポーツ社会学の基礎的な知識を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ経営学 [Sports Management]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子			NSM-S2024		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、 スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ産業	「スポーツを売る」、「スポーツで売る」業界の「人」「金」「モノ（サービス）」「情報」を利用した売る仕組みを学ぶ。 フィットネス・スポーツクラブ産業の現状を経営学の視点から理解する。 マーケティングの4Pからスポーツ・フィットネス産業を分析的に理解する。				
2	フィットネス産業					
3	スポーツマーケティング					
学習の到達目標						
健康、フィットネス、スポーツ、体育の管理運営に関する現状を把握し、当該業界のモノ、サービス、人、金、情報の流れを分析し、経営学的な側面 を理解する。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	ガイダンス	授業計画、スポーツ経営学の対象領域とその意味				
2	フィットネス業界(1)	産業の概要と現況、産業界発展の社会・経済的背景				
3	フィットネス業界(2)	プログラムのデザインと施設機器の管理				
4	フィットネス業界(3)	営業システム				
5	フィットネス業界(4)	人材と資格、組織運営				
6	スポーツマーケティング(1)	マーケティングミックスの4P（スポーツシューズの事例から）				
7	スポーツマーケティング(2)	スポーツマーケティングの事例研究（プロスポーツの事例から）				
8	スポーツマーケティング(3)	スポーツマーケティングの事例研究（Jリーグチームマネジメントの仕事の事例から）				
9	スポーツマーケティング(4)	スポーツマーケティングのまとめ				
10	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の概要と現況				
11	総合型地域スポーツクラブの経営	総合型地域スポーツクラブ経営の概要とその役割				
12	公共スポーツ施設の経営	指定管理者制度				
13	学校体育の経営	学校体育の経営管理				
14	スポーツ産業の事例	スポーツマネジメントの事例研究		○		
15	顧客満足	期待と満足度から顧客を理解する		○		
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（公財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ スポーツ産業論、大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマに関するニュースをインターネットや新聞、テレビ等で収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎時限ワークシートを回収し、テーマごとにキーワードの確認をする。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点 30% 平常点にはフィットネスクラブ運営に関するレポートを含む						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ経営学について十分に理解し、専門職に就くための準備ができている。					
A	スポーツ経営学について十分に理解している。					
B	スポーツ経営学についてよく理解している。					
C	スポーツ経営学について理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ行政論 [Public Administration of Sports]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義 アクティブ・ラーニング	太田 あや子			NSM-S2025		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、 スポーツインストラクター						
この授業のキーワード			授業概要			
1	スポーツ基本法	スポーツ庁・文部科学省を中心とした国のスポーツ行政について、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を中心に学び、公共性にもとづくスポーツのあり方を考える。「競技スポーツの振興」、「総合型地域スポーツクラブ」、「暴力防止」への取り組みを、事例を用いて学習する。				
2	スポーツ基本計画					
3	スポーツ庁、文部科学					
学習の到達目標						
国のスポーツ行政の根幹をなす「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を理解し、社会におけるスポーツのあり方を考えて、「する」、「見る」、「支える」形でスポーツ参加を促進する役割をになう人材となる知識を身につける。また、アシスタントマネジャーとして総合型地域スポーツクラブで活動できる基礎能力を獲得する。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	ガイダンス	授業計画の確認、スポーツ行政論の対象領域とその意味				
2	スポーツ行政の組織	スポーツ行政組織や機構制度	○			
3	スポーツ振興施策	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	○			
4	地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興				
5	総合型地域スポーツクラブ(1)	総合型地域スポーツクラブの概要				
6	総合型地域スポーツクラブ(2)	総合型地域スポーツクラブの事例研究				
7	総合型地域スポーツクラブ(3)	外国の地域スポーツクラブ				
8	総合型地域スポーツクラブ(4)	クラブマネジャーの役割				
9	スポーツ活動の財源	スポーツ活動の経済的基盤と助成制度				
10	国の重点施策(1)	競技力向上				
11	国の重点施策(2)	アンチドーピング				
12	国の重点施策(3)	スポーツ選手のセカンドキャリア				
13	国の重点施策(4)	オリンピックムーブメント				
14	スポーツと法(1)	スポーツ指導者の法的責任（安全配慮義務）				
15	スポーツと法(2)	スポーツ指導者の法的責任（スポーツと暴力問題）				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業終了時に示す次回の授業内容に関する教科書の章を読んでおくこと 事後学習（週 1.5 時間）：テーマごとのトピックをネット検索し、概要、理解したこと、感想・意見をまとめる						
課題に対するフィードバックの方法						
毎時前回のワークシートを返却し、キーワードを確認する						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ行政のシステムを十分に理解し、知識をスポーツ活動の支援に活用できる。					
A	スポーツ行政のシステムを十分に理解している。					
B	スポーツ行政のシステムをよく理解している。					
C	スポーツ行政のシステムを理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ指導論 [Coaching Method]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・アクティブ・ラーニング	川井 明			NSM-S2026		
この授業に関する資格						
スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、障がい者初級スポーツ指導者、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ指導法	前半は、競技上の成功者の例から、その要素・要因を探り、毎時間、理解度確認レポート提出。後半は、指導現場に有効なロジカルコミュニケーションの基礎を学習して実際のディベートに備える。さらに、指導現場でのタイムリーなトピックスを随時取り上げてその背景とともに理解していく。				
2	指導者の資質と役割					
3	ロジカルコミュニケーション					
学習の到達目標						
成功したアスリートに関する指導法を理解したうえで、過去に受けた指導との比較から現状や個人に適した指導法を探ることができる。指導者としてのロジカルコミュニケーションを理解したうえで、有効・的確・シンプルな伝え方を習得する。指導現場でのトピックスの背景を理解できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス他	スポーツ指導者とは その資質と役割				
2	指導者の倫理	スポーツ指導者の倫理：マナーと体罰・ハラスメント他				○
3	指導者の心構えと視点	スポーツ指導者の心構え・視点と指導現場でのスタンス				○
4	発育・発達と一貫指導	プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジ、ポストゴールデンエイジにおける特性とその一貫指導				○
5	タレント発掘と選手育成	世界に通用するアスリートを発掘・育成していくための方法を探る				○
6	指導計画の作成	指導上のピリオダイゼーション（期分け）とテーマに則ったコーチング				○
7	スポーツ活動と安全管理	活動に関わる危険性を理解し、安全に指導するための方法を理解する				○
8	選手と指導者の関係	選手の心理と対コーチ受容およびコミュニケーション				○
9	ロジカルコミュニケーション①	情報のとらえ方および指導者の話し方と伝え方				○
10	ロジカルコミュニケーション②	指導者の用いる言葉とその使用法				○
11	コーチング方法の実際	ミーティング、シンクロコーチング、フリースコーチング他				○
12	トップアスリートの育成①	育成・強化の在り方と指導者の役割				○
13	トップアスリートの育成②	指導者の資質と持つべき視点				○
14	トップアスリートの育成③	育成・強化の方法とその評価				○
15	まとめ	良い指導者の資質と役割等についてのグループディスカッションから本科目をまとめる				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ（公益財団法人日本スポーツ協会）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解度確認レポート 70% 平常点 20% 筆記試験 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	毎時の指導に関する課題を深く理解したうえで、各自の考えや将来の展望を論理的にまとめることができる。					
A	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えや将来の展望をまとめることができる。					
B	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えをまとめることができる。					
C	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の感想をまとめることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		スポーツ医学 [Sport Medicine]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		高橋 琴美・板橋 明	国	NSM-S2027		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	内科的スポーツ障害	スポーツは現代社会において、人々の健康を維持・向上する上で必要であるとの認識が高く、生活習慣病等の疾病対策にも応用されている。しかしその反面、スポーツ活動に伴う事故・傷害も存在する。この授業では指導者として必要なスポーツ医学の基本的な知識を理解し、いろいろな疾患・傷害だけではなく、現場での救急対策などについて学ぶ。				
2	整形外科的スポーツ傷害					
3	対処と予防					
学習の到達目標						
スポーツ指導者として、必要なスポーツ医学の知識を身につけ、いろいろな疾患に対する基礎知識や現場での救急対策について習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	ガイダンス	スポーツ医学とは（遠隔）				
2	生活習慣病と運動	肥満、脂質異常症、糖尿病、高血圧とは（遠隔）				
3	内科的スポーツ障害 1	体温調節、熱中症、特殊環境（遠隔）				
4	内科的スポーツ障害 2	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー、貧血（遠隔）				
5	内科的スポーツ障害 3	スポーツ活動と疲労、オーバートレーニング症候群（遠隔）				
6	メディカルチェックと健康管理	内科的・整形外科的メディカルチェックの目的、方法（遠隔）				
7	整形外科的スポーツ傷害 1	スポーツ傷害とは、上肢のスポーツ傷害（遠隔）				
8	整形外科的スポーツ傷害 2	下肢のスポーツ傷害（遠隔）				
9	整形外科的スポーツ傷害 3	体幹のスポーツ傷害、頭・頸部のスポーツ傷害（遠隔）				
10	リハビリテーション	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（遠隔）				
11	スポーツ選手の健康管理	スポーツ選手の健康管理、内科的障害と対策、外傷・障害と対策（遠隔）				
12	発育期とスポーツ	発育期の特徴と代表的なスポーツ傷害（遠隔）				
13	女性スポーツ医学	女性の特徴と代表的なスポーツ傷害（遠隔）				
14	中高老年者とスポーツ	中高老年期の特徴と代表的なスポーツ傷害（遠隔）				
15	まとめ	全体の総括（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：やさしいチューデントトレーナーシリーズ 4 スポーツ医学（嵯峨野書院）、はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】（化学同人）、健康運動実践指導者養成テキスト、公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ ※毎時間、プリントを用いて授業を行うため、各自でしっかりと管理すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書の該当ページを読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：返却された課題について、配布された資料等を見直しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間授業の最後に小テストを実施し、採点してコメントを入れ返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点 20% 小テスト 10% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ医学に関する基本的な知識を大変良く理解している。					
A	スポーツ医学に関する基本的な知識をかなり理解している。					
B	スポーツ医学に関する基本的な知識をおおよそ理解している。					
C	スポーツ医学に関する基本的な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	地域貢献演習 [Seminar for Contribution to Community]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習 アクティブ・ラーニング	本学 専任教員			NSM-S9029		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	地域貢献	武蔵丘短期大学が持つ地域貢献のシード（種）を活かし、地域のニーズを解決し、地域貢献することを通じて自らの資質を高めていく科目である。 事前指導を受けたのちに様々な地域貢献を体験し、事後指導を通して自らの社会貢献の能力を伸ばしている				
2	ボランティア					
3	気づき学習					
学習の到達目標						
地域貢献を体験し、体験の中から自分の可能性に気づきさらなる、地域貢献、ひいては社会貢献に資する能力を身につけることを目標としている。 本学あるいは教員が地域に貢献する事業を体験し、自分の能力に気づき、さらに能力を伸ばして欲しい。						
回	授業内容					AL
1 ～ 8	<p>この科目は、開催時期が地域貢献事業に合わせて、その前後を含めて開講される。単位取得には合計8回の地域ボランティア活動への参加が必要となる。ボランティアの内容は同一の活動でも、複数の活動でも対象とする。</p> <p>原則として一カ月前に授業の内容が掲示等により公開され、その指示に従うことにより履修登録となる。地域貢献の内容により、所属専攻や、専門性によって受講対象者を制限することもある。</p> <p>事前指導、事後指導が1回別に行われる。</p> <p>異なる地域貢献事業に参加した場合、修得単位数が加算される。</p> <p>開講授業例</p> <p>地域の健康・体力測定の実施運営、地域イベント等の運営手伝い（吉見祭り、日本スリーデーマーチ等）、生涯スポーツや健康づくり教室、子育て支援事業、保育園児の栄養や運動遊び指導</p>					○
試験等	なし。ボランティア記録ノートレポートとして作成し提出する					
教科書及び参考図書						
担当教員から、必要に応じて資料が配布される。 参考：本学ホームページ＞学生主体の地域貢献（ <a href="http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html">http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html</a> ）						
準備学習・事後学習						
原則として、事前指導1回、地域貢献体験8回、事後指導1回の授業形態になる。 体調を整え、体験する事業をよく理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
原則として、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
活動状況 80% 面接またはレポート 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく応用力を持っている。					
A	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく力を持っている。					
B	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく基礎を持っている					
C	地域貢献の体験を基に、社会貢献の意義を感じることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	解剖生理学 [Anatomy and Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	長島 洋介・板橋 明		国	N-S2014		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康運動実践指導者、GFI						
この授業のキーワード		授業概要				
1	消化器	この授業では、人体を構成する細胞から器官まで組織において、構造と機能を深く考えていく科目である。将来、栄養士として、人々の健康増進や病気の予防に、対応できること見据えて学習する。				
2	循環器					
3	内分泌					
学習の到達目標						
人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	細胞・組織・器官	細胞と組織学				
2	消化器系 1	咀嚼 嚥下 消化管運動のしくみ				
3	消化器系 2	糞便形成 消化・吸収				
4	血液・造血器・リンパ系	骨髄 造血器細胞 各血球の分化と成熟				
5	循環器系 1	心臓の構造と働き				
6	循環器系 2	肺の構造と、呼吸にメカニズム				
7	呼吸器系	気道 肺の構造と働き 呼吸機能				
8	腎・尿路系 1	腎臓の構成と働き				
9	腎・尿路系 2	体液の働き、尿生成に関するホルモン				
10	生殖器系	生殖器の構造と働き 女性の性周期				
11	骨格系	骨の構造と働き 骨の成長と老化				
12	筋肉系と運動機能	筋肉の種類と働き 筋繊維の種類				
13	内分泌系 1	内分泌系の構成とホルモンの働き				
14	内分泌系 2	ホルモン分泌の調整と 各種ホルモンについて				
15	まとめ	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書「解剖生理学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90%、平常点 10%、として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	人体の構造と機能に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。					
A	人体の構造と機能に関する知識を十分に理解している。					
B	人体の構造と機能に関する知識を理解している。					
C	人体の構造と機能に関する基本的な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養学総論 [Nutritional Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	小河原 佳子			N-S2015		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養素	栄養の意義を理解する。ヒトは栄養素をどのように消化・吸収しているのか、また吸収した栄養素はどうなるのか、代謝調節も含め身体全体で考え、健康の保持増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、基礎的知識を習得する。				
2	消化・吸収					
3	働き・代謝・役割					
学習の到達目標						
栄養の意義を理解し、栄養素の代謝および生理的役割を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	栄養の概念	栄養士の専門的知識として栄養と健康の、疾病の関。栄養学の歴史				
2	消化と吸収	栄養素の消化と吸収の仕組みの概説				
3	炭水化物の栄養	糖質の種類と体内代謝、他の栄養素との関係				
4	食物繊維の種類と働き	食物繊維の定義と分類・はたらき				
5	タンパク質の栄養	タンパク質の構造と体内代謝、アミノ酸の種類と体内代謝、タンパク質の栄養価				
6	脂質の栄養	脂質の種類と体内代謝、脂肪酸の構造と種類と体内代謝、コレステロール の特徴				
7	ビタミンの栄養①	ビタミンの分類と種類 脂溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
8	ビタミンの栄養②	水溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症				
9	ミネラルの栄養①	ミネラルの分類と種類 多量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
10	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
11	水のはたらき	水の出納（水分摂取、代謝水、水分排泄）、欠乏と過剰				
12	エネルギー代謝	エネルギーの代謝とエネルギー代謝の測定方法				
13	栄養の情報収集法①	栄養学の科学的視点での情報収集方法				
14	栄養の情報収集法②	栄養学の科学的視点での情報収集の選択の実践				
15	まとめ・振り返り	栄養学全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養科学シリーズ 新・栄養学総論 第2版 講談社 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020年版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：毎回、授業の始めに前回の授業内容の小テストを行うので、要点をまとめ、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内容の小テストの解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験で 70%、確認テスト・授業への積極的態度などで 30%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養とは何かを十分に理解し、栄養素の役割、基礎的知識を十分に身に付けている。					
A	栄養とは何か、栄養素の役割を理解し、基礎的知識を身に付けている。					
B	栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を十分に理解している。					
C	栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品学 [Food Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	茗荷 尚史			N-S2016		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品成分	健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。本講義では食品各成分の栄養特性について学ぶとともに、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考える。				
2	栄養特性					
3	食品機能					
学習の到達目標						
本講義は個々の食品成分に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。適宜、高等学校までに学習した内容の復習と食品成分表の扱いについても触れ、栄養士としての専門知識の基礎を磐石にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	人間と食品	1.食物連鎖 2.食品と栄養 3.食糧と環境問題 4.食品の分類 (遠隔)				
2	食品の栄養素と成分表 (その1)水	1.水の構造と性質 2.水の存在状態 3.水分活性 (遠隔)				
3	食品の栄養素と成分表 (その2)炭水化物	1.生体内での役割 2.構造 3.分類 (遠隔)				
4	食品の栄養素と成分表 (その3)脂質	1.生体内での役割 2.構造と分類 3.食品中の主要脂質 4.脂質の分解と合成 (遠隔)				
5	食品の栄養素と成分表 (その4)タンパク質	1.構成成分 2.構造 3.等電点 4.アミノ酸味 5.栄養素としてのタンパク質 (遠隔)				
6	食品の栄養素と成分表 (その5)ビタミンその1	1.定義 2.脂溶性ビタミン (遠隔)				
7	食品の栄養素と成分表 (その6)ビタミンその2	1.水溶性ビタミン 2.その他ビタミン様物質 (遠隔)				
8	食品の栄養素と成分表 (その7)無機質その1	1.主要無機質 (遠隔)				
9	食品の栄養素と成分表 (その8)無機質その2	1.主要無機質(続き) 2.その他人体に必要な微量無機質 (遠隔)				
10	食品の栄養素と成分表 (その9)食物繊維	1.定義および目標摂取量 2.効果 3.食品添加物としての使用基準 (遠隔)				
11	食品の嗜好成分(その1)	1.色素 2.香気成分 (遠隔)				
12	食品の嗜好成分(その2)	1.呈味成分 2.毒性成分 (遠隔)				
13	食品の変化	1.褐変反応 2.でんぷんの反応 3.油脂の反応 4.食品の物性 (遠隔)				
14	食品の機能性	1.強調表示 2.保健機能食品 3.特別用途食品 4.栄養補助食品				
15	まとめ	全体の総括 (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：食べ物と健康 - 食品の栄養成分と加工 - 國崎直道編著 同文書院 参考図書：イラスト食品学総論 種村安子他著 東京教学社 食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学 長澤治子編著 医歯薬出版						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 日頃から食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習 (週 2.5 時間) : 栄養士として必要な知識の基礎となる科目の一つなので、その日に学習した知識を定着させるために、復習を中心とした授業時間外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。各テーマ毎に小テストを行う予定である。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点(小テスト、発言、態度を含む) 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。					
A	食品成分の面から食品学の知識を理解している。					
B	食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。					
C	食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		生化学 [Biochemistry]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		岡崎 英規			N-S2030	
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	細胞	全ての生物は細胞から成り立ち、その細胞の中では、さまざまなドラマが生まれている。 この様な数々のドラマが集約されて私たちは「生きて」いる。 生化学ではこの数々のドラマについて理解する。				
2	代謝					
3	恒常性					
学習の到達目標						
<p>正常な人体の仕組みを、遺伝子レベル、細胞レベルについて理解する。                      摂った食べ物は体内でどうなるのか、絶えず体内で起こっている様々な物質の合成や分解、恒常性の維持の仕組みについて理解する。</p>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	人体の成り立ち 1	細胞の基本構造と機能（細胞小器官の特徴とはたらき）				
2	人体の成り立ち 2	生体膜の基本構造とその機能、受動輸送・能動輸送・膜輸送（膜サイトーシス）				
3	人体の成り立ち 3	生体エネルギー（ATP）、同化・異化				
4	糖質の化学	糖質の構造、種類および性質（単糖類、二糖類、多糖類、誘導糖）				
5	糖質の代謝 1	グルコース（ブドウ糖）の代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）				
6	糖質の代謝 2	糖質の合成や分解（グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路）				
7	脂質の化学	脂質の化学的特徴（構造、種類および性質）				
8	脂質の代謝	中性脂肪と脂肪酸の合成・分解、イコサノイド、コレステロール合成、ケトン体生成				
9	たんぱく質の化学	たんぱく質・アミノ酸の化学的特徴（構造、種類および性質）				
10	たんぱく質の代謝	アミノ基転移反応、尿素回路、アミノ酸から合成される情報伝達物質				
11	三大栄養素代謝まとめ	様々な代謝経路のつながり、コリ回路、グルコース-アラニン回路				
12	酵素	酵素の種類、働き、特徴、補助因子（補酵素）、酵素の阻害（競合・非競合）				
13	核酸の化学	核酸の化学的特徴と代謝、遺伝の仕組み				
14	ホルモンの化学	ホルモンの特徴と作用機構、血液中カルシウムイオン濃度の調節、血糖の調節				
15	免疫の化学・まとめ	身体を守る防衛反応（液性免疫・細胞性免疫）、免疫グロブリン、アレルギー				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：〈はじめて学ぶ〉健康・栄養系教科書シリーズ2 生化学 化学同人 参考図書：イラスト生化学入門 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 小テスト10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、様々な代謝を理解している。					
A	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を理解している。					
B	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識をやや理解している。					
C	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養学各論 [Nutrition in Life Stage]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	長島 洋介		国	N-S3031		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食事摂取基準	この授業では、栄養ケア・マネジメント、食事摂取基準を理解し、対象者のライフステージに応じた栄養摂取方法について学ぶ。				
2	栄養ケア・マネジメント					
3	ライフステージ					
学習の到達目標						
栄養ケア・マネジメント、食事摂取基準およびライフステージごとの栄養管理に関する基礎的知識を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	栄養ケア・マネジメント①	栄養ケア・マネジメントの定義やプロセス				
2	栄養ケア・マネジメント②	栄養スクリーニング、栄養アセスメントの指標、栄養ケア、マネジメントの評価				
3	食事摂取基準①	食事摂取基準活用のための理論と方法				
4	食事摂取基準②	推定必要量、推奨量、目安量、目標量、耐容上限量の理解				
5	成長、発達、加齢	成長、発達、加齢に機能変化				
6	妊娠期	妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
7	授乳期	授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
8	新生児期・乳児期①	新生児期・乳児期の生理的特徴				
9	新生児期・乳児期②	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア				
10	成長期①	成長期の生理的特徴				
11	成長期②	成長期の栄養アセスメントと栄養ケア				
12	成人期	成人期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
13	高齢期①	高齢期の生理的特徴				
14	高齢期②	高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
15	まとめ	全体のまとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：応用栄養学 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書「応用栄養学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 平常点 10% 遅刻欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。					
A	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を十分に理解している。					
B	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を理解している。					
C	ライフステージ別の栄養摂取に関する基本的な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	病態科学 [Pathologic Condition Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	岩井 秀明			N-S3032		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	疾患の概要	解剖生理学、生化学で学んだ正常な人体の構造と機能を基礎に、疾患の概要、成因・予防を学び、臨床栄養学につなげる。生涯健康には生活環境と共に生活習慣が重要であることを学ぶ。変容する社会とグローバル社会の進展における多様な疾病問題に対応し、併せて医学的基礎教養を広げる。				
2	疾患の成因・予防					
3	疾患と栄養					
学習の到達目標						
病態科学の学びにより各種疾患の概要を知り、成因を理解し、予防できる。疾患と栄養との関わりを理解し、食事療法につなげられる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	はじめに	人類の感染症との闘い、日本人に多い疾病・死因（序章、第1章、第2章）				
2	感染症（第15章）	感染（経路）、新興・再興感染症、感染症法類型、性感染症、エイズ、抗生物質、耐性菌				
3	免疫・アレルギー疾患	炎症、免疫、予防接種、ワクチン、食物アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全（第14章）				
4	悪性新生物（がん）	がん研究の歴史、成因、各種がんの特徴				
5	動脈硬化症、高血圧症	動脈硬化、粥状硬化（アテローム硬化）、血圧、血圧値の分類、高血圧症、（第6章）				
6	循環器系疾患	狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓、心不全（第6章5～7.）				
7	脳血管障害、神経疾患	脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、認知症、パーキンソン病（第9章）				
8	メタボリックシンドローム	肥満、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)、概念の根拠、成因（第4章1.）				
9	糖尿病（第4章2.）	概念、病態、分類、症状、慢性合併症、診断、治療（食事・運動療法）				
10	脂質異常症	病態、脂質、リポたんぱく、診断、食事療法（第4章3.）				
11	高尿酸血症、痛風、先天性代謝異常症	病態、プリン体、分類、痛風、食事療法第（4章4.） 先天性代謝異常、糖質代謝異常、先天性アミノ酸代謝異常、種類と病態（4章5.）				
12	消化器系疾患	胃・十二指腸潰瘍、クローン病、肝炎、肝硬変、脂肪肝、NASH、膵炎（第5章）				
13	腎・尿路系疾患	糸状体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病（CKD）、透析（第7章）				
14	血液系疾患	血液細胞、貧血、種類、血友病、白血病（第13章）				
15	呼吸器・運動器・内分泌系疾患	呼吸器系疾患（第10章） 肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、運動器系疾患（第11章） 骨粗しょう症、サルコペニア、ロコモ、フレイルティ、内分泌系疾患（第8章）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：田中 明、加藤 昌彦編 疾病の成り立ち：臨床医学（第4版）（建帛社） 参考図書等：その他の参考資料は適宜紹介し、必要に応じてプリントを渡す。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週 1.5 時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、感想についてフィードバックし、分かち合う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験（70%）、授業態度・取り組み姿勢（30%）を総合的に判断し評価する。欠席：欠課レポート提出。						
評価	成績評価別の到達度					
S	病態科学の基となる知識を十分に会得している。授業態度・取り組みは特に良好である。					
A	病態科学の基となる知識を会得している。授業態度・取り組みは良好である。					
B	病態科学の授業内容は概ね理解している。授業態度・取り組みは普通である。					
C	病態科学の授業内容の理解に努力が必要である。授業態度・取り組みに更に努力が必要である。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	臨床栄養学 [Clinical Nutrition]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	木元 泰子			N-S3033		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	疾患、病態	疾病の成り立ちを理解し、病態に応じた食事管理を中心とした栄養管理を実践するための知識や技術を学ぶ。				
2	栄養管理					
3	医療					
学習の到達目標						
さまざまな疾病、病態について理解し、応じた適切な食事管理を中心とした栄養管理の実践的な知識や技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療と臨床栄養（遠隔）				
2	栄養アセスメント	身体測定、栄養スクリーニング、栄養アセスメント（遠隔）				
3	栄養補給法	各種栄養補給法、食物と薬剤（遠隔）				
4	代謝内分泌疾患①	肥満症、るいそう（遠隔）				
5	代謝内分泌疾患②	糖尿病（遠隔）				
6	代謝内分泌疾患③	脂質異常症、動脈硬化性疾患（遠隔）				
7	循環器系疾患	高血圧、心血管疾患（遠隔）				
8	腎・尿路系疾患	慢性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、透析（遠隔）				
9	消化器系疾患①	肝臓疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝） 脾疾患（脾炎）（遠隔）				
10	消化器系疾患②	胃・腸疾患（胃炎・胃・十二指腸疾患）（遠隔）				
11	消化器系疾患③	腸疾患（下痢、便秘、炎症性腸疾患（遠隔）				
12	ライフステージ別疾患①	妊婦・授乳期（先天性代謝異常、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）（遠隔）				
13	ライフステージ別疾患②	成長期期（心因性の摂食障害、貧血）（遠隔）				
14	ライフステージ別疾患③	高齢期（COPD、摂食嚥下障害、骨粗鬆症・サルコペニア・フレイル）（遠隔）				
15	まとめの講義	全体の総括（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：すべての診療科で役立つ栄養学と食事・栄養療法（羊土社） 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂） 腎臓病食品交（医歯薬出版）日本人のための食事摂取基準（2020年版） 栄養士実力認定試験過去問題集 2020年版（建帛社）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞記事等を読み、臨床栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 確認テスト 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を十分身につけ、応用力を持っている。					
A	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識をよく理解している。					
B	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を理解している。					
C	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	公衆栄養学 [Public Health Nutrition]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義 アクティブ・ラーニング	堀 由美子			N-S2034		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	公衆栄養活動	公衆栄養の概念、公衆栄養活動、健康・栄養の現状と課題、健康・栄養施策、公衆栄養プログラムを中心に学ぶ。				
2	疾病予防					
3	ヘルスプロモーション					
学習の到達目標						
わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれに対応した栄養施策について理解する。また、社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について、基礎的なことが理解できるように学習する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の概念、公衆栄養の意義と目的				
2	健康・栄養問題の現状と課題①	人口構成の変遷、死因別死亡、平均寿命・健康寿命、疾病構造の変化				
3	健康・栄養問題の現状と課題②	食事・食生活・食環境の変化、食行動の問題点、食料需給				○
4	栄養政策①	公衆栄養活動の歴史				
5	栄養政策②	公衆栄養法規、栄養士法、地域保健法、健康増進法、食育基本法、栄養士の社会的役割				
6	栄養政策③	国民健康・栄養調査の概要、国民健康・栄養調査の結果				
7	栄養政策④	健康日本 21、食生活指針、食事バランスガイド				
8	栄養政策⑤	食育推進基本計画、食育ガイド、特定健診・特定保健指導				
9	栄養疫学①	栄養疫学の概要、栄養疫学の種類と方法				
10	栄養疫学②	栄養疫学のための食事調査法、食事摂取量の測定方法				○
11	栄養疫学③	食事摂取量の評価方法、集団に対する食事摂取基準				
12	公衆栄養マネジメント	公衆栄養活動におけるマネジメント、マネジメントの過程（アセスメント、計画、実施、評価、改善）				
13	公衆栄養活動	災害時の栄養対策、地域包括ケアシステム、食環境整備				
14	諸外国の栄養状況、施策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、国際的な栄養行政組織の活動				
15	まとめの講義	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公衆栄養学 南江堂 参考図書：日本人の食事摂取基準（2020年版）、国民健康・栄養調査結果						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 新聞記事等を読み、栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 課題・レポート 15% 授業への参加度 15% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を十分に修得し、公衆栄養プログラムへの応用力を持っている。					
A	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を身につけ、公衆栄養プログラムの実際を理解している。					
B	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識を身につけている。					
C	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識がある。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	応用食品学（食品加工学を含む） [Applied Food Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	茗荷 尚史			N-S3035		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食材	食品の種類は非常に多く、現在食品成分表に記載されたものだけでも 2,000 品目以上、さらに世界各地より食材や加工品が入り、その種類は増加しつづけている。また魚類の中には稚魚から成魚になるときに名称が変化したり、地方により呼称が異なったり、調理方法により栄養成分値が変動するものがある。野菜・果実などは年々改良されている。本講義ではこれら詳細を食材ごとに解説するとともに、近年増えつつしているバイオ食品についても概説する。				
2	品質の鑑別					
3	食品選択					
学習の到達目標						
本講義では個々の食材に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。各食材の概要、品質の鑑別、栄養特性、加工や調理などを系統的に学ぶことにより、各食品の特徴、季節、栄養バランス、嗜好性、経済性等を加味した食品選択を可能にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食品の貯蔵・加工による変化	1.褐変反応 2.ミオグロビンの変化 3.クロロフィルの変化 (遠隔)				
2	穀類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 (遠隔)				
3	イモ類、豆類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 (遠隔)				
4	種実類、野菜類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 (遠隔)				
5	果実類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 (遠隔)				
6	キノコ類、藻類	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 (遠隔)				
7	肉類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 (遠隔)				
8	乳、卵と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.乳加工品と殺菌法 4.鶏卵の構造 5.機能性 (遠隔)				
9	魚介類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.鮮度判定 5.機能性 (遠隔)				
10	油脂食品	1.種類と性状 2.食用油脂の製造工程 3.油脂の酸化 4.加工品 5.機能性 (遠隔)				
11	甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料	1.種類と特性 2.成分 3.機能性 (遠隔)				
12	微生物利用食品	1.発酵乳製品 2.漬物 3.みそ、しょう油 4.アルコール飲料 5.食酢 6.納豆 (遠隔)				
13	新しい加工法による食品	1.レトルトパウチ食品 2.超高压処理食品 3.凍結乾燥食品 4.コピー食品 (遠隔)				
14	バイオ食品	1.遺伝子工学を用いたバイオ食品 2.発生工学を用いたバイオ食品 3.バイオリアクターを利用したバイオ食品 (遠隔)				
15	まとめ	全体の総括 (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：改訂食品学Ⅰ・Ⅱ 菅原龍幸・福澤英喜男 編著 建帛社 食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社						
参考図書：食べ物と健康 食品学各論 下橋淳子編著 八千代出版 食品加工学 加工から保蔵まで 第2版 露木英男・田島眞編 共立出版 分子栄養学 金本龍平編 化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 0.5 時間) : 日頃から応用食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習 (週 2.5 時間) : 本講義では隔週でレポート課題および小テストを課すので、日頃から復習を中心とした授業外学習を励行して、学習したことをまとめる習慣を身につける。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 平常点(小テストの得点、発言、態度を含む) 25% レポート 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食材の面から食品学の知識をよく理解できることを目標とする。					
A	食材の面から食品学の知識を理解できることを目標とする。					
B	食材の面から食品学の基本的知識を理解できることを目標とする。					
C	食材の面から食品学の最低限の知識を理解できることを目標とする。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食品衛生学 [Food Hygiene]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	岡崎 英規			N-S2036		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食中毒	食品はヒトの生命を維持し、健康の保持、増進に欠かせないものであるが、時には健康障害を引き起こす。生命を脅かす原因となることもある。食中毒を起こさない、または被害に遭わない様、飲食に関わる有害なものや国の施策について解説する。				
2	食品添加物					
3	食品衛生行政					
学習の到達目標						
食中毒予防のため、食品の取り扱いだけでなく食に関わる全ての環境に対して衛生的な配慮ができるよう幅広い知識を身につける。 食品中の有害物質について、正しい知識を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食品衛生とは	食品衛生の重要性、食品衛生行政の概要				
2	食品衛生と微生物	微生物について、生育条件、汚染指標細菌				
3	食品の変質とその防止	腐敗とその判定、食品の変質防止方法				
4	食中毒について	食中毒の定義、発生状況、年内変動の周期性				
5	細菌性食中毒各論 1	食中毒菌の特徴と予防方法（サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、ウェルシュ菌）				
6	細菌性食中毒各論 2	食中毒菌の特徴と予防方法（セレウス菌、カンピロバクター、ブドウ球菌、ボツリヌス菌）				
7	細菌性食中毒各論 3	食中毒菌の特徴と予防方法（NAG ビブリオ、リステリア、エルシニア）、経口感染症、人畜共通感染症				
8	ノロウイルス	ノロウイルスの特徴と予防方法、吐物の処理方法				
9	寄生虫	寄生虫症の特徴と予防方法				
10	自然毒食中毒	動物性自然毒と植物性自然毒食中毒の特徴と毒性				
11	カビ毒、有害化学物質 1	カビ毒の特徴と毒性、有害化学物質の特徴と過去の事例				
12	有害化学物質 2	食品成分の変化による有害物質				
13	食品添加物 1	食品添加物の分類、表示、用途、規格基準				
14	食品添加物 2	食品添加物の安全性と毒性試験、毒性の指標				
15	食品衛生管理、まとめ	HACCP、食品工場における一般衛生管理事項、マスターテーブル、まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：カレント食べ物と健康 3 食品衛生学（第2版） 建帛社 参考図書：食中毒予防必携 第3版 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を幅広く習得している。					
A	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を習得している。					
B	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識をやや習得している。					
C	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を最低限習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		公衆衛生学 [Public Health]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		岡崎 英規		N-S2037		
この授業に関する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	環境と健康	公衆衛生学は、人々の疾病予防、健康の保持増進をはかるため、国や自治体など組織的な取り組みにより推進していくことを目的としている。衛生行政、保健統計について解説し、日本の保健衛生を世界各国と比較し、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識させる。				
2	保健統計					
3	疫学					
学習の到達目標						
生態系の中の人間について考え、社会や環境の変化が健康に与える影響を理解する。 疫学の基礎知識を身につけ、科学的根拠（エビデンス）に基づく保健対策について理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康と公衆衛生	健康・公衆衛生の定義、歴史、予防医学、ハイリスク・ポピュレーションアプローチ				
2	環境と健康 1	環境基本法、地球環境問題、大気・水に関する環境基準				
3	環境と健康 2	ダイオキシン類対策、日本の公害、環境衛生（空気組成、騒音、温熱、放射線）				
4	環境と健康 3	環境衛生の続き（上下水道、廃棄物処理、廃棄物処理、建築物衛生）				
5	統計資料 1	保健統計の概要、人口動態統計、人口動態統計				
6	統計資料 2	生命表、平均寿命、健康寿命、傷病統計（患者調査、国民生活基礎調査）				
7	疫学 1	疫学の概念と指標（疾病頻度、曝露効果測定「相対危険、寄与危険、オッズ比」）				
8	疫学 2	疫学の方法（記述・横断・生態学・症例対照・コホート・介入研究）、バイアスと交絡				
9	疫学 3	スクリーニング、根拠の質（系統的レビュー、メタアナリシス）				
10	主要疾患の疫学	悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、たばこ対策、飲酒行動、歯科保健				
11	感染症対策、精神保健	感染症法、結核対策、予防接種、精神保健福祉法、自殺対策、外因死の現状				
12	母子保健	母子保健に関する統計資料の現状、母子保健の目的や活動				
13	産業保健	労働安全衛生法、3 管理、職業病、労働災害、トータルヘルスプロモーションプラン（THP）				
14	学校保健	学校保健の目的や活動、児童生徒の健康、学校感染症				
15	国際保健・地域保健	国際保健の意義、機関、活動・保健所と保健センターの役割・まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公衆衛生学 2021/2022 同文書院						
参考図書：国民衛生の動向 2020/2021 厚生統計協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。						
事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会や環境の変化が健康に与える影響について、幅広い知識を習得している。					
A	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を習得している。					
B	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識をやや習得している。					
C	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を最低限習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論 1 [Nutrition Education 1]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S2038		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養の指導	栄養指導に必要な基本的役割を理解し、指導の意義を明確にする。栄養の指導に必要な基礎知識を系統的に学ぶ。これを活用して、栄養マネジメントに必要なアセスメントの方法・分析、企画や指導方法、評価方法を理解する。				
2	栄養指導計画					
3	PDCA サイクル					
学習の到達目標						
栄養の指導の目的と意義を学ぶとともに、栄養マネジメントを理解し、「栄養の指導」に必要なマネジメントの基礎を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	栄養指導の概念	栄養士の使命と役割を理解する。時代の変遷と栄養教育の考え方を学ぶ	○			
2	栄養指導の現状と展望	栄養政策の取り組みやこれからの食生活のあり方、問題、関連法規について学ぶ				
3	食事摂取基準①	食事摂取基準の総論について学ぶ				
4	食事摂取基準②	食事摂取基準の活用法を学ぶ	○			
5	栄養教育の理論	栄養の指導のための行動科学、行動科学的アプローチについて学ぶ				
6	栄養カウンセリング	カウンセリングの基本と技法を用いた栄養の指導について学ぶ	○			
7	栄養教育マネジメント	栄養教育とマネジメントサイクル（PDCA サイクル）の概要とアセスメントの意義を学ぶ				
8	栄養教育のためのアセスメント	栄養アセスメントの種類（身体計測・臨床検査・臨床審査・食事調査）と方法を学ぶ				
9	栄養教育のためのアセスメント②	食事摂取基準と食事調査・分析方法・情報収集について学ぶ	○			
10	栄養教育計画①	栄養指導計画の立案、目標設定について学ぶ	○			
11	栄養教育計画②	栄養指導計画書立案、行動変容技法と栄養教育について学ぶ。カリキュラム、学習指導案について学ぶ				
12	栄養指導の実施①	食行動変容に基づいて栄養教育について学ぶ	○			
13	栄養指導の実施②	教材・学習形態について学ぶ	○			
14	栄養教育の評価（1）	栄養教育の評価内容と意義、評価方法の種類を学ぶ				
15	栄養教育の評価（2）・まとめ	栄養教育評価デザインについて学ぶ まとめ・振り返り				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「八訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定している教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の始めに、前回の授業内容の振り返りの小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィールドバックとして、返却時に振り返り小テストの解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%と、授業への積極的な参加態度や復習状況などで 30%として、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養指導の基礎知識を十分習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を十分に理解している。					
A	栄養指導の基礎知識を習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法をよく理解している。					
B	栄養指導の基礎知識をおおよそ習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。					
C	栄養指導の基礎知識、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食経営管理論 [Institutional Food Service Management]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	菊地 亨		国	N-S2039		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	特定給食施設	特定給食施設等における給食運営に必要な基礎知識を学ぶ。				
2	給食関連法規					
3	衛生管理・食中毒					
学習の到達目標						
1. 給食管理の目的と方法、給食業務に関連する法規について説明できる。 2. 栄養管理の意義と具体的方法について説明できる。 3. HACCP システムと大量調理衛生管理マニュアルに基づいた、衛生管理・食中毒の防止方法について説明できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	総論	給食の定義・目的、特定給食施設（遠隔）				
2	経営管理	給食管理の意義、マーケティング（遠隔）				
3	栄養・食事管理 ①	栄養・食事管理の意義と目的（遠隔）				
4	栄養・食事管理 ②	栄養・食事のアセスメント（遠隔）				
5	栄養・食事管理 ③	食事計画の実施・評価・改善（遠隔）				
6	品質管理、会計・原価管理	給食品質の標準化・評価・改善、経営分析、原価計算の方法（遠隔）				
7	食材料管理	食材料の発注計画、在庫管理、購入価格の分析（遠隔）				
8	生産管理	生産計画（調理工程、作業工程）（遠隔）				
9	安全・衛生管理 ①	衛生管理の意義と目的、HACCP システムの概念（遠隔）				
10	安全・衛生管理 ②	大量調理衛生管理マニュアル（遠隔）				
11	施設・設備管理	食中毒・感染症、危機管理対策（遠隔）				
12	人事・事務管理	給食従事者の教育・評価、給食部門における事務処理（遠隔）				
13	各種給食施設の特徴 ①	医療施設（遠隔）				
14	各種給食施設の特徴 ②	高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設（遠隔）				
15	各種給食施設の特徴 ③	学校、事業所（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「エッセンシャル 給食経営管理論」医歯薬出版 参考図書：「七訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書を用いて、授業範囲の予習を行うこと。 事後学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書・配布資料を用いて、授業範囲の復習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。適宜、オフィスアワーで対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 100% 理由のない遅刻・欠席・早退は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学 [Cookery Science]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	小坂 由美子			N-S2040		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食文化・美味論	食品から食物へ作り上げていく過程を中心に、食品の調理上での変化、調理と衛生、日本とその他の国の食文化、献立の立て方・考え方、調理操作方法（新調理機器を含む）、人間と嗜好（おいしさの科学）などを解説する。				
2	調理操作					
3	食品の調理性					
学習の到達目標						
調理の目的（衛生的に安全で、栄養効率を高め、嗜好性を向上させ、食文化を理解する）を前提に人間が食物を摂取する最終段階としての調理方法とその体系を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	調理学序論	調理学で扱う範囲。食の問題と調理が関わる内容、世界の食文化の概要（食の世界無形文化遺産など）				
2	美味論①	食物のおいさとその要因、食物側と人間側から見たおいしさの視点を理解する				
3	美味論②	おいしさの評価法：理化学的評価法（食品物性を中心）、官能評価法など				
4	調理システム①	調理操作論：調理の意義、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作				
5	調理システム②	調理システム（厨房設備、真空低温調理、クックチルシステムなど新しい調理機器を含む）				
6	調理システム③	調理機器、調理用計器、非加熱用器具、加熱用器具、食器、容器など				
7	食材の調理機能①	調理機能論、植物性食品の調理機能（穀類/米・小麦他）				
8	食材の調理機能②	植物性食品の調理機能（豆類、イモ類、野菜類、果実類など）				
9	食材の調理機能③	動物性食品の調理機能（畜肉類、魚介類、卵、乳類およびその加工品など）				
10	食材の調理機能④	抽出性食品の調理機能（でん粉、油脂、ゼラチン、寒天などのそれぞれの特性）				
11	食材の調理機能⑤	調味料・香辛料の調理機能、調味料の役割と種類				
12	食事設計・献立論	食事設計の考え方、献立・供食、食文化からみた食事（日常食・供食）について考える				
13	調理環境論①	調理環境とは？調理行動からみた食生活の特徴、食情報、スローフードなど				
14	調理環境論②	外食産業（内食・中食・外食）、エコクッキング、調理と衛生など				
15	まとめ	調理に関する現代の問題点など				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：時代とともに歩む新しい調理学 川端・永島他著 学建書院 参考図書：栄養士実力認定試験過去問題集 全栄施協編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に指定したテキストのページ内容よりキーワード及び専門用語について調べた上で授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：当日の授業で解説した範囲で次回に小テストを行うので、専門用語及び項目についてノートにまとめておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で実施する小テストを添削後返却。解答の解説を行う。専用ノートにまとめる。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 講義終了時に実施する小テスト 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	調理学の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	調理学の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	調理学の内容をほぼ理解している。					
C	調理学の内容を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		生化学実験 [Experiments in Biochemistry]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・アクティブ・ラーニング		岡崎 英規		N-S4041		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	酵素	体内で起こっている様々な現象を、実験上で再現し、からだの働きを理解する。 栄養素の消化や代謝に関する実験を行い、実際に目で見て確認し理解する。				
2	消化					
3	化学反応					
学習の到達目標						
中和や分析など基礎的な実験を通じて、物事を科学的に捉える基礎を養う。 栄養管理に関係する栄養素と疾病やからだの関係について理解を深める。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	オリエンテーション	生化学実験における諸注意、実験の基礎、濃度計算の基礎（遠隔）				
3・4	身近な食品の pH 測定	様々な食品の pH を測定し、pH の意味を理解する 次回使用する試薬の濃度を測定	○			
5・6	酸と塩基	中和による果汁のクエン酸定量	○			
7・8	定量分析の基本	分光光度計を使って、量・反応関係を観察しよう ～分析実験の基礎を学ぶ～	○			
9・10	酵素の実験-1	温度依存性って何？ ～温度とグルコース代謝に関わる酵素反応～	○			
11・12	酵素の実験-2	pH 依存性って何？ ～pH とグルコース代謝に関わる酵素反応～	○			
13・14	酵素の実験-3	補酵素って何？ ～補酵素の有無とグルコース代謝に関わる酵素反応～	○			
15・16	たんぱく質の実験-1	たんぱく質の熱変性 たんぱく質の等電点沈殿	○			
17・18	たんぱく質の実験-2	たんぱく質を食べるとどうなる？ ～たんぱく質と消化酵素の働き～	○			
19・20	糖質の実験-1	でんぷんを食べるとどうなる？① ～炭水化物の種類と消化～（遠隔）				
21・22	糖質の実験-2	でんぷんを食べるとどうなる？② ～消化酵素の違いと消化～（遠隔）				
23	まとめ	本実験の総まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：生化学実験ノート 岡崎、浅香著 参考図書：イラスト 栄養生化学実験 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% レポート提出状況 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について積極的に取り組み理解している。					
A	分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について理解している。					
B	分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について理解している。					
C	分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品加工実習 [Food Processing Practice]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習・アクティブ・ラーニング		木元 泰子			N-S5042	
この授業に関する資格						
栄養士免許 フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	加工食品の製造原理	食品加工の基である食品素材の特徴を学び、日常利用されている加工食品について実習を通して具体的に加工の原理と方法を学ぶ。				
2	加工食品の保存方法					
3	食品添加物					
学習の到達目標						
食品における貯蔵および加工の目的を知り、加工食品の原材料、製造原理、工程、保存、包装技術また、食品の成分や物性の変化を学び、知識だけでなく栄養士として食生活に役立つ食品加工の理論と実際を体得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション	食品加工の概念及び実習のガイダンス				○
3・4	穀類の加工①	うどん：小麦粉のグルテン形成について 食塩がうどんの生地に与える影響を学ぶ				○
5・6	穀類の加工②	中華麺：かん水と小麦粉中の成分の反応 中華麺の性質を学ぶ				○
7・8	穀類の加工③	パン：酵母の発酵作用を通して微生物の食品加工への有効利用を学ぶ マフィン：生物学的・化学的膨化及び膨化剤の違いを学ぶ				○
9・10	野菜類の加工 包装材料について	ジャム・マーマレード：ペクチンのゲル化について 貯蔵効果について学ぶ 瓶詰・真空包装：包装容器について学ぶ				○
11・12	果実類の加工 畜肉類の加工	トマトケチャップ：野菜の加工目的について学ぶ ソーセージ：肉色素の変化や燻煙作用、ケーシングについて学ぶ				○
13・14	魚介類の加工	かまぼこ・さつま揚げ：魚肉練り製品の物性の変化を学ぶ				○
15・16	油脂類の加工	油脂の酸化：過酸化価物の定量				○
17・18	卵類の加工	鶏卵の鮮度判定：ハウユニット係数、pH、卵黄係数、気室径、比重の測定				○
19・20	いも類の加工	こんにやく：こんにやく粉の成分であるグルコマンナンのゲル化について学ぶ				○
21・22	乳類の加工	ヨーグルト：乳酸菌の作用と乳たんぱく質の変性について学ぶ				○
23	まとめの講義	全体の総括				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：食品加工学実習テキスト 建帛社 参考図書：食品加工貯蔵学 東京化学同人、日本食品大事典 医歯薬出版株式会社						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習で行う内容の加工食品について情報を収集しておくこと。 事後学習：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出課題にコメントを記入して返却を行う						
成績評価の目安と方法						
提出課題 70% 平常点 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品加工学に関する基本的な知識を大変よく理解している					
A	食品加工学に関する基本的な知識をかなり理解している。					
B	食品加工学に関する基本的な知識をおおよそ理解している。					
C	食品加工学に関する基本的な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ栄養学実習 [Practice in Sports Nutrition]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習 アクティブ・ラーニング	長島 洋介		国	N-S5043		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	身体組成	この授業では、栄養アセスメントの手法を学びながら、身体と栄養との関連性を学ぶ。身体組成、生化学検査、臨床診査、身体活動量に関する自分のデータを取得する。欠席した場合には、別の日に休んだ日の実験を行う。				
2	アセスメント					
3	身体活動					
学習の到達目標						
身体活動や栄養状態を正しく評価できるようになり、栄養指導や栄養サポート方法への応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	消費エネルギー測定	消費エネルギーの測定 履修に関する注意点と実習の概要説明				
3・4	ヒトのからだと栄養状態 1	ヒトの身体組成を評価方法について	○			
5・6	ヒトのからだと栄養状態 2	尿検査から対象者を評価方法について	○			
7・8	ヒトのからだと栄養状態 3	血液・唾液と栄養状態について	○			
9・10	ヒトのからだと栄養状態 4	食事歴法食事調査と栄養状態について	○			
11・12	ヒトのからだと栄養状態 5	生活習慣と栄養状態について	○			
13・14	スポーツ選手への栄養教	スポーツ栄養学を応用した栄養教育の基礎 具体的な支援方法	○			
15・16	運動環境の評価	WBGT 熱中症 水分補給の関連性	○			
17・18	身体活動と生体変化 1	安静時の呼吸数、血圧、体温、味覚について	○			
19・20	身体活動と生体変化 2	身体活動後の呼吸数、血圧、体温、味覚について	○			
21・22	身体活動と生体の変化 3	生体バイオマーカーを用いた運動前後における身体の変化の評価	○			
23	まとめ	本実験の総まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：なし（プリント配付） 参考図書：解剖生理学教科書、健康のスポーツ栄養学配付物						
準備学習・事後学習						
準備学習：参考図書を読んでおくこと。 事後学習：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 40%、提出物 40%、平常点 20%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ栄養の知識や技術を、十分に理解し応用力を身に付けている。					
A	スポーツ栄養の知識や技術を、よく身に付けている。					
B	スポーツ栄養の知識や技術を、身に付けている。					
C	スポーツ栄養の知識や技術の基礎を、身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		臨床栄養学実習 [Clinical Nutrition Practice]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・演習・実習・アクティブ・ラーニング		木元 泰子			N-S5044	
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	臨床調理	献立作成を通して、形態別・成分別の献立作成の基礎的知識・実際を学び、調理実習を通して、臨床調理と一般調理の違いを体得する。				
2	実践力					
3	疾患別献立作成					
学習の到達目標						
治療の一環としての栄養療法の基本を習得し、各疾患に適した食事づくりができるよう既得の知識と実技を生かして、実践即戦力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション 治療食の献立作成とは 献立作成の基本復習 摂食嚥下障害食とは	実習の目的 履修上の注意事項 など 献立作成のための基礎知識の復習 摂食嚥下障害食の現場での提供の実際				○
3・4	流動食・嚥下食の調理・供食実習	流動食調理実習 経管栄養剤,高栄養食品等の試飲、試食 増粘剤の使い方及び試飲 など				○
5・6	一般治療食の献立作成	一般治療食（軟菜食）の献立作成				○
7・8	軟菜食調理・供食実習	軟菜食調理実習				○
9・10	糖尿病食品交換表のしくみ	糖尿病食品交換表の使い方				○
11・12	糖尿病食の調理・供食実習	糖尿病の調理実習				○
13・14	食塩制限食の献立作成	食塩制限食の献立作成				○
15・16	食塩制限食の調理・供食実習	食塩制限食の調理実習				○
17・18	腎臓病食品交換表のしくみ	腎臓病食品交換表の使い方				○
19・20	腎臓病の調理・供食実習	腎臓病調理実習 特殊治療食品の試食				○
21・22	展開食の調理・供食実習	展開食とは、展開食の調理実習				○
23	まとめ	全体の総括				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版）糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂）腎臓病食品交換表（医歯薬出版） 参考図書：日本人のため食事摂取基準 2020 年版（第一出版） 栄養士実力認定試験過去問題集 2020 年版（建帛社）						
準備学習・事後学習						
準備学習： シラバスで授業内容を確認し、教科書で予習しておくこと。 事後学習： 授業プリントの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出課題にコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物（課題レポート）70% 平常点 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	治療の一環としての栄養療法の基本を十分修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を十分に持っている。					
A	治療の一環としての栄養療法の基本を修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を持っている。					
B	治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりを身につけている。					
C	治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりの基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品学実験 [Experimental Food Science]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・アクティブ・ラーニング		茗荷 尚史			N-S4045	
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品成分分析	栄養士が現場で献立作成や栄養指導を行う際、常に食品成分表を参考し、使いこなさなければならない。しかし実際の食品成分表を見ると実に多くの数字が羅列されており、これを自在に活用するためにはそれらのデータが出された過程および方法を熟知しておく必要がある。そのため本授業では実験を通して食品成分分析法を学ぶとともに、自らデータを出す体験をする。				
2	食品成分表					
3	商品開発					
学習の到達目標						
食品の一般成分分析に関する実験を通して、食品学実験の基本操作と基礎知識を習熟し、食品成分分析の技術を体得するとともに、食品成分表の理解を深める。さらにスポーツドリンクを題材にして、食商品開発の体験実験も行う。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	食品学実験の概説	1. 一般的諸注意 2. 実験器具の種類と使用法 3. 分析法				
3・4	食品中の水分の定量 (その1)	1. 概説 2. 常圧加熱乾燥法 3. 恒量の求め方	○			
5・6	食品中の水分の定量 (その2)	1. 試料の調製 2. 採取 3. 定量条件の検討	○			
7・8	食品中の粗灰分の定量 (その1)	1. 概説 2. りっぽの恒量を求める 3. 試料の調製 4. 試料の灼熱	○			
9・10	食品中の粗灰分の定量 (その2)	1. 恒量を求める 2. 計算 3. 小麦粉の種類、等級およびその鑑別	○			
11・12	自家製スポーツドリンク作り	1. 概説 2. 作製 3. 甘味料・酸味料の官能評価	○			
13・14	食品中の粗脂肪の定量 (その1)	1. 概説 2. ソックスレー抽出法 3. 定量びんの恒量測定 4. 脂肪の抽出	○			
15・16	食品中の粗脂肪の定量 (その2)	1. 脂肪の恒量測定 2. 計算	○			
17・18	食品成分の分離 (その1)	1. 小麦粉からのデンプンとグルテンの分離	○			
19・20	食品成分の分離 (その2)	1. グリアジンの分離 2. グルテニンの分離	○			
21・22	タンパク定量	1. ローリー法 2. 計算 3. 総括	○			
23	総まとめ	1. まとめの講義 2. 質問受付				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書：食品学実験書(第3版) 藤田修三・山田和彦 編 医歯薬出版 食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フードスペシャリスト協会 建帛社 * 単元ごとに詳細を板書する						
準備学習・事後学習						
準備および事後学習：各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。なお本授業科目は、評価に占めるレポート点の比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
レポート 60% 平常点(取り組み姿勢、発言を含む) 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、よく理解している。					
A	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、理解している。					
B	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、基本的知識を理解している。					
C	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、最低限の知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品衛生学実験 [Experiments in Food Hygiene]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・アクティブ・ラーニング		岡崎 英規		N-S4047		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	細菌検査	食品衛生学で学んだ内容について、実体験により知識を深める。 微生物に関する基礎的実験により、普段は見えない微生物がとても身近なものであること、どのような特徴があるのか体験する。				
2	鮮度判定					
3	衛生指標					
学習の到達目標						
食品の細菌検査法、鮮度判定など品質管理の基礎的技術を修得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション 手指の洗浄消毒効果	食品衛生学実験における諸注意 集団給食における手指の洗浄消毒効果の大切さを体得させる				○
3・4	手指の洗浄消毒効果観察 様々な消毒方法	手指の洗浄消毒効果について観察をする 様々な消毒方法や滅菌方法について学習する（遠隔）				
5・6	細菌観察	グラム染色により細菌の形態に関する知識を高める				○
7・8	生菌数の測定	市販食品を用いて、衛生指標である生菌数測定法を体得する				○
9・10	生菌数測定の観察	市販食品にはある程度の生きた細菌や芽胞が存在することや衛生指標菌について学習する				○
11・12	大腸菌群の測定	食品の衛生指標である大腸菌群の測定方法を体得する（遠隔）				
13・14	糞便系大腸菌群検査 ブドウ球菌検査 空中落下細菌検査 腸炎ビブリオ検査	大腸菌群の中には、糞便由来のもの環境由来のものが含まれることを理解する 各人のブドウ球菌汚染実態と検査方法を学ぶ 調理場などの環境衛生指標とされる大気中の細菌について認識する 市販魚介類を用い、身近に腸炎ビブリオがいることを認識する				○
15・16	加熱温度と生菌数	50℃から100℃まで加熱した時の生菌数の変化を観察する 加熱殺菌の意義と耐熱芽胞の存在について認識する（遠隔）				
17・18	魚介類の鮮度判定	短時間で結果の出る鮮度判定の検査法「揮発性ちっ素（VBN）測定」を体得する				○
19・20	魚介類のヒスタミン検査	アレルギー様食中毒の原因物質ヒスタミンの検査法を体得する				○
21・22	飲料水検査	水道水の塩素濃度を測定し、安全性の確認方法を体得する				○
23	まとめ	本実験の総まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：食品衛生学実験ノート 岡崎、浅香 著 参考図書：食品衛生検査指針 微生物編・理化学編 2015 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% レポート提出状況 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の様々な知識を積極的に取り組み習得している。					
A	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を積極的に取り組み習得している。					
B	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を習得している。					
C	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を最低限習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	社会福祉概論 [Social Security Schemes]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・アクティブ・ラーニング	林 和秀		国	N-S2048		
この授業に関する資格						
栄養士免許、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会福祉	本授業では、人間の尊厳をキーワードに「社会福祉」の価値や意義、社会保障の基本的な制度である社会保険・公的扶助・社会福祉（制度）を、講義を通して学ぶ。また、制度や施策と合わせて具体的な社会問題について授業で取り上げる。授業を通して、自分なりの考えを持つことを重視する。				
2	社会保障					
3	人間の尊厳					
学習の到達目標						
①社会福祉の歴史を学び、その現状と意義を理解する。②社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉）のおおよその仕組みを理解する。③社会問題（障害者差別、児童虐待、健康格差等）の実態について認識する。④「人間の尊厳」について、自分なりの考えを持つ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	イントロダクション	栄養を学ぶ学生が社会福祉を学ぶ意味を考える。授業計画・概要、評価方法を確認する				
2	社会福祉とは何か	社会福祉の意味と対象について、用語の整理と社会福祉の歴史的な流れを学び、考える				
3	日本の社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史を学び、人間の尊厳や現代の社会福祉への理解を深める				
4	私たちの生活と社会保障	私たちの生活を支える仕組みとしての、日本の社会保障の全体像を知る				
5	少子高齢社会と年金保険	日本社会の現状を認識するとともに、日本の年金保険制度の仕組みを理解する				
6	医療福祉と医療保険	日本の医療保険制度および、医療福祉に関する課題や専門職について学ぶ				
7	高齢者福祉と介護保険①	高齢者を取り巻く状況と課題について認識し、介護保険制度の概要を学ぶ				
8	高齢者福祉と介護保険②	ケアマネジメント及び在宅や施設の介護現場の現状と課題について学ぶ				
9	公的扶助	生活保護制度の仕組みと課題について学ぶ				
10	児童家庭福祉	子どもや子育てを支援する施策と課題について学ぶ				
11	障害者福祉	障害のある人の生活を支援する施策と課題について学ぶ				
12	グループワーク①	関心のある社会課題について、グループごとに調べ、自分たちの意見をまとめる				○
13	グループワーク②	グループごとに発表をし、質疑応答を行う。				○
14	これからの社会福祉	最新の社会福祉に関連する施策や事柄について学び、これからの社会福祉について考える				
15	まとめ・総括	授業の振り返りと総括を行う				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：①岩松珠美・三谷嘉明編『5訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』みらい、2019年②鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』講談社、2018年						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：シラバスのテーマに該当する内容について自分なりに調べること。 事後学習（週1.5時間）：各回で配布する授業の資料を再度熟読し、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
リアクションペーパーに対して授業内での返答を行う。グループワークについて、発表時の講評及び書面にコメントをフィードバックする。メール、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
期末筆記試験 60% 毎授業のリアクションペーパー20% グループワークでの態度 20%						
※講義および相互学習形式の授業である。授業中にスマホを利用する、私語や他用を行う、授業やグループワークの進行に加わらない、などの態度は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会保障・社会福祉に関する時事問題を批判的に検討し、今後の展望および自分なりの案を考えることができる。					
A	広く社会保障・社会福祉制度の仕組みを理解し、それぞれの日本の社会問題について自分なりに課題を検討できる。					
B	日本の一つの社会問題について関連する社会保障と社会福祉の制度を理解し、自分なりに課題を検討できる					
C	「人間の尊厳」について、自分なりの考えを持つことが出来ている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論2 [Nutrition Education 2]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S3049		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ライフステージ	栄養指導論1を基に、ライフステージ・ライフスタイル別に、それぞれの特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を理解し、指導方法を学ぶ。また食環境や国際的動向についても学ぶ。				
2	ライフスタイル					
3	疾病の予防と治療					
学習の到達目標						
ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を知り、対象者を考慮した指導方法を身に付ける。様々な環境に対応できるような知識・技術を学び、実践できる応用力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	災害時における栄養士の役割	災害時における栄養士の役割と栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
2	ライフステージ別栄養指導（1）	妊娠・授乳期の特性に基づく栄養の指導についてと女性の権利について学ぶ（遠隔）				○
3	ライフステージ別栄養指導（2）	乳児期（離乳の支援などを含む）の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
4	ライフステージ別栄養指導（3）	幼児期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
5	ライフステージ別栄養指導（4）	学童期の特性に基づく栄養の指導と学校に基づく食育の取り組みについて学ぶ（遠隔）				○
6	ライフステージ別栄養指導（5）	思春期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
7	ライフステージ別栄養指導（6）	成人期・更年期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
8	ライフステージ別栄養指導（7）	高齢期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
9	障がい者の栄養教育	障がい者などの特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				○
10	食物アレルギーと栄養指導	食物アレルギーの概要と食物アレルギーの栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
11	生活習慣病と栄養指導	メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防・治療と栄養の教育（特定保健指導も含む）について学ぶ（遠隔）				
12	運動・休養・睡眠と栄養指導	運動・休養・睡眠の指針と栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
13	食環境づくりにおける栄養指導	食環境づくりにおける栄養教育（食物・情報へのアクセス面での栄養指導）を学ぶ（遠隔）				
14	国際栄養の理解	国際栄養施策、諸外国の取り組み（SDGs、ハラール、ビーガンなど）を学ぶ（遠隔）				
15	まとめ・振り返り	栄養指導のまとめ（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020年版、「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおく。必要な資料を検索しておく。 事後学習（週1.5時間）：毎回授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、授業の内容をまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業の振り返りの小テストの解答を解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験60%、授業の積極的な参加と小テスト40%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点をよく理解し、対象者に適切な指導方法を十分に習得している。					
A	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点を理解し、対象者への適切な指導方法を習得している。					
B	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導方法をよく理解している。					
C	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点と対象者への指導を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	栄養指導論実習 [Practice in Nutrition Education ]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・演習・ アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S5050		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	PDCA サイクル	「栄養指導論1・2」を基に PDCA サイクルに基づいた計画が立てられる。食生活実態や栄養状態等の情報収集し、栄養アセスメントから栄養評価まで行い、正しい食生活について検討する。ライフステージ別の対象者に対する指導計画作成方法、実施方法、教材作成の方法、およびそれらの評価方法などについて学ぶ。				
2	栄養指導計画					
3	栄養アセスメント					
学習の到達目標						
栄養指導を行うために必要なアセスメントの方法と評価を理解し、実践できる。また、栄養アセスメントの結果から分析し、対象者の問題改善、行動変容を促す栄養指導計画を立て、指導し、指導評価が出来る。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	栄養アセスメント①	栄養アセスメント(食事・生活活動・その他)				○
3・4	栄養アセスメント②	アセスメント結果より食生活の問題把握				○
5・6	栄養アセスメントによる目標設定	問題点の改善を考察し、目標を設定する				○
7・8	指導案作成 (1)	ライフステージ別対象者の特性把握のための情報収集と目標の設定				○
9・10	指導案作成 (2)	カリキュラム・栄養指導計画 (6W1H) の立案				○
11・12	献立作成	栄養指導計画に沿った栄養補給計画 (献立作成) の立案				○
13・14	学習指導案作成	学習指導案の作成				○
15・16	教材・媒体づくり	学習指導案に基づく教材・媒体作成				○
17・18	栄養指導の実施 (1)	グループ毎の栄養指導実施 (ロールプレイング) とその評価①				○
19・20	栄養指導の改善	評価をもとに計画・学習指導案の見直し・改善				○
21・22	栄養指導の実施 (2)	グループ毎の栄養指導実施 (ロールプレイング) とその評価②				○
23	栄養指導の評価	栄養アセスメントと指導計画・実施後の評価と改善およびまとめ				○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論実習・演習 岡崎光子編集 光生館 栄養教育論 第2版 光生館 参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版部 ・ 日本人の食事摂取基準 2020年版						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習前に指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。実習に必要な情報を収集しておく。 事後学習：実習後のレポートをまとめておく。実習後にグループでの進捗状況を把握しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートは返却時にコメントを記入する。ロールプレイングは実施後にコメントをする。						
成績評価の目安と方法						
レポートの提出状況と内容で 50%、グループ学習で取り組み方 (授業への意欲・態度・姿勢) で 30%、ロールプレイング 20%として、総合的に評価する。欠席・遅刻は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。栄養補給の計画が出来る。					
A	栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。					
B	栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、実践的な指導計画を立て、指導が出来る。					
C	栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、指導計画を立て、指導が出来る。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食経営実習 [Food Service Management Practical]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S4051		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	献立作成	栄養計画から給食提供までに必要となる業務、書類作成について網羅的に学ぶことで、給食提供に関する一連の流れを理解する。				
2	栄養計算					
3	給食管理計画					
学習の到達目標						
1. 献立作成に必要な栄養価計算、廃棄率の計算等について理解し、実際の書類作成に応用できる。						
2. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立を立案できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	給食管理計画	給食管理の目的				
3・4	栄養計画	日本人の食事摂取基準、栄養計画の立案方法				
5・6	献立計画 1	献立作成における基礎知識（食品成分表、料理様式、調味、彩り、旬、行事食など）				
7・8	献立計画 2	週間献立計画と週間献立表の作成				○
9・10	献立作成 1	献立作成（PFC 比率から食材重量の目安を算出）				○
11・12	献立作成 2	献立作成（食品成分表の活用）				○
13・14	献立作成 3	献立作成（食材の適切な量を知る）				○
15・16	献立作成 4	献立作成（調味パーセントの計算）				○
17・18	献立作成 5	献立作成（栄養価調整のコツ）				○
19・20	給食実習室使用のルール	給食施設の衛生管理の実際、給食設備・機器の使用方法を学ぶ				
21・22	作業工程表	作業工程表の作成				○
23	発注書	発注書の作成				○
試験等	課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。「大量調理衛生管理マニュアル」について、復習しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 1 [Food Service Management Practical 1]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・実習・アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S4052		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	衛生管理	給食経営実習で学んだことを踏まえた上で、給食提供に関する一連の作業を繰り返し行い、給食管理業務に対する理解を深める。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。				
2	給食管理					
3	集団給食					
学習の到達目標						
1. 授業で設定した給食計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。						
2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション	授業概要の説明・グループ分け				
3・4	実習の準備	予定献立の最終チェック、発注書・レシピ・作業指示表・作業工程表の作成				○
5・6	演習・実習 1	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
7・8	演習・実習 2	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
9・10	演習・実習 3	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
11・12	演習・実習 4	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
13・14	演習・実習 5	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
15・16	演習・実習 6	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
17・18	演習・実習 7	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
19・20	演習・実習 8	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○	
21・22	給食の事務管理	実施献立等の作成				○
23	献立作成ソフト	献立作成ソフトの使用方法				○
試験等	課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある(栄養士担当学生のみ)。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 2 [Food Service Management Practical 2]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
演習・実習・アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S5053		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	衛生管理	給食経営実習・給食管理実習 1 で学んだことを踏まえた上で、引き続き、給食提供に関する一連の業務を繰り返し行い、実践力の向上を目指す。栄養士業務のみならず、調理従事者への調理・衛生指導についても積極的に行ってもらおう。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。				
2	管理運営					
3	集団給食					
学習の到達目標						
1. 授業で設定した給食計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。 2. 調理従事者への指導・衛生管理を適切に行える。 3. 大量調理のレシピ・作業工程などの指示書の内容を把握し、給食業務を的確に実施できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	実習の準備	予定献立の最終チェック、発注書・レシピ・作業指示表・作業工程表の作成				○
3・4	演習・実習 1	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
5・6	演習・実習 2	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
7・8	演習・実習 3	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
9・10	演習・実習 4	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
11・12	演習・実習 5	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
13・14	演習・実習 6	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
15・16	演習・実習 7	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
17・18	演習・実習 8	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
19・20	演習・実習 9	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)			○
21・22	給食の事務管理 1	給食アンケート結果の集計・考察				○
23	給食の事務管理 2	給食実施の反省点、改善点の検討				○
試験等	課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：「八訂 食品成分表 2021」女子栄養大学出版社 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある(栄養士担当学生のみ)。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習3 [Food Service Management Practical 3]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
校外実習・アクティブ・ラーニング	菊地 亨		国	N-S5054		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	校外実習	指定した特定給食施設において、所属の栄養士から指導を受ける実習である（5日間、45時間）。 学内では事前指導、事後指導および報告会を行う。				
2	栄養士					
3	実践					
学習の到達目標						
1. 栄養士という職業について理解を深める（具体的に説明できるようになる）。 2. 社会と関わる上での責任感・行動力の重要性を知る。						
回	テーマ	授業内容				AL
1～2	校外実習報告会	校外実習報告会への参加（1年次）				○
3	校外実習セミナー	現場で働く栄養士による特別講義(施設の概要、栄養士業務、心構え等)				
4	校外実習事前ガイダンス	校外実習事前準備(書類作成)				
5	校外実習事前ガイダンス	校外実習事前準備・心構え(ノート作成等)				
6～22	校外実習 (各実習施設)	(学習内容) ・給食の概要を知る ・業務の内容を知る ・現場作業・施設設備及び衛生管理の実際を知る ・栄養士の業務の概要を知る ・給食の運営・喫食者の意見を知る ・グループで課題を設定する ・実習日誌の記録 ・感想及び反省 ・レポートの作成				
23	校外実習報告会	校外実習終了後、グループごとに報告				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：校外実習ノート						
準備学習・事後学習						
準備学習：各実習施設について事前に学習し、実習課題を決定しておく。校外実習前に実施するセミナーやガイダンス等で学んだ内容を再度確認する。学外実習という認識を持ち、十分な体調管理を心掛けておく。 事後学習：実習を振り返り、今後栄養士として、どのような事が必要かまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された校外実習ノートを添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100%（校外実習先担当者による評価 50%・本学担当教員による評価 50%） 理由のない事前ガイダンス等の欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	調理学実習 1 [Food Preparation 1]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング	小板 由美子			N-S4055		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	基本調理	日常の日本料理の献立を中心に前半は非加熱調理操作（切り方、和え方など）、加熱調理操作（ゆで方、煮方、焼き方など）を組み合わせることで実習すると同時に作業効率を高めるための作業動線を理解させる。				
2	湿式・乾式加熱法					
3	日本の供応食					
学習の到達目標						
調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な日本料理が作れるような応用力を身に付けることを目標にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	調理学実習 1 総論	調理学実習の目的、調理と衛生（身支度含む）、味覚テスト、アレルギーアンケート。				○
3・4	包丁法の理論	包丁の種類と用途、扱い方の理論について学習する。（遠隔）				
5・6	包丁法の実習・切り方	包丁の種類と用途、扱い方の実習。動植物食品から数種選び切り方について実習を行う。				○
7・8	調理材料の前処理法	前処理としての灰汁抜きの方法について学習する。作業動線についての学習開始。（遠隔）				
9・10	調理材料の前処理法	前処理としての灰汁抜きの方法及び湿式加熱法：茹で方、だしの種類と取り方を学習する。				○
11・12	非加熱調理	和え方・寄せ方の種類と利用法の理論について学習する。（遠隔）				
13・14	非加熱調理	和え方・寄せ方を中心に実習。調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する。				○
15・16	加熱調理・湿式加熱	煮方・炊き方の種類の理論について学習する。（遠隔）				
17・18	加熱調理・湿式加熱	煮方・炊き方を中心に実習。調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する。				○
19・20	加熱調理・乾式加熱	揚げ方・炒め方の種類の理論について学習する。（遠隔）				
21～22	加熱調理・乾式加熱	揚げ方・炒め方を中心に実習。調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する。				○
23	調理学実習 1 のまとめ	調理法のまとめ及びポートフォリオ作成の解説、栄養価計算、調味パーセントの計算。（遠隔）				
試験等	レポート課題（栄養価計算、調味パーセントの計算）					
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の目安と方法						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）50% 単元のレポート30% ポートフォリオ20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。					
A	基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	基本調理の理論について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		調理学実習 2 [Food Preparation 2]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子			N-S4056	
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	1 応給食	前半、日本料理（応給食）についての理論と実習を行う。後半は世界三大様式別料理のうち、中国料理について正餐の献立構成に従っての理論と実習、また、学外において日本料理の理論を駆使した食卓作法を体験学習する。				
2	2 本膳料理					
3	3 中国四大料理					
学習の到達目標						
前半は応給食としての応給食としての日本料理を学習し、合わせて作業効率を高めるための作業動線を理解させる。後半は中国料理の理論（献立論含む）と正しい調理技術の習得および食材の理解を目指し、応用献立に発展するように進める。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	日本料理	日本料理の種類と歴史について学習する（遠隔）				
3・4	応給食	本膳料理の理論と献立構成について学習する（遠隔）				
5・6	応給食	本膳料理の献立実習について学習する				○
7・8	中国料理総論中国料理①	中国料理総論と湯菜の理論 東方系の料理の特徴（遠隔）				
9・10	中国料理総論中国料理①	中国料理総論と湯菜の実習 東方系の料理の特徴				○
11・12	中国料理②	炒菜・煎菜の理論 南方系の料理の特徴（遠隔）				
13・14	中国料理②	炒菜・煎菜の実習 南方系の料理の特徴				○
15・16	中国料理③	搾菜・蒸菜の理論 西方系の料理の特徴（遠隔）				
17・18	中国料理③	搾菜・蒸菜の実習 西方系の料理の特徴				○
19・20	中国料理④	前菜・煨菜の理論 北方系の料理の特徴（遠隔）				
21～22	中国料理④	前菜・煨菜の実習 北方系の料理の特徴				○
23	中国料理まとめ	調理法のまとめ及び大量調理への応用献立の実践可食部と廃棄率 課題調理及び提出				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇・中国料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。 技術的な部分は自己研鑽をつみ、グループにおける連携を築くことが望まれる。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の目安と方法						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）50% 単元のレポート30% ポートフォリオ20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。					
A	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	調理学実習 3 [Food Preparation 3]	1			
授業形態	担当教員名			科目コード	
実習・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-S5057	
この授業に関する資格					
栄養士免許、フードスペシャリスト					
この授業のキーワード		授業概要			
1	西洋料理	西洋料理の献立構成（オードブル、ポタージュなど）に従って実習を行う。また、今まで実習した内容及び行事食（クリスマス料理）をビュッフェスタイルへと展開する。調理学実験として、食品の調理上での特性の把握や食品の鑑別法（食品物性・官能評価）を学習する。			
2	行事食				
3	官能評価				
学習の到達目標					
前半は西洋料理の理論と実習。後半は実習 1、2 で学習した食品の調理上での変化や新しい食品開発を踏まえた上での調理科学的な事象の探求、動植物性食品の鑑別を行いながら知識を深めることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1・2	西洋料理①	西洋料理総論、フォンとソースの理論			
3・4	西洋料理①	西洋料理総論、フォンとソースの実習	○		
5・6	西洋料理②	前菜・スープ・魚介類の理論			
7・8	西洋料理②	前菜・スープ・魚介類の実習	○		
9・10	西洋料理③	獣鳥肉料理・野菜サラダの理論・行事食（クリスマス料理含む）			
11・12	西洋料理③	獣鳥肉料理・野菜サラダの理論・行事食（クリスマス料理含む）	○		
13・14	調理学実験①	マイクロ波加熱の理論			
15・16	調理学実験①	マイクロ波加熱の実験	○		
17・18	調理学実験②	官能評価①②			
19・20	調理学実験②	官能評価①②	○		
21・22	調理学実験③	動植物性食品の調理上の特性			
23~24	調理学実験③	動植物性食品の調理上の特性	○		
試験等					
教科書及び参考図書					
教科書：応用自在な調理の基礎（西洋料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 身近な調理の科学実験 長野・永島他著 地人書館 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部					
準備学習・事後学習					
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。 西洋料理、調理学実験、テーブルマナー等、総仕上げとなる実習である。調理工程作業、調理技術の最終確認が必要である。					
課題に対するフィードバックの方法					
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。					
成績評価の目安と方法					
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）50% 単元のレポート30% ポートフォリオ20%					
評価	成績評価別の到達度				
S	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。				
A	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。				
B	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。				
C	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。				

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	分野別栄養実践実習 [Practice of Nutritional Field]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング	健康栄養専攻 教員			N-S5058		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養士業務	これまでに学習した栄養士業務に関して、実習面での学び直しにより、実践力を養う。 就職先毎の実習を行い、様々な栄養士業務に対応する能力を高める。				
2	就職					
3	スキルアップ					
学習の到達目標						
栄養士としての専門性に関する意識を高め、就職に備えた技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ~ 15	1.ガイダンス 1	ガイダンス、受講上の注意、希望調査（調理技術、献立作成、PC、基礎実験）				○
	2.ガイダンス 2	希望調査結果、スケジュール				
	3.調理 1	切り方 1				
	4.調理 2	切り方 2				
	5.調理 3	基礎調理 1				
	6.調理 4	基礎調理 2				
	7.調理 5	基礎調理 3				
	8.調理 6	基礎調理 4				
	9.PC1	PCスキルアップ 1				
	10.PC2	PCスキルアップ 2				
	11.PC3	PCスキルアップ 3				
	12.調理 7	臨床調理 1				
	13.調理 8	臨床調理 2				
	14.調理 9	調理まとめ 1				
	15.調理 10	調理まとめ 2				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：なし（適宜プリント配布） 参考図書：献立作成マニュアル、八訂 食品成分表 2021、日本人の食事摂取基準 2020 年版 他						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回行う実習について、目的や作業について理解しておく。 事後学習：出来なかったことや、理解できなかったことについて会得する。						
課題に対するフィードバックの方法						
添削した課題を返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 80% 提出物 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	積極的に実習へ参加し、十分に理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。					
A	積極的に実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。					
B	実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力をやや身に付けている。					
C	実習へ参加し、理解や技術を深め、一定の能力を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	フーズスペシャリスト論 [Theory of Food Specialist]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	茗荷 尚史			N-S2059		
この授業に関する資格						
フーズスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食の専門職	食品(食べ物)に関する資格制度、フーズスペシャリストとしての役割、人類と食物の歩み、世界の食と日本の食、現代日本の食生活、環境と食の問題、食品産業の種類と役割、様々な食に関する法律と食の品質の見方、および食情報のとらえ方や消費者の保護の制度などを述べる。				
2	世界と日本の食					
3	食品産業と品質規格					
学習の到達目標						
専門職であるフーズスペシャリストとしての責務と活躍の場を認識させることを目標とする。現代の日本と世界を取り巻く食環境の中で、安全で豊かな食生活・食文化を推進する役目を担う立場や生産者（加工を含む）と消費者の間を取り持つ役割の魅力について学んでいく。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	フーズスペシャリストとは	1.食とは何か 2.専門職の成立 3.食の専門職の現状 (遠隔)				
2	フーズスペシャリストとは	1.フーズスペシャリストの概念・業務とその専門性、養成と資格、活躍の分野 2.食育活動 (遠隔)				
3	人類と食物	1.人類の歩みと食物の関係 2.食品の加工・保存技術の歴史 (遠隔)				
4	世界の食	1.食作法の文化 2.手食、箸食、ナイフ・フォーク・スプーン食 3.食の禁忌、世界の食事情 (遠隔)				
5	日本の食	1.日本食物の歴史 2.食の地域差、郷土食 (遠隔)				
6	現代日本の食生活①	1.戦後の食生活の変化 2.食生活の現状と消費生活 (遠隔)				
7	現代日本の食生活②	1.食生活の変化と食産業 2.食料の供給と自給率 3.環境と食、フードマイルージなど (遠隔)				
8	食品産業の役割①	1.フードシステムと食品産業 2.食品製造業の目的と特徴・規模と動向 (遠隔)				
9	食品産業の役割②	1.食品卸売業、食品小売業の種類と役割 2.外食産業の特徴・動向 (遠隔)				
10	食品品質規格と表示	1.食品の品質規格と表示にかかわる法律 2.JAS 法による規格と表示 3.食品衛生法による表示 (遠隔)				
11	食品品質規格と表示	1.健康増進法による表示 2.景品表示法 3.計量法、コーデックス規格など (遠隔)				
12	食品品質規格と表示	1.食品の品質規格の現状と問題点 2.消費者庁の業務など (遠隔)				
13	食情報と消費者保護	1.食情報の発信と受容 (インターネット情報など) 2.食情報の濫用 (遠隔)				
14	食情報と消費者保護	1.食品の静電管理(トレーサビリティ等) 2.食品の安全 3.消費者保護の制度(国民生活センター等) (遠隔)				
15	まとめ	1.フーズスペシャリスト論のまとめ (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：フーズスペシャリスト論（四訂・第6版）日本フーズスペシャリスト協会編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に提示するテキストの内容を熟読し、質問項目を考えてくる。						
事後学習（週 1.5 時間）：授業後に内容をきちんとノートに整理する。特に食のキーワード、年号毎の出来事や法律の内容を理解する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点（小テスト、発言、態度を含む） 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	フーズスペシャリスト論の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	フーズスペシャリスト論の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	フーズスペシャリスト論の内容をほぼ理解している。					
C	フーズスペシャリスト論の内容を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食料経済 [Food Economics]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小川 真如			N-S3060		
この授業に関する資格						
フーズスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食市場	教科書よりも若干幅を広げ、日本の食料生産やマスコミなどで取り上げられているトピックスも紹介しながら講義をする。				
2	食品流通					
3	食生活					
学習の到達目標						
食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識の修得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食市場の変化 1	高度経済成長期以降の食市場の変化について、社会背景を踏まえて解説する				○
2	食市場の変化 2	食市場に関連した食品消費および食生活の変化について解説する				○
3	食品流通の概要 1	食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する				○
4	食品流通の概要 2	食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する				○
5	食品流通の概要 2	食品の小売流通（無店舗販売）の概要について解説する				○
6	食品流通の概要 4	生鮮食品の卸売流通の概要について解説する				○
7	食品流通の概要 5	加工食品の卸売流通の概要について解説する				○
8	外食産業のマーチャンダイジング	外食産業のマーチャンダイジングについて解説する				○
9	中食産業のマーチャンダイジング	中食産業のマーチャンダイジングについて解説する				○
10	主要食品の流通 1	主要な生鮮食品等の流通について解説する				○
11	主要食品の流通 2	主要な加工食品の流通について解説する				○
12	フードマーケティング	フードマーケティングの基礎的な考え方について解説する				○
13	食料消費の課題 1	食に関連した環境問題について解説する				○
14	食品消費の課題 2	食に関連した安全確保等の問題について解説する				○
15	まとめ	関連統計・資料の解説および授業の総括を実施する				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書：日本フーズスペシャリスト協会編 改訂版『三訂 食品の消費と流通』建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 食品消費や食品流通に関する話題や情報を、新聞やネットニュース、テレビなどを通じて意識して収集する。 事後学習（週 1.5 時間）： 各回で行うディスカッションや確認問題の内容について、わからなかった内容を調べておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、各回講義にて確認問題を実施して解答を解説するほか、ディスカッションにて補足・解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート課題 70% 授業への参加度 30% として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を十分に理解している。					
A	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をよく理解している。					
B	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を理解している。					
C	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をある程度は理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		フードコーディネート論 [Theory of Food Coordinate]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義（演習を含む）・アクティブ・ラーニング		小河原 佳子			N-S3061	
この授業に関する資格						
フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アメニティ・ホスピタリティ	フードコーディネートの基礎理論、現代の食事文化と課題、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、フードサービスマネジメントなどを講述などした後、フードスペシャリストとしてのフードサービスマネジメントまたはテーブルセッティングなどの実習・演習を行う。				
2	フードマネージメント					
3	テーブルコーディネート					
学習の到達目標						
食事を提供する時、単においしいものを出すだけでなく、食空間（環境）が充実し、サービスも最良で、人と人が心豊かに食事ができきる要素も重要である。フードコーディネートのターゲットは食のアメニティの創造とホスピタリティを持つことであり、講義のほかに演習を組み合わせることで実践できることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	フードコーディネートの基本理念	フードコーディネートの基本理念としておいしさの本質、おもてなしとアメニティ、ホスピタリティの概念を学ぶ				
2	食事の文化	世界（日本・諸外国）の食事文化の実際、現代日本の食事文化の創造と変容など				
3	食卓のコーディネート①	食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（日本料理と中国料理）	○			
4	食卓のコーディネート②	食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（西洋料理）	○			
5	食卓のサービスとマナー①	食卓のホスピタリティ、サービスとマナーの実際、食事マナーの伝承と現代的課題などを学ぶ（日本中国料理）				
6	食卓のサービスとマナー②	食卓のホスピタリティ、サービスとマナーの実際、食事マナーの伝承と現代的課題などを学ぶ（西洋料理）	○			
7	メニュープランニング	メニュープランニングの基本を学ぶ（要件、配慮など）料理様式別の創造と変容など				
8	食空間のコーディネート	食事空間およびキッチンのコーディネートや環境について学ぶ				
9	フードサービスマネージメント	フードマネージメントの概念と事業の構想（計画立案、遂行、展開）を学ぶ				
10	食企画の実践コーディネート	現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて学ぶ				
11	まとめ①	過去問を解説しながら1～4章の内容とキーワードを整理する				
12	まとめ②	過去問を解説しながら5～8章の内容とキーワードを整理する				
13	フードコーディネートの企画①（演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習・実習を行う（企画書作成など）	○			
14	フードコーディネートの企画②（演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習・実習を行う（企画書作成など）	○			
15	フードコーディネートの企画③（演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案の発表・実施	○			
試験等	筆記試験・演習・実習のレポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：三訂フードコーディネート論 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他・プリントなど						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。演習・実習の資料収集						
事後学習（週 1.5 時間）：キーワードなどをまとめておくこと。資格試験過去問題集の該当箇所を解いておくこと。演習・実習のまとめ						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。授業の始めに前回の授業内容の確認プリントを解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%、演習・実習の取り組みおよびレポートなど 30%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	フードコーディネートの理論を大変良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を十分に身に付けている。					
A	フードコーディネートの理論を良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を身に付けている。					
B	フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネートの企画力を身に付け、実践について理解している。					
C	フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネートの企画・実践力について理解している					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養基礎演習 [Basic Seminar for Nutritionists]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習・ アクティブ・ラーニング		茗荷 尚史			N-S4063	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	基礎学力	1、2 回目はガイダンスを行うが、3 回目以降は基本的に練習問題を解くこと等の作業を含む講義・演習を行う。各分野の講義終了後にはまとめおよび習熟度確認のための小テストを行って知識の定着を図っていく。 基礎学力に不安を抱える学生は、自分のために開講される授業科目であると認識して、積極的に参加するよう心がけて欲しい。				
2	初年次導入教育					
3	栄養士教育					
学習の到達目標						
栄養士課程における専門教育は、小・中学校および高等学校における教育内容を基礎に展開される。すなわち確たる基礎が築かれていなければ、より高度な内容を理解することは困難であり、本授業科目は基礎力を徹底的に補填することを目的とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス その1	講義を受ける心構え、ノート作成・定期試験対策勉強の実習 (遠隔)				○
2	ガイダンス その2	栄養士・管理栄養士の仕事(教科書 p.2~12) (遠隔)				
3	専門教育に必要な基礎 数学 その1	四則演算(計算順序、括弧を含む式)、概算、小数(四則演算後の位取り)、分数の計算 (遠隔)				○
4	専門教育に必要な基礎 数学 その2	数値処理(切り上げ、切り捨て、四捨五入、有効数字、平均) (遠隔)				○
5	専門教育に必要な基礎 数学 その3	容積・重量の単位(k, d, m, μ, n)、比重、溶質と溶媒、指数、計算機の使い方(教科書 p.95) (遠隔)				○
6	専門教育に必要な基礎 数学 その4	割合・百分率の計算、ドリル (遠隔)				○
7	小括1 (含小テスト)	数学分野のまとめ (遠隔)				
8	専門教育に必要な基礎 生物 その1	細胞の構造、オルガネラの種類と機能 (遠隔)				○
9	専門教育に必要な基礎 生物 その2	消化器系および泌尿器系臓器とその機能(教科書 p.46~51) (遠隔)				○
10	専門教育に必要な基礎 生物 その3	代表的な消化酵素とホルモン(教科書 p.52~56) (遠隔)				○
11	小括2 (含小テスト)	生物分野のまとめ (遠隔)				
12	専門教育に必要な基礎 化学 その1	元素記号と周期律表、原子の構造(陽子、電子、中性子、オービタル)(参考図書 p.5~15) (遠隔)				○
13	専門教育に必要な基礎 化学 その2	化学結合(参考図書 p.16~25)、水素イオン濃度(pH)、簡単な官能基 (遠隔)				○
14	専門教育に必要な基礎 化学 その3	分子量とモルの概念、濃度(重量%、モル濃度、規定度)(参考図書 p.37~42) (遠隔)				○
15	小括3 (含小テスト)	化学分野のまとめ (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 小野 章史 編著 第一出版 参考図書：管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル 小野廣紀ら著 化学同人 基礎からのやさしい化学 -ヒトの健康と栄養を学ぶために- 田島 眞 編著 建帛社 * その他単元ごとに教材となるプリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備および事後学習 (週1時間)： 授業時間外学習については、小括1、2、3までに各回に学んだ内容を、復習を中心としてよく勉強しておくこと。小括毎に小テストを実施する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テスト解説、ドリル採点 (完全解答まで) を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 60% 平常点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、よく理解できることを目標とする。					
A	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、概ね理解できることを目標とする。					
B	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、一応理解できることを目標とする。					
C	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、最低限理解できることを目標とする。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	製菓演習 [Pastry Preparation]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習(集中)・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-S4055		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	計量と構成	ここでは給食管理実習や調理学実習で扱うデザートに役立てる基礎として、西洋における製菓(アントルメ)の演習を行う。				
2	パティスリー					
3	アントルメ					
学習の到達目標						
デザートに役立てる基礎としての西洋における製菓(アントルメ)を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	西洋の製菓の総論(種類)	温菓、冷菓、凍菓の分類、砂糖の調理特性				○
2	パティスリー(1)	焼き菓子(基本) スポンジケーキ				○
3	パティスリー(2)	焼き菓子(基本) クッキー、サブレ等				○
4	パティスリー(3)	焼き菓子(応用) フィナンシェ、ティグレ				○
5	パティスリー(4)	発酵生地を使って(カルツォーネ等)				○
6	チョコレート菓子	チョコレートケーキ、マンディアン				○
7	ゼリー類	ババロア、ムース、プディング等				○
8	盛り付け法、まとめ	フルーツのカット法、盛り付け法、まとめ				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
プリント・資料等を適宜配布。 参考図書：新版 お菓子「こつ」の科学 お菓子作りの「なぜ？」に答える 河田昌子 著 柴田書店						
準備学習・事後学習						
準備学習(週 1.5 時間)：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習(週 1.5 時間)：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。						
成績評価の目安と方法						
実習後レポートの提出 評価：日常の実習態度(身支度、実習準備・片づけなど) 50% 単元のレポート 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	西洋における製菓(アントルメ及びパティスリー)の基礎知識と基礎技術を十分に理解している。					
A	西洋における製菓(アントルメ及びパティスリー)の基礎知識と基礎技術をよく理解している。					
B	西洋における製菓(アントルメ及びパティスリー)の基礎知識と基礎技術を理解している。					
C	西洋における製菓(アントルメ及びパティスリー)の基礎知識と基礎技術を勉強している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		運動生理学実習 [Practice of Exercise Physiology]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一・辻 将也			NSM-S4064	
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー、 介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	生体機能測定	本科目は実習科目であり、学生諸君が互いに測定者・被測定者となり実習を進めていき、健康と運動について生理学との関連で学んでいく。実習毎にレポートの提出を予定している。 なお、本実習は、遅刻、服装などの準備をしていない学生は授業を受けることができない。				
2	体力					
3	筋出力					
学習の到達目標						
安静および運動中の生理学的変量を実際に測定することによって、運動生理学の知識を実際確認すること、その測定方法を体得・理解することを本実習の目標としている。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	運動生理学測定の意義	運動生理学の分野の測定意義と、スポーツへの応用について解説する				
3・4	生体現象・機器	ヒトにおける生体現象の特徴を解説し、それらを測定する機器等を説明する				
5・6	体力測定	文部科学省、新体力テストの測定方法を実習し、そのデータの解釈方法を学ぶ	○			
7・8	安静代謝	ヒトのエネルギー消費量、酸素摂取量を用いて測定する	○			
9・10	まとめ1	体力テストの活用を学ぶ。安静代謝から健康について考える				
11・12	血圧	健康と血圧の関係を学習し、安静時の血圧の測定を実習する	○			
13・14	心電図	運動と心臓の動きを学習し、心臓の動きを捉える心電図の実習を行う	○			
15・16	まとめ2	循環器と健康について学ぶ				
17・18	筋電図	運動が筋の動きによって起こることを筋電図の測定によって学習する	○			
19・20	筋パワー	力とパワーの関係を知り、人体のパワー出力について学ぶ	○			
21・22	まとめ3	筋の動き、力、パワーについてまとめ、スポーツへ応用するバイオメカニクスの理解を深める				
23・24	反応時間	反射運動、随意運動について学び、スポーツと反応時間について学ぶ	○			
25・26	心拍数	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する	○			
27・28	まとめ4	運動生理学と、健康、スポーツについて学習する				
29・30	スポーツと情報	スポーツのための情報収集、活用について考える				
試験等	レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：「身体運動の生理学」猪飼道夫編 杏林書院、「コーチと選手のためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店 「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 南江堂、「スポーツ生理学」青木・佐藤・村岡編著 市村出版						
準備学習・事後学習						
準備学習： シラバス、授業中の指示に従い、あらかじめ授業内容に関するイメージを持つこと。 事後学習： 実習結果をまとめ、課題を作成すること。課題作成に当たっては、成書を調べること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業時間内に質問の時間を設けるので、その時間を活用すること。また、オフィスアワー等を中心に個別対応も準備している						
成績評価の目安と方法						
レポート90% 平常点 10% 理由のない欠席は減点とする						
評価	成績評価別の到達度					
S	理解力、考察力ともに抜群であり、運動生理学の知識を活かして問題解決を行う能力がある。					
A	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解し、これを応用する力がある。					
B	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解している。					
C	運動生理学の知識や各種測定方法を、理解・修得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ医学実習 [Practice of Sport Medicine]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・実習 アクティブ・ラーニング	高橋 琴美・小泉 和史・板橋 明・田本 育代		国	NSM-S5065		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、 スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	救急法	「命」について真剣に考え、スポーツ現場における救急対策を中心に、次の内容について実習・講義を行う。 ①一次救命処置 ②外傷等に対する予防及び応急処置 ③スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動				
2	応急処置					
3	コンディショニング					
学習の到達目標						
事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	救急法とは	救急法を学ぶ目的、一次救命処置について				○
3・4	止血法	きずの種類と止血法				○
5・6	包帯法 1	三角巾 1 枚を用いた包帯法				○
7・8	包帯法 2	三角巾 2 枚を用いた包帯法				○
9・10	固定法 1	三角巾を用いた固定法				○
11・12	固定法 2	副子を用いた固定法				○
13・14	搬送法	一人または複数名で搬送する方法				○
15・16	心肺蘇生法 1	心肺蘇生法の手順				○
17・18	心肺蘇生法 2	心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について				○
19・20	心肺蘇生法 3	乳児・幼児に対する心肺蘇生法、AED を用いた心肺蘇生法				○
21・22	応急処置	傷害発生時の応急処置、テーピング				○
23・24	コンディショニング 1	スポーツ選手のコンディショニング、コンディショニングに影響する因子				○
25・26	コンディショニング 2	アイシング・ストレッチング				○
27・28	コンディショニング 3	アンチ・ドーピング活動について				
29・30	まとめ	全体の総括				
試験等	実技試験・レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社） 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ また、プリント・資料を適宜配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。 事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認しコメントする。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% 平常点 20% レポート 10% 理由のない遅刻・欠席は減点する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	正しい救急法の知識と技術を十分に身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。					
A	正しい救急法の知識と技術を身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。					
B	正しい救急法の知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					
C	正しい救急法の基礎知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳 [Basic Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋季絵			NM-S4066		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。 水中運動指導の基礎技能を身につける。				
2	水中運動					
3	安全水泳指導法					
学習の到達目標						
健康づくり運動指導が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につけるとともに安全な水泳指導法を身につける。健康づくりのための水中運動を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成				○
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ				○
3	試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳				○
4	クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成				○
5	背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳				○
6	背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成				○
7	平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）				○
8	平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成				○
9	バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳				○
10	バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成				○
11	水中運動(1)	その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム				○
12	水中運動(2)	水中でのレジスタンストレーニング				○
13	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー				○
14	安全水泳(1)	安全な水泳指導法講義と実技練習				○
15	安全水泳(2)	子どもプール教室実習				○
試験等	実技試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解しておくこと。 事後学習：毎時限の実技到達度を完成形として、次の練習に備える。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。					
C	4泳法が泳げる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康スポーツ実習 1 [Healthy Sports Training I]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実技・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志・福島 邦男・田本 育代			NM-S4067	
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	球技	実習を通じて、自分の体力に合わせたスポーツの実施方法を知る。 【球技選択者】は、サッカーを行う。				
2	レクリエーション	【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを中心に行う。				
3	トレーニング	【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使用に慣れ、セットの組み方、指導法を身につける。 感染症予防対策から、参加人数の制限のため、レク・球技選択者とトレーニング選択者はそれぞれ、2~7 回目と8~14 回目でグループを入れ替えて実施する。				
学習の到達目標						
【球技・レクリエーション選択者】は、球技（サッカー）、レクリエーションを安全に行う知識を身につける。【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使い方を覚え、安全なトレーニング方法を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方と種目選択、各種球技のトレーニング、ウォーミングアップ、クーリングダウンについて				
2	トレーニング選択者（資格取得希望者）		球技・レクリエーション選択者			
	ウォーミングアップとクーリングダウン 1		レク コミュニケーションゲーム 1			○
3	マシントレーニング 1	マシンの使用方法	レク コミュニケーションゲーム 2			○
4	マシントレーニング 2	部位別トレーニング方法	レク インディアカ 1 ルールと基本の打ち方			○
5	フリーウエイト 1	基本と安全管理	レク インディアカ 2 グループ対抗のリーグ戦			○
6	フリーウエイト 2	部位別トレーニング方法	レク フライングディスク 1 ディスクの投げ方			○
7	サーキットトレーニング 1	マシンを使用した方法	レク フライングディスク 2 ドッジビー			○
8	ウォーミングアップとクーリングダウン 2	サッカー ボール慣れ、ドリブル				○
9	ストレッチング 1	ストレッチングの基本と原理	サッカー コントロール			○
10	ストレッチング 2	部位別ストレッチング	サッカー キック・シュート			○
11	自重トレーニング 1	自重トレーニングの基本	サッカー ミニゲーム 1			○
12	自重トレーニング 2	部位別自重トレーニング	サッカー ミニゲーム 2			○
13	サーキットトレーニング 2	自重を利用した方法	サッカー ミニゲーム 3			○
14	ジャイアントセット法を行う	各 13 回目につき レク ペタンク、サッカー ミニゲーム 4				○
15	授業のまとめ					
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人 健康・体力づくり事業財団） その他必要に応じて資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。 事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 課題・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、積極的かつ安全に実践することができる。					
A	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、安全に実践することができる。					
B	健康に対するスポーツの大切さを理解し、安全に実践することができる。					
C	健康に対するスポーツの大切さを理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康スポーツ実習 2 [Sport for health 2]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・辻 将也			NM-S5068		
この授業に関係する資格						
健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ウォーキング&ジョギング	自分の関心や能力にあった種目を選択し、基本技術を習得し、ルール、マナーを学習する。 ウォーキング&ジョギングは、ウォーキングやジョギングによる体力測定と評価、その結果を活かした運動プログラム作成を学ぶ。また、ウォーキングイベントに参加して、健康ウォーキングを実践する。				
2	バドミントン					
3	健康づくり					
学習の到達目標						
健康づくりのために必要な技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとして選択した種目を継続的に楽しむことができるようにする。健康づくりのための正しいウォーキングやジョギングの方法を学び、実習を通して各自の能力に応じた運動プログラムを作成する。						
回	ウォーキング&ジョギング (資格取得希望者)		AL	バドミントン		AL
1	ガイダンス	授業計画の作成		ガイダンス		
2	ウォーキング基礎知識	健康づくりとウォーキングの基礎知識を学ぶ		ラケットとシャトルに慣れる		○
3	ウォーキングテスト 1	自然に、やや速く、もっと速くの3段階のスピードで3分間歩行テスト	○	ストロークの基本		○
4	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践 (北向き地藏コース)	○	サービスの基本		○
5	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践 (大沼コース)	○	スマッシュの基本		○
6	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践 (松山城跡コース)	○	シングルスゲーム		○
7	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践 (市野川コース)	○	シングルス① (リーグ戦)		○
8	ルディックウォーキング 1	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	シングルス② (リーグ戦)		○
9	ルディックウォーキング 2	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	ダブルス基本練習		○
10	ルディックウォーキング 3	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	ダブルス応用練習		○
11	ジョギングの基礎知識	健康づくりとジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	○	ダブルス④ (リーグ戦)		○
12	ジョギング基礎知識	健康づくりとジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	○	技能・体力テスト		○
13	スクエアエクササイズ 1	スクエアステップエクササイズを体験する	○	ダブルス② (リーグ戦)		○
14	スクエアエクササイズ 2	スクエアステップエクササイズを体験する	○	ダブルス③ (団体戦)		○
15	まとめ	まとめ		まとめ		
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実践指導者養成テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業のキーワードに関する情報(テキスト、インターネット等)を入手し、実習に活かせるようにしておくこと。 事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自ら運動プログラムを作成し実践できるようになる。					
A	運動プログラムを工夫し実践する。					
B	運動プログラムに対する課題を見つけることができる。					
C	運動プログラムを正しく覚える。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	スポーツ心理学2 [Sport Psychology 2]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	吉川 直輝			SM-S3022		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	運動のメカニズム	運動学習、運動指導、行動変容法、リラクゼーション技法、バイオフィードバック法、注意集中技法、イメージ技法、暗示法、スポーツとあがり、あがりの対処法などについて学習する。				
2	メンタルトレーニング					
3	スポーツとあがり					
学習の到達目標						
スポーツ心理学の専門知識や技法を理解し、スポーツの実践および指導に活かせるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツ心理学2について	授業概要の説明、スポーツ心理学2で何を学ぶかなど				
2	運動のメカニズム	情報処理、スキーマ理論、運動制御など				
3	運動学習	フィードバック、練習スケジュールなど				
4	運動指導	観察学習、文脈干渉効果、集中砲と分散法など				
5	運動の制御	反応時間、予測、運動の実行など				
6	メンタルトレーニングの展開	メンタルトレーニングの展開、評価技法など				
7	行動変容法、リラクゼーション技法	行動変容法、リラクゼーション技法など				○
8	バイオフィードバック法、注意集中	バイオフィードバック法、注意集中技法など				
9	イメージ技法、暗示技法	イメージ技法、暗示技法など				
10	スポーツとあがり1	あがりの定義、競技不安、対処法など				
11	スポーツとあがり2	ルーティン、視線に着目した対処法など				
12	競技意欲、自信	競技意欲とは、自信の高め方など				
13	スポーツの精神生理学的研究	生理指標を測定する研究紹介など				
14	スポーツ傷害の心理学	心理スキルトレーニング、バーンアウトなど				
15	まとめ	スポーツ心理学2のまとめを行う				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：これから学ぶスポーツ心理学改訂版 荒木雅信編著 大修館書店						
参考図書：スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版 日本スポーツ心理学会編 大修館書店						
参考図書：スポーツ心理学事典 日本スポーツ心理学会編 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書やインターネット、配布資料などから予習しておくこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてテストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 60% 平常点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ心理学の専門知識や技法について、大変よく理解している。					
A	スポーツ心理学の専門知識や技法について、よく理解している。					
B	スポーツ心理学の専門知識や技法について、理解している。					
C	スポーツ心理学の専門知識や技法について、部分的に理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目	野外活動論 [Outdoor Activity]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	福島 邦男			SM-S2028		
この授業に関する資格						
キャンプインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	この授業では野外活動を安全に楽しむために必要な基礎的知識や指導法について学習していく。さらに、組織キャンプを中心に、野外での危険予知や危険回避の具体的方法についても学習することで、いろいろな野外活動にチャレンジできる知識を身につける。				
2	アウトドア					
3	自然体験					
学習の到達目標						
野外活動の理論的背景を理解し、自己や環境に対する応用力を身に付けることを目標とする。 なお本授業はキャンプインストラクター資格取得のための必修科目となっている。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	野外活動とは	授業概要 用語の定義と「屋外」スポーツとの違いについて (遠隔)				
2	人間と自然	自然とのかかわり 野外活動の目的と意義について (遠隔)				
3	さまざまな野外活動	野外で親しまれる、さまざまな活動について (遠隔)				
4	野外活動の基礎知識	野外活動のルールとマナー 環境への配慮について (遠隔)				
5	野外活動と健康	野外活動の健康への効果について (遠隔)				
6	基礎技術 読図	地図の種類と読図について (遠隔)				
7	基礎技術 ロープ	ロープワークの理論と実際 (遠隔)				
8	野外活動とキャンプ	キャンプの意義と目的、その歴史について (遠隔)				
9	組織キャンプ	教育キャンプについて民間団体の活動や環境教育をとりあげる (遠隔)				
10	教育キャンプ	キャンプにおけるコミュニケーションスキル (遠隔)				
11	指導者の役割と機能	キャンプを中心にした、野外活動における指導者の役割 (遠隔)				
12	水辺活動の安全管理	水辺活動中の事故を事例として (遠隔)				
13	山岳活動の安全管理	登山活動やキャンプ中の事故を事例として (遠隔)				
14	冬季活動の安全管理	冬季の活動を事例として (遠隔)				
15	まとめ	この講義で取り上げた内容のまとめと課題作成 (遠隔)				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社) 日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：授業のテーマに関する情報を新聞や雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポート (提出課題) に生かせるようにしておく。 事後学習 (週 1.5 時間)：授業の資料と返却されたミニレポートを保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、提出物の質問や感想に対するコメント等を返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外活動の理論を活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。					
A	野外活動の理論を良く理解している。					
B	野外活動の理論を理解している。					
C	野外活動の基礎的な知識を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	生涯スポーツ論 [Theory of life-long sports]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			SM-S2069		
この授業に関する資格						
障がい者初級スポーツ指導者、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ライフサイクル	エリクソンのライフサイクル論を参考に各ライフステージにおける発達課題達成のためにスポーツがどのような役割、機能を持っているか解説する。人生のそれぞれのライフステージにおいてスポーツが自己実現や健康維持、身体的発達とかがわっていることを紹介する。				
2	発達課題					
3	スポーツの機能					
学習の到達目標						
生涯スポーツの基礎的知識を理解し、健康生活への応用力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要を理解する				
2	ライフサイクル論	エリクソンのライフサイクル論の概要を理解する				○
3	乳児期とスポーツ	乳児期における発達課題と運動について理解する				
4	幼児・児童とあそび	幼児・児童の身体発達の特性について理解する				○
5	幼児・児童とスポーツ	幼児・児童の運動指導のポイントについて理解する				
6	幼児・児童のスポーツ指導	運動が苦手な幼児・児童の指導について理解する				
7	青年期とスポーツ	青年期における発達課題とスポーツについて理解する				
8	成人前期とスポーツ	成人前期における発達課題とスポーツについて理解する				
9	成人期とスポーツ	成人期における発達課題とスポーツについて理解する				
10	高齢期とスポーツ	高齢期における発達課題とスポーツについて理解する				
11	女性とスポーツ	女性特有の社会的文化的特性とスポーツについて理解する				
12	障がい者とスポーツ	障害者のスポーツのとらえ方や意義を理解する				
13	障がい者スポーツとは	障害者がスポーツを安全に行う方法や安全管理について理解する				
14	生涯スポーツ行政	行政が生涯スポーツをどのように計画し実施しているか理解する				
15	まとめ	この講義で取り上げた内容のまとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：「生涯スポーツの理論と実際」大修館書店 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎時間の資料と返却されたミニレポートは保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてミニレポートを回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 筆記試験 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	生涯スポーツの理論を活かした、健康生活への応用力を充分身に付けている。					
A	生涯スポーツの理論を良く理解している。					
B	生涯スポーツの理論を理解している。					
C	生涯スポーツの基礎的な知識を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ解剖学 1 [Functional Anatomy 1]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	SM-S2070		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	解剖学	スポーツ健康・体力づくりの指導者として必要な最低限の知識である、スポーツ解剖学について基本を学ぶことによって、外傷・障害への理解やスポーツパフォーマンスに必要な動きの理解を深めることができる。				
2	動作					
3	傷害					
学習の到達目標						
骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚える。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論（遠隔）				
2	運動器の解剖と機能概論①	体表の区分・全身の骨格と筋（遠隔）				
3	運動器の解剖と機能概論②	運動の表し方（遠隔）				○
4	運動器の解剖と機能概論③	運動器の構造と機能（遠隔）				
5	運動器の解剖と機能概論④	関節の構造と機能（遠隔）				
6	運動器の解剖と機能概論⑤	靭帯の構造と機能（遠隔）				
7	運動器の解剖と機能概論⑥	筋・腱の構造と機能（遠隔）				
8	運動器の解剖と機能概論⑦	骨格筋の神経支配（遠隔）				
9	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ（遠隔）				○
10	体幹の基礎解剖と運動①	脊柱、頸椎の運動（遠隔）				
11	体幹の基礎解剖と運動②	胸椎と胸郭、腰椎、仙椎、骨盤の運動（遠隔）				
12	上肢の基礎解剖と運動①	上肢帯、肩関節の運動（遠隔）				
13	上肢の基礎解剖と運動②	肘関節、手関節の運動（遠隔）				
14	下肢の基礎解剖と運動①	股関節、膝関節の運動（遠隔）				
15	下肢の基礎解剖と運動②	膝関節、足関節・足部の関節（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 課題提出 30% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を十分に理解している。					
A	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を理解している。					
B	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚えている。					
C	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称を覚えている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ解剖学2 [Functional Anatomy 2]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3071		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	解剖学	身体の全ての関節に関連する筋肉や靭帯について、その特性と機能を学ぶとともに、各関節の可動性とスポーツ外傷・障害との関連についての知識を学ぶ。				
2	動作					
3	外傷・障害					
学習の到達目標						
スポーツ解剖学1をベースに、関節や筋の機能についてさらに理解を深め、スポーツにおける障害や外傷についてその発生の原因などを考えられるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論				
2	機能概論①	体表区分、運動の表し方				○
3	機能概論②	運動器の構造と機能関節の構造と機能				○
4	機能概論③	腱・靭帯の機能と構造				○
5	機能概論④	骨格筋の構造と機能、神経支配				○
6	体幹の基礎解剖と外傷・障害①	脊柱・頸椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
7	体幹の基礎解剖と外傷・障害②	胸椎と胸郭・腰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
8	体幹の基礎解剖と外傷・障害③	仙椎・骨盤の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
9	上肢の基礎解剖と外傷・障害①	上肢帯・肩関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
10	上肢の基礎解剖と外傷・障害②	肘関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
11	上肢の基礎解剖と外傷・障害③	手関節・手の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
12	下肢の基礎解剖と外傷・障害①	股関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
13	下肢の基礎解剖と外傷・障害②	膝関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
14	下肢の基礎解剖と外傷・障害③	足関節・足部の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
15	確認とまとめ	これまでの学習内容に関する確認とまとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 課題提出 30% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	関節や筋の機能について十分に理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
A	関節や筋の機能について良く理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
B	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
C	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について考えることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーナー測定評価実習 [Clinical Test of Physical Strength and Fitness]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		実	S-S5072		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	選手の姿勢、アライメント、筋力、バランス、柔軟性、身体蘇生、パワー、有酸素能力などの各種測定を通しての値から読み取られる選手の弱点や問題点および強みを知ることでのトレーニングへのヒントを導き出すことが可能となる。				
2	スペシャルテスト					
3	評価					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーにとって必要とされる各種測定技法を学び、測定者としての正確な技術とその値についての分析ができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明				
2	概論	評価の目的と意義 測定項目について				
3	姿勢・身体アライメント①	姿勢・静的アライメントについて学び→測定→分析・評価				○
4	姿勢・身体アライメント②	姿勢・動的アライメントについて学び→測定→分析・評価				○
5	スポーツ動作の観察と分析①	歩行、走動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
6	スポーツ動作の観察と分析②	跳躍動作、投動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
7	スポーツ動作の観察と分析③	方向転換動作、あたり動作、押し動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
8	身体組成	身体組成、形態測定について学び→測定→分析・評価				○
9	関節弛緩性	関節弛緩性について学び→測定→分析・評価				○
10	関節可動域	関節可動域について学び→測定→分析・評価				○
11	筋タイトネス	筋タイトネスについて学び→測定→分析・評価				○
12	徒手筋力	徒手筋力について学び→測定→分析・評価				○
13	筋パワー・筋持久力	筋パワー・筋持久力について学び→測定→分析・評価				○
14	全身持久力	全身持久力について学び→測定→分析・評価				○
15	確認とまとめ	これまでに学習した内容について確認とまとめ				○
試験等	実技試験および筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 40%      筆記試験 30%      提出物 20%      平常点 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定技法を十分に習得し、正確な技術での測定実施と値についての的確な分析ができる。					
A	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定技法を習得し、正確な技術での測定実施と値についての分析ができる。					
B	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定技法を習得し、測定実施と値についての分析ができる。					
C	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定技法を習得し、測定実施ができ、値についての分析を試みることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論 (Principles of Exercise Rehabilitation)		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小島 丈治・小島 真由美		国	S-S3073		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ATとアスリハ	評価に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの手順を学び、傷害特性や競技特性に応じたプログラミング方法を身につける				
2	機能解剖・運動療法					
3	評価法					
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、評価に基づいたプログラミングの手順を身につけ、対象者に合わせたメニューを作成できるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	概要 1	アスレティックリハビリテーションの意義				○
2	概要 2	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理				○
3	運動療法 1 機能解剖学	可動域回復・拡大エクササイズ				○
4	運動療法 2 機能解剖学	神経筋協調性回復・向上エクササイズ				○
5	運動療法 3 機能解剖学	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方				○
6	傷害評価	傷害評価の考え方				○
7	機能評価	機能評価の考え方				○
8	足関節疾患	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
9	膝関節疾患 (1)	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
10	膝関節疾患 (2)	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
11	肉離れ	肉離れに対する評価およびプログラミング方法				○
12	腰部疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
13	肩関節疾患	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
14	慢性障害	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法				○
15	競技種目特性、まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法				○
試験等	筆記試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習 (週 1.5 時間) : 毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% レポート提出 30% 授業への取り組み 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解している。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解している。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション論実習 (Practice of Exercise Rehabilitation)		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング	小島 丈治・小島 真由美		国	S-S5074		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	傷害別エクササイズ	傷害ごとのリスク管理や競技種目特性に基づき、再発予防とパフォーマンス向上を目指したアスレティックリハビリテーションのプログラミング、および指導方法を学ぶ。				
2	競技種目別エクササイズ					
3	指導方法					
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識および指導方法を学び、対象者に適したプログラミングと、実際の指導を行えるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	概要	アスレティックリハビリテーションの意義				○
3・4	足関節疾患 1	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理				○
5・6	足関節疾患 2	可動域回復・拡大エクササイズ				○
7・8	膝関節疾患 1	神経筋協調性回復・向上エクササイズ				○
9・10	膝関節疾患 2	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方				○
11・12	膝関節疾患 3	傷害評価の考え方				○
13・14	大腿部疾患	機能評価の考え方				○
15・16	腰部疾患 1	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
17・18	腰部疾患 2	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
19・20	肩関節疾患 1	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
21・22	肩関節疾患 2	肉離れに対する評価およびプログラミング方法				○
23・24	慢性疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
25・26	競技別 1	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
27・28	競技別 2	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法				○
29.30	演習、まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法				○
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習： 事前に、AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習： 毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実技試験後に内容の解説を行う						
成績評価の目安と方法						
試験 70% 授業への取り組み 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解し、選手に的確な指導をすることができる。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解し、選手に指導することができる。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	衛生学及び公衆衛生学 [Hygiene and Public Health]		2			
授業形態	担当教員名				科目コード	
講義	岩井 秀明				SM-S2075	
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会・環境と健康	健康関連の職業に携わる人々（保健体育教員、栄養士、健康運動指導者、フィットネス・グループエクササイズ・介護・福祉関連）は、広く健康に関連する諸問題を理解し、予防・解決するための技術と科学的根拠について学ぶ。予防医学である本学科目の内容は幅広く、社会と健康、感染症、疫学、保健統計、環境と健康、生活習慣病の予防、栄養と運動、学校保健等多岐にわたる。				
2	学校保健					
3	保健統計					
学習の到達目標						
公衆衛生的思考を身に付け、最新の統計資料から健康、疾病に関する現状および各々のライフステージごとの健康問題を理解し、さらに変容する社会と、グローバル社会の進展における多様な健康問題を予防し対応できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	社会と健康（第1章）	A.健康の概念 B.公衆衛生の概念				
2	疾病のまん延と克服（第1章）	C.公衆衛生・予防医学の歴史				
3	感染症の疫学と予防（第7章）	A.感染症と生体防御 1.病原微生物 2.侵入と生体反応 3.感染防止				
4	健康科学の研究手法-1（第4章）	A.疫学の方法 1.疫学方法論 1) 記述疫学 2) 分析疫学				
5	健康科学の研究手法-2（第4章）	A.疫学の方法 1.疫学方法論 1) 記述疫学 2) 分析疫学				
6	健康と疾病の統計資料（第3章）	A.保健統計 B.人口動態統計 C.人口動態統計 D.生命表 他				
7	環境と健康-1（第2章）	A.生態系と人々の生活 B.環境汚染と健康影響				
8	環境と健康-2（第2章）	C.環境衛生				
9	主要疾患の疫学・予防対策	(第6章 A～E) 私たちの健康を守るために一病気の発生と予防—				
10	生活習慣病の予防・健康増進-1	(第5章) A.栄養と食生活				
11	生活習慣病の予防・健康増進-2	(第5章) B.運動・身体活動と健康 ～ G.歯科保健行動				
12	ライフサイクルと人生（第9章）	A. 母子保健 B.学校保健 C.成人保健 D.高齢者保健				
13	産業保健-1（第10章）	A.労働と健康 ～ D.産業保健従事者				
14	産業保健-2（第10章）	E.職業と健康障害 F.労働災害				
15	保健医療福祉の制度（第8章）	A.社会保障の概念 ～ D.介護保険制度				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：『21世紀の予防医学・公衆衛生-社会・環境と健康-』町田・岩井・木村編著「杏林書院」 2020年 第3版 必ず購入すること。						
参考図書：（財）厚生労働統計協会編：国民衛生の動向2021/2022（財）厚生労働統計協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週1.5時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義の冒頭時に振り返り課題についてフィードバックし、分かち合う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験（70%）、授業態度・取り組み姿勢（30%）を総合的に判断し評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	衛生学及び公衆衛生学の基となる知識を十分に会得している。授業態度・取り組みは特に良好である。					
A	衛生学及び公衆衛生学の基となる知識を会得している。授業態度・取り組みは良好である。					
B	衛生学及び公衆衛生学の内容は概ね理解している。授業態度・取り組みは普通である。					
C	衛生学及び公衆衛生学の理解に努力が必要である。授業態度・取り組みに更に努力が必要である。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	学校保健 [School Health]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	内藤 郁芳		国	S-S2077		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	校内組織	発達段階にある児童・生徒の健康・安全に関する知識を学ぶとともに、学校教育の中で健康・安全に関する活動がどのように展開されているかを理解し、学校現場において実践的に対応できる知識の習得を目指す。				
2	健康課題					
3	ヘルスプロモーション					
学習の到達目標						
学校教育の中で、健康・体育・スポーツのスペシャリストとして、どのように学校全体の保健・安全にかかわっていくべきか、健康・安全の知識を用いて自分自身に問いかけ実践的行動につなげられるようになること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	刈エーション・学校保健とは	健康の定義・学校保健とは・学校保健の目的				
2	学校保健の概要 2	学校保健の構造・関係法令等				○
3	学校保健の概要 3	学校現場における現状				
4	子どもの心と体	学校における子供の心のケア・発育・発達				
5	健康観察・健康相談	健康観察、健康相談の意義・方法				
6	心の健康問題	心の健康問題とは・心の健康問題における教職員の対応				
7	感染症とその対応 1	学校における感染症の予防と対応				○
8	感染症とその対応 2	事例研究（新型コロナウイルス感染症への対応について）				○
9	特別支援教育と学校保健	特別支援教育の理念と動向・特別支援教育を行うための体制整備と取り組み				
10	保健室と養護教諭	保健室の機能・養護教諭の役割・				
11	学校安全 1	学校安全とは・学校安全の構造・災害安全				○
12	学校安全 2	体育活動中の事故防止・種目別安全対策				○
13	危機管理	事例研究（明日香モデル）				○
14	これから求められる学校保健	学校保健の充実・チームとしての学校				
15	まとめ・振り返り	全体の総括				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：柳園順子 編著「学校保健」ミネルヴァ書房 2019年 文部科学省HP 学校保健・学校安全・食育のサイト ( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm</a> ) ※ その他、講義中の配付プリント						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：新聞、テレビなどで、学校に関するニュースや話題などをまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各回のレポートについては、次回にコメント等を付し返却する。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すレポートの内容 60% 全体総括のレポートの内容 25% 講義への参加態度 15% として総合的に判断する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	学校現場において、学校保健の知識を活かし自ら行うべきことを理解している。					
A	学校保健の知識をよく理解している。					
B	学校保健の知識を理解している。					
C	学校保健の基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	体育原理 [Sports Philosophy]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S2078		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	体育・スポーツ史	体育やスポーツに関する歴史的な推移や意味をふまえ、現代の領域における諸問題を哲学的、倫理的に考察し、スポーツ関係者として望ましい実践に貢献できるような価値観の形成を目指す。 毎時間、理解度確認レポートを提出する。				
2	スポーツ哲学					
3	体育理論					
学習の到達目標						
古代から現代までのスポーツや体育の歴史を理解し、それをふまえて社会における体育やスポーツの持つ意味や現代における課題お哲学的な考え方を理解し、体育・スポーツの指導者としての各自の考えや明確にし、実際の指導に活かすことができるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画、歴史を学ぶ意味（遠隔）				
2	古代スポーツの歴史	ギリシャのスポーツと古代オリンピック（遠隔）				
3	ヨーロッパのスポーツ史	古代ローマから中世ヨーロッパのスポーツの歴史（遠隔）				
4	近代ヨーロッパの体育	ヨーロッパにおける体操教育（遠隔）				
5	近代イギリスのスポーツ教育	イギリスのパブリックスクールの歴史（遠隔）				
6	近代オリンピックの意義	オリンピックの歴史とその意義（遠隔）				
7	日本の体育・スポーツの歴史	日本の体育およびスポーツの歴史（遠隔）				
8	スポーツとジェンダー(1)	女性の体育・スポーツへの参加とその意義（遠隔）				○
9	スポーツとジェンダー(2)	女性のスポーツ参加を阻害する要因（遠隔）				○
10	スポーツマンシップを考える	スポーツマンシップとは何か（遠隔）				○
11	スポーツとハラスメント(1)	スポーツと暴力（遠隔）				○
12	スポーツとハラスメント(2)	スポーツとセクシュアルハラスメント（遠隔）				○
13	パラリンピックの意義	オリンピックの歴史とその意義（遠隔）				○
14	保健体育教師論(1)	体育教師と暴力問題（遠隔）				○
15	保健体育教師論(2)	体育教師と体育・スポーツ哲学（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：体育哲学原論、大橋道雄編、不昧堂出版、2011 スポーツと教育の歴史、成田十次郎編、不昧堂出版、1988						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解度確認レポート 70% 筆記試験 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解し、知識を体育・スポーツの指導に活用できる。					
A	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解している。					
B	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義をよく理解している。					
C	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	バイオメカニクス [Sports Biomechanics]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一			S-S3079		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	運動力学	バイオメカニクスの基礎学問である、力学、解剖学、生理学についても解説していきながら、バイオメカニクスを利用して、スポーツや動作を自分で解説できるように学んでいく。自ら問題意識を持って解決策を考える意欲が必要な科目である。				
2	身体構造					
3	競技分析					
学習の到達目標						
バイオメカニクスの基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	バイオメカニクス概論	スポーツの技術理解に役立つバイオメカニクスと各種学問の関係について学習する (遠隔)				
2	身体の構造と運動	身体を構成する骨格や筋肉について学習し、運動の源について理解する (遠隔)				
3	運動と重心	重心と運動の関わりについて考える (遠隔)				
4	身体運動と力	ヒトの動きを起こす力について考える (遠隔)				
5	パワーと力	力とパワーについて理解し、これを高めるトレーニングについて学習する (遠隔)				
6	反動動作	巧みな動き、パワフルな動きには反動動作が潜んでいる。反動動作について理解する (遠隔)				
7	エネルギーと効率	運動の力学的エネルギーと効率について理解する (遠隔)				
8	流体の抵抗	スポーツにおける、空気抵抗や水の抵抗について理解する (遠隔)				
9	スポーツの情報解析	スポーツ理解のための情報収集と測定・分析について学習する (遠隔)				
10	歩行・走運動	これまで学習した知識を統合して、歩行・走運動について考える (遠隔)				○
11	跳躍運動	これまで学習した知識を統合して、跳躍運動について考える (遠隔)				○
12	投動作	これまで学習した知識を統合して、投動作について考える (遠隔)				○
13	打動作	これまで学習した知識を統合して、打動作について考える (遠隔)				○
14	運動と技術	運動の技術について考える (遠隔)				
15	総合討論	スポーツにおける課題を、バイオメカニクスを利用して考える (遠隔)				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考書：スポーツ・バイオメカニクス入門 金子公有 杏林書院						
参考書：アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : 前回の授業を受け、スポーツをバイオメカニクスで応用する話題を準備する。						
事後学習 (週 1.5 時間) : 授業内容を復習し、討論内容を振り返り各自が理解と応用力を考える。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心として、解説・理解を繰り返していく。						
成績評価の目安と方法						
授業内の討論における課題・討論 60%と平常点 40%では自身の発表はもちろんであるが、他学生の意見に対する考察も重視する。課題では、各自の検討内容の広範さ、考察の深さを評価していく。						
評価	成績評価別の到達度					
S	バイオメカニクスの知識を活かした、スポーツへの応用力を十分に持っている。					
A	バイオメカニクスの知識を良く理解し、スポーツへ活かすことができる。					
B	バイオメカニクスの知識を理解している。					
C	バイオメカニクスの基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		テーピング実習 [Taping]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習 アクティブ・ラーニング		高橋 琴美・田本 育代			S-S4080	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	テーピング	関節の基本的構造と動きを理解するとともに、基本的なテーピングの理論と技術を習得する。				
2	スポーツ傷害					
3	関節の構造					
学習の到達目標						
足関節内反捻挫予防のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。 様々な部位のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	テーピングの基礎知識	テーピングの目的、基本的な巻き方	○			
3・4	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本1）	○			
5・6	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本2）	○			
7・8	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本3）	○			
9・10	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（応用1）	○			
11・12	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（応用2）	○			
13・14	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫に対する応急処置	○			
15・16	傷害・部位別テーピング	足部のテーピング	○			
17・18	傷害・部位別テーピング	下腿部のテーピング	○			
19・20	傷害・部位別テーピング	膝関節のテーピング1	○			
21・22	傷害・部位別テーピング	膝関節のテーピング2	○			
23・24	傷害・部位別テーピング	大腿部のテーピング	○			
25・26	傷害・部位別テーピング	手関節・手指のテーピング	○			
27・28	傷害・部位別テーピング	筋肉サポートテープを用いたテーピング	○			
29・30	まとめ	全体の総括				
試験等	実技試験・筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：いちばんわかりやすいテーピング（成美堂出版） また、必要に応じて資料等を適宜配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。 事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 40% 筆記試験 30% 平常点 30% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を十分に習得している。					
A	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を習得している。					
B	関節の基本的構造と動きを理解し、テーピング理論と技術を習得している。					
C	関節の基本的構造と動きを理解し、基本的なテーピング理論と技術を習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックトレーナー論 [Principles of Athletic Training]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3081		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	アスレティックトレーナーの歴史からその業務内容およびスポーツドクターやコーチ、監督との連携についても学習する。				
2	役割					
3	運営					
学習の到達目標						
スポーツ活動現場におけるアスレティックトレーナーの具体的な役割を理解し、業務遂行のために必要な能力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	アスレティックトレーナーとは (1)	アスレティックトレーナーの歴史				
2	アスレティックトレーナーとは (2)	諸外国のアスレティックトレーナーの状況				○
3	アスレティックトレーナーの業務 (1)	アスレティックトレーナーの任務と役割				
4	アスレティックトレーナーの業務 (2)	スポーツ外傷・障害の予防				
5	アスレティックトレーナーの業務 (3)	スポーツ現場における救急処置				○
6	アスレティックトレーナーの業務 (4)	アスレティックリハビリテーション				
7	アスレティックトレーナーの業務 (5)	コンディショニング				
8	アスレティックトレーナーの業務 (6)	測定と評価				
9	アスレティックトレーナーの業務 (7)	健康管理と組織運営				
10	アスレティックトレーナーの業務 (8)	教育的指導				
11	コーチ・ドクターとの連携協力	サポートスタッフの役割とスポーツドクターとの連携・協力				○
12	組織運営と管理 (1)	スポーツの組織運営とアスレティックトレーナーの組織運営				○
13	組織運営と管理 (2)	健康管理と法的諸問題				
14	アスレティックトレーナーと倫理	アスレティックトレーナーの社会的立場と倫理				
15	まとめ	総まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 1.5 時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験およびプレゼンテーション 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの現状と役割を十分に理解し、活動現場で的確に業務遂行する能力を身に付けている。					
A	アスレティックトレーナーの現状と役割を良く理解している。					
B	アスレティックトレーナーの現状と役割を理解している。					
C	アスレティックトレーナーの現状を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ生理学 [Sports Physiology]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義	辻 将也			S-S3082		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	生理学	トレーニングの基本理論、体力、スポーツのためのエネルギーを中心としながら、スポーツ生理学の知識を競技力向上に役立てるように学んでいく。				
2	エネルギー					
3	トレーニング					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの資格必修科目である。スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技力向上に役立てることができる知識を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	生理学と競技力向上との関連とその応用の限界を考える				
2	スポーツと体力要素	スポーツに重要な体力要素について考える				
3	スポーツとエネルギー代謝	筋へのエネルギー供給の観点からスポーツを考える				
4	スポーツと骨格筋機能	スポーツに重要な骨格筋機能について考える				
5	スポーツとスキル	スキル・戦術が重要なスポーツ種目を考える				
6	スポーツと呼吸循環機能	スポーツ活動における呼吸循環系の応答を考える				
7	スポーツと体カトレーニング	トレーニングの原理・原則およびトレーニングについて考える				
8	スポーツと環境	環境がスポーツに及ぼす影響について考える				
9	スポーツと疲労	疲労の生理学的意味を知り、スポーツとの関連を学ぶ				
10	スポーツと酸化ストレス	運動やスポーツと酸化ストレスとの関連を学ぶ				
11	ウォームアップ	ウォームアップの生理学的意味を考える				
12	クールダウン	クーリングダウンの生理学的意味を考える				
13	スポーツと栄養およびサプリメント	競技力と飲料・サプリメントについて解説する				
14	競技力向上	競技力向上のための研究・ドーピングなどについて解説する				
15	まとめ	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書は指定しないが、適宜資料を配布する。 参考図書：「選手とコーチのためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店、「新・スポーツ生理学」村岡編著 市村出版 日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80%、平常点および提出物など 20%、理由のない遅刻・欠席は減点 履修人数が少ない場合は、筆記試験を行わずに、平常点・提出物・口頭試験で成績評価を行う						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ生理学の知識を活かして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。未知の課題へも対応できる力を有している。					
A	スポーツ生理学の知識を活かして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。					
B	スポーツ生理学の知識を、競技力向上に役立てる能力を有している。					
C	スポーツ生理学の知識を、競技力向上に役立てる基礎を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ外傷・障害 1 [Acute and Chronic Sports Injuries 1]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田睦雄		国	S-S3083		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ	全身の各パートにおいてスポーツ活動現場で多発する、各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学ぶ。				
2	外傷					
3	障害					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの知識として最も重要なスポーツの外傷・障害についての内容であり、これらの内容を完璧に理解することで初めてトレーナーとして認められる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	総論	講義の展開について、外傷と障害の違いについて など				
2	重篤な外傷①	頭蓋骨骨折、脳損傷				
3	重篤な外傷②	脳振とう、脊髄損傷				○
4	体幹のスポーツ外傷・障害①	頸部、腰背部				
5	体幹のスポーツ外傷・障害②	股関節				
6	上肢のスポーツ障害・外傷①	肩部				
7	上肢のスポーツ障害・外傷②	肘関節				
8	上肢のスポーツ障害・外傷③	手、手指				
9	下肢のスポーツ障害・外傷①	大腿部				
10	下肢のスポーツ障害・外傷②	膝関節				
11	下肢のスポーツ障害・外傷③	下腿部				
12	下肢のスポーツ障害・外傷④	足、足関節				
13	その他の外傷①	顔面・目・鼻				
14	その他の外傷②	鼻・耳・歯				
15	まとめ	各種パートについてのまとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 課題提出 30% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツの外傷・障害 1 について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。					
A	スポーツの外傷・障害 1 について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。					
B	スポーツの外傷・障害 1 について理解し、現場で活動ができる。					
C	スポーツの外傷・障害 1 について理解することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ外傷・障害 2 [Acute and Chronic Sports Injuries 2]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇・山田睦雄		国	S-S3083		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ	全身の各パートにおいて発生する、各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学ぶ。 各部位において、スポーツ外傷・障害 1 での学習内容以外の外傷・障害を学ぶ。				
2	外傷					
3	障害					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの知識として最も重要なスポーツの外傷・障害についての内容であり、これらの内容を完璧に理解することで初めてトレーナーとして認められる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	概論（復習）	スポーツ外傷・障害 1 の復習				○
2	重篤な外傷①	頭頸部				
3	重篤な外傷②	呼吸循環器				
4	体幹のスポーツ外傷・障害①	腰背部				
5	体幹のスポーツ外傷・障害②	股関節				
6	上肢のスポーツ障害・外傷①	肩部				
7	上肢のスポーツ障害・外傷②	肘関節				
8	上肢のスポーツ障害・外傷③	手、手指				
9	下肢のスポーツ障害・外傷①	大腿部				
10	下肢のスポーツ障害・外傷②	膝関節				
11	下肢のスポーツ障害・外傷③	下腿部				
12	下肢のスポーツ障害・外傷④	足、足関節				
13	年齢・性別による特徴	女性・成長期・高齢者				○
14	年齢・性別による特徴	女性・成長期・高齢者				○
15	まとめ	総まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 課題提出 30% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツの外傷・障害 2 について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。					
A	スポーツの外傷・障害 2 について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。					
B	スポーツの外傷・障害 2 について理解し、現場で活動ができる。					
C	スポーツの外傷・障害 2 について理解することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	健康管理とスポーツ医学 [Health Care Administration]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
集中講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇 ・ 太田 眞		国	S-S3084		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	海外遠征時や国内での遠征時の注意点、死亡事故につながる暑熱環境についておよびドーピングコントロールなどについて幅広く、スポーツ医学の中でも特に内科系の内容を学ぶ。				
2	健康管理					
3	スポーツ医学					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーにとって必要な内科的知識を修得し、スポーツ活動現場において知識を活用できる能力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	アスリートにみられる疾患 (1)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて				
2	アスリートにみられる疾患 (2)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて				
3	感染症対策 (1)	注意すべき感染症の種別、業態、症状と対応策				
4	感染症対策 (2)	海外遠征時における感染症対策				
5	アスリートにみられる 病的現象 (1)	病的現象の病態、症状、原因と対応策について				
6	アスリートにみられる 病的現象 (2)	摂食障害、減量障害への対応策と飲酒・喫煙などの問題について				
7	特殊環境のスポーツ医学 (1)	高所、低圧及び高圧に対する生体の反応とその環境での障害について				
8	特殊環境のスポーツ医学 (2)	暑熱環境、低温環境に対する生体の反応とその環境での障害について				
9	特殊環境のスポーツ医学 (3)	時差に対する生体の反応と海外遠征時の諸問題について				○
10	性別による特徴	女性特有の運動時の障害と運動参加時の注意点について				
11	年齢による特徴	高齢者・成長期の障害と運動参加時の注意点について				
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの目的とその内容について				○
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的とその内容について				○
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的・定義と禁止物質について				
15	まとめ	今までに学習したすべての領域の総復習を行い、理解度を確認する				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 健康管理とスポーツ医学						
準備学習・事後学習						
準備学習：講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験50% 課題提出30% 平常点20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を十分に理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
A	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を良く理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
B	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。					
C	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識と対象アスリートの健康管理について理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	コンディショニング論 [Strength Training & Conditioning]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S3085		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コンディショニング	この授業では一般的な体力の向上のみならず専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を学ぶ。また、トレーニングメニューの作成を行うために必要なスポーツ生理学などの知識を含めて学ぶことになる。				
2	ピークパフォーマンス					
3	構成因子					
学習の到達目標						
コンディショニングとはピークパフォーマンス発揮するためのすべての因を整えることであり、パフォーマンスの向上のために必要な各種理論およびトレーニングメニューの作成ができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明 (遠隔)				
2	概論	コンディショニングとは? コンディショニングとは? (定義・意義・目的) (遠隔)				
3	身体的因子	コンディショニングにおける身体的因子 (遠隔)				
4	環境的因子	コンディショニングにおける環境的因子 (遠隔)				
5	心因的因子	コンディショニングにおける心因的因子 (遠隔)				
6	競技特性とコンディショニング①	球技系競技におけるコンディショニング① サッカー (遠隔)				
7	競技特性とコンディショニング②	球技系競技におけるコンディショニング② バレーボール (遠隔)				
8	競技特性とコンディショニング③	記録系競技におけるコンディショニング (遠隔)				
9	競技特性とコンディショニング④	採点系競技におけるコンディショニング (遠隔)				
10	競技特性とコンディショニング⑤	格闘系・コンタクトスポーツにおけるコンディショニング (遠隔)				
11	ピリオダイゼーション	パフォーマンス向上のためのピリオダイゼーション (遠隔)				○
12	傷害予防と環境整備①	傷害予防のための環境整備 (スタッフ・ステークホルダー) (遠隔)				
13	傷害予防と環境整備②	傷害予防のための環境整備 (ファシリティ) (遠隔)				
14	コンディショニング プログラム作成	競技種目別コンディショニング プログラム作成 (遠隔)				○
15	まとめ	学習内容のまとめ (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習 (週 1.5 時間)：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 40% 課題 30% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を十分に活かしたコンディショニングを考案・実践できる。					
A	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識をよく理解してコンディショニングを考案・実践できる。					
B	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解してコンディショニングを考案・実践できる。					
C	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	コンディショニング論実習 [Conditioning]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・実習・アクティブ・ラーニング	荒川 崇・辻 将也		国	S-S5086		
この授業に係る資格						
健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コンディショニング	レジスタンストレーニングおよび各種トレーニングの方法・説明・実施、それぞれをリードアップして実際に動かす。				
2	トレーニング					
3	指導法					
学習の到達目標						
各種トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウンなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミングおよび指導を行えるようになる。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	オリエンテーション ウォーミングアップ・クーリングダウン① / ウェイトトレーニング①	本講義の学習内容・成績評価等に関する説明 ウォーミングアップ・クーリングダウンの意義・目的/マシントレーニングの説明・実践				
3・4	ウォーミングアップ・クーリングダウン② / ウェイトトレーニング②	スタティックストレッチ、ペアストレッチ/ BIG3 + 1 トレーニング説明・実践①	○			
5・6	ウォーミングアップ・クーリングダウン③ / ウェイトトレーニング③	ダイナミックストレッチ、パリスティックストレッチ/ BIG3 + 1 トレーニング説明・実践②	○			
7・8	SAQ トレーニング① / ウェイトトレーニング④	アジリティトレーニングの説明・実践/ BIG3 + 1 トレーニングの説明・実践③	○			
9・10	SAQ トレーニング② / ウェイトトレーニング⑤	クイックネス・スピードトレーニング説明・実践①/ 部位別フーウェイトトレーニング①	○			
11・12	SAQ トレーニング③ / ウェイトトレーニング⑥	クイックネス・スピードトレーニング説明・実践②/ 部位別フーウェイトトレーニング②	○			
13・14	SAQ トレーニング④ / ウェイトトレーニング⑦	プライオメトリクストレーニング①/ パワー系トレーニング (パワークリーンなど) の説明・実践①	○			
15・16	SAQ トレーニング⑤ / ウェイトトレーニング⑧	プライオメトリクストレーニング②/ パワー系トレーニング (パワークリーンなど) 説明・実践②	○			
17・18	サーキットトレーニング/ レジスタンス トレーニング・スタビリティトレーニング	サーキットトレーニング説明・実践 / 自重を利用したレジスタンストレーニング・スタビリティトレーニング説明・実践	○			
19・20	リードアップ/ 代謝系トレーニング	ダイナミックドリル/ 代謝系トレーニング説明・実践	○			
21・22	トレーニング指導実践①	トレーニングプログラムの作成	○			
23・24	トレーニング指導実践②	トレーニングプログラム指導実践①	○			
25・26	トレーニング指導実践③	トレーニングプログラム指導実践②	○			
27・28	トレーニング指導実践④	トレーニングプログラム指導実践③	○			
29・30	まとめ・フィードバック	実習内容のまとめ、フィードバック				
試験等	指導実践試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ストレンクス&コンディショニング I 理論編 ストレンクス&コンディショニング II エクササイズ編						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
指導実践試験 50% 課題提出 30% 平常点 20% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を十分に理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
A	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
B	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					
C	各種トレーニングなどを理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	救急処置 [Emergency Treatment]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小島 丈治・小島 真由美		国	S-S3087		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ現場における救急処置	スポーツ現場で発生する様々な傷病に関する基礎知識、現場での評価、およびリスク管理について学び、状態に応じた正しい救急処置の手順を学ぶ。また、傷病発生の予防と発生時の対応計画についても学ぶ。				
2	リスク管理					
3	評価					
学習の到達目標						
スポーツ現場で発生する傷病に対し、現場での評価と正しい救急処置の方法を修得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	概要 1	スポーツ現場における救急処置の意義				○
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義と基礎知識				○
3	外傷時の評価	外傷の発生機序、評価手順				○
4	外傷時の処置	外傷による炎症の徴候、評価手順				○
5	固定法	スポーツ現場における患部固定法、留意点				○
6	止血法	出血の種類と止血処置、留意点				○
7	創傷処置	創傷の種類と創傷の処置、留意点				○
8	内科的疾患の処置 1	熱中症の発生機序、分類、処置、予防				○
9	内科的疾患の処置 2	ショック、呼吸困難の発生機序と対処				○
10	内科的疾患の処置 3	その他の緊急を要する内科疾患				○
11	頭部外傷の処置	頭部外傷の発生機序、評価、処置および留意点				○
12	頸部外傷の処置	頸部外傷の発生機序、評価、処置および留意点				○
13	運搬法	頭頸部外傷における運搬法、留意点				○
14	救急体制	対応計画の必要性、事前確認事項				○
15	まとめ	本講義の総まとめ				○
試験等	筆記試験、実技試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト8 救急処置						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。						
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業初めに、前回の確認を行うので復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 40% 実技試験 40% 授業への取り組み 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を十分に理解している。					
A	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順をよく理解している。					
B	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を理解している。					
C	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	見学実習 [Practical Observation]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習(集中)・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5088		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	アスレティックトレーナー 活動現場 見学	アスレティックトレーナーが実際に働いている姿をみることによって、具体的な仕事の内容、コーチやドクターとの関係および選手との接し方を学ぶ。得た知識を活動現場でどのように活かすのかを学ぶ。				
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの仕事の実際を見学することにより、具体的な仕事の内容理解を深め、選手・チームのサポート計画を立てる能力を身に付ける						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの具体的な役割の現状を知る	<p>見学実習予定先 学内部活動 各種大会 など</p> <p>実習先においてアスレティックトレーナーの活動の様子を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○選手とのコミュニケーション</li> <li>○コーチ・監督とのコミュニケーション</li> <li>○スポーツドクターとの連携</li> <li>○当日の仕事の流れ</li> <li>○アスレティックリハビリテーション</li> <li>○現場での応急処置</li> <li>○トリートメントの様子</li> </ul>				○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をしますので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を十分に理解し、選手・チームのサポート計画を具体的に立てることができる。					
A	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を良く理解し、選手・チームのサポート計画を立てることができる。					
B	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解し、選手・チームのサポート計画を立てることができる。					
C	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	検査・測定と評価実習 [Special Test and Clinical Assessment of Injury]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5089		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	レンジオブモーション (ROM) の測定、徒手筋力検査法 (MMT)、各種反射試験、代謝系の測定、筋力・筋パワー測定ほか、測定と評価を行う。				
2	スペシャルテスト					
3	評価					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーとして必要な検査および測定の各種項目についての理論を学び、測定手技を正確に行えるようになる。またデーターについて評価できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	競技者対応の検査・測定基礎	H O P Sにおける競技者に関する情報収集				○
2	アライメント測定	姿勢身体アライメントの観察				○
3	関節弛緩性検査	関節弛緩性検査の手技を反復				○
4	関節可動域測定	関節可動域測定の手技を反復				○
5	筋タイトネス検査	筋タイトネス検査の手技を反復				○
6	筋力測定 1	徒手筋力測定				○
7	筋力測定 2・筋パワー測定	器具等を用いた筋力測定、筋パワー測定				○
8	持久力測定	全身持久力の測定				○
9	敏捷性・協調性測定	敏捷性および協調性の測定				○
10	身体組成検査	身体組成検査の手技と測定結果の解釈・活用				○
11	一般的体力測定	新体力測定				○
12	ダイナミックアライメント 1	歩行動作の観察				○
13	ダイナミックアライメント 2	走動作の観察				○
14	ダイナミックアライメント 3	運動連鎖				○
15	総合解釈	全測定についての総復習を行う				
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を十分に理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
A	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を良く理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
B	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
C	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論と正確な測定手技とデーター評価について理解する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ現場実習 [Internship of Athletic Training]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5090		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	トレーナー業務の遂行において必要な各種テクニックを学ぶ。R I C E 処置、準備、片付け、記録、データ処理、連絡、報告の実践を行う。				
2	現場					
3	実践					
学習の到達目標						
スポーツの現場におけるトレーナー活動を通して、トレーナー業務の実践および選手とのコミュニケーション能力を高める。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの 現場活動における経験を 積む	チームへの帯同により日々のトレーナー業務を遂行 準備（水、アイス） テーピング ウォーミングアップのリードアップ リハビリテーション指導補助 ケガの応急処置 コンディショニングメニューのリードアップ クールダウン 運動後のトリートメント トレーナー日誌の記入 ヘッドトレーナーへの報告				○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をすることで事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得し、活動現場に活かせる。					
A	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を十分に獲得する。					
B	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得する。					
C	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力の重要性を理解する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アスレティックリハビリテーション実践実習 [Clinical Therapeutic Exercise and Rehabilitation Technique]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		国	S-S5091		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード			授業概要			
1	アスレティックトレーナー	O K C、C K Cプログラム、心臓循環系のプログラム、可動域訓練、徒手抵抗運動、無酸素系の運動、スピードトレーニング、アジリティトレーニングなどの各種アスレティックリハビリテーションプログラムを実践する。				
2	アスレティックリハビリテーション					
3	実践					
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの実践を通し、スポーツ外傷・障害からの復帰の全てを学び、実践力を身につける。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	オリエンテーション、アスリハ概論	本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論				
2	リハビリテーション マネジメント	S O A P ノートの書き方を学ぶ	○			
3・4	組織運営	アスレティックトレーニングルームでの各種業務の遂行	○			
5・6	メニュー作成	各種傷害別リハビリテーションメニューの作成実践	○			
7・8	再発予防のコンディショニング	復帰期のコンディショニング	○			
9・10	アスレティックトレーナーの役割 1	アスレティックリハビリテーション／スポーツドクターとの連携／S O A P ノートの作成	○			
11・12	アスレティックトレーナーの役割 2	アスレティックリハビリテーション／ヘッドトレーナーとの連携／S O A P ノートの作成	○			
13・14	アスレティックトレーナーの役割 3	アスレティックリハビリテーション／コーチ監督との連携／S O A P ノートの作成	○			
15	総合解釈	これまでに実施した内容についての確認とまとめ	○			
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する口頭試問を実施するので復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、段階的で安全なアスレティックリハビリテーションが実践できる。					
A	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、アスレティックリハビリテーションが実践できる。					
B	アスレティックリハビリテーションの理論を理解して実践できる。					
C	アスレティックリハビリテーションが実践できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	トレーナー総合実習 [Athletic Training]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	荒川 崇		実	S-S5092		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	アスレティックトレーナーとして必要な各種業務を遂行できる能力を身につけるために、必要な知識と技能およびコミュニケーション能力を高める総合的な実習をおこなう。				
2	ミーティング					
3	実習					
学習の到達目標						
フィールドにおける実習および八室での実習を通し、応急処置、けがの予防、コンディショニング、選手の教育、アスレティックリハビリテーション、測定と評価などが総合的にできるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論				
2~5	測定・評価実践①	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践				○
6~9	応急処置	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、スポーツ外傷・障害別応急処置				○
10~13	アスレティックリハビリテーション実践①	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践①				○
14・15	総括①	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、前学期のまとめ（プレゼンテーション）				○
16~19	コンディショニング	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、競技スポーツ種目別コンディショニング実践				○
20~23	アスレティックリハビリテーション実践②	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践②				○
24~27	測定・評価実践②	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践②				○
28・29	総括②	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、後学期のまとめ（プレゼンテーション）				○
30	ディスカッション	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、アスレティックトレーナーについてのディスカッション				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので資料を作成しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時にレポート課題を指示するので作成し、次回の実習開始時に提出すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
プレゼンテーション 40% 課題提出 30% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、総合的にトレーナー業務を遂行することができる。					
A	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、知識をトレーナー業務に活用することができる。					
B	アスレティックトレーナーの役割を理解し、トレーナー業務を行うことができる。					
C	アスレティックトレーナーの役割を理解するとともに、トレーナー業務に活かそうと努力できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	陸上競技 1 [Basic Track & Field]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S4093		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	走種目	陸上競技（走・跳・投種目）の基本的な技術を習得し、各種目がよりよく実施することが出来るようにする。				
2	跳躍種目					
3	投てき種目					
学習の到達目標						
陸上競技に必要な基礎動作を学び、走・跳・投の基本的な技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要（展開方法、評価方法）を説明する				
2	ウォーキングⅠ	ウォーキングの特性と基本動作を学ぶ				○
3	ウォーキングⅡ	正しいウォーキングフォームを習得する。ウォーキングの正しい指導法を学ぶ				○
4	ジョギングⅠ	ジョギングの特性と基本動作を学ぶ				○
5	ジョギングⅡ	正しいジョギングフォームを習得する。ジョギングの正しい指導法を学ぶ				○
6	短距離走Ⅰ	短距離走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する				○
7	短距離走Ⅱ	スプリントドリル、スタート動作を学ぶ。50m 走のタイム計測				○
8	リレーⅠ	バトンパスの方法を学ぶ。2人1組でバトンパスの練習を行う				○
9	リレーⅡ	2人1組でのバトンパスを用いた100mリレーのタイム計測				○
10	中・長距離	集団ベース走を行う				○
11	ハードル走Ⅰ	ハードル走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作を確認し合い、正しい動作を習得する				○
12	ハードル走Ⅱ	ハードルドリルを学ぶ。50mハードル走のタイム計測				○
13	跳躍Ⅰ	走り高跳びの助走（短～全助走）、踏切動作および空中動作を学ぶ				○
14	跳躍Ⅱ	走り幅跳びの助走（短～全助走）および踏切動作から着地動作を学ぶ				○
15	投てき	砲丸投げの立ち投げとグライド投法および円盤投げの立ち投げとターン投げを学ぶ				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー16・19初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 健康運動実践指導者養成テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を理解し、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点（意欲・態度）70%、運動技能 30%、理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を十分に身につけている。					
A	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身につけている。					
B	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身につけている。					
C	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を最低限身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	陸上競技 2 [Advanced Track & Field]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	辻 将也			S-S5094		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	指導法	短距離走、リレー、ハードル走、中・長距離走、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げの指導を行う。				
2	トラック競技					
3	フィールド競技					
学習の到達目標						
陸上競技の指導法を学び、将来指導者となるために必要な指導技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する				
2	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（短距離走 I・II、リレー I・II）の復習				○
3	短距離走・リレーの指導実践	小学生対象を想定した短距離走、リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
4	短距離走・リレーの指導実践	中学生対象を想定した短距離走、リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
5	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（中・長距離走）の復習				○
6	中・長距離走の指導実践	中学生対象を想定した中・長距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
7	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（ハードル走 I・II）の復習				○
8	ハードル走の指導実践	中学生対象を想定したハードル走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
9	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（跳躍 I・II）の復習				○
10	走り高跳びの指導実践	中学生対象を想定した走り高跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
11	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（跳躍 III・IV）の復習				○
12	走り幅跳びの指導実践	中学生対象を想定した走り幅跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
13	陸上競技 1 の復習	陸上競技 1（投てき I）の復習				○
14	砲丸投げの指導実践	中学生対象を想定した砲丸投げの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習：自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして提出物にコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
指導実践での指導内容（指導案を含む）70% 平常点（意欲・態度）30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、安全面に考慮した指導を実践することができる。					
A	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、指導を実践することができる。					
B	陸上競技の特性および指導方法を概ね理解し、指導を実践することができる。					
C	陸上競技の特性および指導方法を理解し、指導を実践することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		体操・器械運動 1 [Basic Gymnastics]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		馬場 亮輔	国	S-S4095		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マット	器械運動とは、マット・跳び箱・鉄棒などの器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、他者との競争や記録の向上を目指すものではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それを克服する楽しさを感じてもらいたい。				
2	跳び箱					
3	鉄棒					
学習の到達目標						
授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。教員や指導者として最低限必要な技能を獲得すること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画、内容、評価方法等の説明				
2	マット	前転系 & 後転系				○
3	マット	倒立の習得（倒立前転）首はね起き				○
4	マット	側方系（側方倒立回転 側方倒立回転とび）				○
5	マット	実技テスト対策練習				○
6	マット	マット運動 実技テスト				○
7	鉄棒	入り技（膝掛け上がり 逆上がり支持）				○
8	鉄棒	中技（前回り支持 後ろ回り支持）				○
9	鉄棒	下り技（片足踏み越し下り 支持振動下向きひねり下り グライダー 振りとび下り）				○
10	鉄棒	実技テスト対策練習				○
11	鉄棒	鉄棒 実技テスト				○
12	跳び箱	切り返し系（1型開脚とび・閉脚とび）				○
13	跳び箱	切り返し系（1型屈身とび、2型開脚とび・閉脚とび） & 実技テスト対策練習				○
14	跳び箱	跳び箱 実技テスト				○
15	跳び箱	実技テスト 予備日				○
試験等	各種目終了時に実技テストを行う。					
教科書及び参考図書						
参考図書：「教師のための運動学」 監修：金子明友						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前に行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
各種目における技の修得・課題解決方法への理解 実技試験 60% 授業態度および取り組み姿勢 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である。					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	体操・器械運動2 [Advanced Gymnastics]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	馬場 亮輔		国	S-S5096		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マット	器械運動とは、器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、器械運動において必要とされる空中感覚を養うためにトランポリンを用いた練習を行う。				
2	跳び箱					
3	トランポリン					
学習の到達目標						
授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。また、本授業では各種目において応用技の習得を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画説明				
2	マット	前転系 後転系 倒立				○
3	マット	側方系 ハンドスプリング導入				○
4	マット	ハンドスプリング				○
5	マット	ハンドスプリング				○
6	マット	後転とび（バック転）				○
7	マット	後転とび（バック転）				○
8	マット	後転とび（バック転）				○
9	マット	後転とび（バック転）				○
10	跳び箱	切り返し系（開脚とび 閉脚とび 屈身とび）				○
11	跳び箱	回転系（台上前転 頭跳ね起き 前方倒立回転とび）				○
12	トランポリン	基礎技（レギュレーション）				○
13	トランポリン	応用技①（レギュレーション）				○
14	トランポリン	応用技②（レギュレーション）				○
15	他種目	平行棒 平均台 あん馬 円馬				○
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：図解コーチ 体操競技・男子（スポーツシリーズ） 竹本正男（監修）						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前にしておくこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中は勿論のこと、授業前後の時間を用いて適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
各種目における技の修得・課題解決方法への理解 実技試験 60% 授業態度および取り組み姿勢 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である。					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳1 [Basic Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋 季絵			S-S4097		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。				
2	水中運動	水中運動指導の基礎技能を身につける。				
3	安全水泳指導法	子どもの安全な水泳指導法を身につける。				
学習の到達目標						
保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につける。 健康づくりのための水中運動を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成				○
2	プール清掃	プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ				○
3	試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳				○
4	クロール(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成				
5	背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳				
6	背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成				
7	平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった9動作で）				
8	平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成				
9	バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳				
10	バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成				
11	水中運動(1)	その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム				
12	水中運動(2)	水中でのレジスタンストレーニング				
13	個別練習	10分間泳、100m個人メドレー				
14	安全水泳(1)	安全な水泳指導法講義と実技練習				
15	安全水泳(2)	子どもプール教室実習				
試験等	実技試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフイス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。					
C	4泳法が泳げる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	水泳2 [Advanced Swimming]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子 ・ 高橋 季絵			S-S5098		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード			授業概要			
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の指導法を学ぶ。				
2	100m個人メドレー	水中運動指導の指導法を学ぶ。				
3	指導実習	幼児や小学生の安全な水泳指導法をみつける。				
学習の到達目標						
保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導法を理解し、指導計画、実践、点検し、改善する能力を修得する。 子どもの安全な水泳指導法を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成				○
2	プール清掃	プール清掃をととして、プール管理の方法を実践的に学ぶ				○
3	指導法(1)	指導案の作成				○
4	模擬授業：クロール	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習				○
5	模擬授業：背泳ぎ	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習				○
6	模擬授業：平泳ぎ	キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習				○
7	模擬授業：バタフライ	キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習				○
8	模擬授業のまとめ	画像による模擬授業の指導振り返りとレポート作成				○
9	実技のまとめ	泳法テスト、100m個人メドレー、10分間泳				○
10	指導実習(1)	水泳指導実習				○
11	指導実習(2)	水泳指導実習				○
12	指導実習(3)	水泳指導実習				○
13	指導実習(4)	水泳指導実習				○
14	指導実習(5)	水泳指導実習				○
15	指導実習(6)	水泳指導実習				○
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフイス						
準備学習・事後学習						
準備学習：テキストの泳法指導法に目を通して、指導段階を理解しておくこと。 事後学習：毎時の授業内容を学習ノートにまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実技試験 40% 指導レポート 40% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ10分間に400mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ10分間に375mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、水泳指導能力がある。					
C	4泳法が泳げ、水泳指導ができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (バレーボール) [Basic Volleyball]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S4099		
この授業に関する資格						
教員免許 (保健体育)						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	バレーボールの基本的技術 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク) を習得し、ゲームを楽しむことが出来る様にする。				
2	基礎技術					
3	審判法					
学習の到達目標						
バレーボールの特性にふれ、基本的な技能を身につけ、自らがバレーボールの楽しさを知ることを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業展開についての説明 評価についての説明				
2	基礎技術1	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得				○
3	基礎技術2	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得				○
4	基礎技術3	対人パスからレシーブ技術の習得				○
5	基礎技術4・連携技術1	複数人でのレシーブ技術の習得				○
6	基礎技術5	スパイクの技術習得				○
7	基礎技術6・連携技術2	パス及びレシーブからのスパイク技術の習得				○
8	基礎技術7	サーブの技術習得				○
9	基礎技術8・連携技術3	サーブからのレシーブ技術習得				○
10	基礎技術9・連携技術4	複数人でのサーブレシーブからの攻撃展開				○
11	連携技術5	ゲームを行う際の基本的なルール解説				○
12	連携技術6	6人制バレーボールのゲーム				○
13	連携技術7	6人制バレーボールのゲーム				○
14	連携技術8	6人制バレーボールのゲーム				○
15	まとめ・技術の確認	まとめ				
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボールの学習指導 小鹿野友平、朽堀申二 著 (不昧堂出版) ルールブック (財) 日本バレーボール協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：楽しくゲームが行えるようにルールブック等を参照し、理解しておく。 事後学習：技術習得が不十分な場合には、時間外に個別で練習を行い、習得に心がける。						
課題に対するフィードバックの方法						
技術習得状況を授業の初めに確認する。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) 80% 平常点・授業態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) すべての技術を習得している。					
A	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち3種類の技術を習得している。					
B	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち2種類の技術を習得し、平常点も良好である。					
C	実技試験 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク) のうち2種類の技術を習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (バレーボール) [Advanced Volleyball]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S5100		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	授業の前半は、教育現場での指導を想定し展開する。 授業の後半は、社会体育の現場を想定し展開する。				
2	指導法					
3	審判法					
学習の到達目標						
バレーボールの基本技術を確認し、指導するために必要な技術と知識を習得する。 バレーボールの基本技術を活かし、高度な技術を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	オリエンテーション 授業展開の方法及び評価方法について説明				
2~3	指導法 1	中学校保健体育教員志望の学生に対し、教育現場での指導法を習得する。またそれを想定し、指導案を作成。模擬授業を行う				○
4~7	指導法 2	教員志望の学生を中心に、指導案を作成しそれにそって模擬授業を行う				○
8~10	指導法 3	地域スポーツでのバレーボール指導法を習得する。またそれを想定し、練習プログラムを作成する				○
11~14	指導法 4	地域スポーツでのバレーボール指導に必要なプログラムを各自で作成し、そのプログラムに則って、展開する				○
15	まとめ	まとめ・レポート作成				
試験等	レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本 (財) 日本バレーボール協会編 大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前にバレーボールの指導書を熟読し理解をして授業に取り組む。 事後学習：自分が楽しむだけでなく、指導することを考え技術の習得、ルールの理解に励む。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業の初めに技術習得状況の確認を行う。						
成績評価の目安と方法						
模擬授業及び模擬教室での指導内容 (レポート含む) 80% 平常点・授業態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートが良くまとめられている。					
A	模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートが良くまとめられている。					
B	模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートを提出している。					
C	模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートを提出している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (ハンドボール) [Basic Handball]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技 アクティブラーニング	高橋 琴美			S-S4099		
この授業に関する資格 教員免許 (保健体育)						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ハンドボール	本授業ではハンドボールの基本的な技術を修得し、歴史・ルールを理解することで、よりハンドボールというスポーツへの理解を深めることをねらいとする。また、授業を通して各チーム内での公正性・協調性を養い、マナー等を身につけることによって、指導者としての態度を育てる。				
2	チームワーク					
3	歴史・ルールの理解					
学習の到達目標						
ハンドボールへの理解を深め、ハンドボールを楽しむこと、そしてハンドボールの基本的な技術を修得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業展開・評価についての説明、授業における注意事項、ルール説明とハンドボールの歴史				
2	基本技術1	パス・キャッチ技術の修得、動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (ハーフコート→オールコート)				○
3	基本技術2	動きの中でのパス・キャッチ技術の修得 (練習方法) 基本的なシュート技術の修得① (ステップシュート・ジャンプシュート)				○
4	基本技術3	基本的なシュート技術の修得② (シュートコースを意識する)				○
5	基本技術4	各ポジションにおけるシュート技術の修得、ゴールキーパー技術の解説				○
6	基本技術5	速攻2:1での攻撃 (縦1/2コート) と防御				○
7	基本技術6	速攻1:0、1:1での動きの修得、パスカット				○
8	グループ戦術1	遅攻3:2 (パラレルプレー) での攻撃と防御				○
9	グループ戦術2	遅攻3:2 (クロスプレー) での攻撃と防御				○
10	グループ戦術3	遅攻4:3 (ポストプレー) での攻撃と防御				○
11	ゲーム1	簡易ゲーム (ハーフコート) における個人技術の修得とルール解説と審判法				○
12	ゲーム2	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得				○
13	ゲーム3	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアのつけ方				○
14	ゲーム4	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアの活用法				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	実技試験・レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書: ハンドボール指導教本 (大修館書店)、ハンドボール競技規則						
準備学習・事後学習						
準備学習: ルールについて、競技規則や映像などで確認しておくこと。 事後学習: 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の目安と方法						
平常点 50% 実技試験 40% レポート 10% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術ともに十分に修得している。					
A	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術を修得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を十分に修得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を修得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (ハンドボール) [Advanced Handball]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技 アクティブラーニング	高橋 琴美			S-S5100		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ハンドボール	球技1 (ハンドボール) で修得した技術、戦術をもとに授業を発展させ、さらに進んだ技術・戦術を修得する。その中でグループでの取り組みを重視し、グループ活動を中心に授業を展開させていく。特に「指導法」を意識し、課題に対するグループでの発表等を通して、指導法を理解していく。				
2	指導法					
3	審判法					
学習の到達目標						
ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を修得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業展開・評価についての説明 授業における注意事項とルール説明				
2	グループ戦術1	様々なパスの練習方法の解説 1:1突破(フェイント)の動きづくりと防御技術の修得				○
3	グループ戦術2	様々なシュートの練習方法の解説 遅攻2:2→4:4の攻撃と防御				○
4	グループ戦術3	様々なディフェンスの練習方法の解説 速攻2:2→4:4の攻撃と防御				○
5	指導法1	与えられた課題に対するグループ発表(指導案を作り、実際に指導する)				○
6	指導法2	与えられた課題に対するグループ発表(指導案を作り、実際に指導する)				○
7	指導法3	与えられた課題に対するグループ発表(指導案を作り、実際に指導する)				○
8	指導法4	与えられた課題に対するグループ発表(指導案を作り、実際に指導する)				○
9	指導法5	与えられた課題に対するグループ発表(指導案を作り、実際に指導する)				○
10	チーム戦術	速攻での6:6の攻撃と防御 遅攻での6:6の攻撃と防御				○
11	ゲーム1	各グループでの基本技術修得 ミニゲームにおける個人技術の修得				○
12	ゲーム2	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の解説				○
13	ゲーム3	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得				○
14	ゲーム4	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	レポート課題・グループ発表					
教科書及び参考図書						
参考図書: ハンドボール指導教本(大修館書店)、ハンドボール競技規則、誰でも教えられる!ハンドボール(梓書院)						
準備学習・事後学習						
準備学習: 毎時間、指導法についてのレポートを提出するため、課題に対する教材研究をしておくこと。						
事後学習: 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、提出されたレポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の目安と方法						
実技及びレポート 40% 平常点 30% グループ発表 30% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ハンドボールの課題に対する指導法を理解、実践することができ、グループ戦術・チーム戦術を修得している。					
A	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術・チーム戦術を修得している。					
B	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を修得している。					
C	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、基本的なグループ戦術を修得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技1 (バスケットボール) [Basic Basketball]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技 アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S4099		
この授業に関係する資格 教員免許状 (保健体育)						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バスケットボール	授業の前半部分でパス、ドリブル、シュートなど基本練習を行い、後半部分はそれらをふまえてゲームを行う。 ※運動に適した服装で受講すること (ジーンズなどでの参加は認めない)。運動靴で構いませんが、怪我の予防の為、素足は不可とする。 前回の授業で学んだ内容のなかで苦手とする内容については空き時間を活用し反復練習すること。				
2	ファンダメンタル					
3	リーダーシップ					
学習の到達目標						
バスケットボールを楽しむための技術・知識・態度を学び、社会性 (協調性、チームワーク、リーダーシップなど) の育成を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価に関する説明 チーム編成				
2	レイアップシュート1	アンダーハンドのレイアップ				○
3	レイアップシュート2	オーバーハンドのレイアップ、レイバック				○
4	セットシュート1	セットシュートの基本 (ボールの持ち方、姿勢、膝の使い方)				○
5	セットシュート2	セットシュートの基本 (ゴール下のシュート、フリースロー)				○
6	パス1	チェストパス、サイドハンドパス				○
7	パス2	スクウェアパス				○
8	ドリブル1	ボールハンドリング、ドリブルの基本				○
9	ドリブル2	ボールハンドリング、状況に応じたドリブル				○
10	速攻1	ツーマン速攻				○
11	速攻2	スリーマン速攻				○
12	速攻3	2対1、3対2のアウトナンバーでの攻防				○
13	コーディネーショントレーニング	バスケットボールにおけるコーディネーショントレーニングの紹介				○
14	試験対策	班ごとに実技試験の練習				○
15	実技試験	レイアップシュート、マイカンドリル他				○
試験等	実技試験 マルチプル・シューティングテスト他					
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習：授業中の内容を復習すること。準備学習						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
運動技能 60% 授業態度 20% 実技試験 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な技能を十分に身に付け、授業内でリーダーシップを発揮している。					
A	基本的な技能をおおむね身に付け、意欲的に取り組む姿勢が見られる。					
B	基本的な技能をある程度身に付け、ゲームに活かすことができる。					
C	基本的な技能を理解し、いくつかを身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技2 (バスケットボール) [Advanced Basketball]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技 アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S5100		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バスケットボール	授業の前半は指導方法の実践、後半はゲームを行う。グループでの話し合いにより、与えられた課題に対する練習メニューを決定し、実際に指導することにより、指導方法に対する理解を深める。 ※球技1 (バスケットボール) を履修して「A」評価以上を得ていることが望ましい。				
2	模擬授業					
3	指導方法					
学習の到達目標						
球技1 (バスケットボール) で習得した基本的な個人の技術・戦術を確認し、さらにグループやチーム戦術の応用へと発展させていくことを目指す。また、グループごとに課題を決定し、バスケットボールの指導を実践していく。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業の進め方 評価に関する説明				
2	復習	球技1 で学んだ内容の復習				○
3	1対1	オフェンスの考え方 アウトサイド インサイド				○
4	1対1	ディフェンスの考え方 アウトサイド インサイド				○
5	チームオフェンス1	ハーフコートバスケットにおける基本的なポジショニング				○
6	チームオフェンス2	パス&ゴー				○
7	チームオフェンス3	スクリーンプレイを用いた攻防				○
8	ファストブレイク1	ツーマン				○
9	ファストブレイク2	状況に応じたスリーメンの作り方 アーリーオフェンス				○
10	チームディフェンス1	シェルディフェンス				○
11	チームディフェンス2	ヘルプディフェンス				○
12	チームディフェンス3	ゾーンディフェンス				○
13	模擬授業1	上記の内容をふまえた模擬授業の展開1				○
14	模擬授業2	上記の内容をふまえた模擬授業の展開2				○
15	模擬授業3	上記の内容をふまえた模擬授業の展開3				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習：授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解・技能 70% 意欲・態度 30% 特に、実技試験は行わないが、授業中の積極的な態度や模擬授業の内容について、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	仲間と連携した動きを十分に理解し実践することが出来る。また、授業内でリーダーシップを十分に発揮できる。					
A	仲間と連携した動きを十分に理解し実践することが出来る。					
B	仲間と連携した動きをよく理解し実践することが出来る。					
C	仲間と連携した動きをおおむね理解し実践することが出来る。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		球技1 (サッカー) [Basic Soccer]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・アクティブ・ラーニング		田本 育代		S-S4099		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ、教員免許 (保健体育)						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカー・フットサルコース	個人の技術・戦術を中心に、ボールポジションに特化したグループ戦術へと展開していく。授業は、その時間のテーマに則り、前半を技術・戦術の練習にあて、後半にミニゲームを行なう。また、簡単な実技試験を課す。雨天時はサッカーの歴史や語源、ルール等を理解するための講義とし、筆記テストを実施する。				
2	実技&講義					
3	語源・歴史・ルールの理解					
学習の到達目標						
世界でもっとも愛され親しまれているサッカー (フットボール) を楽しむことにより、その魅力に迫るとともに基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールの理解を通してサッカーに対する造詣を深めることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	ガイダンス	ガイダンスとアセスメントゲーム				
2	ドリブル	ジグザグドリブル、顔を上げたドリブル、スピーディなドリブル、ミニゲーム	○			
3	コントロール	クッション&ウエッジコントロール、グラウンダーのコントロール、ミニゲーム	○			
4	キック	インサイドキック、アウトサイドキック、インステップキック、インフロントキック、ミニゲーム	○			
5	フェイント	マッシュ、シザーズを初めとした6種類のフェイントの習得、ミニゲーム	○			
6	スクリーン&ターン	スクリーンと6種類のターン技術の習得、ミニゲーム	○			
7	ボールポジション①	2対1、3対1、ミニゲーム	○			
8	ボールポジション②	3対1、4対2、ミニゲーム	○			
9	ボールポジション③	5対3、5対5、ミニゲーム	○			
10	実技まとめ：試合	11対11の試合、リーグ戦	○			
11	講義：サッカーの歴史	F A設立とサッカーの語源、サッカーの母国の特権、W杯とオリンピックの比較	○			
12	講義：競技規則①	フェアプレーの精神、第一条 競技のフィールド、第2条 ボール他	○			
13	講義：競技規則②	反則と不正行為、フリーキック、オフサイド	○			
14	講義：システムの変遷	守備の方法とオフサイドルール改正等に伴うシステムの変遷	○			
15	講義まとめ	振り返りとまとめ				
試験等	実技試験、講義内テスト					
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導の教科書 (日本サッカー協会著)						
準備学習・事後学習						
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストに解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
受講意欲 60% 実技試験 20% 講義内テスト 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームでいかすことができ、さらに、教育実習においても満足な指導ができる。					
A	サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームで活かすことができる。					
B	サッカーへの造詣を深めたうえに、基礎的な技術と戦術を習得することができる。					
C	サッカーの基礎的な技術を習得することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		武道（柔道） [Judo]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実技（集中）・ アクティブ・ラーニング		竹澤 稔裕・杉山 仁志・川井 明			S-S4101	
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	柔道	柔道の特性である精神善用・自他共栄とは何かを知り、身体への影響・精神への影響及び対人的スポーツとしての柔道の内容を理解する。技能としては、投げ技・固め技及び受け身の基本動作を習得する。				
2	中学校教員					
3	礼法					
学習の到達目標						
中学校教員として、授業を行う際の基本的な技術と指導方法を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	武道・柔道	オリエンテーション、柔道衣の取扱い方、柔道の歴史と特性についての知識を深める、柔道学習におけるリスクマネジメントについて	○			
2	礼法・受け身	礼法と受け身、崩しと体捌きなどの基本動作の学習、受け身については、後ろ受け身の学習と、受け身の指導原則について	○			
3	投げ技	横受け身、投げ技の基本動作の原理と指導の留意点	○			
4	投げ技	膝車、支え釣り込み足の学習と指導方法、特に段階別指導法について	○			
5	投げ技	大腰、体落としの学習と指導方法、特に投げ技の指導の原理と原則	○			
6	固め技	固め技の基本動作、袈裟固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法	○			
7	固め技	横四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と、上四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法	○			
8	固め技	固め技の攻撃・防御のための補強運動の理解、縦四方固め、肩固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法	○			
9	背負い技	一本背負い投げ、背負い投げの学習と指導法、かかり練習、約束練習、自由練習の考え方と指導法	○			
10	刈り技	大外刈り、大内刈り、小内刈りの学習と指導法	○			
11	連絡技	既習の投げ技の連絡技と変化技。既習の抑え技の連絡技	○			
12	腰技	大腰、浮腰の学習と指導方法、試合練習の考え方	○			
13	絞り技	裸絞、送り襟絞、片羽絞の学習と指導法、様々な試合練習の考え方	○			
14	柔道実践	柔道の特性に基づく学習指導と評価について【授業実施に向けて】	○			
15	まとめ	まとめ	○			
試験等	受け身と投げ技の実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：中学校学習指導要領解説 保健体育編、Q & A 中・高校柔道の学習指導 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：寒い中での活動になるので、体調管理を整え、実技に取り組めるよう努める。 事後学習：運動量が多いので、家でもストレッチ等を行うなど、疲れを残さないように努める。						
課題に対するフィードバックの方法						
技の確認におけるフィードバックはその都度口頭で行い、必ず理解してから次のステップに進むようにする。						
成績評価の目安と方法						
平常点 50% 実技試験 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	柔道の技術を十分に習得している。					
A	柔道の技術を習得している。					
B	柔道の基本的な技術を十分に習得している。					
C	柔道の基本的な技術を習得している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ダンス・表現運動 [ Beginning Dance Exercise ]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング	岡本 恵子		国	S-S4102		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダンス	ステップ・フリーズ練習や、いろいろな課題による表現、フォークダンス、キッズダンス、日本民踊などを学び、最後にグループで一つのまとまりのある創作作品の完成発表を目指す。				
2	表現					
3	からだ					
学習の到達目標						
グループ創作を中心に、自らの体験を通して踊る楽しさを知り、体への意識を高める。ダンス学習に積極的に取り組み、お互いの個性や表現を認め合い、人間の表現について理解を深める。						
回	テーマ	授業内容			AL	
1	ガイドダンス（授業概要の説明）	ダンスの基礎知識 レポート課題				
2	ステップ・フリーズ練習 1 いろいろな課題による表現 1	布を使って表現 シェードとミラー 即興			○	
3	ステップ・フリーズ練習 2 フォークダンス基礎	シングルサークルのダンス マイムマイム ほか				
4	ステップ・フリーズ練習 3 フォークダンス	ダブルサークルのダンス カップルポジション				
5	ステップ・フリーズ練習 4 いろいろな課題による表現 2	キッズダンス 英語の歌			○	
6	からだほぐし 1 日本民踊 1	炭坑節 春駒 ほか				
7	からだほぐし 2 日本民踊 2	花笠音頭				
8	からだほぐし 3 アジアのダンス	中国 採茶舞曲 ほか				
9	いろいろな課題による表現 3 グループ創作 1	花 曲選び イメージ			○	
10	いろいろな課題による表現 4 グループ創作 2	大きな布を使って表現 テーマ モチーフ			○	
11	グループ創作 3	全体の流れを考える モチーフからの発展			○	
12	グループ創作 4	音楽に合わせて			○	
13	グループ創作 5	一つの作品にまとめる			○	
14	グループ創作作品発表会	ビデオ撮影、レポート提出			○	
15	全体のまとめ	グループ創作作品鑑賞				
試験等	実技試験、レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：「ダンスの教科書」（成美堂出版） * 授業中に必要に応じて、教材を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習：日頃から身体表現・ダンスに関心を持ち、積極的にふれるよう心がけること。 事後学習：授業内容の復習と、グループ創作作品の個人練習・グループ練習。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の授業の自己評価、レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点60%、実技試験（創作作品）30%、レポート10%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダンス学習と創作に積極的に取り組み、表現についての理解を深めることができる。					
A	ダンス学習に楽しく取り組み、表現できる。					
B	ダンス学習に取り組める。					
C	ダンスの基礎を体験できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	グループエクササイズ実習 [Group Exercise]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S5137		
この授業に関係する資格						
GFI						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グループエクササイズ	グループエクササイズについての理解を深め、指導者としての役割を学び、実際の指導法について学習する。また、骨格筋に関する基礎知識を身につけ、安全で効果的なレジスタンスエクササイズ・ストレッチングエクササイズの指導ができるようになる。				
2	レジスタンスエクササイズ					
3	ストレッチングエクササイズ					
学習の到達目標						
グループエクササイズ指導に関する基礎知識を身につけ、指導者としての知識、動きを習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	グループエクササイズとは	グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割、指導者の心得				
2	身体の構造と骨格筋	骨格筋に関する基礎知識	○			
3	レジスタンスエクササイズ指導 1	レジスタンスエクササイズの基礎知識	○			
4	レジスタンスエクササイズ指導 2	レジスタンスエクササイズの基本の動き	○			
5	レジスタンスエクササイズ指導 3	レジスタンスエクササイズのプログラミング	○			
6	レジスタンスエクササイズ指導 4	レジスタンスエクササイズの指導法	○			
7	ストレッチングエクササイズ指導 1	ストレッチングエクササイズの基礎知識	○			
8	ストレッチングエクササイズ指導 2	ストレッチングエクササイズの基本の動き	○			
9	ストレッチングエクササイズ指導 3	ストレッチングエクササイズのプログラミング	○			
10	ストレッチングエクササイズ指導 4	ストレッチングエクササイズの指導法	○			
11	グループエクササイズ指導 1	グループエクササイズ指導の準備	○			
12	グループエクササイズ指導 2	グループエクササイズ指導の実際	○			
13	グループエクササイズ指導 3	指導者の動き	○			
14	グループエクササイズ指導 4	グループエクササイズのクラス運営	○			
15	まとめ・振り返り					
試験等	実技試験、筆記試験及びレポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：グループエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会 レジスタンスエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会 ストレッチングエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：積極的に指導実践に参加できるよう、練習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
指導実践及びレポート課題 (実技試験) 50% 筆記試験 25% 平常点 25% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	グループエクササイズ指導に関する知識を十分に活かし、対象者に配慮した安全で効果的な運動指導が行える。					
A	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、安全で効果的な運動指導が行える。					
B	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、適切な運動指導ができる。					
C	グループエクササイズ指導に関する基礎的な知識を身につけ、指導者として見本となる動きができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	エアロビクス1 [Basic Aerobics]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NSM-S4103		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、GFI (ADI・ADBI)、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グループエクササイズ	フィットネスについての基本的概念とエアロビクスについての基礎知識を学ぶ。特にエアロビックダンスについて取り上げ、今までの歴史的背景と現在の状況を理解した上で、実際に指導者になっていくためには何が必要であるかを演習形式で学ぶ。グループで実習課題に取り組みながら指導者として必要な最低限の知識と実技を身につける。				
2	エアロビクス					
3	フィットネス					
学習の到達目標						
講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。基本的プログラムを理解して覚え、指導（キューイング）できるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンスと運動実施の準備					
2	フィットネス概論	実技 エアロビクス基礎 1 (ウォーキングエクササイズ1)				○
3	エアロビックダンスの生理的効果	" 2 (ウォーキングエクササイズ2)				○
4	エアロビックダンスの特性	" 3 (ジョギングエクササイズ1)				○
5	エアロビックダンスのプログラムとは？	" 4 (ジョギングエクササイズ2)				○
6	ウォームアップとクールダウン	エアロビックダンス基本 基本1				○
7	メインエクササイズ	" 基本2				○
8	コンディショニング	" 基本3				○
9	エアロビックダンスの指導法	" 応用1				○
10	エアロビックダンスと音楽	" 応用2				○
11	エアロビックダンスグループ指導実習1					○
12	エアロビックダンスグループ指導実習2					○
13	エアロビックダンスグループ指導実習3					○
14	エアロビックダンスグループ指導実習4					○
15	まとめ・演習ノート提出					
試験等	実技試験、筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビックダンスエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会 エアロビックダンス基礎理論ハンドブック 池田美知子 等 (有) 教育インフォメーションサービス						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを日常生活に取り入れ、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキスト等で確認しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 25% 演習ノート 25% 実技試験 25% 筆記試験 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	指導者として必要な知識・動作を身につけ、参加者を観察しながら基本プログラムを指導することができる。					
A	指導者として必要な知識・動作を身につけ、基本プログラムを指導することができる。					
B	指導者として必要な知識・動作を身につけている。					
C	指導者として必要な最低限の知識・動作を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	エアロビクス2 [Advanced Aerobics]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	矢島 しのぶ			NS-S5104		
この授業に関する資格						
GFI (ADI)						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グループエクササイズ	現在フィットネスの現場で要求されている「グループエクササイズインストラクター」として 最低限必要な知識及び技術の獲得を目指す。さらに目的にあったプログラムの作成、安全性を考慮した明確で、分かりやすく楽しい指導を目標に実技技能をステップアップしていく。				
2	エアロビクス					
3	フィットネス					
学習の到達目標						
講義及び実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。自分で目的に合った基本的なプログラムを組み立て、指導できるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス					
2	フィットネスとは	実技	基本プログラム	1		○
3	エアロビックダンスの特徴		"	2		○
4	エアロビックダンスプログラム		応用プログラム	1		○
5	エアロビックダンスの指導者の役割①		"	2		○
6	エアロビックダンスの指導者の役割②		"	3		○
7	エアロビックダンスの指導者の役割③		指導法	1 (プログラム)		○
8	プログラム① ウォームアップ		"	2		○
9	プログラム② メインエクササイズ		"	3		○
10	プログラム③ 筋コンディショニング		"	4		○
11	プログラム④ クールダウン		"	5		○
12	エアロビックダンスプログラム指導実践 1					○
13	エアロビックダンスプログラム指導実践 2					○
14	エアロビックダンスプログラム指導実践 3					○
15	まとめ・演習ノート提出					
試験等	実技試験、レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビックダンスエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会 フィットネス基礎理論 (公社) 日本フィットネス協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：指導者になる意識を持って、明るく元気に休まずに出席すること。 事後学習：授業で学んだことを振り返り、指導法を実践する機会を持つこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 25% 演習ノート 25% 実技試験 25% レポート課題 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	グループエクササイズインストラクターとして、目的にあった運動プログラムを作成し、安全性を考慮した楽しい指導ができる。					
A	グループエクササイズインストラクターとして、安全性を考慮した楽しい指導ができる。					
B	グループエクササイズインストラクターとして、必要な知識・動作を身につけている。					
C	グループエクササイズインストラクターとして、必要な最低限の知識・動作を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ゴルフ1 [Basic Golf]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	江原 清浩		実	S-S4105		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ゴルフ	ゴルフにおいて技術練習のみならずルールや安全への配慮についても学ぶ。テーマに応じた課題を各自に課し、自己発見・自己解決型の授業になるように努める。他のスポーツにない技能も求められるが、実践的な解説と練習を重ねながら、全員が上達できるように進めて行く。				
2	マナー・エチケット					
3	ルール					
学習の到達目標						
ゴルフの基本的な知識・技能を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				
2	ゴルフの基礎知識	用具の取扱い、安全確保の留意点、グリップの握り方				
3	基本技術 1	アドレス、スタンス				○
4	基本技術 2	スイング軸、スイング軌道				○
5	基本技術 3	ハーフウェイバック、トップ、切り返し、インパクト、フォロー				○
6	アプローチショット	基本的なアプローチショット、ピッチショット				○
7	アイアンの打ち方 1	番手別クラブの共通性と相違点				○
8	アイアンの打ち方 2	ドロースタンス、フェードボールの打ち方				○
9	アイアンの打ち方 3	傾斜での打ち方				○
10	ウッ드의打ち方 1	フェアウェイウッ드의打ち方				○
11	ウッ드의打ち方 2	ドライバーの打ち方				○
12	バッティング	バターの基礎的な知識、技術				○
13	総合実践 1	ショートホールを利用した実践練習				○
14	総合実践 2	ロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性再確認				○
15	まとめ	上達度と目標達成度確認				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社						
準備学習・事後学習						
授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ゴルフの知識・技術を十分に身に付け、ゴルファーとしてプレイできる。					
A	ゴルフの知識・技術をよく身に付けている。					
B	ゴルフの知識・技術を身に付けている。					
C	ゴルフの基礎的な知識・技術を身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ゴルフ2 [Intermediate Golf]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・アクティブ・ラーニング		江原 清浩	実	S-S5106		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ゴルフ	本授業を通して、ゴルフに対する知識・技能をさらに発展させ、実際にコースを回れる能力を身に付けて頂きたいと願っている。そのため、技術の安定性を高め、ルールや安全への配慮についても学ぶ。単調なドリル練習だけでなく、テーマに応じた課題を各自で見つけ、受講生が主体となって授業を進めていただく。ゴルフ1より高度な技術が求められるが、詳しい解説と実践を重ね、全員が上達できるように進めて行く。受講意欲の高い学生に限ってゴルフ1を履修していなくても受け入れる。				
2	生涯スポーツ					
3	ゴルフ指導法					
学習の到達目標						
1. ゴルフコースを回れる為 正しいグリップ、アドレス、スイングの習得と戦略を理解する。 2. ルールを理解しマナーとエチケットを身につけ、理想的な同伴競技者となる。 3. 授業に、積極性・協調性・責任感をもって臨み、リーダーシップ・スポーツマンシップを発揮しながら、安全の確保にも留意し、生涯スポーツの一手段としてゴルフを取り入れる能力を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				
2	ゴルフの基本確認	正しいグリップ、アドレス、スイング、ゴルフの危険性、ゴルフルールと審判法の独自性、スイングドリル				
3	基本スイング1 アイアンでの小さなスイング	(1)腕、肩の使い方 (2)リズム (3)小さいスイングと大きなスイングの違い (4)寄せのドリルとゲーム				○
4	基本スイング2 アイアンでのハーフスイング	(1)スクエアなアドレス (2)肩と腰の回旋方法 (3)正しい体重移動のポイント (4)距離感と方向性				○
5	パッティング	(1)ターゲットの捉え方 (2)ショートパットとロングパットの共通点と相違点				○
6	基本スイング3 色々なアイアンでのスイング	(1)クラブの特性の理解 (2)チップショットとピッチショット (3)ターゲットゲーム				○
7	基本スイングの完成へ向けて1 アイアン編	(1)スイング軌道とインパクトのポイント (2)点とラインの意味は (3)色々なアイアンのドリル				○
8	プレショットルーティンの習得	(1)自身の癖を知る (2)ルーティンの作り方 (3)ルーティンのドリル				○
9	基本スイングの完成へ向けて2 ウッド編	(1)ウッドとアイアンの共通点と相違点 (2)ウェッジからドライバーまでの連続性 (3)ウッドの活用法 (4)各自の特性に応じたクラブの見つけ方				○
10	応用技能への発展とドリル	(1)ハザードに対する対処の考え方 (2)ラフからのショットのドリル (3)スコアメイク				○
11	ルールの理解を深める	中庭特設ショートホールを利用した実践練習でのルール解説 (OB等に対する対処法)				○
12	アドバイスの送り方	(1)アドバイスできることとできないこと、してはいけないこと (2)効果的アドバイスの実践練習				○
13	総合実践1 技能を統合する	(1)長所、弱点の自己理解 (動画によるイメージ化) (2)中庭特設ショートホールを利用した実践練習				○
14	総合実践2 効果的なラウンドの仕方	中庭特設ショートホールを利用してロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性を再確認する				○
15	まとめ	上達度と目標達成度確認				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全3枚セット NHK エンタープライズ						
準備学習・事後学習						
授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ゴルフの知識と能力について応用力と指導法を十分に身に付け、リーダーシップも発揮できる。					
A	ゴルフの知識と能力について応用力を十分に身に付けている。					
B	ゴルフの知識と能力について力をつけている。					
C	ゴルフの能力についての基礎的な力をつけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		サッカー・フットサル [Soccer・Futsal]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		田本 育代			S-S4108	
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカー・フットサルコース	フットサルに特有な技術・戦術を習得するとともに、サッカーとは異なるルールを整理・理解してフットサルを楽しむ。ウォーミングアップメニューを考え、実践し、「公認C級コーチ養成講習」を意識し、指導者としての第一歩(サッカー・フットサルコース)を踏み出す。				
2	両競技種目の比較					
3	非指導側					
学習の到達目標						
フットサルを楽しむことによりその魅力に迫り、フットサルに特有な技術の獲得とルールの理解を目標とする。2年次の「公認C級コーチ養成講習」に備え、指導される側を体験してコーチングについて理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ガイダンス、ボール慣れ、アセスメントゲーム				
2	ドリブル	足の裏を使った運ぶドリブル、顔を上げた突破のドリブル、ゲーム				○
3	コントロール	足の裏を使ったコントロール他、ゲーム				○
4	キック・シュート	トォキック、スプーンパス、セカンドポストシュート、ゲーム				○
5	フェイント	フットサル特有のフェイントの習得、ゲーム				○
6	ボールポゼッション	4対2、4対3、ゲーム				○
7	攻撃	2人の関係での突破、ゴー・壁パス・ディアゴナル・ブロック&コンティニューなど				○
8	守備①	数的不均衡な状況での守備、1対2、2対3、ゲーム				○
9	守備②	リトリートディフェンスとプレッシングディフェンス、ゲーム				○
10	リスタート・サインプレー	コーナーキック、フリーキック、キックイン他、ゲーム				○
11	実技まとめ・試合	ナンバーカードゲーム				○
12	指導実践：ドリル①	公認C級コーチ養成講習の指導実践1回目(ドリル)で指導を受ける				○
13	指導実践：ドリル②	公認C級コーチ養成講習の指導実践1回目(ドリル)で指導を受ける				○
14	指導実践：ゲーム①	公認C級コーチ養成講習の指導実践2回目(ゲーム)で指導を受ける				○
15	指導実践：ゲーム②	公認C級コーチ養成講習の指導実践2回目(ゲーム)で指導を受ける				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：フットサルのルール（日本サッカー協会編）						
準備学習・事後学習						
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストの解答を解説する。						
成績評価の目安と方法						
受講意欲 60% 実技点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用でき、指導実践においてもディスカッションでの発言が活発である。					
A	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用してプレーし、指導実践においてもディスカッションができる。					
B	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を理解し、積極的にプレーできる。					
C	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違に触れ、実践することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	上級サッカー [ Advanced Soccer ]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング	齋藤 登		国	S-S5109		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカーコース	(公財) 日本サッカー協会が定める「公認C級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って実技指導を行う。その上で、指導実践1回目・2回目を実施する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。 ※資格取得には「全出席」が前提である。 ※隔年開講につき令和3年度は開講しない。				
2	公認C級コーチ・実技					
3	指導実践					
学習の到達目標						
(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」のカリキュラムに従い、分析の結果抽出されたテーマに沿って楽しい雰囲気の中で指導実践1回目ができ、更に指導実践2回目でパフォーマンス改善ができることを目標とする。シンクロ並びにフリースコーティングの使い分けができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	心構えと評価法				
2	ゲーム	アイスブレイク、4 VS 4 +GK				○
3	技術①	キック・ヘディング、コントロール、ドリブル				○
4	技術②	守備 (1 VS 1 の対応・後ろ向きの相手に対して)				○
5	戦術①	攻撃の個人戦術、守備の個人戦術				○
6	戦術②	数的同位の攻撃・守備、数的優位の攻撃・守備、数的劣位の攻撃・守備				○
7	ゴールキーパー	スローイング、キャッチング、ステップング、ローリングダウン、アングルプレー、ゲーム				○
8	プランニング	ラインゴールゲーム、中央ゴールゲーム、6ゴールゲーム、様々な4 VS 4 +GK				○
9	コーチング	インストラクターによるコーチングデモ				○
10	指導実践 1 回目①	各自のテーマでの指導実践 1 回目における反省とディスカッション				○
11	指導実践 1 回目②	各自のテーマでの指導実践 1 回目における反省とディスカッション				○
12	指導実践 2 回目①	各自のテーマでの指導実践 2 回目における反省とディスカッション				○
13	指導実践 2 回目②	各自のテーマでの指導実践 2 回目における反省とディスカッション				○
14	指導実践 振り返りと追試	各自のテーマでの行った指導実践の振り返りと追試				○
15	まとめ	実技および指導実践の振り返り 今後に向けて				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：実技が多いため各自コンディショニングを整え、実技内容を事前に指導教本で予習する。 事後学習：実技内容を振り返り、指導教本で確認・復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
指導実践に対し、受講者同士のディスカッションおよび教員よりフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
指導実践 60% 参加態度 20% ディスカッションでの発言・発表 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	楽しい雰囲気かつ改善が明らかな指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的かつ確かな発言ができる。					
A	楽しい雰囲気かつ改善が認められた指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的な発言ができる。					
B	楽しい雰囲気の中で指導実践ができ、ディスカッションにおいて発言ができる。					
C	指導実践ができ、ディスカッションに参加できる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	サッカー指導法 [ Coaching Method of Soccer ]		2			
授業形態	担当教員名				科目コード	
講義・アクティブ・ラーニング	齋藤 登		国	S-S3110		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカーコース	(公財) 日本サッカー協会が定める「公認C級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って講義を展開する。下記授業内容のテーマを理解し、サッカーの指導法の基本と考え方、その他指導者として必要な知識を学習する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。 ※資格取得には「全出席」が前提である。 ※隔年開講につき令和3年度は開講しない。				
2	公認C級コーチ・講義					
3	通信教育課題					
学習の到達目標						
(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ」のライセンス取得を目標とする。本科目は、専門種目が「サッカー」と言える者を対象とするサッカーコースである。サッカーに関する知識はもちろん、発育発達、技術・戦術、コーチング法等に関する知識を確実に習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	日本サッカーの夢、理念、ビジョン、組織、本コースについて				○
2	分析①	自チームの分析(チーム選手)、相手チームの分析、選手発掘のための分析、国際大会の分析				○
3	分析②	サッカーの目的による分析、プレーの原則による分析、サッカーの基本技術・基本戦術による分析				○
4	戦術①	攻撃の個人戦術、攻撃におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準				○
5	戦術②	守備の個人戦術、守備におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準				○
6	ゴールキーパー	育成年代のGKの指導、求められるGK像				
7	プランニング	トレーニング目標の設定、オーガナイズの意味、ゲームからの逆算、クオリティとリアリティ				○
8	指導実践ガイダンス	指導実践のテーマ決め、指導実践の方法と要点の解説				
9	コーチング法	コーチングの目的、コーチングの方法、働きかけの考え方、トレーニングの留意点				○
10	発育発達と一貫指導	成長の個人差、成長のプロセスと各時期の特徴、一貫指導の考え方、女子選手の特徴				○
11	チームマネージメント	コーチの仕事、指導対象者の違いとコーチ、育成の全体像とコーチ				○
12	メディカル	突然死、脳震盪、熱中症、RICE処置、スポーツ救命ライセンス				
13	サッカーの競技精神	サッカーのルーツ(起源)、審判、安全とフェアプレー精神				○
14	グループワーク	グループワーク、通信教育課題の解説・評価				○
15	まとめ	講義のまとめ 閉講ガイダンス				
試験等	筆記試験、その他通信教育(レポート)あり					
教科書及び参考図書						
教科書:(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習(週1.5時間): シラバスの内容を確認して、指導教本等で指導のイメージを持つように予習。 事後学習(週1.5時間): 指導教本にて授業内容を復習。						
課題に対するフィードバックの方法						
筆記試験及びレポートに対し、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験40% 通信教育課題レポート30% 参加態度30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーに関する知識を深く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十二分に兼ね備えている。					
A	サッカーに関する知識を良く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十分兼ね備えている。					
B	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を兼ね備えている。					
C	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を得ている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	医療事務 1、2 [Medical Office Work I, II]		各2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	若菜 智子			M-S2111		
この授業に関する資格						
医療事務検定試験						
この授業のキーワード		授業概要				
1	医療事務	医療機関の受付業務を行うにあたり必要となる医療保険制度の知識を身につけ、会計業務である医療費の算定の基礎を学ぶ。最終的には、「医療事務検定試験」の資格取得を目指す。 【持ち物】電卓（携帯電話・パソコン等は使用不可） 蛍光ペン5色 筆記用具 教科書 ※授業中の携帯電話の使用は禁じる。 【医療事務検定試験】※試験は大学構内で受験となる。				
2	医療保険制度					
3	受付・会計					
学習の到達目標						
国公立病院をはじめ、大学病院や診療所の事務員として幅広く医療業界に就職し、即戦力で活躍できる知識習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1・2	【医療事務1】	医療保険制度、受付・会計・請求				
3・4	【医療事務2】	基本診療料	○			
5・6	【医療事務3】	医学管理等、在宅医療	○			
7・8	【医療事務4】	投薬	○			
9・10	【医療事務5】	注射	○			
11・12	【医療事務6】	処置A	○			
13・14	【医療事務7】	処置B、リハビリテーション	○			
15・16	【医療事務8】	手術・麻酔A	○			
17・18	【医療事務9】	手術・麻酔B	○			
19・20	【医療事務10】	検査A	○			
21・22	【医療事務11】	検査B	○			
23・24	【医療事務12】	画像診断	○			
25・26	【医療事務13】	入院A	○			
27・28	【医療事務14】	入院B、請求事務関連	○			
29・30	【医療事務15】	補足、まとめ、	○			
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：医療事務講座テキスト一式						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1時間）：次回の項目をテキストで読んで内容を確認する。						
事後学習（週2時間）：授業内で指定されたカルテ問題集の箇所や、テキスト内の練習問題を解く。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テスト、提出物の誤った箇所を解説して返却。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点 30%(授業参加意欲・態度・小テスト・提出物)						
評価	成績評価別の到達度					
S	医療事務の知識を十分身に付けている。					
A	医療事務の知識を身に付けている。					
B	医療事務の知識を理解している。					
C	医療事務の知識を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		医療事務3 [Medical Office Work Ⅲ]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・アクティブ・ラーニング		若菜 智子			M-S3112	
この授業に関する資格						
医事コンピュータ能力技能検定試験 ・ 調剤薬局事務検定試験						
この授業のキーワード		授業概要				
1	医療事務コンピュータ	<p>&lt;医療事務コンピュータ&gt; 医療事務1・2で学習する医療費の算定を実践に即したコンピュータ操作による実習を行うことで、医療機関で勤務するために必須となるコンピュータ会計システムのスキルを身につける。最終的には、「医事コンピュータ能力技能検定試験」の資格取得を目指す。</p> <p>&lt;調剤薬局事務&gt; 調剤薬局で必要となる薬剤の基礎知識と、処方箋による算定方法から調剤報酬明細書(レセプト)の作成までを学ぶ。最終的には「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。</p> <p>【持ち物】電卓(携帯電話・パソコン等は使用不可) 蛍光ペン5色 筆記用具 教科書</p> <p>※授業中の携帯電話の使用は禁じる。</p> <p>【医事コンピュータ能力技能検定試験】【調剤薬局事務検定試験】※試験は大学構内で受験となる。</p>				
2	調剤事務					
3	請求					
学習の到達目標						
<p>&lt;医療事務コンピュータ&gt; 国公立病院をはじめ大学病院や診療所の事務員として必要となるコンピュータ会計システムのスキルを習得する。</p> <p>&lt;調剤薬局事務&gt; 調剤薬局の事務員として就職するための知識を習得する。</p>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	【医療事務コンピュータ1】	システムの概要、基本診療料				○
2	【医療事務コンピュータ2】	投薬、会計等、注射				○
3	【医療事務コンピュータ3】	処置A、手術・麻酔A				○
4	【医療事務コンピュータ4】	処置B、手術・麻酔B				○
5	【医療事務コンピュータ5】	検査A、画像診断A				○
6	【医療事務コンピュータ6】	検査B、画像診断B				○
7	【医療事務コンピュータ7】	入院A				○
8	【医療事務コンピュータ8】	入院B				○
9	【医療事務コンピュータ9】	実技試験				○
10	【調剤薬局事務1】	医療保険の概要と薬剤の基礎知識				○
11	【調剤薬局事務2】	薬剤料の計算				○
12	【調剤薬局事務3】	調剤技術料				○
13	【調剤薬局事務4】	薬学管理料				○
14	【調剤薬局事務5】	レセプト作成(基本編)				○
15	【調剤薬局事務6】	まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：医療事務テキスト一式+コンピュータテキスト ・ 調剤薬局事務テキスト一式						
準備学習・事後学習						
準備学習(週1時間)：【医療事務コンピュータ】医療事務講座のテキストにて算定方法を復習として確認する。						
事後学習(週2時間)：【調剤薬局事務】授業内で指定された処方箋問題集の箇所を解く。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出物の誤った箇所を解説して返却。						
成績評価の目安と方法						
実技・筆記試験 80% 平常点 20%(授業参加意欲・態度・提出物)						
評価	成績評価別の到達度					
S	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を十分身に付けている。					
A	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を身に付けている					
B	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を理解している。					
C	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書（ワード） [Business Documents MS-Word]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4113		
この授業に関する資格						
MOS						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ビジネス文書	ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・Word」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。また、Microsoft office specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格に必要なスキルを養う。最終的には、Microsoft office specialist (MOS) 検定の合格を目指す。				
2	文章入力、文書作成					
3	MOS 検定					
学習の到達目標						
ビジネス社会に必要な文書（文章・文字入力）作成に関する知識、スキルを学び、文書の作成、保存、管理能力を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				○
2	Word の基礎知識	Word 操作に関する基本事項について学習する				○
3	文字の入力	文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する				○
4						
5	文書の作成	文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する				○
6						
7	表の作成	表の作成・レイアウト、書式について学習する				○
8						
9	文書の編集	文字の割付け、囲い文字、文字の効果、段組みについて学習する				○
10						
11	表現力をアップする	ワードアート、クリップアート、図形の作成・挿入について学習する				○
12						
13	ビジネス文書の作成	ビジネス文書の概要、及びビジネスでのメール活用について学習する				○
14						
15	まとめ	これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS Word 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピング練習をする。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚える。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Word の操作を十分理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。（MOS 模試 80 点以上）					
A	MS-Word の操作を理解し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-Word の操作を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	MS-Word の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書（エクセル） [Business Documents MS- Excel]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4114		
この授業に関する資格						
MOS						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ビジネス文書	ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・Excel」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。 また、Microsoft office specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格に必要なスキルを養う。 最終的に、Microsoft office specialist (MOS) 検定の合格を目指す。				
2	表計算・グラフの作成					
3	MOS 検定					
学習の到達目標						
ビジネス社会で必要な文書（表計算・グラフ作成）作成に関する知識、スキルを学び、文書の作成、保存、管理能力を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				○
2	表の作成・計算	データの入力、変換、保存方法、簡単な計算について学習する				○
3						
4	表の計算	関数を用いて高度な計算をする				○
5						
6	グラフ作成	データをもとに様々なグラフを作成する				○
7						
8	ビジネス文書の 基礎知識及び作成	カレンダーの作成、編集				○
9		名簿、当番表の作成、編集				○
10		トーナメント表、リーグ戦の作成、編集				○
11		家計簿、記録簿の作成、編集				○
12		アンケートの作成、編集				○
13		見積書、請求書、領収書の作成、編集				○
14						
15	まとめ	これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかるマスター MOS Excel 365&2019						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-Excel を有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。（MOS 模試 80 点以上）					
A	MS-Excel の操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-Excel の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					
C	MS-Excel を用いて基本的な表計算ができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネス文書 (パワーポイント) [Business Documents MS- PowerPoint ]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S4115		
この授業に関する資格						
MOS						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ビジネス文書	ビジネス文書作成ソフト「Microsoft・PowerPoint」について演習を通じて学び、文書作成の様々な機能について学ぶ。また、Microsoft office specialist (MOS) 検定の出題範囲について学び、合格に必要なスキルを養う。最終的に、Microsoft office specialist (MOS) 検定の合格を目指す。				
2	プレゼンテーション					
3	MOS 検定					
学習の到達目標						
ビジネス社会で必要な文書 (プレゼンテーション) 作成に関する知識、スキルを学び、文書の作成、保存、管理能力を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う (遠隔)				○
2	プレゼンテーションの管理	スライド・配布資料・ノート (遠隔)				○
3	プレゼンテーションの管理	オプション・表示変更・印刷 (遠隔)				○
4	スライドの管理	スライドの挿入・削除・変更 (遠隔)				○
5	スライドの管理	並べ替え・グループ化・設定 (遠隔)				○
6	書式設定	テキスト・リンク挿入 (遠隔)				○
7	書式設定	図の挿入・グラフィック要素の挿入 (遠隔)				○
8	メディアの挿入	表、グラフの挿入・Smart art の挿入 (遠隔)				○
9	メディアの挿入	3D モデル・メディアの挿入 (遠隔)				○
10	アニメーションの適用	画面切り替え・トランジション (遠隔)				○
11	アニメーションの適用	アニメーション (遠隔)				○
12	プレゼン演習	テーマ別プレゼンテーション作成・発表 (遠隔)				○
13	プレゼン演習	テーマ別プレゼンテーション作成・発表 (遠隔)				○
14	MOS 対策・模擬試験	模擬試験演習 (遠隔)				○
15	まとめ	これまでの学習内容の確認と定着確認 (遠隔)				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかる PowerPoint 2019						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習 (週 1.5 時間) : 授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% (未提出な課題がある場合、成績の評価はされない)						
評価	成績評価別の到達度					
S	MS-PowerPoint を有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
A	MS-PowerPoint の操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
B	MS-PowerPoint の基本的な操作方法を理解し、文書を作成することができる。					
C	MS-PowerPoint を用いてスライドショーをつくることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテルビジネス総論 1 [Introduction of Hotel Business 1]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習	植松 大介		国	M-S2116		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホテルビジネス	ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 2 級の内容を踏まえながら、ホテル業の実務を学ぶ。また受講者は「ホテル概論」を受講している者が望ましい。				
2	部門別業務理解					
3	ホテル英語					
学習の到達目標						
ホテル産業の概要と実務知識を学び、ホテルビジネスの実務を詳しく学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意				
2	ホテルの基礎①	ホテルとは、ホテルの経営形態と運営形態、サービスの基本と職能別サービス				
3	ホテルの基礎②	ホテル関連法規と概要、ホテル・旅館関連の政府系機関と団体、ホテル英語				
4	宿泊部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、宿泊約款、客室機能				
5	宿泊部門の実務①	フロントサービス、宿泊予約、オペレーター				
6	宿泊部門の実務②	フロントオフィス、ハウスキーピング、コンシェルジュ、パトラー				
7	料飲部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング				
8	料飲部門の実務①	フランス料理レストラン				
9	料飲部門の実務②	中国料理、その他の外国料理専門店				
10	料飲部門の実務③	コーヒーショップ、バー・ラウンジ、ティーラウンジ その他				
11	宴会部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、市場動向				
12	宴会部門の実務	形式、料理、プライダル				
13	調理部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング				
14	調理部門の実務①	メインキッチン、レストランキッチン、設備機器				
15	調理実務の実務②	料理とメニューの基礎知識				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点（予習状況、授業の態度、意欲など） 20%とし、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別業務をきわめて高いレベルで理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別業務をかなり高いレベルで理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別業務をある程度理解し、ホテル業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別業務を最低限理解し、ホテル業務に必要な知識を最低限身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテルビジネス総論 2 [Introduction of Hotel Business 2]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習	植松 大介		国	M-S3117		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホテルビジネス	ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 1 級の内容を踏まえながら、ホテル業の経営・管理についてを学ぶ。また受講者は「ホテル概論」「ホテルビジネス総論 1」を受講している者に限る。				
2	部門別業務理解					
3	管理業務					
学習の到達目標						
ホテルにおける実務知識を学び、ホテル経営と管理の仕組みとノウハウを学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 (遠隔)				
2	マーケティング部門の概要	組織、業務役割、売上予算 (遠隔)				
3	マーケティング部門の実務①	分析、戦略、マーチャライジング、CRM、(遠隔)				
4	マーケティング部門の実務②	宴会セールス、宿泊セールス、婚礼セールス (遠隔)				
5	マーケティング部門の実務③	広報・企画、顧客管理 (遠隔)				
6	総務・人事部門の概要	組織、業務役割 (遠隔)				
7	総務・人事部門の実務	採用、福利厚生、内部運営、コンプライアンス (遠隔)				
8	施設管理部門の概要	組織、業務役割 (遠隔)				
9	施設管理部門の実務①	設備と付帯設備、省エネと工コ、IT 関連、廃棄処理 (遠隔)				
10	施設管理部門の実務②	関連法令、関連資格 (遠隔)				
11	仕入・購買部門の概要	組織と業務役割 (遠隔)				
12	仕入・購買部門の業務	仕入と在庫、在庫管理、食品衛生 (遠隔)				
13	経理・会計部門の概要	組織と業務役割 (遠隔)				
14	経理・会計部門の業務①	収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税の知識 (遠隔)				
15	経理・会計部門の業務②	各部門 (宿泊・料飲・宴会) の会計実務 (遠隔)				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス (基礎編) (財) ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間) : テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習 (週 1.5 時間) : 講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点 (予習状況別況、授業の態度、意欲など) 20%とし、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別業務をきわめて高いレベルで理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別業務をかなり高いレベルで理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別業務をある程度理解し、ホテル管理業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別業務を最低限理解し、ホテル管理業務に必要な知識を最低限身に付けている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	和文化と作法 [Japanese culture and Courtesy]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	鳶 洋子		国	M-S3118		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	日本の伝統文化	マナー・プロトコル検定の内容を踏まえながら、就職活動と実社会でのマナー・作法・文化を学ぶ。 さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精錬する。				
2	作法					
3	和食文化					
学習の到達目標						
国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき日本の知識や技能の習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など				
2	和の文化について	和の文化とは				○
3	和室における作法	和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方等				○
4	日本の伝統的な衣服	着物文化、浴衣、作務衣など				
5	和食について①	日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類				
6	日本料理の特徴と和食器	日本料理の陰と陽、和食器（やきもの、漆器等）				
7	和食について②	「和食」と伝統的な嗜好品（和菓子、日本茶）、和食文化考察（テーマ決め、レポート作成）				○
8	和食について③	和食文化考察、提案				○
9	道の世界	茶道、華道、書道、香道、武道とは				
10	伝統的な娯楽	歌舞伎、能、狂言とは、お抹茶のいただき方				○
11	日本の季節と節句	和の季節の感じ方、節句と二十四節季				
12	日本の行事について	通過儀礼、日本独特の行事、祭事				○
13	日本料理店での作法	会席、茶懐石、寿司屋でのマナー				
14	和装での立ち居振る舞い	浴衣着装、立ち居振る舞い実践、茶話会テーマ決め				○
15	総復習	テーマに沿った茶話会（抹茶を点てる、浴衣での振る舞い）				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に、新聞、インターネット等で情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：学んだことが日常生活の中に根付いていることを意識し、疑問点等調べ、確認しながら生活を送ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50%、授業中の積極的な態度 30%、予習状況 20%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	マナー・プロトコール [Manners and Protocol]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	鳶 洋子		国	M-S3119		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコール検定、ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マナーの基本	マナー・プロトコール検定の内容を踏まえながら、検定合格と就職活動へのマナー・作法を学ぶ。さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精練する。				
2	プロトコール					
3	通過儀礼と年中行事					
学習の到達目標						
国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき知識や技能の習得、プロトコール検定3級の合格を目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	オリエンテーション	マナー・プロトコールとは何か、授業の進め方、評価の仕方、検定試験について、受講上の注意など				
2	基本姿勢	～第一印象について、挨拶、態度、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀、返答、滑舌、表情	○			
3	言葉遣いと話し方	～正しい敬語や丁寧な話し方、クッション言葉、会話～	○			
4	自己紹介と会話	～自己紹介をしてみる（笑顔、歩き方、姿勢、話し方、敬語の総練習・実践）～	○			
5	プロトコールとは	～5原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～	○			
6	洋食文化と作法	～料理の種類、カトラリーの使い方、会話の進め方～	○			
7	和食文化と作法	～お箸、和食器、日本料理と文化～	○			
8	社会人に必要なマナー	～会社とは何か、社会人意識、礼装、贈答、手紙など～	○			
9	電話応対とビジネス文書	～電話応対の心得、電話の取り次ぎ方、かけ方、名刺交換～	○			
10	来客応対とトラブル対応	～来客応対、茶菓応対、トラブル対応、文書の書き方～	○			
11	儀礼と節句②「冠」	～知識の確認、誕生から亡くなるまでの人生における儀礼としきたり～	○			
12	儀礼と節句③「婚」	～知識の確認、祝儀袋とふくさ～	○			
13	儀礼と節句④「葬」	～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方～	○			
14	儀礼と節句⑤「祭」	～知識の確認、神社の参拝の仕方～	○			
15	日本の年中行事	～知識の確認、法令、待遇、その他～ まとめ	○			
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコールの基礎知識（日本マナー・プロトコール協会） * 授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 課題で復習。授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実際に行ってみること。						
課題に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践・小テストによって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%、授業中の積極的な態度 20%、予習状況 10%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテル接客英会話 [Hotel Customer Service English]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S3120		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	実務英語	視聴覚教材などを効率よく使用し、現場で役に立つ基本的な接客英語の表現やフレーズの習得と運用能力を講義と演習によって養う。英語での接客に必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付けるためにロールプレイングを通して、接客技法を学ぶ。受講者は「英語コミュニケーション1」を受講している者が望ましい。				
2	クレーム対応					
3	予約・精算対応					
学習の到達目標						
国際語として英語の役割を理解し、基本的な接客英語の表現やフレーズを修得する。 またそれらを駆使し、ホテル現場や日常生活の中で、英語でロールプレイングや実売プレゼンテーション、実務実演ができることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	受講上の注意など	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など				○
2	Sales Introduction	Introducing Employee & Company Outlines (Who we are...)				○
3	Rooms ①	Booking & Check In				○
4	Rooms ②	House Keeping & Order Taking				○
5	Rooms ③	Check Out				○
6	Real English ①	Native 講師による実践講義				○
7	Food & Beverage ①	Reservation, Greeting & Seating				○
8	Food & Beverage ②	Order Taking & Menu Description				○
9	Food & Beverage ③	Cashier & Complaints				○
10	Real English ②	Native 講師による実践講義				○
11	Guest Service ①	Concierge & Butler Service				○
12	Guest Service ②	Transportation & Location				○
13	Guest Service ③	Booking & Confirmation				○
14	Guest Service ④	Message Service				○
15	Total Exercise	Total Role-Playing				○
試験等	ロールプレイング					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う						
成績評価の目安と方法						
ロールプレイング 70% 予習状況・授業中の積極的な態度などの平常点 30%として総合的に評価						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対が十分に行える。					
A	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がほぼ行える。					
B	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がかなり行える。					
C	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がある程度行える。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ホテル概論 [Outline of Hotel]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	植松 大介		国	M-S2121		
この授業に関する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	観光業界	世界と日本のホテル業界の現状を解説し、日本の観光業におけるホテル業の位置づけと今後の展望を考察・理解する。				
2	ホテル産業					
3	日系と外資系					
学習の到達目標						
ホテル領域に関する基礎的知識を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意				○
2	観光と旅行産業	世界と日本の観光・旅行産業の現状				○
3	日本の観光業の現状分析	観光白書を読み、業界を紐解く				○
4	ホテル史	世界と日本のホテルの歴史				○
5	シティホテル	都市部のホテルの運営形態				○
6	リゾートホテル	都市近郊のホテルの運営形態				○
7	アーバンリゾート・旅館	都市型リゾートホテル及び旅館の運営形態				○
8	日系ホテル①	日系ホテルの老舗と新興				○
9	日系ホテル②	日系ホテルグループ その特徴と運営形態				○
10	外資系ホテル①	外資系（欧米・アジア）ホテルの老舗と新興				○
11	外資系ホテル②	外資系ホテルグループ その特徴と運営形態				○
12	日外ホテル比較分析	帝国ホテルとリッツカールトン				○
13	日系グループ比較分析	西武と東急				○
14	外資グループ比較分析	ヒルトンとマリオット				○
15	日米ホテル比較分析	ディズニーホテル				○
試験等	プレゼンテーション + レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：国土交通省「観光白書」ホテルビジネス（ベーシックレベルテキスト：基礎編）（財）ホテル教育センター 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
リサーチレポートとプレゼンテーション(65%)、リアクションレポートの内容(20%)、平常点（意欲・態度等）(15%)とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテル概論の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	ホテル概論の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	ホテル概論の内容をほぼ理解している。					
C	ホテル概論の内容を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ビジネスマナー [Business Manners]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング	八板 将明			M-S3122		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	クリティカルシンキング	就活スキル・社会人スキルについてアクティブ・ラーニングを通じて学ぶ。自身の生き方、考え方に気づきの機会を作り、ビジネス界で活躍するためのライフプランを考える。				
2	イノベーション					
3	セルフマネジメント					
学習の到達目標						
ビジネスマナーの基礎を各テーマを題材として理解し、実践できる力を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	定着度確認。授業の進め方、評価方法、定期試験、受講上の注意				
2	自己紹介と他己紹介	「記憶に残る」自己紹介」グループディスカッション&演習				○
3	自己分析	TA（交流分析 Transactional Analysis）を知る				○
4	聞くチカラ①	傾聴				○
5	聞くチカラ②	フロービング				○
6	話すチカラ①	「自分を知る」成功失敗体験・長所と短所				○
7	話すチカラ②	「相手を知る」応酬話法				○
8	レジリエンス	ココロの回復力・感情コントロール・アンガーマネジメント				○
9	EQ	ココロの知能指数・行動コントロール				○
10	問題解決演習①	グループディスカッション「価値創造／商品・戦略」				○
11	問題解決演習②	グループディスカッション「人間関係／クレーム・コンプライアンス」				○
12	キャリアプラン	AI 社会におけるヒトの役割～なくなる仕事、生まれる仕事～				○
13	マネープラン	給与・保険・資産運用				○
14	ライフプラン	マネープランとキャリアプラン				○
15	まとめ	まとめ				
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 各単元の関連情報の収集						
事後学習（週 1.5 時間）： 各単元の関連情報の編集						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で振り返り。授業終了後やオフィスアワーなどで適宜対応。習熟度から個別指導が必要な場合なども別途対応。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	ビジネスマナーについての理解が深く、セルフプロデュースについての高い意識／技能がある。					
A	ビジネスマナーについての理解があり、セルフプロデュースの重要性を理解している。					
B	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析ができています。					
C	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析の方法を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ダイエット実践論 [Practical theory of diet]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	玉木 啓一・菊地 亨			M-S2123		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダイエット	減量を成功させるために、食と生活と体のメカニズムについて学んでいく。エネルギーの摂取と消費、これらをどのように把握しダイエットが成功していくかを考える。また、ダイエット実践について各自が考察を進めていき、健康的なダイエットについて学んでいく。				
2	食生活					
3	運動					
学習の到達目標						
<p>ダイエットという言葉は、減量や治療のための規定食が本来の意味である。世の中では、食事だけではなく、運動を含めた痩せるための行動をダイエットと呼んでいる。この講義では、減量のメカニズムを身体的側面と食物摂取の側面の両面から理解することを目標とする。</p>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ダイエットとは	ダイエットを解説し、その有用性と留意点を学習する				
2	エネルギー摂取	エネルギー摂取の基本について学ぶ				
3	エネルギー摂取量（1）	エネルギー摂取量の把握方法のための基本を学ぶ				○
4	エネルギー摂取量（2）	エネルギー摂取量の把握方法について実践してみる				○
5	エネルギー消費	人体内でのエネルギーの消費について、その仕組みを学ぶ				
6	エネルギー消費量把握	運動などによる、エネルギー消費量の測定・推定方法を学ぶ				
7	エネルギー消費量推定	エネルギー消費量の把握について実践を通じて学ぶ				○
8	ダイエットの本質	減量を成功させるための、理論的本質を考察する				○
9	ダイエットのための食事	ダイエットのための食事法の基本を学習する				
10	ダイエットのための運動	ダイエットのための運動について学ぶ				
11	ダイエットの考察1	流行しているダイエットについて調べ、ダイエットについて理論的に考える能力をつける				○
12	ダイエットの考察2	効果が期待できるダイエットとは何かを考察する				○
13	理想的ダイエット（運動）	ダイエットのための運動について考える				○
14	理想的ダイエット（食事）	対象者のライフスタイルを考慮したダイエットについて検討する				○
15	発表	各自の考える正しいダイエットを発表する				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書 なし（適宜資料を配布）						
参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」岡田斗司夫 新潮新書						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ダイエットに興味をもって情報を集め、授業で話題を提供できるように準備する。						
事後学習（週 1.5 時間）：自分なりの「正しいダイエット」をまとめるに当たって講義内容を復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
授業中の発表内容 60%、話題提供 20%、発言 20%を総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造する力を持っている。					
A	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。					
B	ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。					
C	ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ダイエット実践実習 [Practice of dieting]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・アクティブ・ラーニング		玉木 啓一			M-S4124	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダイエット	具体的なダイエットの理論、方法論を、実験的な方法を用いて可能な限り検証し理解を深めていく。実際にダイエットを実践し、その効果を検証する。ダイエットの実践は学生本人に限らず、家族等の身近な実践者でも構わない。				
2	食事					
3	エネルギー消費量					
学習の到達目標						
本実習では、「ダイエット」を減量としてとらえ、巷で実施されている「ダイエット」を分析、検討する力を養っていく。安全かつ効果的なダイエットを、実践・指導していく能力を身に着けることが目標である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	ダイエットとは	世の中で実施されている、ダイエットを考える				
3・4	エネルギー出納	エネルギー摂取（食物摂取）とエネルギー消費（運動）について学ぶ				
5・6	摂取エネルギー 1	料理カードを用いてエネルギー摂取量の目安を知る				
7・8	摂取エネルギー 2	料理カードを用いて、エネルギーと食品や調理法との関係性について学ぶ				
9・10	摂取エネルギー 3	市販されている食品の構成や量を検証し、摂取エネルギー量を実践的に学ぶ				
11・12	エネルギー消費 1	エネルギー消費量の測定方法について学ぶ				○
13・14	エネルギー消費 2	様々なエネルギー消費量の推定方法について学ぶ				○
15・16	エネルギー消費 3	様々な身体活動のエネルギー消費量を測定（推定）する				○
17・18	ダイエットのための食品	既に流通するダイエット食品の食品表示を見て、食材の効果を考える				
19・20	摂取エネルギー量の管理	食事管理ソフトなどを用い自身の食事管理をして、その効果を検証する				
21・22	ダイエットのための運動	ダイエットに効果的な運動について、考え検証していく				
23・24	消費エネルギー量の管理	具体的なダイエット法について、考え検証していく				
25・26	ダイエット実践の検証	各自が着目したダイエットの効果について検証する				
27・28	ダイエット実践のまとめ	各自が着目したダイエットの効果について考察・まとめを行う				
29・30	総括・成果発表	ダイエット実践に関する成果発表				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書 なし（適宜資料を配布） 参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」岡田斗司夫 新潮新書						
準備学習・事後学習						
準備学習： 1週間のダイエット実践について、授業中に報告する準備を行う。 事後学習： ダイエットの研究、実践をまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
授業中の発表内容 60%、話題提供 20%、発言 20%を総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造・実践する力を持っている。					
A	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断・実践する力を持っている。					
B	ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを実践する力を持っている。					
C	ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ホスピタリティ基礎演習 [Basic Study of Hospitality]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	M-S4125		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホスピタリティ	「サービス」、「おもてなし」、「ホスピタリティ」とは何か。「人が人と接し、人をもてなす職業」に対する意識を高め、その業種に就職するために必要な知識、技能を身につける。				
2	サービス					
3	おもてなし					
学習の到達目標						
「人材」としてではなく「人財」としてホスピタリティ産業で活躍できるよう必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業内容の紹介				
2	サービス	サービスとは何か				○
3	おもてなし	おもてなしとは何か				○
4	ホスピタリティとは何か	ホスピタリティとは何か				○
5	日本と世界	日本のホスピタリティと世界のホスピタリティ				○
6	日本と世界の美学	侘びと寂びとチップ				○
7	職業理解 1	ホテル業界の概要と業務				○
8	職業理解 2	ホテル業実務者による業界説明				○
9	職業理解 3	ホテル見学実習				○
10	職業理解 4	ホテル業界研究（プレゼンテーション）				○
11	職業理解 5	医療事務業務界の概要と業務				○
12	職業理解 6	医療事務実務者による業務説明				○
13	職業理解 7	医療機関での見学実習				○
14	職業理解 8	医療業界研究（プレゼンテーション）				○
15	職業理解 9	まとめ				
試験等	実技/実演試験 + ロールプレイング					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス 基礎編（財）日本ホテル教育センター マナー&プロトコルの基礎知識 マナー・プロトコル検定テキスト（日本マナー・プロトコル協会） ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技/実演試験・ロールプレイング・プレゼンテーション 50%、リアクションレポート（見学実習レポート、感想文など）35%、平常点（態度・意欲・服装など）15%とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く十分な知識と技能を身につけている。					
A	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く基礎的な知識と技能を身につけている。					
B	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く準備ができています。					
C	授業の成果から、サービス産業界で働くことについて考えをまとめられている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	サービス・接遇実習 [Practice of Service and Reception]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・アクティブ・ラーニング	太田 あや子			M-S5126		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会人	業界に必要とされる人材の基礎的な技能と知識をみにつける。				
2	就業意識育成	業界の基礎知識を活かし医療・サービス産業界で実習的・研修的な就業体験を行う。				
3	マナー実践	サービスを提供するために必要なマナーを学ぶ。				
学習の到達目標						
社会人として必要なマナーを活かし、医療・サービス産業界で活躍できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ~ 30	1・2 回目：ガイダンス（就業体験実習の準備）	実習施設の業務を調べレポートを作成する。現場からの指導者から施設ガイダンスを受ける				○
	3 回目～26 回目：医療機関またはサービス産業での就業体験実習	毎週火曜日 1・2 限に病院またはホテルで現場体験実習を行う 医療機関：病院、医院のボランティア実習 受付、会計、データ処理、案内、講演会運営等 サービス産業：ホテル：料飲、接客、客室整備、宴会補助				
	27・28 回目：実習のまとめと就業体験実習の発表準備	パワーポイントによる体験発表の準備				
	29・30 回目：就業体験発表会	実習先の担当者を招いての就業体験実習発表会				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：医療事務テキスト ゼロから教えてビジネスマナー、松本昌子、かんき出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に返却される実習日誌に目を通し、課題を設定しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回返却される実習日誌に目を通し、課題を発見して、解決策を考えておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の発表資料、提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。					
B	体験実習に取り組み、サービス産業に従事する準備ができている。					
C	体験実習を通して、サービス産業を理解できている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		地域事業実習 [ Practice of Regional Business ]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習（集中授業）・アクティブ・ラーニング		太田 あや子		M-S5127		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	地域事業	公共施設でのサービスマネジメント業を定期的かつ長期にわたり実習生として出向き、1年次での学習と実際のサービス現場での学びを統合する学外での実習形式の授業である。 具体的には、東松山市の教育部スポーツ課及び子育て支援課に出向き、課の補助業務を通して、公務員業務の実習的・研修的な就業体験を行い、実務実践能力を身につける。				
2	就業意識					
3	マナー実践					
学習の到達目標						
毎週1回の事業参加で、日本スリーデーマーチ実行委員会等の就業体験を通して、事業の運営方法を身につける。						
回	授業内容					AL
1 ～ 30	学内授業（1・2、ガイダンス） 授業概要と事業内容等の説明および日本スリーデーマーチについて学ぶ  学外授業（3～14、東松山市役所業務補助） 東松山市役所の業務全般について業務補助を体験する  学外授業（15～26、日本スリーデーマーチ推進委員会業務補助） 東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会の業務を中心に業務補助を体験する  学内授業（27・28） 実習体験の資料作成と発表準備  学内授業（29・30） 実習体験発表					○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：東松山市の市政だより、日本スリーデーマーチ総合計画書など その他、必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
毎週東松山市へ出向いての実習のため、地域スタッフとのコミュニケーション能力も必要となる。あらかじめ、世代を問わず会話できるように、普段の生活から練習する。 実習記録の内容をふりかえり、翌日の実習に生かせるよう、体調を整えて実習に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎日、実習記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけ、十分な発表をすることができる。					
A	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。					
B	地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。					
C	地域事業を通して実態を理解し、事業運営方法の体験を発表をすることができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	地域事業運営実習 [ Practice of Regional Business ]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習(集中授業)・アクティブ・ラーニング	太田 あや子・福島 邦男・植松 大介・八板 将明			M-S5128		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	地域事業	1年次、2年前期の公共施設でのサービスマネージメント業での就業体験を活かし、実際の事業運営に担当者として関わり総合的な課題解決学習を行う、学外での実習形式の授業である。 具体的には、東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会や吉見町の公共施設に出向きイベント]や教室運営業務に携わることを通して、公務員業務の実務実践能力を向上させる。				
2	就業意識					
3	マナー実践					
学習の到達目標						
東松山市や吉見町のイベントや教室の準備、実施、終了後点検業務の就業体験を通じて、事業の運営の方法を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ~ 30	1・2回 ガイダンス	学内ガイダンス 授業概要と関係町村の事業内容等担当事業について学ぶ。				○
	3~26回 学外実習	学外授業(3~26、東松山市役所、吉見町業務) 東松山市役所(日本スリーデーマーチ、保育園運動指導等)、吉見町のイベントや教室業務(子育て支援事業等)をスタッフの一員として運営する。				
	27・28回 学内授業	学内授業(27・28) 実習体験の資料作成と発表準備				
	29・30回 成果発表会	学内授業(29・30) 実習体験発表 市町の関係者をお招きして、実習での学習成果を発表する。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：東松山市、吉見町の広報誌、日本スリーデーマーチ総合計画書など 必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：東松山市や吉見町の施策に目をとおして課題に関する社会事象を把握しておくこと。 事後学習：毎回の活動を実習日誌にまとめ、次回の課題を設定しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
学内ガイダンスと実習へ取り組み姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけて実践し、十分な成果発表をすることができる。					
A	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営を実践し、成果を発表することができる。					
B	地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法を実践し、成果を発表することができる。					
C	地域事業へ取り組み実践を通して実態を理解し、成果を発表することができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	インターンシップ [Internship]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング	太田 あや子・茗荷 尚史・大野 勝生・高橋 琴美・八板 将明			NSM-S9130		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	就業体験	短期大学で学んできた知識や指導技術を活かす場として、企業や団体において、健康福祉や健康産業、生涯スポーツに関する実習的・研修的な就業体験を行う。				
2	就業意識育成					
3	専門職体験					
学習の到達目標						
実習的・研修的な就業体験を行うことにより、実的な知識や指導技術の習得し、指導者としての自覚を高め、就業意識を涵養して、進路を明確にし、専門職として社会で活躍することができるようになる。						
回	授業内容					AL
1 ~ 15	<p>実習時期：原則として、春季休業中（2月下旬から3月下旬）                      実習期間：原則として、2週間（実質10日間以上）                      実習日程：実習受け入れ先と検討して決定                      事前授業                      1回目：実習施設内容紹介、先輩の体験談、希望調査（11月）                      2回目：個人調書、誓約書の作成（11月）                      3回目：書類提出、マナー研修（12月、1月）                      4回目：コミュニケーショントレーニング（1月）                      5回目：人工心肺蘇生法講習会、メイクアップ教室（1月、補講期間）                      2～3月：実習（就業体験）3月下旬：最終レポートの作成、お礼状発送                      実習終了後：実習日誌（含む最終レポート）提出、最終指導                      原則として短期大学が紹介する施設の中から選択する。他に実習を希望する施設がある場合は相談に応じる。実習施設は以下のとおりである                      1. フィットネス・スポーツクラブ業務（ア）フィットネス・スポーツクラブ（イ）サッカースクール（ウ）公的スポーツ施設（エ）総合型地域スポーツクラブ（オ）スポーツ少年団（カ）その他健康フィットネス産業やプロチーム                      2. 野外活動団体 3. 学童保育所 4. 福祉施設（介護施設、知的障害者授産施設など） 5. スポーツショップ                      6. その他（ホテル・レストラン業務、販売業務、農業就業など）</p>					○
試験等	実習日誌、レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：インターンシップの手引き、インターンシップ実習日誌（無料 授業時に配布）						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習の手引き、事前研修で配布される資料を読んで学内事前授業や実習の内容を確認しておくこと。 事後学習：実習日誌の指導コメントを読み返し、次回の課題を解決する方策や情報を確認しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができています。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができています。					
B	体験実習に取り組み、健康に関する産業に従事する準備ができています。					
C	体験実習を通して、健康に関する産業を理解できています。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	レクリエーションスポーツ実習 [Recreational Sports]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			SM-S4131		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	レクリエーションスポーツ	現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について考えながら、対象にあわせて指導を展開する際に必要なコミュニケーションスキルについても学習する。				
2	ニュースポーツ					
3	障害者スポーツ					
学習の到達目標						
単に技術やルールの習得にとどまることなく、その指導方法について学習して、模擬授業を担当することで指導技術も身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	実習ガイダンス	レクリエーションスポーツの特性とその目的				
2	信頼関係づくりの方法 1	ホスピタリティについて				○
3	信頼関係づくりの方法 2	自己紹介 伝えること、受け止めることについて				○
4	信頼関係づくりの方法 3	コミュニケーションワークについて 集団をまとめる				○
5	良好な集団づくりの方法 1	アイスブレイキングについて実践を通して学ぶ				○
6	良好な集団づくりの方法 2	アイスブレイキング要素の高いレクリエーションゲーム				○
7	良好な集団づくりの方法 3	アイスブレイキングの支援技術				○
8	楽しむ力を高める方法 1	課題解決型グループワークを体験する				○
9	楽しむ力を高める方法 2	体験学習プログラムとしての活用方法				○
10	楽しむ力を高める方法 3	イニシアティブゲームの展開方法				○
11	レクリエーション支援のプログラム 1	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめるニュースポーツの展開				○
12	レクリエーション支援のプログラム 2	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず誰もが楽しめる身体活動 歌やゲーム				○
13	レクリエーション支援のプログラム 3	障がい者スポーツ 1 誰もが楽しめるアクティビティ				○
14	レクリエーション支援のプログラム 4	障がい者スポーツ 2 障がいの程度別の指導について				○
15	実習のまとめ	授業で取りあげたスポーツのまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり (財) 日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎 (財) 日本レクリエーション協会 その他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネットの動画など）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。 事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時授業日誌を回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 提出物・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションスポーツの意義を活かした、健康生活への応用力を十分に身につけている。					
A	レクリエーションスポーツの意義を良く理解している。					
B	レクリエーションスポーツの意義を理解している。					
C	レクリエーションスポーツの基礎的な理解をしている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スクーバダイビング実習 [Scuba diving]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習 (集中授業) アクティブ・ラーニング		太田 あや子		NSM-S5132		
この授業に関する資格						
スクーバダイビング Cカード (オープンウォーター)、レクリエーションインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	Cカード (オープンウォーター)	スクーバダイビング指導団体 (DACS) の教程に従って、安全潜水のための講義講習とプール実習を学内集中授業で受講した後、2泊3日の海洋実習を行う。教材や実習にかかる経費の負担がある (8万円程度)。				
2	講義講習・プール講習					
3	海洋実習					
学習の到達目標						
スクーバダイビングの知識と知識を身につけ、希望者はオープンウォーターのCカードを取得することをめざす。						
回	授業内容					AL
1	ガイダンス : Cカード取得に必要な書類の作成					
2	講義講習 1:ダイビングと身体、ダイビングと環境					
3	講義講習 2 : スキンダイビング、スクーバダイビング					
4	講義講習 3 : ダイビングと障害と症状、ダイビングと安全					
5	講義講習 4 : ダイビングの実際、水中生物、器材管理と点検					
6	プール講習 1 : スキンダイビング実技 (シュノーケルクリア、マスククリア、潜泳、200m水面移動)					○
7	プール講習 2 : スクーバダイビング 1 (セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力)					○
8	プール講習 3 : スクーバダイビング 2 (バディブリージング、スイミングアセント)					○
9	プール講習 4 : スクーバダイビング 3 (器材脱着、各スキルの復習とチェック)					○
10	プール講習 5 : スクーバダイビング 4 (200m水面移動)					○
11	プール講習 6 : 深度体験と耳抜き、深度プールでのスキルチェック (学外実習) エントリーとエキジット					○
12	海洋実習 1 : スクーバダイビング 1 (セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力) (学外実習)					○
13	海洋実習 2 : スクーバダイビング 2 (バディブリージング、スイミングアセント) (学外実習)					○
14	海洋実習 3 : スクーバダイビング 3 (器材脱着) (学外実習)					○
15	海洋実習 4 : 計画潜水 : 30分程度のスクーバダイビング (学外実習)					○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
DacsOW 教本 (実習費8万円程度に含まれる)						
準備学習・事後学習						
スクーバダイビングのライセンス取得を目指す授業である。ライセンスは2泊3日の海洋実習で4回海に潜水しないと取得できないので、日程や経費に関して十分な準備しておくことが望ましい。50mの泳力があると安心して受講できるため水泳関係の授業の履修を勧める。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技・技能 50%、筆記試験 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スクーバダイビングに関する知識が豊富で、高い技能レベルにある。					
A	スクーバダイビングに関する十分な知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
B	スクーバダイビングに関する知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
C	スクーバダイビングに必要な基礎的知識と技能がある。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	夏季アウトドア実習 [Summer Outdoor Activity]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習(集中授業)・アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NSM-S5132		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	宿泊を伴わない、土曜日を中心とした日帰り実習を行う。本実習では、キャンプを実施する上で必要な基礎知識および技術について実習する。集団での活動を通して参加者相互の交流を深めながら、人間を取り巻く環境への関心を高め、人間関係を重視した生活を体験し、災害時に役立つ生活方法についても学習する。 ※隔年実施のため令和3年度は開講しない。				
2	夏季の自然					
3	キャンプ					
学習の到達目標						
日帰りで様々な野外活動を体験し、自然環境での共同生活において、望ましい人間関係を築き上げることができる。基本技術を身につけることで、安全で楽しいキャンプを指導する方法を身につける。						
回	内容					AL
1 ~ 15	学内事前授業(月一回程度、昼休みを利用して実施する) キャンプの概要、テント設営法 (1,2) 安全なアウトドアクッキングのために(薪割り、焚き付け) (2,4) アウトドアクッキング入門編(飯ごう炊さん) (5,6) 奥武蔵ハイキング(県内日帰り登山・読図とコンパスワーク) (7-10) アウトドアクッキング応用編(段ボールスモーク実験) (11,12) キャンプクラフト(焼き板制作など) (13,14) ポスター作成・発表 (15) 毎回、体験レポートとして内容をどれだけ理解したかを記載し提出する。 学外で実施する場合(登山等)は交通費が必要である。 また、野外での活動なので、雨着(カッパ)、リュックサック等が必要となる。					○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社)日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
土曜日を中心とした日帰り形式の集中授業である。キャンプ初心者でも参加可能であるが、実習に先立ち、炊飯器に頼らずに、鍋などで炊飯できるようにしておく。活動内容をふりかえり、次回の活動に生かせる用、体調を整えて次の活動に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
実習へ取り組み姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術と安全確実な指導方法を身につけている。					
A	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術と安全な指導方法を身につけている。					
B	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプを安全に実施する技術を身につけている。					
C	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	冬季アウトドア実習 [Winter Outdoor Activity]	1			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー		
実習(集中授業)・アクティブ・ラーニング	福島 邦男		NSM-S5133		
この授業に関する資格					
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター					
この授業のキーワード	授業概要				
1 野外活動 2 冬季の自然 3 スキー	スキーはウインタースポーツの代表であり、冬季の自然の中で素晴らしい満足感・達成感をわれわれに与えてくれる。本授業では、冬の自然を理解し、スキーを安全に楽しむために必要な基本的技術・知識を身につける。また、生涯スポーツの一つになるよう、受講者のレベルにあわせて指導する。さらに、指導者として必要な知識・技術も身につける。				
学習の到達目標					
3泊4日のスキーを体験することで、共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に滑走を楽しむ基本技術を身につける。初心者指導法を学ぶことで、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する初心者指導法を身につける。					
回	内容				AL
1 ~ 15	<p>学内事前授業（10月から合計3回実施する） ※感染症対策により、内容を大きく変更する可能性がある 授業概要と参加費等の説明および用具合わせと取り扱い方法を学ぶ</p> <p>集中授業 参加者のスキー技術レベルに応じてグループを編成し、練習する ここでは「超・スキー練習法」に基づく指導体系により、初心者は初日からブルークボーゲンができる様にし、リフトを使いながら、安全に確実に滑れるようになる。経験者はスキーと身体操作能力を高める練習をし、技術のレベルアップを図る また、個人の欠点の矯正も行い、より安全で確実な技術を身につける なお、技術指導だけでなく、スキー場での行動規則を学び、安全に配慮したマナーのある行動を身につける さらに、指導者として身につけておくべき指導法についても学習し、最終日には学生同士による模擬指導を実施する 宿舎での講義で「スキーと安全」「スキーが上手になるために」「スキー指導法」を行い、スキー技術と安全管理について学ぶ 講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業なので実習費（30,000円）が必要である他、別途レンタル料、リフト券代が必要となる</p>				○
試験等	課題レポート				
教科書及び参考図書					
<p>参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 (社)日本キャンプ協会、超・スキー練習法 野沢巖監修・指導 山海堂 その他：必要に応じて資料を配付する。</p>					
準備学習・事後学習					
3泊4日の合宿形式の集中授業である。初心者でも参加可能である。実技練習に支障がないよう、日頃から運動を心がける。実技講習の内容をふりかえり、翌日の講習に生かせる用、体調を整えて翌日の講習に備えること。					
課題に対するフィードバックの方法					
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。					
成績評価の目安と方法					
学内ガイダンスと実習へ取り組み姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全確実な指導方法を身につけている。				
A	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全な指導方法を理解している。				
B	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術を身につけている。				
C	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの基礎的技術を身につけている。				

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	アロマテラピー [Aromatherapy]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング	鯨岡 久美			NSM-S3134		
この授業に関する資格						
日本アロマ環境協会 アロマテラピー検定 1 級						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アロマテラピーの基礎	アロマテラピーの基礎を学び、正しく活用できる知識を養う。				
2	生活の中でのアロマテラピー	アロマテラピーを学び、生活の中に取り入れることで、自分の生活をより豊かにする。				
3	健康とアロマテラピー	アロマテラピーを学び、自分や家族の心と身体の健康に役立て、将来職場でも役立てられる力を養う。				
学習の到達目標						
アロマテラピーを正しく理解し、自分や家族の健康に役立てられる力を養う。 検定試験合格レベルの知識を、楽しみながら習得し、今後ますます必要となる予防代替療法としてのアロマテラピー活用の知識・方法を学ぶ。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	アロマテラピーの基本	アロマテラピーの定義について				
2	精油について 1	精油の性質や作用について学ぶ、精油の香りあて				
3	精油について 2	精油の製造法について学ぶ、精油学習①				
4	実習Ⅰ：アロマ石鹸作り	精油の学習②、アロマ石鹸作りの実習	○			
5	アロマテラピーの安全性	精油を安全に使用するための心得を学ぶ、精油学習③				
6	基材について	アロマテラピーで使用する基材について学ぶ、精油学習④				
7	アロマテラピーの利用法	様々なアロマテラピーの利用法について学ぶ、精油学習⑤				
8	実習Ⅱ：ルームフレグランス	精油学習⑥、ルームフレグランス作りの実習	○			
9	アロマテラピーのメカニズム	精油が心身に伝わる仕組みについて学ぶ、精油学習⑦				
10	ビューティー&ヘルスケア 1	美容と健康にアロマテラピーを活用する方法を学ぶ 1、精油学習⑧				
11	ビューティー&ヘルスケア 2	美容と健康にアロマテラピーを活用する方法を学ぶ 2、精油学習⑨				
12	実習Ⅲ：化粧水作り	古代～中世のアロマテラピーの歴史、精油学習⑨、化粧水作りの実習	○			
13	アロマテラピーの歴史	近世～現代、日本におけるアロマテラピーの歴史、精油学習⑩				
14	アロマテラピーと法律	アロマテラピーに関する法律について学ぶ、精油の復習①				
15	まとめ、実習Ⅳ：バスボム	全体の総括とまとめ、バスボム作りの実習	○			
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：日本アロマ環境協会発行 アロマテラピー検定 公式テキスト 1 級、アロマ精油費						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 指定したテキストの次回講義該当箇所を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業始めに、前回授業内容の理解度確認のため小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認の小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点（授業態度・小テスト） 20% 理由のない欠席、遅刻、早退は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	アロマテラピーについて十分に理解し、授業に積極的に参加し、発言や、質問などを特に活発にしている。					
A	アロマテラピーについて理解し、授業に積極的に参加し、発言や、質問などをしている。					
B	アロマテラピーについて理解し、授業への参加、発言、質問が平均的である。					
C	アロマテラピーについて理解し、授業中の発言や質問が消極的である。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツマッサージ [Sports Massage]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	村田 向春		国	NSM-S3135		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コンディション調整	スポーツマッサージはコンディション調整だけでなく、障害の予防・治療、リハビリテーション等に用いられている物理療法の一つである。本授業ではスポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技の習得を目指す。				
2	障害の予防・治療					
3	リハビリテーション					
学習の到達目標						
スポーツマッサージの基本的な手技の習得を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	定義、概要(講義形式)	スポーツマッサージの理論や注意点				○
2	基本的な手技	各手技の説明、二人一組で実技				○
3	うつぶせマッサージ	背部のマッサージ				○
4	うつぶせマッサージ	腰背部、臀部のマッサージ				○
5	うつぶせマッサージ	下肢のマッサージ				○
6	仰向けのマッサージ	上肢、頸部のマッサージ				○
7	仰向けのマッサージ	下肢のマッサージ				○
8	仰向けのマッサージ	その他のマッサージ				○
9	側臥位のマッサージ	上肢のマッサージ				○
10	側臥位のマッサージ	下肢、臀部のマッサージ				○
11	側臥位のマッサージ	腰背部、肩背部のマッサージ				○
12	全身のマッサージⅠ	腰痛へのアプローチ				○
13	全身のマッサージⅡ	肩こりへのアプローチ				○
14	全身のマッサージⅢ	全身のマッサージ				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
必要に応じてプリントを配布します 参考図書：改訂版 身体運動の機能解剖(医道の日本社)、改訂版 ボディ・ナビゲーション(医道の日本社)						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： マッサージについて、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行ったマッサージ解剖・手技の復習。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で随時、対応、確認。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 授業態度（実技に取り組む姿勢） 50% 理由のない遅刻、欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツマッサージの理論や注意点を良く理解し、主訴によって手技を使い分け全身のマッサージができる。					
A	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、応用しながら全身のマッサージができる。					
B	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、全身のマッサージができる。					
C	スポーツマッサージの理論や注意点を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	ヨガ・ピラティス [Yoga/Pilates]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実技・演習・ アクティブ・ラーニング	川村 美樹		実	NSM-S5136		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ヨガ	ヨガ・ピラティスを体験する事で、呼吸法、ストレッチング、コアトレーニング、リラクゼーションのスキルを獲得し、自分自身のコンディショニング方法を身に付ける。 ヨガ・ピラティスの基本を毎回、テーマを決めて学び、体調、実技内容、感想を毎回演習ノートに記入する。				
2	ピラティス					
3	指導法					
学習の到達目標						
いくつかのヨガのポーズ・ピラティスエクササイズを自分で組み合わせ、ポイントを説明しながら発表できるようになる。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	オリエンテーション	ヨガ・ピラティスの概論とこの授業の目的				
2	アライメントについて	姿勢チェック	○			
3	呼吸法	腹式呼吸他	○			
4	リラクゼーション	体ほぐし、足もみ	○			
5	ヨガ基本1	座って行うアサナ（ポーズ）	○			
6	ヨガ基本2	うつ伏せで行うアサナ（ポーズ）	○			
7	ヨガ基本3	立って行うアサナ（ポーズ）	○			
8	ピラティス1	基本姿勢・基本動作	○			
9	ピラティス2	ローリングライカボール、ロールアップ、ハンドレッド他	○			
10	ピラティス3	ハンマー、シザース、ブリッジ、プーリー他	○			
11	プログラム指導法1	太陽礼拝	○			
12	プログラム指導法2	目的に合わせたピラティスプログラム	○			
13	実技発表1	プログラム指導の発表1	○			
14	実技発表2	プログラム指導の発表2	○			
15	総まとめ	全体の総括・演習ノートまとめ及び提出				
試験等	授業内まとめ					
教科書及び参考図書						
適宜、必要な資料を配付する 参考図書：図解 YOGA アナトミー：筋骨格編、アーサナ編 -医師が教えるヨガの機能解剖学 YOGA BOOKS, ： Training book for Yoga Instructor						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1時間）：ヨガ・ピラティスについて、シラバス、参考図書等でヨガ・ピラティスのイメージを持つようにすること。 事後学習（週2時間）：トレーニングとして、休まず、授業時間外で自分の体をしっかり観察し、記録する。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で随時、対応、確認。						
成績評価の目安と方法						
平常点：50% 実技発表：30% 演習ノート：20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、対象者を観察し、修正しながら指導することができる。					
A	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、指導することができる。					
B	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示すことができる。					
C	ヨガ・ピラティスの課題を最低限示すことができる。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		キャリアデザイン [Career Design Program]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		岡崎 英規・川井 明・植松 大介			NSM-S9138	
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	就職活動	自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先またはキャリア）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など）、就職（及び編入学、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを1年次に引き続き行う。				
2	就職試験					
3	就業意識					
学習の到達目標						
社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	受講上の注意など	授業内容と進行方法、心構え、評価方法について、就職活動に役立つPDCAを学ぶ、就職活動情報（企業説明会・採用状況他）収集法など  *（1）企業の人事担当者に聞く（業界・企業の採用人物像など）  ◎週のテーマに関わらず、下記の①～⑬の内容から、各自希望の項目を選び、受講又は作業・活動することができる  ①エントリーの仕方など（パソコン利用法） ②模擬グループ面接 ③模擬個別面接 ④グループディスカッション/プレゼンテーションでの役割やポイントなど ⑤公務員試験、一般常識・時事問題対策（模擬試験など）⑥作文・小論対策 ⑦編入学・進学試験問題対策（模擬試験など）⑧教員採用試験対策 ⑨魅力的なエントリーシートのための書き方とポイント ⑩魅力的な履歴書のための書き方とポイント ⑪パソコン講習（情報処理室） ⑫最終模擬面接、書類の書き方と最終確認など ⑬就職活動で活かせるマナー（電話・メール・手紙のマナーなど） ⑭その他（メイクアップ講座、企業の情報収集など、於：情報処理室・図書館など）				○
2	就職活動の情報収集					
3	企業説明会					
4	面接特訓セミナー(1)					
5	面接特訓セミナー(2)					
6	グループディスカッション					
7	筆記試験対策、その他					
8	編入学試験説明会及び試験対策					
9	教員採用試験対策					
10	企業説明会					
11	エントリーシート完成セミナー					
12	履歴書完成セミナー					
13	就活スキルアップセミナー					
14	1,2,3					
15	振り返り					
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト その他、必要に応じて教材用のプリントを配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 各自のテーマに関する章を読んで授業に参加する。 事後学習（週 1.5 時間）： 中途半端で終わった場合にそのまませず課題をしっかりと終わらせ、復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出物を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物（感想文など）80% 受講態度 20%として総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。					
A	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。					
B	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができています。					
C	授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられている。					

# 教職に関する専門教育科目



令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教職概論 [Introduction to Teacher Training]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	大野 勝生		国	NS-T2139		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。） ・これからの時代に求められる教師像（求められる資質能力について）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教師論	本講義は「教師」そのものを学習の対象とする。履修学生の理想とする教師像を把握した上で、教師という職業に関するテーマを取り上げ、その理解を深めていく。教育、学校、教師を取り巻く状況は複雑さを増しているの で、理論的な知識のみならず、学校現場において実践的に対応できる知識の習得を目指し講義を進める。				
2	教師を取り巻く諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
教職課程を履修する学生が「なぜ教師になりたいのか」「どのような教師になりたいのか」「教師の専門性、教師の責務とは何か」を、教職全般に係る知識を用いて深く考察できるようにすることである。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、教師を目指すに当たって、教職とは何か、教師とは何か				
2	教職への道Ⅰ	教師になることの意味、理想の教師像とは・・・				○
3	教職への道Ⅱ	教員免許制度をめぐる昨今の現状				
4	教員養成と採用試験	教員採用試験の概要と基本知識				
5	教師の職務Ⅰ	授業者として、学級担任として、組織の一員として①				○
6	教師の職務Ⅱ	授業者として、学級担任として、組織の一員として②				○
7	教師の職務Ⅲ	教師の一日を考える①				○
8	教師の職務Ⅳ	教師の一日を考える②				○
9	教師の職務Ⅴ	「チーム学校」の一員としての役割－校務分掌とは・・・				○
10	教師の職務Ⅵ	教員の身分とサービス①				
11	教師の職務Ⅶ	教員の身分とサービス②				
12	教師の専門性Ⅰ	教師の専門性とは何か、求められる資質能力とは何か				○
13	教師の専門性Ⅱ	これからの時代の教師に求められる資質能力を身に付けるために				○
14	目標とする教師像	小論文作成「理想の教師像」－小論文作成上の留意点				
15	ふりかえり	目標とする教師像の発表と講義のまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：井藤 元 編『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版 2017 年 高木展郎・三浦修一・白井達夫 共著『「チーム学校」を創る』三省堂 2015 年 ※その他、教材プリント配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：予定される講義テーマに関して、新聞、書籍、インターネット等で情報収集し理解を深める。 事後学習（週 1.5 時間）：各回実施の演習問題の復讐、テーマごとのレポートを作成する。						
課題に対するフィードバックの方法						
演習問題は各回ごとに解答解説、優良なレポートを題材に課題の確認とフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すレポートの内容 60%、発表会の内容 20%、講義への参加態度 20%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を理解し、自らの教職観を的確に構築できる。					
A	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等は良く理解している。					
B	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等をある程度理解している。					
C	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を十分に理解できず、継続的な努力を要する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育原理 [Principles of Education]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久・大野 勝生			NS-T2140		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育学	教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識と、教育に関する制度的及び経営的事項について基本的な知識を習得し、教師として学校現場で教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解する。				
2	現代の学校の諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
1 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理念と理論についての理解ができるようになる。 2 これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できるようになる。 3 教育に関する制度的及び経営的事項について基本的な知識を身に付け、学校と地域との協働の意義と在り方、及び学校安全の目的と具体的な取組を学び、理解できるようになる。 以上の知識を踏まえてディスカッションに臨み、理解を深めることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、教育とはなにか、教育学を学ぶとはどういうことか				
2	学校の歴史	学校の歴史、学校教育の意義をめぐるディスカッション				○
3	西洋教育史	西洋教育史 1（コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチ）				
4	西洋教育史	西洋教育史 2（フレーベル、ヘルバルト、デュイ、モンテッソーリ）				
5	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 1（いじめ、不登校）				○
6	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 2（モンスターペアレント、英語教育）				○
7	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 3（道徳教育、SNS）				○
8	教育制度	教育制度の歴史と基本原理				
9	教育制度	現行の学校教育制度の内容（日本国憲法と教育基本法を中心に）				
10	学校経営	学校経営のあり方とその仕組み				○
11	学校経営	開かれた学校づくりの意義と課題および学校評価の重要性				
12	チーム学校	教職員および学校外の関係者との協働の在り方				○
13	チーム学校	学校と地域との協働の方法を事例から考える				
14	学校安全	学校安全の目的と取り組み				
15	ふりかえり	講義内容のまとめとディスカッション（現代の教育課題を再考する）				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年 そのほか授業中に適宜資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：講義で配布される各回のテーマに関する資料を次回の講義までに熟読し、次のテーマとの関連性がわかるように理解を深めること。						
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容に関して分らなかった点については図書館等を利用して調べ、復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
資料および小レポートをもとにおこなうディスカッションにおいて、意見の共有を通してフィードバックをおこなう。						
成績評価の目安と方法						
各回に課す小レポートの内容 60% 講義への参加態度 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を習得し、自らの考えを良く表現できている。					
A	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容をとても良く理解している。					
B	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を十分に理解している。					
C	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を理解したものの、継続的な努力を要する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	発達と学習の心理学 [Psychology of Learning and Development]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一			NS-T2141		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
この授業のキーワード		授業概要				
1	発達と発達課題	幼児、児童及び生徒の心身の発達はどのようになされるか、発達に影響を及ぼす要因、各発達段階の特徴、発達課題等について概説する。また、学習に影響を及ぼす要因、学習の動機づけ、集団づくり、学習評価のあり方等について、教育実践に役立つ内容を学習する。				
2	学習のメカニズム					
3	発達と学習の理論					
学習の到達目標						
1.発達の過程及び特徴について理解する。2.学習のメカニズムを理解する。3.発達と学習の諸理論について理解する。以上の3点を基に、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	発達について	教育心理学・発達と学習について				
2	心と記憶	心と脳、記憶のしくみ、忘却、メタ認知など				○
3	発達に関する諸理論	発達段階と発達課題、ピアジェ、エリクソンの発達理論				
4	幼児期の発達	乳幼児期の特徴、運動発達・言語発達、愛着（アタッチメント）など				
5	学童期の発達	学童期の特徴、認知発達・社会性の発達、「9（10）歳の壁」				
6	青年期の発達（1）	青年期の特徴、自我の芽生え、反抗期、アイデンティティ				
7	青年期の発達（2）	思春期学、10代の脳と心、職業選択について				
8	生涯発達	ライフサイクル、運動発達・認知発達・社会性の発達、未来予想など				
9	知性・パーソナリティ	人間（ヒト）の知性、パーソナリティの発達について				
10	学習意欲	動機づけ、期待効果、学習結果の振り返りなど				○
11	学習理論と学習方法	学習理論、学習方法、学習形態など				○
12	学習評価	評価の理論と方法、評価の活かし方				○
13	発達障害と学習	発達障害に対する理解と学習支援など				○
14	学級集団と人間関係	学級集団、人間関係と測定法、リーダーとフォロワー				○
15	総合・まとめ	発達を踏まえた学習支援・学習指導、振り返り学習				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 和田万紀 編『Next 教科書シリーズ 教育心理学』弘文堂、外山紀子・外山美樹 著『やさしい発達と学習』有斐閣 アルム、安藤寿康・鹿毛雅治 編『教育心理学』慶応義塾大学出版会 ※ 授業中に適宜資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題などにコメント等を入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深めている。					
B	発達と学習の心理学の概略について概ね理解している。					
C	発達と学習の心理学の概略について最低限は理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	特別支援教育 [special needs education]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	伊藤 えつ子		国	NS-T3142		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
この授業のキーワード			授業概要			
1	特別支援教育の理念	教職課程の科目として、特別支援教育に関する基礎的な内容を扱い、必要な知識を獲得するとともに、教員として障害のある子ども等に必要な支援や配慮を行えるようにする。				
2	特別支援教育の仕組みと制度					
3	障害の特性と支援					
学習の到達目標						
1. 特別支援教育の理念や現状について理解する。 2. 特別支援教育の仕組みと制度、特別支援学校の目標等を理解する。 3. 障害種ごとの特性を理解し、それに応じた必要な支援を理解する。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	特別支援教育の理念と現状	障害に対する考え方の変遷を知り、特別支援教育に関する法的根拠と理念、特別支援教育の歴史と現状について理解する。				
2	特別支援教育の仕組みと制度①	インクルーシブ教育システムの構築と合理的配慮について知り、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室における教育と就学基準や手続き等について理解する。				
3	特別支援教育の仕組みと制度②	「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成や活用を知り、校内委員会とセンター的機能、特別支援教育コーディネーターの役割について理解する。				
4	特別支援教育の仕組みと制度③	特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイント等を知り、特別支援教育の目標や教育課程及び支援の方法、「自立活動」の教育課程上の位置付け等について理解する。	○			
5	障害種ごとの特性と支援①	障害のある児童生徒の特性を障害種別に知り、生活上、学習上の困難さと必要な支援を理解する。（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由）				
6	障害種ごとの特性と支援②	障害のある児童生徒の特性を障害種別に知り、生活上、学習上の困難さと必要な支援を理解する。（知的障害、病弱、重複障害、医療的ケアについて）				
7	障害種ごとの特性と支援③	障害のある児童生徒の特性を障害種別に知り、生活上、学習上の困難さと必要な支援を理解する。（発達障害等）				
8	特別支援教育の今後の展望	「共生社会」の実現に向けて、特別支援教育の課題について自らの考えを整理し、発表する。	○			
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
柘植雅義 著『特別支援教育 -多様なニーズへの挑戦-』中公新書						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、学校生活を振り返ったり、参考書やインターネット等を活用したりして考えを整理して授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、理解度を確認する小テストを行い、回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 6 0 % 授業参加の意欲・態度・提出物など 4 0 %						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別の支援についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に活用できる力を身につけている。					
A	特別の支援についての知識を身につけ、理解を深めている。					
B	特別の支援の概略を概観理解することができる。					
C	特別の支援の概略を部分的に理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	道徳教育の理論と実践 [Moral Education and Teaching Methods]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一 ・ 村井 輝久			NS-T3143		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・道徳の理論及び指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1	道徳教育論	道徳とは何か？ 道徳を教育するとはどういうことか？ このようなテーマを基本に、道徳教育の理論と実践について学習する。そして、中学校（小学校）学習指導要領に示されている道徳教育の内容を理解した上で、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。				
2	指導法					
3	学習指導案					
学習の到達目標						
1 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、およびその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解する。 2 学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、道徳について、学校における道徳教育のあり方				
2	道徳教育の理念と歴史	道徳教育の理念と歴史について				
3	学習指導要領	学習指導要領が定める道徳の位置づけと内容				
4	学習指導案	学習指導案の書き方				
5	学習指導案	資料の活用類型と発問構成の工夫				○
6	学習指導案	指導案の作成				○
7	模擬授業	模擬授業と評価 1				○
8	模擬授業	模擬授業と評価 2				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
中学校学習指導要領、小学校学習指導要領（平成29年3月公示） 中学校学習指導要領解説 道徳編、小学校学習指導要領解説 道徳編（文部科学省） * 文部科学省ホームページ 中学校学習指導要領解説よりダウンロードすることができる 他に使用する資料を授業時に配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次の授業で扱う資料を読み、自分の意見を発言できるようにしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 学習指導案の改善。授業で扱った資料を再度熟読し、復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
資料についてのディスカッション及び学習指導案についてのコメントを行う。						
成績評価の目安と方法						
学習指導案 50% 授業への参加態度 50%（模擬授業、リアクションペーパー、グループワーク）						
評価	成績評価別の到達度					
S	道徳教育の目標・内容・方法をよく理解し、自分の考えも適切に表現できている。					
A	道徳教育の目標・内容・方法をかなりよく理解している。					
B	道徳教育の概要について、おおむね理解している。					
C	道徳教育の概要について、最低限は理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	特別活動指導法 [Special Activities]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3144		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・特別活動の指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1	特別活動	小学校及び中学校学習指導要領における特別活動の領域について、その特質・活動内容を学習しながら、学校教育全体における特別活動の意義について学ぶ。さらに、児童・生徒が集団や社会における役割と責任を自覚して、人間形成し自己実現して行くうえで必要となる教師の役割を十分に果たすための基礎的知識と具体的指導内容・方法を、実際例をあげながら学習して行く。				
2	集団活動					
3	話し合い活動					
学習の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育全体における特別活動の意義を理解する。</li> <li>・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点で捉えることができる。</li> <li>・学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</li> </ul>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	特別活動の目標及び内容	授業の進め方、特別活動の目標と内容				○
2	特別活動の位置づけ	特別活動と他の教科等との関連について				
3	学級活動	学級活動について 学級活動のねらいと「話し合い活動」、「合意形成」				○
4	児童会活動、生徒会活動	児童会活動、生徒会活動の特質とねらい				○
5	クラブ活動、学校行事	クラブ活動、学校行事それぞれの特質について				
6	取り組みと評価	特別活動の指導の在り方について				
7	地域との連携	合特別活動における、家庭・地域、関係諸機関との連携について				
8	評価と改善活動	特別活動における取り組みの評価・改善活動				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 その 他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の目安と方法						
毎時間の提出物・レポート 60%    筆記試験 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別活動の理論を活かした、指導法を十分に身に付けている。					
A	特別活動の理論と指導法を良く理解している。					
B	特別活動の理論と指導法を理解している。					
C	特別活動の理論と指導法に対して基礎的な内容を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	総合的な学習の時間指導法 [Teaching Methods for the Period for Integrated Studies]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3145		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・総合的な学習の時間の指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	特別活動 集団活動 話し合い活動	総合的な学習の時間の意義を理解し、探究的な見方・考え方による横断的・総合的な学習とその方法について、グループワークを取り入れながら実践的に学ぶ。実社会・実生活を踏まえた課題を決め、課題解決に向けて多角的な調査を行う為に、計画を立てて課題解決に取り組むことの重要性を理解した上で、総合的な学習の時間の指導の仕方や評価に必要な知識・技能を身につけることを目指す。				
学習の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につける。</li> <li>・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えることができる。</li> <li>・指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。</li> </ul>						
回	テーマ	授業内容				AL
1	この授業の目標及び内容	授業の進め方、授業概要と総合的な学習の時間の意義と役割について				
2	総合的な学習の時間の位置づけ	総合的な学習の時間の目標及び内容の定めかた				
3	学習計画1	学習計画の立案と指導計画について				
4	学習計画2	学習計画の具体的事例について				○
5	主体的で対話的な学び	主体的で対話的な学び（アクティブ・ラーニング）について				○
6	取り組みと評価	探究的な学習の過程と具体的手立てについて				
7	地域との連携	総合的な学習の時間の評価について				
8	まとめ	授業のまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 その他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の目安と方法						
毎時間の提出物 60% レポート 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	総合的な学習の時間について、その理論を活かした指導法を十分に身に付けている。					
A	総合的な学習の時間について、その指導法を良く理解している。					
B	総合的な学習の時間について、その指導法を理解している。					
C	総合的な学習の時間について、その指導法に対して基礎的な内容を理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育方法の理論と実践 [Theory and Practice of Educational Method]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T3146		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	深い学び 教育方法論 情報機器の活用	学びが深まるとは、どういことをいうのか。また、子どもの学びが深まるようにするために、教師はどのような指導を行えばよいのか。本講義は、このような問いに基づいて授業を展開する。これからの学校教育では、教科を問わず子どもの学びを深めることが求められる。本講義では、そのために必要な教育方法論や学び論を紹介し、その理論の特徴や意義と課題を説明する。また、著名な教育者の研究授業が収められた DVD を視聴するなどを通して、学生に子どもの学びを深める授業のあり方を考えさせる時間を設ける。さらには、授業のあり方を工夫するための手段の一つとして、本講義では情報機器の活用方法についても講義する。				
学習の到達目標						
1 学びについての思想や理論の学習を通して、深い学びについて理解できるようになる。 2 教育方法論や授業展開の方法についての学習を通して、子どもの深い学びを促す授業のあり方について考えられるようになる。 3 情報機器の種類とその活用方法についての学習を通して、情報機器を活用した授業のあり方を構想できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業内容、評価方法、受講上の諸注意について説明する。				
2	深い学びとは？	知のネットワーク、見方・考え方の学習、教育内容の学習				○
3	アクティブ・ラーニング	調べ学習、ディスカッション、グループワークなどの学習方法				○
4	深い授業	反駁と吟味（ソクラテス的な対話法）、				○
5	授業づくり①	教材研究の方法、発問と質問の違い、				○
6	授業づくり②	学習指導案の形式、授業展開の方法				○
7	教育評価	教育評価の意義と課題およびその方法				○
8	情報機器の種類とその活用	教材の工夫、情報機器の活用				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：林竹二『授業 人間について』国土社、1990年 そのほか、適宜参考図書を紹介する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：本講義のキーワードやテーマを参考にしながら、各自、教育方法論や学び論を調べ、その特徴を整理すること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の中で紹介した文献の熟読や映像資料の鑑賞を通して、授業のあり方についての自身の考えをまとめること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、回収したアクションペーパーに対して回答する。また、レポートに評価及びコメントし、返却する。						
成績評価の目安と方法						
最終レポート 60% 毎授業後に提出を課すアクションペーパーおよび授業参加の積極性 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学びの捉え方、教育方法論、授業づくりの方法、情報機器の意義を十分に理解し、自身の考えをよく表現できている。					
A	学びの捉え方、教育方法論、授業づくりの方法、情報機器の意義をよく理解できている。					
B	学びの捉え方、教育方法論、授業づくりの方法、情報機器の意義をおおむね理解できている。					
C	学びの捉え方、教育方法論、授業づくりの方法、情報機器の意義について最低限理解しているものの、さらなる学習が必要である。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	生徒・進路指導論 [Student and Career Guidance]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久・内藤 郁芳			NS-T3147		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・生徒指導の理論および方法 ・進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む）の理論および方法						
この授業のキーワード		授業概要				
1	生徒指導	生徒指導は学習指導と並ぶ重要な教育機能を有している。一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるために、生徒指導では他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に指導を進めることが重要になる。生徒指導論では、生徒指導の実際を視野に入れ、グループワークやディスカッションなどの方法を取り入れながら講義を展開する。 進路指導論では、将来の進路選択などの長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動を学ぶため、ケーススタディを用いたロールプレイングなどの方法を取り入れる。				
2	進路指導					
3	グループワーク					
学習の到達目標						
・実際の生徒指導の場面での問題の原因を追究し、実践に生かすことのできる知識と技術を身に付ける。 ・進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や要素を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、生徒指導の領域と内容（担当：村井・内藤）				○
2	生徒指導のあり方	児童生徒理解の重要性と生徒指導の組織的な取り組み（担当：村井）				○
3	校則と体罰	校則と懲戒の正当性の要件、体罰の禁止（担当：内藤）				○
4	SNS の指導法	SNS の適切な使用方法の指導（担当：村井）				○
5	いじめ	いじめ問題の理解とその対応（担当：内藤）				○
6	進路指導の理論	進路指導・キャリア教育の理論的背景や理論体系（担当：村井）				○
7	進路指導のあり方	すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方（担当：内藤）				○
8	多様な進路指導	児童生徒が抱えるキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方（担当：村井・内藤）				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省） 江川玖成編『生徒指導の理論と方法』三訂版、学芸図書、2010年 授業中に適宜資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 各テーマに関する新聞記事やニュースを共有できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 各回で使用する資料を再度熟読し、小レポートを作成すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業で新聞記事やニュースを共有しディスカッションする。小レポートは回収し、コメントをする。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すリアクションペーパー 50% レポート 25% 参加態度 25% * 本講義は、講義および相互学習形式の授業である。						
評価	成績評価別の到達度					
S	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を習得し、自身の生徒指導の実践に活かすことができる。					
A	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容をとても良く理解している。					
B	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を十分に理解している。					
C	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を理解したものの、継続的な努力を要する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育相談 [School Counseling]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一			NS-T3148		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育相談	現代の児童生徒はさまざまな問題を抱えている。教職員は児童生徒の相談役となり、学習・生活・進路をはじめ、いじめや不登校あるいは問題行動の解決に向けて助言、支援、指導していく必要がある。この授業では、児童生徒が直面する課題の解決に向けて、助言、支援、指導していくための基礎知識を身につけ、望ましい方向に導いていくための実践的方法について学習する。				
2	カウンセリング					
3	問題行動への対応					
学習の到達目標						
1.教育相談の意義と理論を理解する。 2.カウンセリングマインドを理解し、カウンセリングの基礎的技法を身につける。 3.問題行動への対処の方法を学び、学級・学校全体の取り組みの方略について修得する。 以上の3点を基にして教育相談に応用できる能力とスキルを身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	教育相談とは	教育相談とは何か、教育相談の必要性と意義について				
2	教育相談に関わる心理学	人間理解・人間関係・人格成長（ユング、アドラー、ロジャーズ、フロイト）				
3	カウンセリングについて	カウンセリングの基礎知識、カウンセリングマインド				○
4	カウンセリングの技法	信頼関係、受容、傾聴、共感的理解、解決支援、構成的グループエンカウンター				○
5	いじめ問題	いじめ問題の現状及びその対応				
6	不登校問題	問題行動の現状、不登校問題への対応				
7	学校体制づくり	教育相談体制のあり方、関係機関との連携など				
8	総合・まとめ	改めて教育相談の意義を考える（振り返り学習）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化 ※ 授業中に適宜資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）： 書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習しておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題などにコメント等を入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育相談についての知識を身に付け、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	教育相談についての知識を身につけ、十分に理解を深めることができる。					
B	教育相談の概略について概ね理解している。					
C	教育相談の概略について最低限は理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	保健体育科教育法 [Teaching Theory & Methods Physical Education]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志・辻 将也			S-T3149		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育） ・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	保健体育	中学校の教育における「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導計画（案）の作成、保健体育授業の内容・方法を解説する。				
2	学習指導要領					
3	学習指導案					
学習の到達目標						
学習指導要領を中心とした中学校の保健体育科教員に必要な知識を理解し、習得する。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	体育分野 1	第 1 章 総則				
2	体育分野 2	第 1 章 総則 保健体育の目標				
3	体育分野 3	第 1 学年及び第 2 学年 目標 内容（体づくり運動、器械運動）				
4	体育分野 4	第 1 学年及び第 2 学年 内容（陸上競技、水泳、球技）				
5	体育分野 5	第 1 学年及び第 2 学年 内容（武道、ダンス、体育理論）				
6	体育分野 6	第 3 学年 目標 内容（体づくり運動、器械運動）				
7	体育分野 7	第 3 学年 内容（陸上競技、水泳、球技）				
8	体育分野 8	第 3 学年 内容（武道、ダンス、体育理論） 指導案作成 1	○			
9	体育分野 9	内容の取扱い 体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳 指導案作成 2	○			
10	体育分野 10	内容の取扱い 球技、武道、ダンス、体育理論 情報機器・教材の活用法	○			
11	保健分野 1	保健分野の目標				
12	保健分野 2	保健分野の内容				
13	保健分野 3	保健分野の内容の取扱い				
14	保健分野 4	指導案作成 1	○			
15	保健分野 5	指導案作成 2 情報機器・教材の活用法	○			
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、中学体育実技、中学校保健体育						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の初めに前回授業の内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記テスト 80%、小テスト 10%、平常点（意欲・態度） 10%、理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習指導要領における保健体育分野の内容を十分に理解している。					
A	学習指導要領における保健体育分野の内容を理解している。					
B	学習指導要領における保健体育分野の内容を概ね理解している。					
C	学習指導要領における保健体育分野の内容を最低限理解している。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	授業研究 [Study of Class Teaching ]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・川井 明・内藤 郁芳・伊藤 えつ子		国	S-T3150		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育） ・大学が独自に設定する科目						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育学	体育授業を展開するための諸条件について実践的に探究する。模擬授業担当以外の学生は生徒役となって授業を分析、検討する。グループは教員側で割り振る（部活等で経験していないものの模擬授業を担当する）。模擬授業時は各種目の専門実技教員がサポートする。				
2	現代の学校の諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について理解し、実践に活かせるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	オリエンテーションと指導案作成の準備				
2	指導案作成 1	指導案作成 1				
3	指導案作成 2	指導案作成 2				
4	集団行動	集団行動の基本の確認と実践				○
5	模擬授業	体育分野領域 A 体づくり運動の模擬授業				○
6	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 1（サッカー）				○
7	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 2（バレーボール）				○
8	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 3（バスケットボール）				○
9	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 4（ハンドボール）				○
10	模擬授業	体育分野領域 B 体操器械運動の模擬授業				○
11	模擬授業	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（短距離・リレー）				○
12	模擬授業	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（ハードル走）				○
13	模擬授業	体育分野領域 F 武道の模擬授業				○
14	まとめ 1	反省会と今後の課題の検討 1 採用に向けて				○
15	まとめ 2	反省会と今後の課題の検討 2 採用試験について				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 29 年 7 月 そのほか適宜資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：模擬授業実施のための準備を行う。また、自分の担当以外の模擬授業からも自分の授業に活かせる点を見つけ、実際に活かすことで授業研究全般について理解を深める。 事後学習（週 1.5 時間）：模擬授業後に内容を改めて検討し、改善策を明示する。模擬授業の指導案は保管しておき、改善していく。						
課題に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。						
成績評価の目安と方法						
指導案 35% 模擬授業 35% 各回に課す小レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について十分理解し、実践に活かしている。					
A	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般についておおむね理解している。					
B	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省することはできるが、授業研究全般について理解できるよう努力を要する。					
C	学習指導案を作成し、授業実践を行うことはできるが、反省を通じて授業研究全般について理解できるよう継続的な努力を要する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	食教育実践論 [School Nutrition Guidance]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	小坂 由美子			N-T3151		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（栄養教諭） ・栄養に係る教育に関する科目						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食教育	栄養教諭に必要な基礎知識を習得するとともに、児童・生徒の食行動の現状と課題について把握し、適切な指導を行うための総合的な指導力を身につける。また、給食の時間や特別活動において各教科との関連性を踏まえた学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。				
2	栄養教諭					
3	給食					
学習の到達目標						
食教育に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、教育の効果的評価方法を学ぶとともに、栄養教諭としての資質能力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食教育の意義	栄養教育実習の意義と目的				
2	栄養教諭の職務と給食	教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和				○
3	児童・生徒の食教育	教科および特別活動との関わり				○
4	法令・行政・諸制度	学級活動および総合的な学習の時間、給食時間等の関わりおよびその他教育活動との関わり				○
5	児童・生徒に係る課題	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連				○
6	食生活の歴史・文化	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい				○
7	食に関する指導 1	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1				○
8	食に関する指導 2	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2				○
9	食に関する指導 3	指導計画案に基づいた教材作り				○
10	実習演習 1	教育実習の報告会参加・模擬授業				○
11	実習演習 1	模擬授業				○
12	実習演習 2	模擬授業				○
13	実習演習 3	模擬授業				○
14	実習演習 4	反省・問題点を踏まえての指導案作成・今後の課題の検討				○
15	まとめ	栄養教諭の位置付けと役割				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領解説（家庭編、総合的な学習の時間編） 中学校学習指導要領解説（技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：資料をもとに指導案作成、媒体作成の準備をしておくこと。また、学習指導要領は事前に必ず一読しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：評価シートの内容を指導案構成に反映させる。 栄養教育実習における研究授業を想定し、学習指導案作成及び模擬授業を実施する。						
課題に対するフィードバックの方法						
模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。						
成績評価の目安と方法						
平常点 40% 筆記試験 30% 指導案及び模擬授業 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業が展開され、指導成果について理解している。					
A	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業をする方法を身につけている。					
B	栄養教諭としての基礎的な知識を活かした指導方法を身につけている。					
C	栄養教諭としての基礎的な知識を身につけている。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目	教職実践演習（中学校） [Seminar on Teaching Practice]	2			
授業形態	担当教員名	科目ナンバー			
演習・アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・川井 明・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子	国	S-T5152		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（保健体育） ・教育実践に関する科目 教職実践演習					
この授業のキーワード		授業概要			
1	保健体育指導	実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、カリキュラム開発、教科指導、学級経営の方法等について議論を深める。			
2	学校教育				
3	模擬授業				
学習の到達目標					
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④円滑な学級経営ができる、⑤カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の5つである。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	オリエンテーション	オリエンテーション、教育実習の振り返り	○		
2	学校運営	学級活動の運営方法	○		
3	学校運営	チーム学校に必要なスキル	○		
4	学校運営	体罰をめぐる諸問題	○		
5	授業分析	保健体育の授業分析と指導方法（保健）	○		
6	授業分析	保健体育の授業分析と指導方法（実技）	○		
7	授業分析	道徳教育における問いの立て方	○		
8	授業分析	特別活動・レクリエーション論	○		
9	特別支援	学外講師による特別授業 1	○		
10	教師への道	学外講師による特別授業 2	○		
11	模擬授業	指導案作成	○		
12	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 1	○		
13	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 2	○		
14	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 3	○		
15	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 4	○		
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
参考図書：特になし 必要な資料は適宜配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 0.5 時間）： 教育実習先での学びを反省すること、また学習指導案作成及び模擬授業の準備を行うこと。 事後学習（週 0.5 時間）： 模擬授業を反省し、学習指導案の改善を試みる。					
課題に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする。					
成績評価の目安と方法					
レポート課題 40% 演習への参加態度 30% 模擬授業の発表 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。				
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義をとともよく理解している。				
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を十分に理解している。				
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。				

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	教職実践演習（栄養教諭） [Seminar on Teaching Practice]	2			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー		
講義・演習・アクティブ・ラーニング	小坂 由美子・大野 勝生・村井 輝久・伊藤 えつ子	国	N-T5153		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（栄養教諭） ・教育実践に関する科目 教職実践演習					
この授業のキーワード		授業概要			
1	教育心理学	実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、学校栄養指導の方法、栄養指導と各教科内容との関連、カウンセリング等について議論を深める。			
2	栄養指導				
3	学校教育				
学習の到達目標					
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④カウンセリングマインドをもって生徒を理解できる、⑤円滑な学級経営ができる、⑥カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の6つである。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	オリエンテーション	教育実習の振り返り	○		
2	生徒理解・カウンセリング	生徒理解の方法・学校相談とカウンセリングマインド	○		
3	栄養指導 1	学校栄養指導の方法（小学校、中学校）	○		
4	栄養指導 2	各教科での指導と栄養指導との関連	○		
5	教員・学校	教員の職務と職責・学校の意味	○		
6	教育の最新事情 1	学校をめぐる諸問題	○		
7	教育の最新事情 2	教育改革の動向	○		
8	教員という仕事の現状 1	学外講師による特別授業 1	○		
9	教員という仕事の現状 2	学外講師による特別授業 2	○		
10・11	発表会準備	模擬授業およびロールプレイ発表のための媒体作り	○		
12	発表会 1	模擬授業およびロールプレイ発表会 1	○		
13	発表会 2	模擬授業およびロールプレイ発表会 2	○		
14	発表会 3	模擬授業およびロールプレイ発表会 3	○		
15	発表会 4	模擬授業およびロールプレイ発表会 4	○		
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
参考図書：原田恵理子・森山賢一編著『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 0.5 時間）：その内容に関する図書や最新動向について入念に調査した上でレポートを作成すること。 事後学習（週 0.5 時間）：模擬授業の評価を踏まえて指導案の再構成を行う。 この演習では、それぞれの担当教員の専門分野に関する講義を踏まえて、各回でレポートを課す。					
課題に対するフィードバックの方法					
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。					
成績評価の目安と方法					
レポート課題 40% 演習への参加態度 30% 模擬授業の発表 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。				
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義をとともよく理解している。				
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を十分に理解している。				
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。				

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	保健体育教育実習 [Teaching Practice of Physical Education]		5			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子		国	S-T9154		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育）、レクリエーション・インストラクター ・教育実践に関する科目 教育実習						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育実習	中学校において原則3週間の教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導では、教育実習の心構え、学校制度の理解、授業における生徒の指導方法、生徒に接する基本的な態度や技術をしっかり身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。				
2	学校教育					
3	保健体育指導					
学習の到達目標						
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	事前指導 1	教育実習の内容、及び教育実習の意義と目的				
2	事前指導 2	学校組織の理解、中学校の組織、役割、地域との関連、教師の仕事				○
3	事前指導 3	特別授業：中学校の実態と教育実習生の心構え				○
4・5	事前指導 4	特別授業：中学校の授業参観				○
6	事前指導 5	教材研究：教材と授業				○
7	事前指導 6	授業実習の方法：授業計画、単元計画				○
8～10	事前指導 7	学習指導案の作成：指導計画の立案、指導案作成				○
11～72	教育実習	中学校における教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）				○
73	事後指導 1	教育実習の振り返り、討論				○
74～75	事後指導 2	今後の課題の検討、教員採用試験に向けて				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：教育実習の手引き（初回の授業内で配布する）						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。 事後学習：毎回行った内容を授業後に整理すること。 教育実習後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする。						
成績評価の目安と方法						
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容、および提出物など 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。					
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。					
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。					
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。					

令和3年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	栄養教育実習 [Teaching Practice of Nutritional Education]		2			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実習・アクティブ・ラーニング	小坂 由美子・大野 勝生・村井 輝久・伊藤 えつ子		国	N-T9155		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（栄養教諭）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育実習	学校給食を実施している小・中学校において、1週間の栄養教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導においては教育実習の心構えや児童生徒に接するための基本的態度、技術を身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。				
2	学校教育					
3	栄養教育					
学習の到達目標						
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	事前指導 1	栄養教育実習の意義と目的				
2・3	事前指導 2	教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和	○			
4	事前指導 3	教科および特別活動との関わり	○			
5	事前指導 4	学級活動および総合的な学習の時間等への関わり、給食時間等への関わり、およびその他教育活動との関わり	○			
6	事前指導 5	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連	○			
7	事前指導 6	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい	○			
8	事前指導 7	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1	○			
9	事前指導 8	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2	○			
10~12	事前指導 9	指導計画案に基づいた教材作り	○			
13	事前指導 10	模擬授業	○			
14~35	教育実習	小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）	○			
36	事後指導 1	栄養教育実習を振り返っての反省	○			
37	事後指導 2	反省・問題点を踏まえての指導案作成（模擬授業）・今後の課題の検討	○			
38	事後指導 3	反省・問題点を踏まえての指導案作成（模擬授業）・今後の課題の検討	○			
39・40	まとめ・報告会	レポート作成および教育実習の報告会	○			
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布） 小学校、中学校学習指導要領解説（家庭編、技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省						
準備学習・事後学習						
準備学習：教育実習に行くまでに、それぞれの実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。 事後学習：教育実習終了後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出する。						
課題に対するフィードバックの方法						
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。						
成績評価の目安と方法						
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容および提出物など 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。					
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。					
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。					
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。					





 MUSASHIGAOKA  
COLLEGE